

五百九年ニシテ今ヨリ二千四百六十年前ナリ、

### 第二期 共和時代

#### 第一 貴族平民の争

こんさる、たーくいにあす王、放逐ノ後ハ王國全ク廢絶シ、共和ノ政治ハ一三元老議員ノ掌握スル所トナリ、こみしあ、せんでりえーたハ唯之ニ參議スルニ過キス、而シテ二人ノこんさるト稱スル執政官アリテ毎年撰舉セラレ、平時ニ於テハ司法、行政ノ事務ヲ指揮シ、戰時ニアリテハ軍隊ノ都督トナル、最初こんさるノ職ニ就キシモノヲふるたす及こるらいたいなすトス、此時ニ當テ幼稚ナル羅馬共和國ハ屢外國ノ危難ヲ受ケ、國內騷然タリシガ事小説ニ類スルヲ以テ之ヲ略ス、

貴族ノ壓制及どりびゆーん 羅馬國ハ共和政治トナリシトイヘトモ、官職ハ總テ貴族ノ私有スル所タリシヲ以テ、平民ハ貴族ト同等ノ權利ヲ得ンコトヲ

望ミ、軋々ノ久シキ百數十年ニ及ヘリ、兩族争鬪ノ原ハ其由テ來ル所遠シト雖、貴族ノ負債法ヲ以テ平民ヲ強壓セシコト潰裂ノ近因タリ、王政廢後貴族等往々不正ノ制度ヲ建テ、敵國ヨリ略奪セル地ハ盡ク其所有トナシ、平民ニ貸シ租稅ヲ納メシメ、又平民ヲシテ自干戈ヲ作り甲冑ヲ備ヘ兵役ニ出テシメ、而シテ一モ其報酬ヲ與フルコトナシ、平民ハ外ハ軍役ニ懲レ内ハ饑餓ニ迫ラレ、遂ニ富裕ノ貴族ニ負債ヲナスニ至レリ、而シテ其利子ヤ高ク其償却法ヤ嚴ニシテ、若其期ヲ誤ル時ハ債主ハ法律ニ隨ヒ之ヲ捉ヘテ奴隸トナシ其財產ヲ沒收シ、且其孥ヲ外國ニ賣與ス、平民ハ斯ノ如キ極壓ノ治下ニ呻吟スト雖、之ヲ救フノ法律ナク、百計此ニ盡キシヲ以テ終ニ羅馬ヲ距ル三哩許ナル聖山ニ移住シ以テ新府ヲ建テントス(今ヨリ二千三百九十一年前)是ニ於テ貴族大ニ懼レめににあす、あぐりばヲ使ハシ之ヲ説キ歸府セシメ、負債ノ未償ハサルモノヲ免シ、且

奴隸トナリタルモノヲ解放セリ、而シテ又平民保護ノ爲メどりびゆーんと稱スル高官ヲ平民中ヨリ撰舉セリ、此官ハ初二人ナリシカ後五人トナリ又十人トナレリ、其在職ノ年限ハ神聖犯スヘカラサルモノトス、元老院ノ決議及こんさるノ命令ニシテ若平民ノ妨害トナルコトアレハどりびゆーんハ之ニ抗論シ且之ヲ禁止スルノ權利有セリ、之ヲ禁止權ト云フ、

#### 平民議會

是ヨリ先、羅馬ニハこみしあ、きりえーた及こみしあ、せんちりえーたノ二會アリテ、前者ハ專貴族ヨリ成リ、後者ハ財産ノ多寡ニヨリ組織セラレ、未純然タル平民ノ議會アラザリシカ、是ニ至リこみしあ、どりびゆーんと稱スル新議會起リ、都府及地方ヲ數多ノ行政區劃ニ分チ、此等ノ區劃ヨリシテこみしあどりびゆーんヲ組織シ、而シテ此議會ヨリどりびゆーんヲ推選シ、又二人のいーだいるト稱スル官ヲ撰出シ、以テどりびゆーんヲ助ケ、市場、道路及公會遊

#### 世界誌

#### 史紀

#### 羅馬

#### 共和時代

#### 貴族平民ノ争

戲ノ監察ヲ掌ラシム、  
かすしあすノ法律 どりびゆーんノ政府ニ立チシヨリ平民ノ勢力日ニ賤々トシテ増進セリ、是ニ於テ平民ハ又土地分配法ヲ制定センコトヲ望ムニ至レリ、從來羅馬ノ田園ハ公共ノ土地ナルニ、貴族擅ニ之ヲ占有シ、其從者奴隸等ヲシテ之ヲ耕サシム、是ヲ以テ平民ハ共有土地ノ分配ヲ望ムコト久シ、然レトモ此願望ハ常ニ貴族ノ爲ニ阻碍セラレテ達スルコト能ハサリキ、紀元前四百八十六年すびりあす、かすしあすトイヘルモノ出テ、公共地ノ平民ニ分與セサルヘカラサルヲ論シ、土地分配法案ヲ提出セシカ貴族ノ爲ニ殺サレタリ、  
でせむぐー 當時羅馬ノ法律ハ全ク貴族ノ手ニアリテ、貴族ハ唯習慣ニヨリテ判決ヲナスノミナルヲ以テ、其意ニ隨ヒテ法律ヲ曲グルノ弊甚多シ、是ヲ以テ平民ハ成文ノ法律ヲ制定センコトヲ政府ニ要求シ、

(とりびーん、てれんてりあす、あるさノ發議)數回論争ノ後、貴族遂ニ之ヲ許セリ、是ニ於テ使節ヲ希臘ニ遣ハシ、其成文法ヲ調査セシム、使節歸國ノ後こんさる、とりびーん等ノ諸官ヲ廢シてせむぐ、ト稱スル十大官ヲ置キ、貴族ヲ以テ之ニ任シ新法典ヲ記定セシム紀元前四百五十年今ヨリ二千三百四十七年前所謂十二銅表ニシテ羅馬法律ノ源泉トナレリ、

みりたりー、とりびーん 最初ノ十大官ハ能ク其職ニ副ヒシカ、新任ノ十大官ニ至リテ任期滿チテ猶職ヲ退カズ、其權力ヲ特ニ平民ヲ抑壓セシカハ、平民又一致シテ聖山ニ移住シテ企テタリ、是ニ於テ貴族ハてせむぐ、トナ廢シ、こんさる、とりびーんヲ復置スルコトヲ約シテ平和ヲ締ヘリ、是ヨリシテ平民ノ權利益、伸暢シ從來ハ法律上ニテ貴族平民間ノ結構ヲ禁セテレシガ、紀元前四百四十五年(かに)りあすノ法律ニヨリ)ニ至リ其禁令ヲ解カレ、平民ハ益進ンテこん

さるニ參セントスルノ勢アリ、貴族全カヲ盡シテ之ヲ拒ミタリ、是ニ於テ平民ハ軍役ノ徵募ニ應ゼズシテ貴族ヲ苦メタリシカハ、紀元前四百四十四年貴族已ムテ得ズこんさるヲ廢シ、毎年兩者ヨリ三人ノみりたりー、とりびーんヲ撰出スルノ制ヲ定ム、此官ハこんさるノ權ヲ以テ軍事ヲ指揮スル國家ノ最高官タリ、初ハ三人ナリシガ後増シテ八人トナセリ、貴族ハ其權力ノ減損ヲ補ハントシテ新ニせんそるト稱スル官ヲ置ケリ、此官ハ二人アリテ貴族ヨリ之ヲ撰ビ、市民ノ戶籍ヲ檢シ、財産ノ階級ヲ立テ、且其德義ヲ查シ、又官吏ノ得失ヲ視察スル等、重要ナル職務ヲ掌ル、是ヲ以テ其名ハ平民貴族共ニ國政ヲ執ルト雖、其實權ニ至リテハ依然貴族ノ掌中ニアルヲ免レザルナリ、

えとらすかん人トノ戰爭 貴族平民ノ國內ニ闘クノ間、又外國トノ戰爭常ニ絶ヘス、えとらすかん人ノ一市ナルグやイトノ戰爭ハ最久シク、十年攻圍

ノ後、紀元前三百九十六年羅馬ノ大將かみらす之ヲ略奪セリ、

こゝる人ノ侵寇 此間こゝる人ハ大將ぶれんす

ニ從ヒ、北方ヨリあるぶす山ヲ越エ、伊太利ニ侵入シテ上部ヲ略シ、進ンテあぶえんないん山ヲ越エえとるヨリあニ入寇セリ、羅馬人ハえとるヨリあ人ト共ニ之ヲ防キ、紀元前三百九十年七月十八日あるりあ河ニ戰ヒ羅馬ノ軍大ニ敗ル、こゝる人終ニ羅馬ヲ取り、かびとる(羅馬ノ大寺)ヲ除クノ外、殆全都ヲ燒盡セリ、かびとるハ要害ノ地ニシテまーかす、まーりあす羅馬ノ勇士ヲ率キテ死守セリ、故ニこゝる人俄ニ之ヲ拔ク能ハズ、攻圍七閏年ニシテ遂ニ償金ヲ取り和ヲ講シテ退ケリ、

りしにあすノ法律 こゝる人既ニ退キ羅馬ハ全

市荒廢シ慘狀云フベカラス、然レトモ羅馬人ハ勇氣ヲ鼓シテ漸ク街市ヲ再建セシガ、舊記古録盡ク灰燼ニ委

シ、古史ノ材料蕩然タリ、而シテ貴族ハ往時ノ特權ヲ回復シ、殊ニ嚴酷ナル負債法ヲ實行シテ災餘ノ平民ヲ抑壓スルコト甚シク、國家ノ衰運其極ニ達セシカ、幸ニシテ二人ノ俊傑出デ、此厄運ヲ挽回セリ、紀元前三百七十七年剛勇ニシテ才能ニ富メル二人ノとりびーん、りしにあす、すどろー及びりしあす、せくすていあす出テ、弊政ヲ革除センコトヲ謀リ、有名ナルりしにあん法律案ヲ提出セリ、其一條ニ曰ク、已ニ拂ヒタル利子ハ之ヲ負債元金ヨリ除却シ、其餘ヲ三ヶ年賦トスベシ、其ノ二條ニ曰ク、公共ノ田園ハ何人ト雖、五百じゅげらヨリ多ク占領スベカラス、其三條ニ曰ク、みりたりー、とりびーんヲ廢シ、再こんさるヲ置クベシ而シテ其一人ハ必平民中ヨリ撰擧セザルベカラスト貴族ハ此議案ニ對シ十年ノ間力ヲ極メテ抗争セシガ、二人ノとりびーん熱心ニ之ヲ主張シ、且官吏ノ撰擧、兵士募集ヲ阻害セシカハ、貴族遂ニ之ヲ抗拒スル能ハ

ズ、紀元前三百六十七年ニ至リテ一個ノ法律トナレリ  
然レトモ貴族ハ猶司法ノ職權ヲてんざるヨリ分割シ、  
貴族ヨリ撰任セル二人ノふりーとるニ委シ、以テ平民  
ト衡テ争ヒシカ、平民ノ權利ハ愈伸暢シ、爾後數十年  
ノ間ニシテ、平民ノでくくてーとる、ふりーとる、せん  
そる等ノ高官ニ昇ルモ甚多ク、其權利一モ貴族ト異  
ル所ナキニ至リ、王政廢滅後二百年間ニ亘レル兩者ノ  
軋轢モ全ク其跡ヲ絶チ羅馬ハ純然タル共和政治トナレ  
リ、

### 第二 伊太利統一

概説 貴族平民ノ轉陸セシ以來羅馬ノ國勢ハ次第ニ  
隆盛ニ趣ケリ、蓋シ羅馬ハ本、一小國ニシテ其領地ハた  
いば一河畔ノ數都市ニ過キズ、其成丁ノ人口モ紀元前  
第五世紀ノ末ニ至ルマテ僅々三十萬ノ下ニアリ、而シ  
テ國內騷擾常ニ絶エザリシヲ以テ、從來ハ附近ノ數小  
國トノ戰爭ニ於テ自國ノ獨立ヲ維持スルニ止リシガ、

今ヤ國內既ニ靜謐ニ歸セシヲ以テ、其勢力ヲ他國ニ擴  
張スルニ至リ、凡七十年間ノ戰爭ニ於テ伊太利全土ヲ  
經略セリ、其間をーる人、ねとらすかん人、羅甸人、  
さむないと人及希臘人トノ戰爭アリシト雖、通常之ヲ  
羅甸戰爭さむないと戰爭及びるらす戰爭ノ名ヲ以テ包  
括セリ、其時代ハ所謂羅馬の勇者時代ニシテ人民ノ才  
幹氣力ノ大ニ發達セシ時トナス、  
ひーる戰爭 今ヤ羅馬ハ大ニ勢力ヲ増加シ、上伊  
太利ニ於ケル強敵をーる人ニ抗スル地位ニ達セリ、而  
シテ數次戰爭ノ後遂ニ羅馬ノ大勝ニ歸セリ羅馬人ハ又  
ねとらすかん人トノ戰爭ニ於テ南をーる人ヲ全ク  
征服セリ、

### 第一 さむないと戰爭

さむないと人ハ中央伊太  
利ノあふえんないん山中ニ住メル民族ニシテ、羅馬人  
ノ隣邦征服ニ於テ最困難ヲ感ゼシ所ナリ、此強族トノ  
戰爭ハ時ニ間斷アリシト雖、前後殆五十年ニ亘レリ、抑

此戰爭ノ近因ハかひあ人(さむないと人)ノ嘗テ殖民セ  
シかひばにあ(一市)さむないと人ノ侵寇ヲ蒙リ援ヲ  
羅馬人ニ乞ヒシニ在リ、羅馬人乃其請ヲ許シさむない  
と人ヲ伐チ數度ノ勝利ヲ得タレトモ、未決戰ニ至ラスシ  
テ羅甸同盟ト戰端ヲ開キさむないと人ト和ヲ講セリ

### 羅甸戰爭

羅甸人ハ已ニ羅馬ヲ同盟ノ長ト仰グコ  
トヲ欲セス、羅馬ノ公務上對等ノ權ヲ得ンコトヲ望メ  
リ、かひばにあ人亦之ト同盟ス、是ニ於テ羅甸ノ戰端始  
メテ開ク、グマスグにあすノ戰ニ於テ羅馬ノ將でーし  
あす奮戰シテ大ニ利ヲ得、次デとらいふゑーなむノ戰  
ニ於テ羅馬ノ將まんりあす大勝ヲ得テ羅甸人遂ニ征服  
セラレタリ、是ヨリ同盟全ク破レ、市府ノ大半ハ羅馬  
ノ版圖ニ屬セリ、

### 第二 さむないと戰爭

羅馬人ノ隆盛ハさむない  
と人ノ嫉ム所トナリ、又植民地疆界ノ争ヨリシテ第二  
さむないと戰爭起リ、延キテ二十二年ノ永キニ亘レリ

戰爭ノ決スル所ハ正ニ伊太利國主權ノ決スル所タリ、  
而ルニ羅馬人ハ初輕進シテ利ヲ失ヒ(今ヨリ二千二百  
十八年前)遂ニ和ヲ講スルノ已ムヲ得ザルニ至レリ、  
然レドモ元老院之ヲ承認セスシテ再兵馬ヲ動セリ、爾  
後羅馬人連戰勝ヲ得、さむないと人ヲかひばにあヨリ  
驅逐セリ此時又えとらすかんノ諸市府さむないと人連  
合シテ羅馬ニ敵ス、羅馬ノ兵勇氣益振ヒ奮撃大ニ其軍  
ヲ破ル、是ニ於テ紀元前三百四年さむないと人復和ヲ  
乞ヒ戰局ヲ結ヘリ、此戰爭中羅馬人ノ植民地ハ諸方ニ  
増殖シ道路ヲ開通シ、以テ兵馬ノ進退ニ便ナラシメタ  
リ、

### 第三 さむないと戰爭

然レトモ平和ハ暫時ニシ  
テ破裂シ、さむないと人復兵ヲ舉ケテ決戰セントス、  
えとらすかん人、あふりあん人、及をーる人相共に之  
ヲ援ケ伊太利全國之ニ靡ケリ、然レトモ紀元前二百九  
十五年せんたいなむノ激戰ニ於テ羅馬ノ將でーしあ

す。一す身ヲ殺シテ敵ヲ衝キ、遂ニ同盟軍ヲ破レリ、其後幾クモナクシテさむいどノ驍將ばんてあす捉ヘラル、さむいど人終ニ敵スヘカラサルヲ知り、紀元前二百九十年羅馬人ニ降レリ、是ニ於テ羅馬人ハさむにあひ、あびゅーりあ、りゅけーにあ地方ノ境ナルグエに、しあニ城砦ヲ築キニ萬ノ植民ヲ置キ以テ之ヲ鎮セリ、

びるらす戦争

羅馬人ハ既ニ中伊太利ヲ征服シ、全州發ス所ハ唯、下伊太利ノ希臘植民地アルノミ、始メさむいど戦争ノ間希臘植民地ナルたれんたむ人羅馬ノ船舶ヲ毀チ且其使節ヲ辱メタルヲ以テ、羅馬人ハ又たれんたむ人ト戦端ヲ開ケリ、たれんたむ人其敵スヘカラサルヲ知り、援ヲばいらす王びるらすニ乞フびるらすハあれきさんだー大王ノ遠親ニシテ輕快卓越ナル武人ナリ、是ニ於テ大兵ヲ率キ來リ援ク、紀元前二百八十年希臘人、羅馬人始メテへらくりーあニ會戰

ス、王勇敢善ク戦ヒ、又戰象ヲ放チテ羅馬ノ軍ヲ破リシカ、後五年ニシテベねぐえんたむノ戰ニ於テ大ニ羅馬人ノ破ル所トナリ本國ニ歸レリ、既ニシテたれんたむ亦降ル、是ヨリシテ希臘ノ植民地相繼キテ降リ、紀元前二百六十六年ニ至リテハ、羅馬ノ版圖北、るびてん河及まくら河ヨリ南し、りー海峡ニ達シ、伊太利半島皆其屬國トナレリ、

羅馬領民ノ區別

羅馬ニ附屬セル伊太利諸國ノ人民ハ之ヲ三等ニ區別ス、即羅馬人羅甸人及伊太利人はナリ、蓋羅馬ノ版圖ハ實ニ一市府ヲ以テ幾多ノ市府ヲ統轄セルモノナリ、而シテ羅馬人ハ漸々諸市府ノ人民ニ與フルニ市民權ヲ以テスト雖、而モ羅馬ノ市民權、即公民權ヲ有スルモノニアラサレハ全國ノ政事ニ關與シ法律ヲ議定スルノ權ナシ、又諸市府ノ人民中ニハ未羅馬ノ公民權ヲ有セスト雖、亦所謂羅甸ノ特權ヲ有スルモノアリ、此特權ハ初羅甸ノ征服セラレシトキ羅馬人

ノ征服トス、

かーすえーちノ形勢

此時ニ當リ其近傍ニ在リテ能ク羅馬ト頑頑セルモノハ亞非利加北岸カルフにシあ殖民地ノかーすえーちト爲スカーすえーちハ紀元前凡八百五十年ノ頃ふにしあ人ノ植民セシ地ニシテ、今日ノてにすノ地ヲ占領シ、夙ニ貿易ヲ以テ地中海ニ往來シ、南西班牙さーでにあ、こーしかノ諸島ヨリシ、りー島ノ大半ニ至ルマテ皆之ヲ占領シ、當時ノ世界ニ在リテハ最富盛ナル國ナリ、政體ハ貴族政治ニシテ百人ノ評議官アリテ百般ノ政務ヲ指揮シ、國家緊要ノ時ニハ民會ヲ招集ス、而シテ艦隊ノ勢力ハ他國ニ超越セシトイヘドモ、兵士ハ多ク傭兵ナルヲ以テ、自一致結合ノ力ニ乏シ、今ヤ羅馬及かーすえーち兩國ノ戰々トシテ境土ヲ拓クニ際シテ衝突ヲ來スハ數ノ免レサル所ナリ、

第一びゅーにっく戦争ノ近因

今茲ニ羅馬トカ

ヨリらてあむノ諸市府ニ與ヘタルモノニシテ、完全ナル羅馬ノ公民權ニ及ハズト雖、既ニ此權ヲ得レバ進ンテ公民權ヲ得ルコト甚難カラザルナリ、之ヲ要スルニ伊太利諸市府ノ人民ハ、各自獨立ノ制度ヲ以テ、其市府ノ政治法律ニ關與スルコトヲ得ルト雖、宣戰媾和ノ權、外國使節應接ノ權及貨幣鑄造ノ權ニ至リテハ總テ羅馬人ノ掌握スル所タリ、是羅馬政略ノ希臘ニ超越シ、一方ニ於テハ各市ノ自由ヲ發達セシメ、一方ニ於テハ其結合ヲ鞏固ナラシメタル所以ニシテ、他日大業ヲ成就セシモ亦此制度ニ基キシナリ、

第三 外國征服

概説

羅馬ハ既ニ伊太利全土ノ主宰トナリ、境域ヲ開拓スルノ念ハ勃々トシテ興リ、國家ハ日又一日多事ナラントス、是所謂外國征服ノ時代ニシテ、紀元前二百六十六年ニ起リ百三十三年ニ渉ル、而シテ其戦争ノ大ナルモノヲびゅーにっく征服トシ、ませとにあ及希臘

世界誌 史紀 羅馬 以太利統一 外國征服

一す、一ちト戦端ヲ開キシ近因ヲ繙メルニ、初カハむばに  
あ備兵ノ一隊ナルまめるたいん人じ、り島ノめすせ  
な市ヲ奪奪セシカハ、しらき一す(希臘人ノ植民地)ノ  
ひろ王及カ一す、一ち人ノ爲ニ、攻ラレテ援ヲ羅馬ニ  
求ム、羅馬人ノ諾シ、海ヲ渡リテカ一す、一ち人ヲめ  
すせナヨリ驅逐セリ、之ヲ第一ビウニク戦争ノ始ト  
ス、

第一ビウニク戦争 第一ビウニク戦争ハ紀

元前二百六十四年ニ起リ二百四十一年ニ終ル、初ハ一  
ろ王ハカ一す、一ちニ與セシガ後之ニ背キ羅馬ト合セ  
リ、是ヨリ先、羅馬人ハ未船艦ヲ作ルノ術ニ精シカラ  
ズ、且水軍ニ熟セサリシガ、紀元前二百六十年ニ至リ  
大ニ水軍ヲ備ヘ、みりニ於テカ一す、一ちノ軍艦ヲ  
擊破セリ、其後大將あてりあす、れき、らす船艦ヲ率  
キテ亞非利加ニ上陸シ、カ一す、一ちヲ擊テ之ヲ破リシ  
ガ、すば一たノ將さんじ、ばす希臘ノ兵ヲ以テ來援シ、

羅馬ノ軍ヲ擊殺シテれき、らすチ所ニセリ、是ヨリ以來  
ノ戦争ハ多クし、り附近ニ在リテ、カ一す、一ちノ軍  
ハばの一ます及いげて、あん島ニ於テ大ニ羅馬人ノタ  
メニ破ラレ海上ノ主權ヲ失ヒ、遂ニし、り島及凡  
四百萬圓ノ償金ヲ羅馬ニ與ヘ和議ヲ講スルニ至ル、是  
ヨリし、り島ハひろ王ニ屬セルしらき、一すヲ除  
クノ外、悉ク羅馬ノ郡縣トナレリ、羅馬ノ伊太利境外ニ  
郡縣ヲ置ク、此ヲ以テ權輿トナス、其後羅馬人ハ又カ一  
す、一ち備兵ノ内亂アルニ乘シ、さ一でいにあ及こ一し  
カ島ヲ取り之ヲ郡縣トナセリ、

いるり、かむ及しすあるはいんご一る征

戰 第一ビウニク戦争ノ後凡十年ヲ經テ、羅馬人ハ  
あどりあて、く海及あいお一にあん海ノ沿岸及諸島ヲ  
勦掠スル所ノいるり、かむ人ト戦端ヲ開キ、其屬島  
一さいら及一二ノ市府ヲ得タリ、上伊太利ノしすある  
はいんご一る人ハ羅馬人ノ北伐ノ意アルヲ知り、とら

んすあるはいんご一る人ノ援ヲ得テとる一りあニ侵  
入セリ、羅馬人逆擊シテ大ニ之ヲ破リ、進ンデば一河  
ヲ越エ、三年ニシテ全ク上伊太利ヲ征服セリ、是ニ於  
テ羅馬ノ版圖ハあるぶす山ニ達シ、ぶらせんてあ及く  
れもなノ二所ニ軍事植民ヲ置キ、又二大路ヲ開キ羅馬  
首府ト連絡セリ、(今ヨリ二千百十九年前)

第二ビウニク戦争の起因 第一ビウニク

戦争後二十三年ヲ經テ第二戦争起ル、是ヨリ先、カ一  
す、一ち人ハ羅馬ノ爲ニ蒙リタル損害ヲ償ハント欲シ、  
英雄はみるか一、ば一カすヲシテ銀鑛ニ富メル西班牙  
ヲ征服セシム、はみるか一連戦利ヲ得、南方及東方ノ  
地ヲ畧定セリ、義子はすとるばる其後ヲ承ケ、益地ヲ  
拓キ新カ一す、一ちニ城キ以テ根據トナセリ、羅馬人之  
ヲ畏レはすとるばるト約シいふる河以北ヲ侵略スル  
無ラシメ、而シテ其南方ニ在ル希臘ノ都府さぐんたむ  
ヲ引キテ其保護ノ下ニ立タシメタリ、然レドモはすと

るばるノ刺殺セラル、ニ及ヒテ、はみるか一ノ子はん  
にばる代リテカ一す、一ち軍ノ總督トナレリ、時二年  
二十八ばんにばる謀略ニ富ミ兵ヲ用フルコト神ノ如  
シ、直ニさぐんたむヲ攻メ八閱月ニシテ之ヲ陥ル、是  
ニ於テ羅馬ハカ一す、一ちニ對シテ開戦ヲ布告セリ、

第二ビウニク戦争 紀元前二百十八年はんに

ばるハ歩兵九萬騎兵一萬二千戰象三十七頭ヲ以テ陸路  
ヨリびれに一す山及あるぶす山ノ險ヲ越エ上伊太利ニ  
侵入シ、ていし一なす及どりびあニ於テ大ニ羅馬ノ兵ヲ  
破リ、あぶんないん山ヲ踰ヘとる一りあニ入りとら  
しみになす湖畔ニ戰ヒ又大ニ利ヲ得タリ、然レドモ直  
ニ羅馬ニ向ハズ、轉ジテあどりあて、く海岸ニ沿ヒ下  
伊太利ヲ略シ、以テ羅馬ノ手足ヲ斷タントス、此間  
「でいくて一とる」さびあす、まきしますハ勉メテ其鋒  
ヲ避ケ其退ニ乘シ、以テはんにばるノ進路ヲ防遏セシ  
ガ、羅馬人ハ其緩慢ナル軍略ヲ喜バズ、「こんさる」ば

一らす及ぶ。一ろ一ヲ擧テ之ニ代ラシメ、紀元前二百十六年はんにばるトかん一ノ平野ニ戦ヒ、羅馬ノ軍全ク敗績シ屍、野ヲ蔽フニ至ル、是ニ於テ下伊太利さむにあむ及かむはにあノ諸市府はんにばるノ風ヲ望ンテ下ル者多ク、羅馬大ニ震動セリ、然レドモ羅馬人ハ愛國ノ精神ヲ鼓舞シ、千挫屈セズ防禦ニ盡瘁シ、紀元前二百十三年かびあ(かむばにあノ要市)ヲ復シテヨリ漸ク國力ヲ挽回セリ、はんにばるノ軍勢モ亦少シク挫折シ、援兵ノ到ルヲ待チテ羅馬ヲ圍マントス、此間羅馬人ハ又兵ヲ西班牙ニ出シ伊太利ノ通路ヲ塞ギ、以テはんにばるノ應援ヲ絶タントシ軍展敗ル、バ一、こ一ねりあす、しびあ弱冠ニシテ英氣アリ、次テ西班牙ヲ伐チ新カ一スエーチヲ取りテ略定セリ、是ヨリ先、西班牙ニ在ルはんにばるノ弟はすどるばるハ兄ノ軍ヲ援ケント欲シ、あるあす山ヲ踰エ伊太利ニ進入セシガ、羅馬人ノ爲ニ要撃セラレ軍敗レテ死セリ、はんにばる

三百八十

其計ニ接シ大ニ驚キ軍氣頓ニ沮喪セリ、しびあ既ニ西班牙ヲ平定シ歸リテ「こんさる」ニ登リ、しりーヨリ亞非利加ニ渡リ進ンデカ一スエーチヲ衝キ其軍ヲ破ル、はんにばる本國ノ急報ヲ得、蒼皇伊太利ヲ棄テ、還ル、紀元前二百二年しびあ、はんにばるヲづまノ平野ニ邀撃シテ大ニ之ヲ破ル、カ一スエーチ力竭キテ和ヲ乞ヒ條約ヲ締結セリ、曰ク悉ク亞非利加外ノ領地ヲ棄ツベシ、曰ク總テ軍艦(十艘ヲ除キ)及戰象ヲ交付スベシ、曰ク償金トシテ五十年間ニ一萬「たれとん」(凡二百萬、ぼんと)ヲ納ムベシ、曰ク羅馬ノ許可ヲ得ズシテ兵ヲ動スベカラズト、是ニ於テしびあハ未曾有ノ盛儀ヲ以テ羅馬ニ凱旋セリ、是ヨリしびあ公「あふりかなす」ノ綽號ヲ得タリ、

東方征路(ませどにあ)ノ征戰

羅馬ノ國勢ハ

日ニ戰ケトシテ進ミ、恰旭日ノ中天ニ昇ルガ如ク、既ニ西方ノ主權ヲ握リ、又將ニ東方ノ主權者タラントス、

是ヨリ先、はんにばるノ以太利ニ在ルヤ、ませどにあ王カ一りつふ三世竊ニ之ヲ應援セントセシヲ以テ、紀元前二百十四年羅馬人ハ軍ヲ遣シませどにあヲ攻ム、希臘ノ諸國或ハませどにあニ應シ或ハ羅馬ニ與シ、勝敗未決セサリシガ紀元前百九十七年「こんさる」にて一、く一んくてあす、ふらみになす、カ一りつふ三世トす、さる一ノしのすせカ一りニ戦ヒ大ニ之ヲ破ル、カ一りつふ懼レテ和ヲ乞ヒ羅馬配下ノ同盟國トナリ、償金ヲ納レ船艦ヲ交付シ、且外國ノ侵地ヲ拋棄セリ、是ニ於テ羅馬人ハいすみあんの祭儀ニ於テ希臘ヲシテ獨立國タラシムルコトヲ宣言セリ、

小亞細亞

しりあノあんであカ一三三ハ四隣ヲ征

服シ大ニ其境土ヲ擴張シ、カ一スエーチ亡命ノ將はんにばるヲ容レ、屢希臘人ニ誘ハレ羅馬人ト戦ヘリ、紀元前百九十年はる、こ一ねりあす、しびあ、あんであカ一すトりで、あノまぐねしあニ戦ヒ大ニ之ヲ破リ、と一らす山

世界誌 史紀 羅馬 外國征服

以西ノ小亞細亞ノ地ト巨萬ノ償金トヲ取リテ和ヲ講セリ、(ませどにあ及希臘の征服) ませどにあ王カ一りつふノ子バ一せあすノ世ニ至リテ大ニ軍備ヲ修メ、又羅馬ト戰端ヲ開ク、即第三戰争ニシテ紀元前百七十一年ヨリ百六十八年ニ至ル、羅馬ノ軍初利アラサリシガ紀元前百六十八年「こんさる」一いみりあす、ぼ一らす大ニませどにあノ軍ヲびどなニ撃破シバ一せあすヲ虜ニシ羅馬ニ送ル、是ヨリませどにあハ萎靡シテ振ハス、終ニ羅馬ノ郡縣トナレリ、希臘國ハませどにあ衰頽後一時獨立ノ虛名ヲ有セシカ、紀元前百四十六年カ一あ同盟軍ノ羅馬人ニ破ラル、ニ及ヒテ、羅馬ノ將はる、まむみあすハ當時最繁盛ナルこりんすヲ破壊シ同盟軍ヲ解散セシム、是ニ於テ希臘ハませどにあ太守ノ管領スル所トナリ、遂ニカ一あノ名稱ヲ以テ羅馬ノ郡縣トナレリ、

三百八十一

第三びのーにづく戦争ノ起因

ノ戦争ハ第二戦争ノ後殆、五十年ニアリ、抑、此戦争ハ全ク羅馬人ノ「せんそる」ばーしあすけーとノ爲ニ煽動セラレ、而シテカーサス、以前ノ繁榮ニ復シ、國力日ニ旺盛ナルヲ妬ミ、機ヲ待チ之ヲ勦殄セント希望セシヨリ起ル、故ニ其名トスル所ハ當時カーサスハ羅馬ノ許可ヲ得スシテ其隣國ぬみであ王まじにすさト争闘セリト云フニ在レトモ、其實ハ羅馬人暗ニぬみであ王ヲ懲シテ争端ヲ開カシメタルナリ、

第三びのーにづく戦争 紀元前百四十九年羅馬人大軍ヲ擧ケテ亞非利加ニ向ヘリ、カーサス、大ニ懼レ、幼童三百(貴族ノ種)ヲ質トシ兵器船舶ヲ致シ、且内政ヲ擧ケテ之ヲ羅馬ニ附セント請ヘトモ羅馬人之ヲ許サス、命スルニ都府ヲ破壊シ海岸ヲ距ル二哩以上ノ地ニ移住スベキヲ以テス、此ニ於テカーサス、大ニ愛國ノ精神ヲ激發シ、寧國ヲ枕ニシテ死スルモ、此ノ

如キ殘酷ナル命令ニ從フ能ハズト決心シ、防守ノ備ヲ爲セリ、是時ニ當テカーサスハ一連邦ノ共ニ力ヲ合スルモノナク、一兵器ノ能ク敵ニ當ルニ足ルモノナシ、然レトモ貴賤力ヲ戮セ心ヲ一ニシテ日夜武器ヲ製造シ、婦人ノ如キハ平常最愛重ナル所ノ長髪ヲ斷チ、弓絃ヲ作ルノ用ニ供セリ、今ヤカーサスハ人ハ失望ノ念ト愛國ノ情ト相合シ、往時ノ怯懦ハ一變シテ勇敢トナレリ、是ヲ以テ羅馬人ハ豫期ノ如ク疾ク其志ヲ達スル能ハス、攻圍四閱年ニシテ大將しびあ、いみりわーなす終ニカーサスヲ陥ル、羅馬ノ兵侵掠ヲ極メ火ヲ街市ニ放ツ、煙燄天ニ漲リ滅セザルコト十有七日、是ニ於テカ數百年來繁盛ヲ極メ、七十萬ノ人口ヲ有セル海上ノ雄國、一炬ニシテ焦土ト變シ羅馬ノ郡縣トナレリ、羅馬人ハゆいてかニ官廳ヲ置キ之ヲ管治セリ、

西班牙ノ平定 カースス、西班牙ヨリ驅逐セラレシ以來、西班牙ハ羅馬ノ所屬トナリシガ叛服常

ナク、且其地險ニシテ又其人民慄悍ナルヲ以テ之ヲ平定スル甚困難ナリキ、第三びのーにづく戦争ノ後再しびあ、いみりわーなすヲ擧ケテ都督トナシ、紀元前百三十二年ぬまんで、あヲ拔キ遂ニ西班牙ヲ戡定シ、土民ノ據ル所ノ北部山間ヲ除クノ外盡ク羅馬ノ郡縣トナレリ、

結果ト版圖

此時代ノ初ニ當リテハ羅馬ハ唯カーサス、いぢ、ませとにあ、しりあ王國ト同列ニ立ツヲ得シノミナリシカ、其終ニ至リテハ地中海岸ノ諸島ハ勿論、亞非利加ノ北部ヨリ東ハ小亞細亞ニ達シ西ハ大西洋ニ至リ、南方歐羅巴ノ全部ヲ包括シテ宇内ノ一大國トナレリ、

文化

羅馬ノ版圖ハ此ノ如ク擴張セシト共ニ内部ノ形勢大ニ其觀ヲ異ニセリ、即、下伊太利及し、りー島ノ略奪、殊ニ希臘ノ征服ヨリシテ數多ノ技藝品ヲ羅馬ニ輸入シ、且希臘ノ學者詩人多ク羅馬ニ移住セシヲ以

世界誌 史紀 羅馬 外國征服 内訌

テ、羅馬人ハ自然ニ希臘開化ノ刺戟ヲ受ケ、學術及技藝ノ趣味ヲ會得スルニ至レリ、

弊害

然レトモ國內ノ制度破壊ヲ終ニ自由ヲ失フニ至リシハ、亦實ニ外國征服ノ結果ト云ハサルヘカラス、蓋羅馬ノ版圖ハ羅馬本部ノ人民之カ君主トナリ、律令ヲ撰定シ高官ヲ擧シ、而シテ鎮臺ヲ置キ郡縣ヲ治ム、郡縣ノ人民ハ勿論同盟國人ト雖、羅馬全體ノ事件ニ關シテハ一モ發言權ヲ有セズ、唯羅馬官吏ノ爲ス所ニ任スノミ、又各郡縣ニハ羅馬ノ市民收稅官トナリテ租稅ヲ徵收ス、其狀猶主人ノ奴隸ヲ叱咤スルガ如シ、是ニヨリテ同盟諸國及郡縣ノ人民ハ羅馬市民權ヲ得ンコトヲ渴望シ、終ニ國家ノ騷擾ヲ致セシモ怪ムニ足ラサルナリ、之ニ加フルニ羅馬ノ版圖ハ此ノ如ク大ナリシヲ以テ、其版圖内ヨリ流入スル所ノ富、擧ケテ計ルヘカラス、羅馬人ハ一時巨萬ノ富ヲ得タルヲ以テ、俄ニ驕傲ノ心ヲ生シ、世俗一般ニ奢侈ヲ尙ヒ、之ヲ公ニ

シテ道路ヲ築造シ市街ヲ修飾シ橋梁ヲ架設シ公館ヲ建  
設シ、之ヲ私ニシテハ家屋、庭園、池沼、臺榭ヨリ衣  
服、飲食ニ至ルマテ一ニ美ヲ盡シ善ヲ極メサルナク、  
一飲一食ノ價數萬金ニ上リ、一饗一宴、絃歌湧キ銀珮  
玉盃四隅ニ粲然タリ、傲奢ノ風此ニ至テ極リ、羅馬ノ  
景此ニ至テ盡クト云フヘシ此淫逸ノ世ニ處シテ挺然其  
身ヲ潔クシ世人ヲ矯正セントセシモノハ、獨リ一ノけ  
トリアリシノミ、然レトモ大厦ノ傾ク一木ノ支フヘキ  
ニアラス、けれども忠言亦徒勞ニ屬シ、世ハ内訌時代  
トナリ、共和政治遂ニ轉覆スルニ至レリ、

第四 内訌

概説 既説ノ如ク、羅馬人ハ俄ニ大版圖ヲ有シ屬國  
ノ富ヲ蒐集シタルヲ以テ、世俗一般驕奢ニ流レ、古代  
羅馬人ノ質朴嚴正ノ風ハ地ヲ拂フニ至レリ、當時人民  
財産ノ懸隔實ニ甚シク、富者ハ其財力ヲ特ニ益シ兼  
并ヲ逞クシ、貧者ハ愈々貧困ニ陥リ、富者ノ爲ニ其權利

ヲ侵蝕セラレテ、共和政治ハ將ニ變シテ富者ノ寡人政  
治トナラントス、之ヲ要スルニ古來ノ貴族平民ノ争、  
今ハ變シテ富者貧者ノ争トナリ、爾後一世紀間ハ國內  
擾々トシテ寧歲ナシ、

兩ぐらつかす 紀元前百二十三年「とりびーん」  
ていびりあす、ぐらつかす(しびお、あふりかなすノ孫)  
出テ、人民貧富ノ度ヲ均一ナラシメント欲シ、「りしに  
あん」法律ヲ恢復シ、公共田園ノ所有ヲ一人五百「じ  
げら」以內ニ限り、其餘地及ば「がもん」王あつたらすノ  
羅馬ニ奉セル國土ヲ貧民ニ分與セントシ、遂ニ其法案  
ヲ可決セシム、而シテていびりあすハ任期滿チタルヲ  
以テ、人民ハ明年再之ヲ撰舉セントセシカバ、貴族黨  
ノモノ之ヲ妨ケント欲シ、流言ヲ播ヘ遂ニ攻メテ其徒  
三百人ト共ニ之ヲ殺害セリ、其後十年ヲ經テていびり  
あすノ弟けいあす、ぐらつかす撰ハレテ「とりびーん」  
トナレリ、けいあす性仁慈、兄ノ遺志ヲ紹キ更ニ田野

法ヲ提出シ、又穀物法ヲ設ケ倉倉ヨリ賤價ヲ以テ毎月  
貧民ニ穀物ヲ配與セリ、又貧民一時ノ急ヲ救ハンガ爲  
ニ公共ノ工事ニ使役シ、或ハカーサ、カーチ等ノ郡縣へ移  
住セシメ、且當時ノ制度ヲ改革シ、元老官及富者ノ權  
力ヲ減殺センコトヲ謀ル、是ヲ以テ遺族ノ恨怒ヲ招ク  
コト最深ク、在職二年ニシテ其官ヲ失ヘリ、貴族黨ハ  
猶以テ足レリトセズ、之ヲ襲フテ其黨三千人ヲ殺ス、  
けいあすハたいばー河岸ノ森林中ニ逃レシガ、其終ニ  
免ル能ハサルヲ慮リ從者ノ手ニ罹リテ死セリ、  
めりあす及さるら ぐらつかす兄弟ノ死後ハ、豪  
族ト平民ト羅馬人ト伊太利人トノ罅隙日ニ甚シク、平  
民黨ノ巨魁ハめりあすニシテ嘗テにみでいあ王じが  
一すヲ討伐シ、又しむぶり人及ていどん人ヲ擊退シ  
テ功名日ニ盛トナリ、羅馬第一流ノ人物トナレリ、豪  
族黨ノ首領ハさるらニシテ、さるらモ亦屢軍功アリ、  
威望漸ク盛ナリ、是兩雄軋轢ノ原因ニシテ羅馬史上内

亂ノ始ナリ、此間ノ戰亂ヲ舉ケレハ左ノ如シ、

じがーすあノ戰爭 びみでいあ王みじぶさ(まし  
にすさノ子)ハ其領地ヲ二子及兄子じがーすニ分與  
セリ、而ルニじがーすハ領土ヲ專有セント欲シ、長  
子あどはーばるヲ殺セリ、是ニ於テ羅馬人ハじがー  
すニ對シテ戰爭ヲ布告セリ、然レトモじがーすハ  
羅馬ノ將帥ニ賂ヒ其進撃ヲ緩フセシガ、めりあすノ將  
トナルニ及ヒしるたノ一戰ニ大敗シテ擒トナレリ、  
しむぶり及ていどん人ノ入寇 じがーす  
トノ戰爭ノ未起ラサル前ニ當リ、強武ナル日耳曼人種  
しむぶり及ていどん人北方ヨリ入寇シ、だにいぶ河  
上ニ出現シ羅馬ノ兵ヲ破リこゝるニ集リ、將ニ大舉  
シテ伊太利ニ侵入セントス、「こんさる」めりあす之ヲ  
邀ヘ大ニていどん人ヲえくすニ擊破セリ(紀元前百  
〇二年)、しむぶり人ていどん人ノ敗レシコトヲ知テ  
ズ、進んで伊太利ニ入リシガ、めりあす又ジがーすをり



一ノ平野ニ撃テ之ヲ塵ニセリ(紀元前百〇一年)、是ニ於テめりあすハ羅馬ノ第三創建者トナリ名聲藉甚ナリ、

**伊太利同盟戦争** (紀元前九十一年ヨリ八十八年マテ)是ヨリ先、元老官リシメ、是レ一サス羅馬公民權ヲ伊太利人ニ與ヘンコトヲ主張セシガ、豪族ノ反對スルモノ多ク遂ニ刺殺セラレタリ、是ニ於テ伊太利ノ諸市府ハ同盟シテ羅馬ヨリ分離シ、こゝに於テ伊太利イタリト改稱シ、伊太利同盟ノ首府ト爲シ、羅馬ト同シク元老院(聯合議會)ヲ設ケ、二人ノ「こんさる」ヲ置キ大ニ兵ヲ擧ケ羅馬ニ向ヘリ、羅馬ノ將さるら同盟軍ト激戰シ屢之ヲ破リシガ、羅馬人ハ遂ニ同盟國ニ公民權ヲ許シテ政局ヲ結ベリ、

**第一みすりで一サ戦争** (紀元前八十八年ヨリ八十二年マテ) 同盟戦争中小亞細亞ナルぼんたす王みすりで一サハ勇敢ニシテ才略ニ富ミ、亞細

カ、然レトモ其黨ハ依然權勢ヲ有セリ、さるらノ**殘暴及制度** さるらハめすりで一サト會戰シ大勝を得、希臘及小亞細亞ノ都府ヲ恢復シ、紀元前八十三年今ヨリ千九百八十年前ニ至リみすりで一サト和シ、侵地及戰艦ヲ交付セシメ羅馬ニ歸ル、而シテ殘暴狼藉ヲ極ムルコトめりあすノ上ニ出デ、平民黨ノ「こんさる」及めりあすノ黨與ハ盡ク之ヲ斬殺シ、又其黨人ノ名簿ヲ製シ漸次逮捕シテ門前ニ斬ル、驚懼叫號ノ聲全市ニ響キ、流血流レテ川ヲナス、さるらはニ於テ意滿チ志得、自終身ノ「でいて」と「トナリ」こんねりあす「法律ヲ制シ、」と「びゅーん」ノ職權ヲ制限シ平民黨ノ勢力ヲ減殺シ、元老院ノ權力ヲ増大ニシ議員ヲ増シテ五百トナシ、而シテ立法行政ノ大權ヲ掌握セシム、翌年さるらハ突然「でいて」と「死セリ、めりあす及さるらノ内亂ニ於テ羅馬人ノ死セ

亞ノ保護者ヲ以テ自任シ羅馬ノ束縛ヲ脱セシメントシ、小亞細亞ノ都府ニ住セル八萬ノ羅馬人及伊太利人ヲ塵殺シ(今ヨリ千九百八十五年前)小亞細亞全土ヲ從へ、兵ヲ希臘ニ遣シあすんず、びおーしあ等ヲ侵略セリ、初此報ノ羅馬ニ達スルヤ、めりあす及さるら共ニ總督タランコトヲ望ミシガ、さるら遂ニ「こんさる」ニ撰ハレ元老官ノ命ヲ以テみすりで一サ征討の任ヲ受ケテ希臘ニ向ヘリ、而ルニめりあすハ之ヲ妬み人民黨ノ同意ヲ得テさるらノ官ヲ奪ヒ自ラ總督ノ任ニ膺レリ、さるら之ヲ聞キ軍ヲ返ヘシテ羅馬ニ歸リ、めりあすヲ亞非利加ニ追ヒ再進發セリ、**めりあすノ殺戮** めりあすハさるらノ在ラザルニ乘シ親友「こんさる」しんなど謀ヲ通シ、伊太利ニ上陸シテ羅馬ニ闖入シ、さるらノ徒黨及豪族ヲ戮殺スルコト算ナク、而シテ自第七回「こんさる」トナリ幾日ナラズシテ死シしん其後ヲ襲キシガ亦其下ノ爲ニ殺サ

シモノ凡十五萬人、中元老議員二百人アリシト云フ、**政黨ノ分裂** さるらノ死後羅馬共和國ハ黨派ノ爭益甚シク、國內紛々擾々トシテ將ニ無政ノ域ニ沈淪セントス是時ニ當リテ羅馬ニ四政黨アリ、(一)ヲ寡人黨ト曰ヒ少數ノ者ヨリ成レリトイヘドモ、能ク元老院ヲ左右シ、又共和政治ヲ主宰スルノ權ヲ有セリ、**びゅーい** 實ニ之カ首領タリ、(二)ヲ貴族黨ト曰ヒ、元老院議員ノ多數ヨリ成リ、二三ノ同僚ノ爲ニ奪ハレタル權力ヲ回收センコトヲ勉ム、くらさす之カ首領タリ、(三)ヲめりあす黨ト曰ヒ嘗テさるらノ爲ニ虐殺セラレタルめりあすノ餘黨ニシテ、相合シテ再權勢ヲ獲ントス、**びゅーい** 嘗テさるらノ部下ニ屬セシ將校ノ群ニシテ、變亂ニ乘シテ富貴ヲ博センコトヲ望メリ、かてりん之カ首領タリ、**びゅーい** 初びゅーいハさるらノ將校ナリシガ、屢

軍功ヲ立テ其名大ニ著ル紀元前七十五年ヨリ七十二年ノ間めりあすノ殘黨、平民黨ノ首領さーどりあすヲ戴キ、西班牙ニ蜂起シ一獨立國ヲ建テントス、ぼびべい伐テ之ヲ平定セリ、其間數萬ノ劍客及奴隸ノ群、伊太利ノ各所ニ蜂起シ、剛勇ナルすばーたかすヲ將トシ其勢甚猖獗ナリシガ「こんさる」くらさすノ爲ニ討タレ其全衆でいる地方ニ奔レリ、會ぼびべい西班牙ヨリ還リ其黨ヲ伐チテ悉ク之ヲ平ク(紀元前七十一年)、是ヨリぼびべいの威名日ニ熾トナリ、「こんさる」ニ撰ハレテくらさすと共ニ國事ヲ經營セリ、

**海賊ノ剿滅** 其後ぼびべいハ一時職ヲ退キシガ、再推舉セラレ東方ニ於テ大ニ其武名ヲ輝カセリ、即地中海ノ海賊ヲ平ケ、みすりでーていす戰爭ヲ完結セシコト是ナリ、當時南方小亞細亞ノ海岸ニ住セル浮浪ノ人民地中海ニ出沒シテ海岸ヲ侵略シ、或ハ船舶ヲ搶奪セリぼびべい征討ノ命ヲ受ケ海岸及海上ノ全權ヲ委任

セラレ、僅々三月ヲ以テ其根據ヲ勦滅シ、捕虜ヲしりー島ニ移セリ(紀元前六十七年今ヨリ千九百六十四年前)

**第二第三みすりでーていす戰爭** 是ヨリ先ぼんたす王みすりでーていすハ一旦羅馬ト和セシト雖、其後好機ヲ見テ屢羅馬ノ領地ヲ侵シ、紀元前七十五年びすいにあチ略奪セリ(第二戰爭)。是ニ於テ第三戰爭起ル、羅馬ノ大將り、かるらす之ヲ征シ一時大勝ヲ得シガ、みすりでーていすハ其義子あーめにあ王ていぐれにすト合シ、勝敗久シク決セズ、是ニ於テ羅馬人ハぼびべいヲ舉ゲテ之ニ代ラシム、紀元前六十六年ぼびべいみすりでーていすトゆーふれーていす河邊ニ戰ヒ大ニ之ヲ破ル、みすりでーていす逃遁シ遂ニ自殺セリ、是ヨリぼびべいハぼんたす及しありチ從へばれたすたいんチ朝貢セシメ、紀元六十二年羅馬ニ還リ盛ナル凱旋式ヲ以テ祝セラレタリ、

**しせろー及かていりんノ亂** ぼびべいの親友ニたるりあす、しせろートイヘルモノアリ、貴族ニアラズト雖、才幹ヲ以テ諸官ニ歷任シ、終ニ「こんさる」ニ登レリ、しせろーハ愛國ノ精神ニ富ミ、希臘ニ於テ能辯術及哲學ヲ研究シ、政治家辯論家トシテでもすすにすニ比セラル、ニ至レリ、ぼびべいの亞細亞ニアルノ間、さるらノ餘黨かていりん貧困ノ餘黨ニ羅馬ノ無賴人ヲ集メ、時ノ「こんさる」、しせろーヲ殺害シ羅馬府ヲ燒キ現制度ヲ破壊シ、以テ自「でいてとる」トナランコトヲ圖リシガ、しせろー其陰謀ヲ看破シ、元老院ニ於テ其反逆ノ罪ヲ鳴セシバ、かていりん遂ニ身ヲ置クニ處ナク、ねどるーりあす奔リ官兵ト戰ヒ軍破レテ死シ其黨與悉ク殺サル(紀元前六十二年)其後「どりびーん」、くらさす、しせろーヲ彈劾スルニかていりん事件ヲ處スルニ法律ニ背キタルヲ以テシテ之ヲ放逐セリ、

**しーざー** さるらノ死スルヤ其威權幸福ノ盛ナリシヲ見、武舞ヲ爲サント欲スルモノ多シ、ぼんべいの出ツルニ及ヒテ恰王者ノ如キ威望ヲ有シ、其幸福麗リナク其名聲天下ヲ歴セシガ、隠然其下ニ強大ナル競争者ノ起ルアリ、其人ハ誰ゾ、じりあす、しーざー(紀元前百年生今ヨリ千九百九十七年前)是ナリ、しーざーハ智勇兼備ノ英傑ニシテ辯論家トシ學者トシ、大將トシ皆其任ニ適セザルナシ、殊ニ政治ノ才ニ於テ最卓越セリ、其家本、貴族ナレドモめりあす及しんた烟戚タリ、且竊ニ大望ヲ抱ケルヲ以テ、故ニ平民黨ニ入りテ其首領トナレリ、

**第一、三雄同盟** ぼびべいハ初寡人黨ニ與セシガ、漸ク不和ヲ生ジ、且元老院ノ其亞細亞遠征中ノ舉措ヲ非トセシチ忿リ、翻リテ平民黨ニ入りしーざート親善ナリ、しーざー之ニ妻スニ其愛女ヲ以テシ、又くらさすヲ援キ三人提掣シテ國事ヲ圖議シ、以テ元老院黨ヲ

抑壓シテ全權ヲ掌握セント欲ス、是羅馬史上ニ有名ナル第一三雄同盟ナリ、紀元前五十九年しーざー「こんざる」ニ擧げセラレ、期滿チテこゝろノ大守トナリ、五年ノ任期滿チテ又五年ノ再任ヲ乞ヘリ、是蓋しーざーノ大望ノ存スル所ナリ、ぼむべい、くらゝさすノ二人ハ紀元前五十五年共ニ「こんざる」トナリ、期滿チテぼむべいハ五年間西班牙及亞非利加ノ大守トナレリ、然レトモ代官ヲ遣シテ之ヲ治メシメ躬羅馬ニ居ル、くらゝさすモ亦同時ニ五年間しりあノ太守ニ任セラレタリ、而ルニくらゝさすハばーすあ(當時波斯ハばーすあヤ人ノ爲ニ滅サレタリ)、ト戰ヒめそばたみあニ死セリ、是ニ於テ三雄同盟一人ヲ闕ケリ、

こゝろニ於ケルしーざー しーざーノこゝろニ在ルヤ凡八年、督テこゝろに侵入シタリシヘルガレ、てあしチ撃テ之ヲ退ケ、又日耳曼人ノ將ありあぢすたすチらいん河外ニ擊退セシカ、こゝろ人密ニしー

ざーノ威力盛ナルヲ懼レ、こゝろ人中慄悍ノ名アルベるウー人ヲ煽動シテ兵ヲ擧ケ、しーざー之ヲ平定シ再日耳曼人ト戰ヒらいん河ヲ渡リ、次テ又ぶりてん島ニ上陸セリ、其第二遠征ニ於テハてーむす河ニ達シタリシカ、紀元前五十二年今ヨリ千九百四十九年前こゝろ人一時ニ蜂起シ、勇將ヂヌルしんげどりくす之ヲ督シ勢甚猖獗ナリ、しーざー奮戰シテ之ヲ破リ、遂ニ全クこゝろヲ征服シらいん河ヨリびれにーすニ至ル、紀元前五十年あるぶす山ヲ下リしすあるばいんこゝろノ地ニ居住セリ、是ニ於テしーざーノ威名日ニ熾トナリ、こゝろ地方ノ人民帖然トシテ畏服シ、皆其用ヲ爲スヲ樂ムニ至レリ、抑こゝろ征服ノ結果タル、萬國史上ニ一大關係ヲ有シ羅馬ノ文明ヲ、他日史上ニ有名トナレルこゝろ、せるまん、ぶりてん等ノ諸國民ニ撒布セルモノナリ、

第二内亂

願ミテ羅馬ヲ觀レハぼむべいノ威權甚

盛ニシテ、往時ノ共和黨及元老議員皆之ニ附從セリ、ぼむべいハ其妻(しーざーノ女)ヲ失ヒシヨリしーざートノ交情日ニ疎トナリ、且しーざーノこゝろニアリテ其勢威將ニ己ノ右ニ出テントスルヲ妬ミ、又轉シテ貴族黨ヲ助ケ、しーざーヲ排撃セントス、始しーざーノ任期ハ紀元前四十九年ヲ以テ盡ク、故にしーざーニシテ翌年「こんざる」ニ撰ハレズンバ下テ一私人トナレサルヘカラズ、是ヲ以テ外ニ在リテモ常ニ其名ヲ擧擧簿ニ登錄セラレンコトヲ乞ヒシガ、元老院ハぼむべいノ威ヲ畏レ終ニ左ノ命令ヲ下セリ、曰クしーざーハ紀元前五十年十一月十三日ヲ以テ太守ノ任ヲ去リ其衆ヲ解散スヘシ、然ラサレハ國敵ヲ以テ處スヘシト「どりびーん」きゅーりあ及あむ、あんどにー二人之ヲ争ヒ、ぼむべいナシテ亦其權ヲ去ラシメントセシモ其効ナク、終にしーざーノ陣ニ奔レリ、しーざーハ是ニ於テ意ヲ決シ、忠勇ノ兵士ヲ率キ紀元前四十九年一月本營

らげんナヲ發シ、るびこん河ニ至リ、沈吟少時遂ニ決然河ヲ渡リ羅馬ニ逼ル、羅馬大ニ震動ス、ぼむべいハ其自しーざーニ敵スベカラザルヲ知り、其衆及元老議員ト共ニ希臘ニ走り再擧ヲ謀ラントス、しーざー一兵ニ岫ラズ二月ニシテ羅馬ニ入り、直ニ西班牙ニ進ミぼむべいノ黨與ヲ伐チ其枝葉ヲ斷チ、再羅馬ニ還リ「てくてーどる」ニ任ゼタレ、次年(紀元前四十八年)又「こんざる」ニ撰ハレタリ、

**東方戰爭** 是ニ於テしーざーハあどりあてらク海ヲ横キリ希臘ニ渡リぼむべいヲ撃ツ、是ヨリ先、ぼむべいハすえさりニ於テ大ニ兵ヲ集メシガ、是ニ至リしーざートあせーせーらすノ地ニ決戰シ、二倍ノ衆ヲ有セシモ遂にしーざーノ精兵ニ破ラレ、紀元前四十八年八月殘兵ヲ率キ小亞細亞ヲ越エテ埃及ニ奔レリ、埃及王ぞれみり、しーざーノ意ヲ邀ヘ其下ナシテぼむべいノ上陸ヲ待チテ之ヲ殺サシム、しーざー、ぼむべい

ヲ追跡シテ埃及ニ入り、ぼびべいの首ヲ視、深ク其末路ヲ歎シ、禮ヲ厚クシテ之ヲ葬レリ、當時埃及ニテハどれみー及其姉くれをばとらノ間ニ王位繼承ノ争起レリ、しーざー、くれおぼとらノ色ニ惑ヒ其言ヲ納レ、之ヲ援ケテ王位ニ即カシム、是ニ於テどれみーハ國民ト共ニしーざーヲ攻メシガ、却テしーざーノ爲ニ討滅セラレタリ、是紀元前四十七年ニシテ有名ナルあれきさんどりあノ圖書館モ此時兵災ニ罹リ藏書ノ燒亡セシモノ幾萬卷ナルヲ知ラズト云フ、埃及王位繼承ノ亂了ルヤ、しーざーハ直ニ小亞細亞ニ渡リ、ぼんたす王を、いなしす、(みすりでいて、すの子)ヲ擧テ暫時ニシテ之ヲ征服セリ、しーざーノ書簡(我來レリ、我見タリ、我勝テリ)ニ據リテ以テ其迅速ナルヲ知ルベシ、しーざーノ全勝 其後しーざーハ羅馬ニ歸リ暫時滞在セシガ、又亞非利加ニ入りぼびべいの殘黨ヲ征シす。ぶさすノ激戰ニ於テしーざー大勝ヲ得、敵兵

ノ死スル者甚多ク、共和黨ノ願望全ク絶エタリ、是ニ於テ首領しびお及びと事ノ爲スベカラルヲ知リ共ニ自殺セリ、しーざーノ亞非利加ヨリ還ルヤ、羅馬人ハ盛儀ヲ具ヘテ其凱旋ヲ祝シタリシガ、幾何モナクシテ又羅馬ヲ去リ西班牙ニ入り、むんだノ一戰ニ於テ悉クぼびべいの殘黨ヲ討滅セリ、しーざーノ獨裁政治 今ヤ羅馬ハ共和政治迹ヲ絶チ君主政治ノ國トナレリ蓋しーざーハ未君主ノ名ヲ有セズト雖、其實君主ノ權ヲ掌握セリ、しーざーノ埃及ヨリ凱旋スルヤ實ニ君主政治ノ發端ニシテ此時羅馬人ハしーざーヲ推選シテ終身でいてとるトナシ又いひべれとる(大總督ノ義)ノ稱號ヲ加フいひべれとるハ從來大將ノ偉勳アルモノニ加フルノ尊稱ナリシガ今ハ其意義擴張シ後世ノえひべる(皇帝)ノ義ヲ含有スルニ至リえひべるノ稱ハいひべれとるノ節約シテ用ヒシモノナリ、しーざーノ大才ハ能ク黨派分裂

國事紊亂ノ羅馬國ヲ整理シ、而シテ羅馬ヲシテ統一セル國情、即同一ノ權利、言語、開化ヲ有セル世界國タラシメントセリ、故ニ其作爲セシ所ノ事業甚多ク、郡縣ノ政治ヲ改善シ、こゝる、すべいんノ人民ニ公民權ヲ與ヘ、元老院議員ノ數ヲ増シテ九百人ト爲シ、以テ國家最高ノ顧問府トナシ、殖民ノ擴張、商工ノ獎勵、曆法ノ改正ヨリ行政、司法、財政ノ修理ニ至ルマデ、僅々數年ノ月日ヲ以テ之ヲ成就セリ、豈不世出ノ英傑ト云ハザルベケンヤ、

しーざーノ末路

しーざーノ威權其極ニ達スルト共ニしーざーハ單ニ實權ノミヲ以テ満足セズ、併セテ獨裁君主ノ名目及外部ノ尊敬ヲ得ントスルニ意アルヲ疑フモノアルニ至ル、是ニ於テ平素しーざーノ威名ヲ忌ムモノ此機ニ乘ジ自由ヲ恢復スルヲ以テ名トシ、徒黨ヲ糾合シテしーざーを殺害センコトヲ圖ル、其首領

けいあす、かすしあすトス、元老議員六十餘名之ニ黨ス、紀元前四十四年三月十五日しーざーハ警戒アリシヲモ顧ミズ元老院ニ赴キ、其席ニ座スルヤ否ヤ、兇徒ハ起チテ之ヲ圍繞シ、各短劍ヲ拔キしーざーヲ刺セリ、しーざー始之ヲ防禦セシガ、ぶるたすノ劍ヲ持スルヲ見テ敢テ反抗セズ、ぶるたす爾モ亦カ、ノ一叫ヲ遺シ身二十三創ヲ蒙リ、前日ノ競争者タリシぼびべいの像下ニ斃ル、時二年五十六、

羅馬人ノ感情

しーざーノ死スルヤ、自由共和ノ精神ハ尙有識者ノ腦中ニ存スト雖、一般ノ人民ニ至リテハ毫モ之ナキモノ、如シ、蓋てんさる、いひ、あんどにりしーざーヲ葬ル時ニ於テ、悲壯ナル演說ヲナシ其功績ヲ頌揚セシガ如キ、又其遺言ニ依リテ貧者ニ惠施セシガ如キハ、皆大ニ人民ヲシテ感激セシメタリ、是ニ於テ人民しーざーノ殺害者ヲ惡ムノ情甚強ク、隊伍ヲナシテ市中ヲ横行シ、殺害者ヲ索メテ之ヲ殺戮セ

リ、ふるたす、かすしあす等ノ徒ハ蒼皇羅馬ヲ遁逃セ

第二、三雄同盟

是ヨリ先、シーザーハけーあす、  
おくてーがあす(シーザーノ姪ノ子)ヲ養ヒテ嗣トナ  
セリ、シーザーノ死後あんどにハ其威力ヲ攘ニシ共  
和政治ヲ破壊セントスルノ兆アリシヲ以テ、雄辯家シ  
セろーハ大ニ之ヲ論難セリ、是ニ於テ元老院ハあんど  
にーヲ目スルニ國敵ヲ以テシ、おくてーがあすヲふり  
ーとるニ任シ、二人ノこんさるト共ニ之ヲ撃タシム、  
あんどに、こーるニ奔リ太守レびだすニ倚ル、れびだ  
す、あんどにート共ニ軍ヲ率テ伊太利ニ進ム、おくて  
ーがあす却テ二人ト和シ、相共ニ連合シテ共和黨ヲ滅  
セントス、是ニ於テ紀元前四十二年第二、三雄同盟起ル  
三雄同盟ハ其權勢ヲ維持セントシ、反對黨及共和黨ノ  
元老院議員及貴族ヲ殺スコト甚多ク、又富家ノ財産ヲ  
掠スルコト勝テ數フヘカラス、其慘毒めりあす及さ

るらノ時ヨリモ甚シ、しせろーノ如キモ管テあんどに

ーヲ撃攻セシ故ヲ以テ逃走ノ途中追兵ノ爲ニ殺サル、  
ふいりっびノ決戦 三雄同盟ハ既ニ羅馬ニ於テ仇

讐ヲ復セシヲ以テ、進ンデふるたす及かすしあすハませと  
ダントス、是ヨリ先、ふるたす及かすしあすハませと  
にあり走り共和黨及ぼんべいノ餘黨ヲ集メ兵勢頗盛ナ  
リ、紀元前四十二年ふいりっびノ平野ニ於テ兩回ノ激戦  
アリ、ふるたすハおくてーがあすヲ撃退セシト雖、か  
すしあすハあんどにーノ爲ニ破ラレテ自盡セリ、ふる  
たすモ亦幾クナラズ軍破レテ自殺セリ、

三雄分治

爾後羅馬國ノ大權ハ盡ク三雄ノ手ニ歸  
シ、羅馬ノ領地ヲ分割シテ之ヲ管治セリ、おくてーが  
あすハ西方ヲ取り、あんどにーハ東方ヲ取り、れび  
だすハ亞非利加ヲ取レリ、然レドモれびだすハ後お  
くてーがあすノ爲ニ併合セラル、あんどにーハ埃及女王  
くれおばとらノ容色ニ惑ヒ、あれきさんどりありニ在リ

テ安閑遊宴ヲ事トシ、遂ニ其妻おくてーがあ(おくて  
ーがあすノ妹)ヲ去リくれおばとらト婚シ、而シテ羅  
馬ノ郡縣ヲ割キくれおばとら及其子ニ分與セリ、  
おくてーがあすノ戦勝 是ヨリ先、おくてー

があすハ羅馬ノ人心ヲ收攬シ且兵士ヲ訓練セシガ、是  
ニ至リテ元老院ヲシテあんどにーノ官職ヲ褫キ、くれ  
おばとらヲ國敵トシテ開戦ヲ宣告セシム、是ニ於テあ  
んどにーハくれおばとらト共ニ船艦ヲ率キ、希臘西海  
ナルおくてーあむ岬ニ於テ羅馬ノ軍ト會戦セリ、戦未半  
ナラサルニくれおばとら六十艘ノ軍艦ヲ率キテ遁逃セ  
リ、あんどにーハくれおばとらノ逃ル、ヲ見、亦軍ヲ  
棄テ其後ニ從ヒ奔レリ、殘兵善ク戦フト雖、主將ノ脱出  
シテ還ラサルヲ以テ、皆おくてーがあすニ降レリ、是

紀元前三十一年ナリ、おくてーがあすハ直ニ埃及ニ進  
入シあれきさんどりありヲ圍ム、府兵戈ヲ倒ニシテ敢テ  
抗スルモノナシ、あんどにー終ニ劔ニ伏シテ死ス、く

れおばとら又おくてーがあすヲ蠱惑セントシテ成ラ  
ス、おくてーがあすノ己ヲ以テ凱旋ノ飾具トナサン  
トスルヲ聞キ、自毒蛇ニ觸レテ死セリト云フ(紀元前  
三十年)、おくてーがあすハ埃及ヲ羅馬ノ郡縣トナシ  
夥多ノ財寶ヲ收メテ羅馬ニ凱旋セリ、

共和ノ末期

是ニ於テ元老議員及人民ハおくてー  
があすニ加フルニおーがすたす(神聖ノ意)ノ尊號ヲ  
以テス、實ニ紀元前二十七年ニシテ是時ヲ以テ羅馬帝  
國ノ始トナス、羅馬府ノ創建ヲ去ル七百二十六年、國  
王ノ放逐ヲ去ル四百八十三年ナリ、

第三期 帝政時代

(紀元前二十七年ヨリ紀  
元四百七十六年マテ今  
ヨリ千四百二十一年前  
ニ至ル五百二年間ナリ)

第一 じーざー、おくてーがあ

す、おーがすたすノ時代

帝政 おーがすたすノ治世ハ紀元前二十七年ヨリ紀

元十四年ニ至ル四十一年ノ間ナリ、而シテ其治世間ハ

依然共和ノ形體ヲ存ストイヘトモ、其實ハ純然タル君主政治ナリ、蓋おーがすたすハ義父しーざーノ覆轍ニ鑑ミ、帝王ノ名稱ヲ僭シテ羅馬人ノ怨望ヲ招クガ如キコトヲ爲サス、唯しーざーノ稱號ヲ有スルノミ、然レトモ羅馬ノ高官重職ハ漸々其一身ニ集リ、いんべれーどるトシテハ軍隊ノ總督及宣戰講和ノ權ヲ掌握シ、ぶりんせふす(即公)トシテハ元老院ノ主宰トナリ立法司法ノ事ヲ指揮シ、こんざるトシテハ行政ノ大權ヲ掌リせんぞるトシテハ元老議員ヲ撰定シ官吏ノ行操ヲ觀察スルノ權ヲ有シ、其他官吏ノ撰舉、訴訟ノ聽斷、文教、風俗ノ事ニ至ルマデ一ニ其掌握ニ歸セリ、而シテおーがすたすハ温和着實ニ之ヲ執行セシテ以テ、其目的ヲ達スルニハ甚鞏固ナリキ、

**黄金時代**、おーがすたすノ時代ニハ羅馬ハ安寧靜謐ニシテ外ハ大ニ國威ヲ輝シ内ハ開化ノ高度ニ達シ、所謂文學技藝ノ黄金時代ニシテ、基督モ此時ヲ以テ

ハあニ生レタリ、又廣濶ナル軍道ハ蛛網ノ如ク羅馬首府ト二十七ノ郡縣トヲ連絡セリ、首府ハ廣大美麗ナル殿堂、劇場、公園、遊戯場、公會堂ヲ以テ飾ラレ、壯大ナル水道溝渠ヲ以テ便ニセラレタリ、  
**帝國ノ版圖**、當時羅馬ノ版圖ハ三大洲ニ跨リ、西ハ大西洋ヨリ東ハゆーふれーと河ニ至リ、北ハだにーぶ、ちいんノ兩河及黑海ヨリ南ハ亞非利加ノ沙漠ニ達セリ、東西ノ長ハ凡三千哩、南北ノ幅ハ一千哩以上ナリ、  
羅馬ノ版圖ハ近世ノ葡萄牙、西班牙、佛蘭西、比耳西亞、西部荷蘭、らいん河岸ノ普魯西亞、ばいでん及うるてむべるぐノ一部、ばぐりあノ大半、瑞西、伊太利、てゐる、澳大利本部、西部匈牙利、くろーてあ、すらぐまにあ、せるぐあ、歐羅巴土耳其、小亞細亞、しりあ、ばれすたいん、いでみーあ、埃及、しれねいか、とりぼり、てにす、あるぐりあ及もろこノ大

半ヲ掩有シ、其人口ハ凡一億二千萬アリ、奴隸ノ數之ニ半シ、政權ヲ有セル市民ハ數千萬ニ過ギズ、而シテ羅馬府ハ凡二百五十萬ノ人口ヲ有セリ、

**開化ノ種別**、羅馬ノ版圖ハ自分レテ三部トナリ三種ノ開化ヲ有セリ、羅甸、希臘及東方是ナリ

羅甸ノ開化ハ伊太利ノ半島ヨリこゝる、西班牙及亞非利加ノかすてーら地方ニ及フ、此地方ハ大抵羅馬ノ風ニ化シ、羅馬ノ風俗ト羅甸語トハ益其根基ヲ固クセリ、

希臘ノ開化ハ希臘本土ヨリ其植民地及希臘ノ言語風習ヲ移植シタル諸國ニ行ハル、此諸國ハ政事上ヨリ見レバ羅馬風ニ變セシガ如キモ、其風習、言語及智識上ノ事ニ至リテハ猶依然タル希臘人ナリ、

東方ノ開化ハとらす山外ノ諸國及しりあ埃及ニ擴張セリ、此等ノ諸國ハ管テあれきさんだー大王ノ治下ニ屬セシコトアリト雖、其本國ノ言語、宗教及一般ノ思

世界誌 史紀 羅馬 帝政時代 おーがすたす以後ノ諸帝 三百九十七

想ハ未曾テ消失セズ、是故ニ羅馬ノ版圖ニ歸セシ以來モ、其表面ハ假令羅馬人ナリト雖、而モ羅甸ノ風習言語ヲ採用セシコト鮮シ、

**日耳曼人民トノ戰爭**、おーがすたす人民ノ兵革ヲ厭フチ知リ、他國ヲ侵略スルコトヲ欲セザリシガ、國境ヲ固ムル爲ニ日耳曼人民ト戰端ヲ開ケリ、帝ハラ

いん河外ノ日耳曼人ヲ征服セント欲シ、女婿とるーさすヲ遣シ大軍ヲ率キテらいん河ヲ渡リぬるべ河邊ニ達セシコトアレトモ之ヲ征服スルコト能ハザリキ、てび

ーりあす其後ヲ承ケ、戰延キテ數年ニ涉レリ、而シテ紀元九年ニ至リ日耳曼ノ雄將あーみにあす、てーどぶるぐノ森林ニ於テ羅馬ノ守將グーらすノ率キル三隊ノ兵ヲ襲殺セリ、是ニ於テらいん河外ノ日耳曼ハ終ニ羅馬ノ羈絆ヲ脱セリ、

**第二 おーがすたす以後ノ諸帝**  
概説 おーがすたす死シテヨリ西羅馬帝國ノ滅ルニ

三百九十七

至ルマデ七十有餘帝アリシト雖、其歴史ハ主ニ王家ノ興廢ヲ叙スルニ過キサレバ、茲ニハ唯其重要ノ關係ヲ有スルモノ、ミナ記セントス、

しりあん家ノ諸帝 おーがすたすノ死スルヤ、其婿ていびーあす位ヲ繼グ、蓋羅馬ノ政體ハ法律上ニ規定シタル君主政治ニアラサルヲ以テ、先帝ノ遺言ニヨリテ主權ヲ左右スルコトヲ得ズ、然レトモおーがすたすハていびーあすヲ養ヒテ子トナシ、法律上之ヲ承認シタルヲ以テ、是ニ至リテ嗣立スルコトヲ得、元老院モおーがすたすノ官位ヲ以テ之ニ與ヘタリ、しりあん家ハ五世ヲ傳ヘ、最後ノ帝ヲにーろート云フ、一時ハ精ヲ勵シ治ヲ圖リシト雖、後殘暴酷虐ナリシヲ以テ、西班牙ノ鎮臺先鋒起シ羅馬ニ迫ルニ及ヒテにーろーは遂ニ自殺セリ、是ヨリ以後羅馬帝位ニ登リシ者ハ、復じりあん家ニ屬セズト雖、其帝權ヲ掌握セシヲ以テ、通シテしーざー或ハおーがすたすノ尊號ヲ稱セ

リ、

ふれふいあん家ノ諸帝 にーろーノ死後國內大ニ亂レ、各處ノ鎮臺兵皆其將ヲ擁シテ帝トナラントス、而シテ帝位ニ登ルヲ得タルモノ數人アリ、紀元六十九年ニ至リふれがあすづますペーしーいーなす、しりあ鎮臺ヨリ出テ、帝位ニ登ル、帝善長勤儉一時亂レタル國內ノ秩序ヲ恢復シ、又其將あぐりこらヲシテぶりてんノ大半ヲ平定セシム、其子たいたす位ヲ嗣グ、たいたすハ紀元七十年せるざれむヲ陷レシ人ニシテ、又温良君子ノ風アリ、帝ノ時がすづあす山破裂シテぼむべー、はーかれーにあむノ兩市ヲ埋没セリ(紀元七十九年)、後一世ヲ經テふれがあん家滅ブ、

善長ノ五帝 紀元九十六年ヨリ百八十年ニ至ルノ間、なーじ、とれじ、へーどりあん、あんどないなす、ばいあす及むい、おーれりあすノ五帝相繼キテ位ニ登ル、此諸帝ハ養子相繼テ位ニ即キ、皆性ノ善長ヲ

以テ著ル、此中とれじ、へーどりあんハ西班牙ニ生ル、伊太利國外ノ人ニシテ始メテ帝位ニ登リシモノナリ、而シテ帝ハ大ニ武ヲ輝シ、羅馬帝國ノ版圖ハ此時ニ至リテ最大トナレリ、

軍將政治

是ヨリ以後羅馬國ハ所謂軍將政治ニシテ諸帝更ニ立チ、其在位ノ年限甚短シ、是時ニ當リテハ親衛兵帝王廢立ノ權ヲ握リ、元老院ハ只兵士ノ立ツル所ヲ認許スルノミ、是ヲ以テ各地方ノ兵士等各其將ヲ立テントシ、一時數處ニ帝王ノ立ツヲ見ルニ至レリ、紀元百八十年てむもだす帝(むむ、おーれりあすノ子)立ツ、帝性殘暴荒淫、無辜ヲ殺戮スルコト其數ヲ知ラズ、是ヨリ以後ハ風俗敗壞シ、内亂外患相繼キテ起リ、羅馬ノ國勢衰頽シ、帝王ノ死然ヲ得シモノ甚少ク、多クハ刺客ノ手ニ斃レタリ、

公民權ノ擴布

既述ノ如ク羅馬帝國ハ伊太利ト郡縣トニ分レ、郡縣ノ人民ハ羅馬ノ公權ヲ有スルヲ得ザ

世界誌

史紀 羅馬 帝政時代 おーがすたす以後ノ諸帝

リシガ、其後羅馬府民ノ郡縣ニ移住シ、郡縣ノ人民羅馬ノ市民權ヲ得、交互錯綜スルニ至リテ從來ノ區別相混同セリ、紀元三世紀ノ初かるかる(紀元二百年ヨリ二百十七年マテ)帝ノ時ニ至リ兩者ノ區別ヲ全廢セリ、是ヨリシテ羅馬ノ國語、風俗及思想ハ西方諸郡縣ニ波及シ、嘗テ野蠻人トシテ蔑視セラレシ所ノ人民モ全ク羅馬人トナリ、數多ノ英主ヲ出スニ至ル、是ニ於テ羅馬府ハ漸ク帝國ノ中心タルノ勢力ヲ失ヒ、帝王モ亦必シモ一都府ニ定居セス軍事ノ便ヲ追ヒテ轉々移住スルニ至レリ、

帝權ノ分割

紀元二百六十八年ころいであす二世帝位ニ即ク、是ヨリ先、てす人目耳曼人及波斯人(當時ばーすいあハ既ニ亡ヒ又波斯ノ世トナレリ)入寇シ己マス、又國內一時倍シテ帝ト稱スルモノ三十人ノ多キニ至レリ、帝大ニてす人ヲ破リシヲ以テ邊境稍無事ナルヲ得タリ、次キテおーれりあん、ふろーばす、だい

おくりしあんの諸帝位に即キ、外蠻ヲ掃ヒ借者ヲ滅ホシ、羅馬ノ國勢復盛ナリ、だいかくりしあん帝ハいるり、かひヨリ出テ、紀元二百八十四年羅馬帝位ニ登ル、だいかくりしあんハ從來ノ制限君主政治ヲ廢シ、專政獨裁ノ治ヲ斷行シ、羅馬府既ニ大帝國ヲ支配シ四圍ノ蠻族ヲ防禁スルニ足ラサルヲ見、まきしあんとテテ帝トナシ、東西相並ニテ政ヲ行フ、之ヲ「おがすたす」ト稱シ、又二人ノ副帝ヲ置キ「シーザー」ト號シ、帝國ヲ四分シテ之ヲ治ム、伊太利、亞非利加及其近傍ノ郡縣ハ「おがすたす」まきしあんと之ヲ治メ、みらんニ住シ、こーる、西班牙、ふりてんハ「しーざー」ト稱シ、あす之ヲ治メ、ませとにあ、希臘、小亞細亞、埃及ハだいかくりしあん、自之ヲ治メ、小亞細亞ノにこめであニ居リ大帝ト稱シ、全般ノ權力ヲ總攬セリ、いるりかむハ「しーざー」がりりあす之ヲ治ム、だいかくりしあん帝ノ末年屢々命ヲ

下シテ耶蘇教徒ヲ虐待セシガ、耶蘇教ハ却テ益々世上ニ傳播スルニ至レリ、

帝國ノ統一 西方ノ「しーざー」ト稱スルあすノ子ト稱スルたいん其位ヲ繼キ、他ノ「しーざー」及「おがすたす」ト争ヒ、紀元三百二十四年遂ニ西羅馬帝國ヲ統一シ、都ヲぼすばらす海峡ノびづんであひニ移シ、其規模ヲ擴張シテ新羅馬ト名ク、後世ノ所謂てんすたんでのいふる是ナリ、蓋てんすたんでのいん帝以前居テ移セシモノ救帝アリシト雖、未都ヲ舉ケテ之ヲ遷セシモノアルヲ聞カス、帝ノ都ヲ遷ス正ニ以テ羅馬ノ衰頹ニ赴キシヲ證スルニ足ル、又大帝ハ深ク耶蘇教ヲ信奉セシヲ以テ、是時ヨリ多神教ノ羅馬國ハ一變シテ耶蘇教ノ羅馬國トナレリ、こんすたんでのいんノ死後其子帝國ヲ分領セシカ、一タヒ一統シテ又東西二分レタリ、

帝國ノ兩分 羅馬全帝國ヲ統治セシ最後ノ帝ヲ東

帝すあどーしあす第一世トス、紀元三百九十五年すあどーしあす死シ、羅馬帝國ヲ東西ニ分チ、其子はのーりあすチシテ西部ヲ、あーげーでいあすチシテ東部ヲ領セシム、是ヨリ羅馬史ハ分レテ東羅馬帝國史、西羅馬帝國史トナル、東羅馬帝國史ハ中古史ニ涉レルモノナレハ、此編即古代史ニ於テハ重ニ西羅馬帝國ノ滅亡ニ至ルマテノ事ヲ記載セントス、

### 第三 民族ノ大移動及西羅馬帝國ノ滅亡

大移動ノ發端 是ヨリ既往ニ遡リ歐洲國民ニ非常ノ變動ヲ與ヘタル民族大移動ノ起リヲ説カントス、蓋一部ノ人民ノ他ニ移住ヲ企ツルハ大抵他族ノ人民ヨリ壓迫セラレ、ニ起ル、日耳曼(こーるまん或ハちゆうどんとイフ)諸種族ノ羅馬帝國內ニ移住スルニ至リシモ、亦はん(匈奴)民族ノ侵寇ヲ蒙リシニ因レリ、

はん人 はん人ハ支那西北邊ニ游牧セル蒙古種

世界誌

史紀

羅馬

帝政時代

民族ノ大移動及西羅馬帝國滅亡

(匈奴人ハ秦漢ヲ歴テ唐ニ至ルマデ屢々支那ニ侵寇セリ)ニシテ終ニ支那國民ノ爲ニ驅逐セラレ、其方向ヲ轉ジテ歐羅巴ニ侵入セリ、此人種ハ慍悍殘暴過クル所殺戮ヲ恣ニセザルハナク、中央亞細亞ヨリゾるガ河ヲ渡リあらん人ヲ降シ、勢破竹ノ如ク紀元三百七十五年東こすニ侵寇セリ、

こす人 當時日耳曼人種ハ四大民族ノ連合アリ、あれまん、ふらんく、さくそん、及こす是ナリ、而シテこす人最著ル、こす人ハ紀元三世紀ノ頃既ニばるてどく海ヨリ黒海ノ濱ニ蔓延シ、一大王國ヲ建テ、東こす西こすノ兩部ニ分レ宗教ハ多神教基督教共ニ行ハレタリ、東こす王へるまんりく(百十歳)はん人ヲ禦キ戰破レテ國遂ニ亡フ、はん人ハ更ニ進んで西こすヲ攻ム、西こす人或ハ降ルモノアレドモ、其大半ハ羅馬帝グスレんすニ依リ、だに、河ヲ渡リ帝國內ニ移住シ永ク其國境ヲ守ランコトヲ誓ヘリ、然レトモ羅馬ノ有司





基督教ノ如ク歐洲ノ人心ニ至大ノ變動ヲ與ヘシ者アラズ、故ニ茲ニ基督教ノ成立及弘布ノ状態ヲ略説セントス、

**基督教ノ興起**　ふいがすたす帝ノ時ハ羅馬帝國實ニ廣大ノ版圖ヲ有シ、而シテ其中ニ包含セル諸國民ノ宗教ハ區々ナリト雖、要スルニ皆多神教ニアラザルハナシ、而ルニ此際帝國ノ一隅ナルルビでいあ國ニ於テ一派ノ新教起レリ、其開祖ハ基督ト稱シ紀元前四年ニ生ル、唯一神教ヲ以テ世界ヲ風化シ、古來國民ノ迷信ヲ破覺セントセリ、羅馬人ハ初基督教ヲ以テ意ニ介スルニ足ラザルモノ、如ク思惟セシガ、何ゾ圖ラン羅馬帝國ノ大版圖ハ、適以テ基督教ノ廣布ヲ助グルニ足リ、數多ノ多神教ハ祇ニ以テ唯一神教ノ靈力ヲ示スノ砥石トナリ、他日全世界ノ人心ヲ一新スルニ至ラントハ、使徒ポール　基督ハてびりあす治世ノ十九年ニ異端國ヲ亂ルトナシ磔刑ニ處セラレタリ、然レドモ門

人能ク基督ノ遺志ヲ繼キ、道ヲ四方ニ弘ム、之ヲ使徒ト云フ、使徒中最著ル、モノヲせんと、ぼるゝるトス、ぼ

るハしりあゝあんでいあかいあ(當時既ニ基督ニ化シ基督教徒ノ名茲ニ始メテ起レリ)ヨリ小亞細亞、ませとにあ及希臘ヲ遍歴シ、行キ其教ヲ説キ數多ノ信者ヲ招集セリ、此時暴君にゝるゝ位ニ在リ基督教徒ヲ遇スルコト殘酷ナリ、ぼゝるモ亦羅馬ニ致サレ斬ニ處セラル、又にゝるゝハ羅馬府火セシトキ其罪ヲ基督教徒ニ歸シ盡ク之ヲ殺セリ、然レトモ爾後基督教ニ歸依スルモ益多シ、其虐刑ニ遭フモノ亦愈々多キニ至レリ、

**基督教禁壓ノ理由**　羅馬諸帝ハ多數ノ宗教ヲ包容シテ之ニ干渉スルコトナシ、然レドモ基督教ニ至リテハ羅馬從來ノ諸神ノミナラズ、其他ノ諸神ニ至ルマデ皆之ヲ斥ケテ邪神トナスヲ以テ、其教旨ニ歸スルモノ皆從來ノ教門ヲ脱セザルベカラズ、且其教徒ノ集會ハ常ニ夜ニアルヲ以テ政府ノ疑フ所トナル、此等ハ基

督教ノ國家ニ妨害アリト認メラレタル所以ニシテ、其禁制ハ宗教上ヨリモ寧ろ政略ニ基キテ起リシモノナリ、之ヲ以テ羅馬ノ舊法故俗ヲ維持セントスル所ノ諸帝ハ、皆汲々トシテ此新教ヲ撲滅センコトヲ勉メタリ、故ニとれじあん及えむ。ふりれりあすノ如キ賢君ノ出ヅル毎ニ基督教徒ハ毎ニ嚴刑ニ處セラル、又でゝいしあすぢりりあん帝ノ如キハ基督教ヲ以テ國ヲ危クスルモノトナシ屢々虐刑ヲ施セリ、然レドモ基督教徒ハ愈々歴セラレテ益々伸ヒ、愈々虐セラレテ益々奮ヒ、其志操ノ鞏固ナル、鼎鏝前ニ在ルモ少シモ屈セズ、是ニ於テ其教旨次第ニ擴布シ、將ニ世界ニ波及セントス、

**新舊兩教ノ大衝突**　基督教ノ勢力日ニ駁々トシテ増進セルヲ以テ、新舊兩教ノ間ニ激争ノ起ルハ早晚免ルベカラザルノ數ナリ、紀元四世紀ノ初ニ當リだいかくりしあんの時其婿がりりあすハ深ク基督教ヲ

疾ミ、帝ニ勸メテ教會ヲ破壊シ聖經ヲ焚キ基督教徒ノ官爵ヲ褫奪セシメ、而シテ基督教徒ヲ斬ニ處シ或ハ奴隸トナセリ、其後まきしあん、がりりあす相繼ギテ位ニ即キ、虐刑ヲ施スコト息マズ、殊ニがりりあすノ如キハ八年間種々ノ刑罰ヲ以テ基督教徒ヲ苦メシガ、教徒ノ勢力少シモ衰ヘザリシカバ、終ニ紀元三百一十一年ニ至リテ基督教ノ信仰ヲ許セリ、

**基督教ノ勝利**　紀元三百二十四年こんすたんたいん帝羅馬帝國ヲ統一スルニ及ビテ、基督教ヲ以テ國教トナセリ、初こんすたんたいんノ父こんすたんていあすハ基督教ヲ信セシヲ以テこんすたんたいんモ亦其薰陶ヲ受シガ、其父ノ死スルニ及ビ軍卒ノ推ス所トナリ、數多ノ帝位競争者ト戦ヒテ之ニ捷チシヨリ、遂ニ深ク基督教ヲ信奉スルニ至レリ、傳説ニ據レハ此戰ニこんすたんたいんハ十字形ノ示現ニ依リテ勝ヲ制セシヲ以テ斷然躬、基督教徒トナルニ至レリト、而シテこん

すたんだいん帝ハ僧侶ニ種々ノ特權ヲ與ヘ大ニ教會ノ制度ヲ改革セリ、紀元三百六十一年じりあん帝位ニ登リ多神教ヲ恢復セントセシガ、當時多神教ハ已ニ傾頽シ、基督教徒國內ニ充塞セルヲ以テ、其功遂ニ遂グザリキ、すあおとーしあす帝位ニ即クニ及ヒテ多神教ヲ奉スルモノヲ嚴刑ニ處セリ、是ニ於テ多神教全ク跡ヲ羅馬帝國内ニ絶チ、基督教ノ神學者續々輩出シ、希臘語及羅句語ヲ以テ宗教上ノ書ヲ著シ種々ノ學派ヲ生スルニ至レリ、

### 第六章 羅馬ノ開化

總説 羅馬人ハじりあんノ宗教ヲ以テ著レ、希臘人ノ智力ヲ以テ著レタルガ如ク、亦強大ナル征服人民トシテ古代歴史上ニ著レタリ、蓋羅馬人ノ其國家ヲ強大富盛ニ致サントノ精神ニ富メルコトハ、他ノ古代人民ノ企テ及フ所ニアラズ、是ヲ以テ羅馬人ハ獨能ク葺爾タル一水國ヨリ起リ、次第ニ世界統轄ノ基礎ヲ開キ、

立法、行政及司法ノ道ヲシテ完全ノ域ニ達セシメタリ、然レトモ高尚ナル精神上ノ發達ハ甚遅々タリキ、是羅馬人ノ日常近易ノ事ヲ重シタルト、其教育ノ重ニ貴族ニ止リ一般人民ニ行ハレザリシトニヨルナリ、降りテ下伊太利及希臘ノ征服ト共ニ希臘ノ詩人學士等隨テ接シテ羅馬ニ移住スルニ及ヒテ、羅馬ノ技藝及學術漸ク其端ヲ開キ、おーがすたす帝ノ世ニ至リテ隆盛ヲ極メタリ、然レトモ羅馬ノ技藝ハ實用上ニ於テ勝ヲ制シ、高尚美麗ノ點ニ至リテハ到底希臘ノ後ニ隨若タルヲ免レサリキ、

### 第一 宗教

概説 羅馬人ハ希臘人ノ如ク自然力ヲ神トシテ崇拜セリ然レ共希臘人ノ神ト稱セシ所ノ者ハ愛憎等ノ情ヲ具シテ其性甚人間ニ近キモノナリシガ、羅馬人ノ神トシテ禮拜セシ所ノモノハ嚴乎タル無形體ニシテ冥々ノ裡ニアリテ人事ヲ支配スルモノナリ、而シテ之ニ祈禱

シ誓願シ犧牲ヲ供シテ以テ應護ヲ得且罪障ヲ消滅センコトヲ求ム、若之ヲ怠ルトキハ神罰立ロニ至ルトナセリ、故ニ羅馬人ノ神ニ對スル觀念ハ全ク恐怖ニ傾キ希臘人ノ如キ愛情ヲ有セズ、而シテ其宗教ハ他邦ヨリ移傳セシモノ多シ、始偶像崇拜教ヲおとらすかん人ヨリ取り、次テ多神教ヲ希臘ヨリ移セシガ如キ是ナリ、而シテ其教義モ亦往々東洋諸國ヨリ移セシモノアリ、然レトモ上流社會ニ於テハ、學術殊ニ哲學ノ進歩ト共ニ稍高尚ノ觀念ヲ有スルニ至リシガ如シ、

### 僧官

羅馬人ハ公私ノ事件苟神慮ニ協ハサレバ之ヲ行ハズ、故ニ數多ノ神官即國家ノ僧侶アリテ神慮ヲ伺察スルコトヲ掌ル、而シテ其最高ノ地位ニアルモノヲ「ぼんて」官トナス、國家ノ宗教ヲ監督シ又年曆ヲ制定ス、「おーぎる」官ハト占ノ事ヲ掌リ、或ハ天象ノ光景ヲ察シ、或ハ小鳥ノ鳴聲飛揚ヲ考ヘ、以テ神慮ヲ窺知シテ吉凶禍福ヲ判定ス、故ニ其權力甚重シ、又「は

らすびす」ト稱スル神アリ、「おーぎる」官ト共ニ自然ノ現象ヲ觀察シ、或ハ犧牲ノ内臟ヲ視察シ以テ吉凶ヲトスルコトヲ掌ル、「おまてえーる」官ハ外國人民ニ對スル國教ノ保護者ニシテ、宣戰講和ノ式ヲ行フコトヲ掌ル、「おれーめん」ハ普通ノ僧侶ニシテ諸神禮拜ノ事務ヲ掌レリ、

### 諸神

羅馬人ノ信仰スル諸神ハ大抵希臘ト同シ、唯其名ヲ異ニセルノミ、「じびたー」ハ人民守護ノ神ニシテ國家ノ首神ナリ、女神「じのー」之ニ配ス、「おぼるろー」ハト占及技藝ノ神ナリ、「だいあな」ハ狩獵及射術ノ神ナリ、「まーるす」(男神)及「べるろーな」(女神)ハ戰爭守護ノ神ナリ「じえなす」ハ萬物元始ノ神ニシテ、平時ハ常ニ其堂門ヲ閉チ變亂ノ時之ヲ開ク、而シテ羅馬人ノ殊ニ尊崇セシ所ノモノヲ女神「ジュすた」ト稱ス、火神ニシテ上下一般之ヲ祭レリ、「ジュすた」ノ神殿ハ終年火ヲ燃シテ絶ユルコトナシ、火ヲ守ルモノヲ「ジュす

たる「ト稱シ、妙齡ノ女子六人ヲ選テ之ニ充ツ、「れー  
りーす」及「べねーてーす」ハ家族ノ保護神ニシテ各戸  
之ヲ祭ル、其他諸神ノ數甚多シトイヘトモ、大抵希臘  
ト相似タルモノナリ、

**祭儀** 羅馬ニ於テモ亦希臘ノ如ク宗教ニ隨伴セル競  
技アリ、重ナル諸神ハ皆一定ノ期日アリテ祭祀ヲ執行  
ス、其中殊ニ有名ナルチ「さたーなりあ」ノ神祭トス、  
此時ニ當リテハ國人擧テ之ニ與リ、學校ハ閉鎖セラレ、  
議會ハ延引セラレ、戰爭ハ中止セラレ、奴隸モ猶通常  
人ト共ニ娛樂スルコトヲ得、然レトモ羅馬ニアリテハ  
希臘ノ如キ體操及音樂ノ競技ヲ見ス、演劇ノ如キモ甚  
之ヲ喜ハス、其最愛好セシ所ノモノハ格闘及闘獸是ナ  
リ、是蓋羅馬人尙武ノ餘ニ出テ、以テ神明ノ意ヲ慰セ  
ントセシモノナリシカ、其殘酷非道ナルハ全ク宗教上  
ノ主意ニ反レリ、

### 第二 軍制

タリ、史家ギボンノ算スル所ニ據レバ、ヘーとあん帝  
ノ時陸軍ハ凡三七萬五千人アリテ、海軍ヲ合セ凡四  
十五萬人以上ノ兵士アリシト云フ、羅馬古代ニ於テハ  
民兵ハ皆無給ニシテ其費用ハ自辨タリ、是兵役ハ國民  
普通ノ義務トナセバナリ、而シテ敵地ヲ侵略シタル時  
ハ其配與ヲ得テ以テ賠償ニ充ツ、紀元前四百六年以來  
始メテ兵士ニ僅少ノ賃金ヲ支給セリト云フ、

**交戦法及兵器** 羅馬ノ歩兵ハ戰時ニ當リテ通常四  
種ノ隊列アリ(一)「ゲリテーす」或ハ輕裝隊ト云ヒ軍  
ノ先驅ヲナシ、(二)「はすたてい」、ト云ヒ戰陣ノ第一列  
ヲナシ、(三)「ぶりんしびーす」ト云ヒ第二列トナシ、  
(四)「どらいぬーりあい」ト云ヒ第三列ヲナス、羅馬人  
固有ノ兵器ハ「びらむ」ト稱シ重キ尖鐵ヨリ成レル鎗ニ  
シテ、長サ六呎、重十「ぼん」と或ハ十一「ぼん」とアリ、  
其戰ヲ開クニ當リテハ此鎗ヲ十步乃至十五步ノ距離  
ヨリ抛チ、而シテ後歩兵ハ急進シテ其堅銳ナル短劍ヲ

**概説** 既ニ政治ノ大體ヲ略叙セリ是ヨリ當時ノ世界  
ヲ震動セシ羅馬ノ軍制ヲ略叙セン、兵役ハ羅馬人ノ最  
緊要且名譽トスル所ニシテ、其勇敢義俠すばれた人ト  
相似タリ、然レトモ羅馬人ノ位置ハ遙ニ之ニ超越セリ、  
蓋すばれた人ハ軍事ヲ以テ專一ノ職業トナシ、農業ノ  
如キハ一ニ之ヲ奴隸ノ手ニ放任セシカ、羅馬人ハ之ニ  
反シ出デテハ勇敢ナル兵士トナリ、入りテハ順良ナル  
農民タリシナリ、

**隊伍ノ編成** 羅馬府民ハ十七歳ヨリ四十六歳ニ至  
ルマテ服役ノ義務ヲ有シ、而シテ少クトモ十回ノ軍役  
ヲ經シ者ニアラサレバ公官ニ就クコトヲ得ズ、後世常  
備軍ヲ置クニ及ヒテモ、其兵士ノ暇アルトキハ溝渠道  
路等ヲ修築セシメ、敢テ時間ヲ徒費スルコトナカシ  
ム、羅馬軍隊ノ組織ハ數多ノ聯隊ヨリ成リ、一聯隊ハ  
三千人乃至六千人ヨリ成立ス、而シテ一聯隊ハ「こぼ  
ると」「こびにー」及「せんでりー」ニ小別セラレ

以テ打撃スルナリ、「ゲリテーす」ハ先其投鎗ヲ以テ  
戰ヲ始メ、而シテ後軍ノ列後ニ退キ、「はすたてい」、  
「ぶりんしびーす」及「どらいぬーりあい」更ニ進撃ス、  
若戰敗ル、トキハ他ノ軍列ノ後ニ退キ新ニ隊伍ヲ編制  
ス、羅馬人ハ最攻城ノ術ニ長シ、其用フル所ノ重ナル  
武器ハ大弩、投石車、衝壁車、及可動塔ナリ、可動塔ハ  
敵ノ城壁ニ押進シテ之ヲ俯攻スルニ供ス、

### 第三 文學

**概説** 羅馬人ハ本、實際的人民ナルヲ以テ、文學ノ如  
キハ甚粗野ナリシガ、希臘植民地征服ヨリ漸ク希臘開  
化ノ刺激ヲ受ケ、希臘大陸征服ノ後ニ至リテ、始メテ  
文化ノ域ニ入レリ、蓋羅馬人ハ武力ヲ以テ希臘人ヲ征  
服シ、希臘人ハ智力ヲ以テ羅馬人ヲ服從セシモノト云  
フベシ、故ニ羅馬ノ文學ハ希臘ノ文學ニ超乘スル能ハ  
ズト雖、亦全ク之ト頡頏スルモノナキニアラザルナ  
リ、



ノ大家多ク出テタリ、しせろーは羅甸散文體ノ木鐸者ニシテ、其哲學及修辭(演說)ノ著作ハ希臘人ニ摸倣セリト雖トモ、亦能ク一機軸ヲ出シ、羅馬ノ言語風習ニ適合セシメ、演說書牘ノ類後世ニ至ル迄大ニ尊重セラ

ル、殊ニかてりんニ對スル四回ノ演說ノ如キハ最もすまに「すのふりびく」ニ比シテ蓋ル色ナシ、夫英傑しーざーノ如キモ亦「こゝる戰記」及「内亂記」ヲ著シ以テ己ノ事業ヲ正確ニ記述セリ、其文平易明瞭、談話ノ體ヲ用ヒタリ、

さるらすと、りづー出ツルニ及ヒテ、羅馬ノ史筆大ニ光耀ヲ發テリ、さるらすとハしーざーノ一友ニシテ其大著「内亂時代記」ハ既ニ亡逸シ「かてりん反逆記」及「じがーす戰爭記」ノ二篇ヲ存セリ、議論勁拔、叙事活動、人之ヲしーしでゝすニ比ス、りづーハおーがすたす帝ノ世ニ出テ羅馬史百四十二卷ヲ著セリ、今ニ存スルモノ僅ニ三十五卷ノミ、文章

表世ノ一蹊人タルコトヲ寫セリ、筆力飛動、餘音鈞鏘後世史家ノ儀表タリ、此頃又くいんくてりあんアリ、修辭學ノ大家ニシテ「能辯指針十二卷」ヲ著シ、以テ修辭學ノ智識及勢力ヲ論セリ、

能辯術 共和政體ノ發達ト共ニ能辯術モ亦進歩シ、「せんそる」けとーノ如キモノ出デシガ、希臘文學ノ傳來スルニ及ヒテ其術益進ミ、共和ノ末年ニ至リテハ、政治家學者ノ雄辯ヲ以テ鳴ルモノ甚多シ、就中ほーてんしあす(紀元前一世紀ノ初)しせろー最著ル、ほーてんしあすハ能辯ノ大家ナリシガ、しせろーノ盛ナルニ及ヒテ其壓倒スル所トナレリ、しせろーハ深ク希臘ノ能辯術ニ得ル所アリ、其深達ノ學識ト愛國ノ熱心トニヨリ、遂ニ羅馬絶倫ノ雄辯家トナレリ、

第四 哲學

哲學上ノ思辯ハ羅馬人ノ短ナル所ナリ、紀元前二世紀

世界誌 史紀 羅馬 羅馬ノ開化 哲學 法學 技藝

又流暢ニシテ趣味ニ富メリ、其意蓋羅馬人ヲシテ往古ノ美風ヲ追憶シ、道德敗壞ノ現社會ニ興起セシメントスルニアルナリ、

當時希臘ノ史家でいゝらすだいにしあすアリト雖、終ニ羅馬史家ノ後ニ瞻若タルヲ免レス、只すどれぼーアリテ古代ノ地理、人種、歴史ヲ記述シ、吾人ヲシテ希臘人思索力ノ餘光ヲ仰カシムルニ足ルモノアリ、おーがすたす帝以後ニ至リテ、散文ニ名アルモノヲせねか、兩ふりにー及たしたすトス、せねかハにーろー帝ノ師ニシテ哲學、道德、博物及書牘ノ著甚多ク、又諷刺ヲ能クセリ、老ふりにーハ博物史二十七卷ヲ著シ、文章甚變化ニ富メリ、少ふりにーハ書牘文ニ長セリ、たしたすハ歴史ノ大家ニシテ「羅馬史」、「日耳曼記」年代記」及「あぐりこら傳」(あぐりこらハふりてんノ征服者)ノ傳ヲ著セリ、「日耳曼記」ニ於テハ日耳曼人種ノ性質風習ヲ叙シ、「あぐりこら傳」ニ於テハ筆ヲ極メテ

ノ頃いびきりあん派ノ哲學者一時羅馬ヨリ放逐セラレ、すといく派ノ哲學廣ク有識者ノ間ニ行ハル、ニ至レリ、蓋此學派ハ羅馬人ノ性情ニ最能ク適合セルヲ以テナリ、しせろーハ羅馬學者中最勢力アリ、然レドモ自一家ノ說ヲ立テズ、希臘諸家ノ說ヲ參酌シ、之レヲ拆クニすといく派ノ哲學ヲ以テシ、而シテ之ヲ國家個人ノ上ニ運用セントセリ、哲學上ノ著書甚多シ、其後せねかアリ神學上ノ哲學ヲ說ケリ、之ニ反シテ一種ノ自然哲學起リ、自然ヲ以テ世界ヲ管理スル所ノ勢力トナセリ、老ふりにーハいびきりあん學派ヲ尊信シ、亦自然哲學者ノ一人ナリト雖、萬物一體說ヲ唱へ、神ハ萬物ノ創造者ニシテ亦萬物ト一體ナリト說ケリ、

第五 法學

羅馬ノ學術ハ一新機軸ヲ出スモノナク、他國民ノ發見創說ヲ融化混用スルニ過キズトイヘドモ、特リ法學ニ至リテハ數百年ノ間、當代ノ開化人民ヲ風靡セシノミ

ナラス、今日に至リテモ尚法學者ノ金科玉條トシテ尊重スル所タリ、抑羅馬法律ノ淵源ハ其由テ來ル甚久シク、十二銅表ノ制作アリテヨリ法典漸々完具セリ、爾來學者多年ノ間數多ノ法規命令ニ基キ、正理公道ニ參シテ、終ニ普遍ノ系統ヲ組織シ、法律ハ一科ノ學術トナレリ、おゝがすたす帝ノ時代ニ當リ、二個ノ法律學派アリ、

(一) ナサビにあん派(或ハカサシあん派ト云フ)ト云ヒ、其首領ハカビドニシテ門人ニびなす及カサシあすヨリ其名ヲ得タリ、

(二) ナぶろき、一りあん派ト云フぶろき、其首領タリ、甲派ハ歴史的及實際的ノ法律ヲ確守シ、乙派ハ合理的ニシテ成文律ヨリハ寧ろ法律ノ精神ヲ主トセリ、

帝政時代ノ一二世紀ニ至リ、法學ハ非常ノ發達ヲナシ、學者ノ研究日ニ益精密ニ赴ケリ、殊ニヘーゼリあん帝

ヨリあれきさんだ、セふらす帝ニ至ル百年間ハ法學ノ最隆盛ナル時代トナス、羅馬法ノ大部分ハ此時代ニ成就セリ、けいあす、びびにあん、うるびあん及ぼーらすハ最有名ナル法學者ニシテ至大ノ影響ヲ羅馬法學ノ上ニ及セリ、紀元六世紀ニ至リてあん帝ノ世に至リ、數多ノ學者ヲ集メ羅馬法典ヲ大集シテ後世ニ貽セリ、

### 第六 技藝

概説 希臘ノ技藝ハ其人民内部ノ性情ヨリ起リ、羅馬ノ技藝ハ之ニ反シ奢侈或ハ必要ヨリ起ル、故ニ羅馬技藝ニハ精緻幽妙ノモノ少ク、宏壯華麗ノモノ多シ、而シテ技藝中ニ在リテ羅馬人ノ最長シタリシモノヲ建築術トナス、

建築術 羅馬ノ建築術ハ何と云ふか人ヨリ學ヒ、而シテ其器械的ノ智識ト希臘美妙ノ觀念トヲ調和セリ即穹形建築ハ之ヲ何と云ふか人ニ取リ、圓柱ノ構造ハ

希臘ニ取リシナリ、蓋羅馬建築術ノ長所ハ穹形ノ構造ニ在リテ、宮殿、公館、劇場、橋梁、水道皆之ヲ以テ構造シ、其規模ノ宏壯ナル自羅馬人ノ氣風ヲ表暴セリ宏大ナル宮殿ハ多クおゝがすたす帝以後ノ建築ニ係リばんせのん神殿にーろノ宮殿ノ如キハ宏壯華麗ヲ極ム、又夫さーかすまきします、競技場ノ如キハ、羅馬府中建築ノ壯大ナルモノニシテ、三十八萬餘人ヲ容ル、ニ足ル、又ころすせあむ、圓劇場ハふれがあん帝ノ建ル所ニシテ、構造堅密八萬乃至十萬ノ觀客ヲ容ルベシ、遺趾今ニ存ス、一見羅馬帝政ノ盛時ヲ回想セシムルニ足ル、

其他軍道、橋梁、溝渠及港灣等ノ實際的建築ハ大ニ羅馬人ノ天才ヲ發揚セリ、希臘人ハ道路ヲ修築スルコト少カリシガ、羅馬人ハ數多ノ軍道ヲ開通シ、首府ヲ中心トナシ四方ノ郡縣ヲ聯絡シ、山僻海陬達セサル所ナシ、其之ヲ開拓スルヤ、山ニ隧シ河ニ橋シ谷ヲ埋メ沼ヲ平

ニシ、全力ヲ盡シテ完成セザレハ已マズ、而シテ主ナル軍道ノ傍ニハ堂塔、凱旋門及紀念碑等ヲ設立セリ、羅馬ノ橋梁ハ古代ノ建築中最有名ニシテ、各地方ノ大河ニ架スルニ廣大ナル穹形ノ石橋ヲ以テセシガ如キハ、希臘人ノ夢想スル能ハザル所ナリ、此等ハ今尙舊羅馬帝國ノ各所ニ存在セリ、就中最珍奇ナルハぼんすいーりあす(今ハ之ヲせんぞ、あんぢまる橋ト稱ス)トナス、たいばー河ニ架スル所ニシテ、ヘーゼリあん帝ノ建築ニ係ル、溝渠ノ構造ハ更ニ奇異ニシテ、數里ノ外ヨリ管ヲ以テ清水ヲ導キ之ヲ府内ニ傳達ス、而シテ其管ヲ支持スル所ノ穹形、低地ニ在リテハ或ハ一百尺ノ高キニ及フモノアリ、

羅馬人ハ又港灣ノ築造ニ力ヲ用ヒ、天然ノ障礙ヲ除去センコトヲ勉ム、灣頭ノ陷落セル所ハ堤壁ヲ築キ之ヲ補ヒ、風浪ノ激シキ處ハ島嶼ヲ築キテ之ヲ保障セリ、其他凱旋門、浴場等ノ建築亦盛ナリ、凱旋門ハ都府ノ

入口若クハ軍道橋梁ニ横ハリテ建立シ、帝王大將ノ戰勝或ハ非常ナル事件ノ紀念ト爲セリ、浴場ハ構造頗ル廣大ニシテ華美ヲ極メ、かゝらかるら浴場ハ千六百ノ室ヲ有シ、高貴ノ大理石ヲ以テ裝飾シ而シテ繪畫彫刻ヲ以テ粉飾セル圖書館、博物院等ヲ設ケタリ、

其他ノ技藝

繪畫、彫刻及其他ノ工藝ハ初めよりすかん人ヨリ學ビ、次ニ希臘人ヨリ傳習セリ、然レトモ羅馬人ノ製作ニ在リテハ別ニ觀ルベキモノナシ、其羅馬府ヲ飾ル所ノモノハ多ク諸外國殊ニ希臘ヨリ掠奪セシモノナリ、

第七 社會ノ狀態

概説 羅馬ノ政治上及社會上ノ組織ハ階級希臘ニ似タル所アリ、而シテ其社會内部ノ狀態モ、亦希臘ノ如ク外部ヲ發達セルニ似ス、頗ル環珞ヲ存セリ、蓋羅馬人ノ實際的精神ハ常ニ多數ノ利益ヲ計ラントスルニア

レトモ、國民平等ノ思想ハ甚進歩セズ、彼社會上ニ種々ノ階級區別ヲ建テシガ如キハ、其最甚シキモノナリ、其他奴隸ノ待遇、格闘ノ狀態ノ如キニ至リテハ、殘酷云フニ忍ビサルモノアリ、羅馬人ノ所謂野蠻トイヘル語ハ移シテ以テ羅馬人ヲ評スルヲ得ベシ、

社會ノ組織

羅馬社會ノ組織ニ就キテハ、既述セシ所ナレトモ、今便宜ノ爲ニ其關係及變遷ノ大體ヲ略叙スベシ、古代羅馬ニアリテハ、ばどりしあんとぶれグ、あんとノ二大階級アリ、政治ノ大權ハ常ニばどりしあんとノ手ニ掌握セシガ、終ニ二百年間爭鬭ノ後純然タル共和政治トナリ、兩者ノ區別ハ融化混一セリ、是ニ於テカ一轉シテ市民ト伊太利同盟市民トノ間ニ畛域ヲ生シ、再轉シテ伊太利ト郡縣トノ間ニ一大溝域ヲ生セリ、而シテ郡縣ノ中又西洋(こゝる、西班牙)ト東洋(希臘、小亞細亞、しりあ、じでいあ、埃及等)遞次差等アリトノ懸隔アリ、此等社會制度ノ變遷ハ共和時代ヨ

スルニ至レリ、

教育 紀元前五世紀ノ頃夙ニ小學校ノ設立アリ、兒

女ハ此ニ入りテ讀書、算術、習字、音樂ヲ學ビ、且國法ノ學亦注意セラレ、常ニ十二銅表ヲ反覆誦記セリ、後希臘語ノ一般ニ流行スルニ及ヒテ高等學校設立セラレ、希臘及羅甸文學ノ講究盛ニ起リ、修辭能辯ノ術大ニ研究セラル、是ニ於テ十二三歳ノ兒童ニシテ公開演說ヲ爲スモノアルニ至レリ、而シテ兒童ハ十七歳ニ至レバ成丁ノ資格ヲ具ヘ、羅馬公民ノ籍ニ入レリ、

奴隸制 羅馬ニ於テモ亦希臘ト同シク奴隸制アリ、

自由民ト奴隸トハ亦羅馬社會ノ一大區別ニシテ、其文明ヲ汚辱セシコト幾何ナルヲ知ラズ、社會ノ制度ハ屢改善セラレシモ、奴隸ハ一モ此恩惠ニ浴スルヲ得ス、法律ハ奴隸ヲ以テ國家ノ物件或ハ財産ト見做シ、生殺與奪一ニ主人ノ手ニ在リ、而シテ奴隸虐待ノ禁令ハ今日歐洲諸國ニ於ケル牛馬虐待ノ禁令ヨリモ猶劣リタル

リ帝政時代ニ涉リ、而シテ帝政時代ノ中葉ニ至リテハ

諸種ノ區別全ク消滅ニ歸セリ、然レトモ尙羅馬人ト外

國人トノ間ニ陰然區別アリテ、外國人トイヘル語ハ即

仇敵ト同義ニ用ヒラレ、而シテ希臘人ヲ除クノ外ハ悉

ク野蠻人ヲ以テ遇視セラレ、兩間ノ婚姻ヲ禁セラレタ

リ、

家族生活ノ狀態 羅馬ニ於テハ希臘ト同シク一夫

一妻主義行ハレ、妻ノ地位ハ稍高シト雖、百般ノ權力

ハ夫ノ手ニ在リ、夫ハ其意ニ從ヒ擅ニ妻ヲ去ルコトヲ

得ルトイヘトモ、婦ノ自離婚シ得ルハ甚稀ナリ、父權

ハ甚重ク、子ニ屬スル財産トイヘドモ恣ニ之ヲ剝奪ス

ルコトヲ得ルノミナラズ、子ノ生殺賣買ハ一ニ其權内

ニアリ、而シテ母タルモノハ毫モ之ニ關與スルコトヲ

得ス、然レトモ幼兒ノ教育ハ固ヨリ母ノ責任ニ屬セリ、

此習慣ハ世ノ開クルニ從ヒ、漸ク改善ニ趣キシト雖、

而モ尙俄ニ去リ難ク、遂ニ嚴酷ナル法律ヲ以テ之ヲ禁



ガ如シ、奴隸ヲ畜フニハ富ノ度ニヨリテ多少ノ差等アリト雖トモ、亦故ラニ一萬乃至二萬ノ奴隸ヲ畜ヒ其豪奢ヲ術フコトアリ、而シテ奴隸ハ盡ク賤役ヲ執ルモノ、ミニアラズシテ、書記、彫刻者、工匠等ノ如キモアリ、市府ニ於ケル奴隸ハ稍寛待ヲ得ルモノアリテ、自金錢ヲ貯蓄シテ自由ヲ買ヒ、或ハ恩典トシテ之ヲ授與セラル、コトアリ、然レドモ農家ニ使役セラル、奴隸ハ殘忍酷虐ノ待遇ヲ受ケ、晝ハ腰間ニ鐵鎖ヲ繫カレ、夜ハ地倉ニ幽閉セラレ恰モ極惡ノ大罪囚タルノ觀アリ、帝政ノ末ニ至リテハ、其待遇ノ狀稍寛トナリシガ如シ、

**遊戲** 羅馬ニハ宗教ノ祭儀ト共ニ諸種ノ遊戲アリ、然レレ後世ニ至リ其遊戲ハ變シテ殘忍暴戻トナリ、全ク宗教上ノ性質ヲ失ヘリ、彼格闘、鬪獸ノ如キハ其最甚シキモノナリ、蓋共和ノ末政ニ當リ政權ヲ獨占セントスル英雄等ハ、羅馬人ノ嗜好ニ投シ、之ヲ以テ民心ヲ籠

絡セントセリ、故ニ帝政時代ニ至リテモ亦人民ノ自由ヲ憶フノ念ヲ轉セシメントシ、金錢及性命ヲモ惜マヌシテ益之ヲ擴張スルコトヲ勉メタリ、此等ノ遊戲ト穀物分配ノ制トハ、帝王ノ其位ヲ鞏ムル第一手段タリシナリ、此遊戲ハ貴賤一般ニ歡迎スル所ニシテ、史家ヲしたすハ此惡事ヲ以テ羅馬人カ母ノ胎内ヨリ傳受シ來レルモノト云フニ至レリ、遊戲ハ朝ヨリ暮ニ至リ、一年間百數十日ヲ費スコトアリ、さうかす圓劇場ニ於テハ競車、競馬等アリ、顯要ノ政治家黨ヲ分チテ之ヲ行フあむふすあどるニ於テハ格闘鬪獸アリ、格闘ハ多ク罪人、捕虜、奴隸等ヨリ成リ、又無賴ノ壯年之ニ加ハルコトアリ、劍ヲ把リテ相撃チ、一方ノモノ傷チ負ヒ戰フ能ハサルニ至リテ止ム、鬪獸ハ遠國ヨリ數多ノ猛獸ヲ輸入シ人ヲシテ之ト鬪ハシム、しーざーノ時四百ノ獅子ト四十ノ象トヲ集メシコトアリ、又たいたす帝ノ時九千ノ野獸ヲ殺セシコトアリト云フ、其殘酷ナ

リシコト亦以テ想見スヘシ、此等ノ争鬪ヲ爲スニハ、皆豫メ學校ヲ設ケテ平常其技ヲ練習セシム、其他又水上ノ格闘ト稱スルモノアリ、此等ハ羅馬人ノ狂奔熱中スル所ナレトモ、演劇ニ至リテハ之ヲ顧ミルモノ少ク間、喜劇演劇ノ一採ヲ博スルアルノミ、

**産業** 農業ハ羅馬人ノ最重セン所ニシテ、諸外國ヲ征服シ數多ノ穀種ヲ得、之ヲこゝる西班牙及らいん地方ニマテ播種セリ、然レトモ後世ニ至リテハ、略奪セラル諸郡縣ヨリ數多ノ穀物ヲ輸入セシヲ以テ、伊太利ノ農業ハ漸々衰頽ニ趣キ、耕作ハ全ク奴隸ノ手ニ歸スルニ至レリ、工業ハ太古ヨリシテ一般ニ輕蔑セラレ、此業ヲ執ルモノハ何レノ官職ニモ就クコトヲ得ス、其日常缺クヘカヲサルモノハ奴隸或ハ奴隸ノ自由ヲ得タルモノヲシテ製造セシム、商業モ亦工業ト同シク輕蔑セラレタリシカ、あんどないあす帝以後數世ハ大ニ貿易ヲ獎勵シ、西印度地方ト交通セリ、又あんどないあす

ハ支那(後漢ノ桓帝ノ時ナリシト云フ)ニ使節ヲ送り交通ヲ求メシコトアリ、

### 第二編 中世

#### 總論

**概説** 中世史ノ西羅馬帝國ノ滅亡(紀元四百七十六年自今千四百二十一年前)ヨリこんすたんでのいふるノ略奪(紀元千四百五十二年自今千四百四十四年前)ニ至ルマテ殆一千年間ニ亘レリ、此間ノ重要ナル紀事ハ北方蠻夷ノ移住、さらせん人ノ興起、からんく帝國ノ建立、近世國民ノ興起、十字軍、百年戰爭及亞細亞人民ノ勃興トナス、

此世紀ヲ組成スル所ノ要因三アリ、曰ク野蠻人ノ元素、曰ク羅馬人ノ元素、(政治法律及上古ノ技藝文學ノ遺存者トシテ)曰ク基督教徒ノ元素是ナリ、而シテ文學技藝ノ衰頽、封建制度即貴族政治ノ興隆及羅馬法王權ノ

振張ハ、此世紀ニ於ケル一般ノ特徴トシテ見ルベキモノナリ、

要スルニ中世史ノ前六世紀ハ所謂暗黒時代ニシテ、羅馬文明ノ赫灼タル白日ニ繼クニ長夜ノ暗光ヲ以テセリ、後ノ四世紀ハ雲霧模糊ノ間、既ニ近世史ノ曙光ヲ含ムヲ見ル、此時ニ當リテハ、漂泊ノ民族モ已ニ定住ノ國民トナリ、制度文物漸ク其舊觀ニ復セントセリ、而シテ、上古文明ノ歴史ハ當時最權勢アル一大國民ノ歴史ニ過ギサリシガ、自今而後ハ文明ノ中心單ニ一處ニ限ラスシテ廣ク各處ニ敢在スルニ至レリ、

### 東洋諸國ノ新人種

古代東洋諸國民ハ一時隆盛ヲ極メシ後、閉トシテ久シク閉ク所ナカリシガ、中世紀ニ至リテ亞刺比亞人大ニ勃興シ、歐洲ノ文化ニ裨益ヲ與ヘタリ、又蒙古人及土耳其人ノ隆興スルニ及ヒテ一時全世界ヲ震動セシメタリ、是東洋人種ノ中世界史上ニ及ホセル一大活劇ナリトス

ナリ、こゝる及西班牙ノせると人ハ西羅馬帝國滅亡以前既ニ羅馬ノ風俗ニ化セリ、すらぐあんにあんなノ歴史上ニ重要ノ運動ヲ爲セルハ、中世紀ノ中葉以後ニアリ、波蘭人露西亞人其最主ナル人民トナス、而シテ中世史ニ最重要ノ關係ヲ有セルモノハていどん人種即日耳曼人種ニシテ其始テ史壇ニ現ハレタルハ西羅馬帝國滅亡ノ前後ニアリ、

### 日耳曼人種

日耳曼人種中重要ノモノハていどん人、さらんく人、ゲルンだる人、ばーがんでいあ人、ろびばいど人、あんぐる人、さくそん人及すかんでいねーゲいあ人ナリ、此等ノ人民中西羅馬帝國ノ滅亡ニ關セル記事ハ既ニ上世ニ掲ケタリ、其以後ニ係ル建國ノ状態ハ之ヲ後誌ニ譲リ、此ニ其人種ノ性質風俗等ノ一般ヲ略説セントス、

### 其風俗習慣

古代日耳曼人ハ粗野ナリシト雖、身心共ニ強健快潤ナリ、體軀ハ長大ニシテ眼色綠碧人ヲ射

### 歐洲ノ新人種

歐羅巴ノ古代史ハ唯希臘人及羅甸人ノ歴史ニ止リシガ、中世紀ノ前後ヨリ其同族ナルせると、ていどん及さらんくにあんの三人種出顯セリ此等ノ人種ノ亞細亞ヨリ歐羅巴ニ移住セシハ歴史以前ニ在リテ、今日ヨリ其移住ノ前後ヲ詳カニスルコトヲ得ズ、

せると人種ハ初歐羅巴ノ中部ニ住居セシガ、後ていどん人種ノ爲ニ驅テレ、終ニ西部ハ歐羅巴ニ移住シ、而シテていどん人種ハ中部及東部歐羅巴ヲ占有セリ、後さらんくにあん人種ノ歐羅巴ニ現ハル、ニ及ヒテ、中部ヨリ北西歐羅巴ニ移リ、後さらんくにあん人種代リテ東部ノ大原ヲ掩有セリ、

此三人種中最先ニ羅馬人ニ接セシモノハせると人ナリ、しするあるはいんせいる人、とらんすあるはいんせいる人、せるとあいびりあん人(西班牙ノ)ハ皆せると人種ニシテよりてん諸島モ亦せると人ノ移住セシ所

ル、其特性トシテ見ルベキハ獨立ノ精神、自由ノ意思、家族ノ愛情、婦女ノ尊敬、朋友ノ信義、辯説ノ爽快、漂泊略奪ノ嗜好、飲酒遊戯ノ耽樂等ナリ、其住屋、衣服、食物ハ甚質素ニシテ、最武器ヲ愛好シ獵及戰爭ヲ以テ主要ノ職業トナシ、而シテ土地ノ耕耘及家内ノ處務ハ一切之ヲ婦女ニ委セリ、人民ハ自由ト奴隸ノ二階級ニ分レ、自由民ノ中ニ高貴(貴族)ノ者アリ、往時ノ軍功ニヨリテ久シク人民ノ指揮者トナレリ、然レトモ何等ノ特權ヲモ有セズ、奴隸ノ人民ハ多ク戰爭ニ於テ虜トナリタルモノ及其子孫ニシテ、主人ノ使役ニ供シ一ノ權力ヲモ有セズ、自由民ト奴隸トノ間ニ「りて」ト稱スル中間ノ階級アリテ自由民ノ土地ヲ耕セリ、而シテ接近セル數多ノ家族相集リテ一村ヲ成シ、數十ノ村落相集リテ一郡區ヲ成セリ、公共ノ事件ハ公議ヲ經テ之ヲ執行ス、一村ヲ長アリ一郡區ニハ伯アリテ之ヲ治ム、伯ハ最威望アリ且最經驗アル者ヲ撰ヒ

テ之ニ任ズ、戰時ニハ伯ノ最勇敢ナルモノヲ撰ヒテ大將即公ト爲ス、東方ニアル少數ノ種族ハ既ニ王アリシガ、其他ノ種族ニ於テハ後世ニ至リ始メテ之ヲ撰舉セリ、王ハ其種族中ノ最卓越セル家族ニ屬ス、大將(公)ノ撰ハレテ王トナルトキハ公及伯ノ權力ヲ有シ、萬般ノ事務ヲ執行スルコトヲ得ルナリ、

**日耳曼人種移住ノ結果** 日耳曼人即て、トドン人ノ伊太利、ゴース及西班牙等ニ移住スルヤ、漸次羅馬人ト混合シ、日耳曼羅馬兩語ノ混合ヨリ一種ノ羅句語ヲ生セリ、是所謂ゴースト語ニシテ伊太利語、西班牙語、佛蘭西語ハ之ヨリ進化セシモノナリ、然レトモ羅句語ハ猶數世紀間學者ノ間ニ行レタリ、且日耳曼人ハ羅馬ノ法律文物ヲ採用シ、漸次「かどりく」教ヲ信奉スルニ至リシガ、舊來ノ僧侶ハ尙其位置ヲ失ハズシテ勢力益加ハレリ之ニ反シテあんぐるさくそん人ハ日耳曼ニ在リシ時ヨリ羅馬人ト親密ノ關係ヲ有セザリシ

ヲ以テ、其よりてんヲ征服セシ後モ「ろーまんず」語及其宗教ヲ採用セシコトナシ、又純粹ノてーどん人ノ新國民即日耳曼及すかんでいねーが、あニ起レル國民ハ全ク羅句語ノ影響ヲ蒙ラスシテ、純然タル「てーどん」語ヲ用ヒタリ、日耳曼、荷蘭、瑞典、那威、丁抹、等ノ諸語是ナリ、すらづーにあん人種ハ固有ノ「すらづー」に「く」語ヲ使用セリ

### 第一章 ジャーレめーん帝以前ノ諸國

#### 第一 てーどん人種ノ新建國

**新王國** てーどん人種ノ羅馬滅亡ニ關セル記事ハ既ニ上世ニ之ヲ記述セリ、是ヨリ其新建國ノ狀態ヲ説クベシ、伊太利ヲ建ツルモノヲおすどろごす人、ろむばーど人トナシ、伊太利外ニ建ツルモノヲがしごす人、がんだる人、ばーがんでいあ人、ふらんく人、あんぐる人及さくそん人トナス、

#### をすどろごす王國

がしごすノ酋長おとあさ一ハ紀元四百七十六年西羅馬帝國ヲ滅シテヨリ十二年間伊太利ニ君臨セシガ、おすどろごす王すまおとーりく東羅馬帝づーのノ命ヲ受ケ、二十萬ノ大軍ヲ率キ婦幼家財ヲ携ヘテ伊太利ニ侵入シ(紀元四百八十九年)三回戰爭ノ後、終ニおとあさ一ヲ降シ後之ヲ殺セリ(紀元四百九十三年)、是ニ於テすまおとーりくハ東帝ヨリ伊太利王ヲ是認セラル、すまおとーりく英明ニシテ能ク國ヲ治メ、漸々疆土ヲ開拓シテ、北ハだに、一公河ヨリ南ハしりーノ南端ニ達シ、東ハいるりりかひヨリ西ハごーるノ東南部ヲ包有シ、がんだる人及ばーがんでいあ人ト平和ヲ訂盟セリ、すまおとーりく在位三十三年ノ間羅馬ノ法律制度ヲ循行シ、羅馬土民ノ農工商ヲ獎勵シ、又能ク學藝宗教ヲ保護セルヲ以ツテ、國內ノ繁榮寧謐ナルコト近代其比ヲ見サル所ナリ、すまおとーりくノ死後幾何ナラズ、東羅馬帝ヒヤ

すていあん、べりざりあす及な一せずノ兩將ヲ遣シ伊太利ニ入ル、二十年間戰爭ノ後終ニ亡ビ(紀元五百五十年)伊太利ハ復東羅馬ノ管治ニ歸セリ、**ろむばーど王國** おすどろごす王國滅亡ノ後、羅馬ノ大守な一せずハ十三年間伊太利ヲ管治セシガ、ひすていあんノ後嗣ト隙ヲ生シ、紀元五百六十八年ろむばーど人ヲ招キ伊太利ニ入ラシムろむばーど人ハ猛烈ナル日耳曼人種ニシテ、是ヨリ先づびでいー人ヲ滅シ、ばんのーにあヲ占領シ益其境土ヲ拓ケリ、酋長あるばいんノ時な一せずノ招キニ應シ伊太利ニ入り、今日ノろむばーでいーニ居リ、遂ニ伊太利ノ大半ヲ征服シ、而シテ王國ヲ建テばがしごすヲ以テ首府トナス、其後ろむばーど人ハ基督教ヲ奉シ伊太利ノ文明ヲ學ビ野蠻ノ陋習ヲ脱セリ、紀元七百七十四年でしでりあすノ時ジャーレめーん大帝ノ爲ニ并有セラル、**がしごす王國** がしごす人ハ上世ニ記シタルカ

如クすいぐい人及グなんだる人ヲ破リ、グしグす國ヲ  
 西班牙ニ建テタリ(四百十五年)、其後グしグす人ハ漸  
 ヲ其版圖ヲ擴メ西班牙ノ全部ヨリこゝるノ南東ヲ占領  
 セリ、さらせん人ノ興隆スルニ及ヒテ、亞非利加ヨリ  
 ぢぶらるたるノ海峽ヲ越エグしグすニ侵入セリ、グ  
 しグす王ノ一でりくハ之トヘれす、で、ら、ふるんて  
 一  
 らニ戰ヒテ敗北シ(七百十一年) 西班牙ノ全部殆之ガ  
 爲ニ零奪セテ、グしグすハ一部分ノミ獨立ヲ維持  
 スルニ至レリ、  
 ぐなんだる王國 紀元四百二十九年ぢめんせりく  
 ノ亞非利加北岸ニグなんだる國ヲ建設シ、而シテ羅馬  
 ニ侵入セシコトハ既ニ記セシ所ナリ、其ノ後グなんだ  
 る人ハ近海ノ諸島嶼ヲ攻奪シ久シク暴威ヲ地中海上ニ  
 振ヒシガ、ぢまりま一王ノ時東羅馬ノ將ベリさりあす  
 ノ爲ニ征服セラル、  
 ばーがんでいあ王國 ばーがんでいあ人ハ五世紀

ノ初ニ於テこゝるノ東南部ニ一王國ヲ建テシガ、漸々  
 領土ヲ擴メ其世紀ノ終ニ至リテハ上らいん地方ヨリ地  
 中海ニ達セリ、後からんく王國ノ起ルニ及ビテ其并有  
 スル所トナレリ、  
 ふうらんく王國 ふうらんく人ハ初下らいん河邊ニ住  
 居セシガ、西羅馬帝國ノ末造天下騷亂ノ時ニ際シ其境  
 土ヲ擴張シ、酋長くろグすニ至リからんく各族ヲ統一  
 シ、終ニからんく王國ノ基礎ヲ確立セリ、是近世佛蘭  
 西ノ濫觴ニシテくろグすハめろグなんぢあん家ノ始王  
 ナリ、四百八十六年くろグす、せーん及るあー兩河  
 邊ニアル羅馬ノ地ヲ零シ大守しあぐりあすヲ殺シ、そ  
 あそんヲ以テ首府トナシ後之ヲばりニ定ム(五百六年)  
 又らいん兩河邊ノあれまんに人ヲ滅シ其地ヲ并セ基督  
 教徒トナレリ、次でばーがんでいあ人ヲ征シグしグす  
 人ヲ驅逐セリ、ふうらんくノ勢力ハこゝるノ占領ト共ニ  
 益々擴張シ、東羅馬帝ハくろグすニ送ルニ「こんさる」

官ヲ以テスルニ至レリ、くろグす殂シテ其國ヲ別チ  
 四子ニ與ヘタリ、其後からんく領地ハ益大トナリシガ  
 内亂繼キ起リ版圖潰裂シ六百十三年ニ至りくろ一  
 あ二世一時之ヲ統一スルコトヲ得タリ然レトモ當時王  
 權ハ甚微弱トナリ虚器ヲ擁スルニ過キス、其家宰ノ權  
 力益々盛トナリ、遂ニ軍國ノ大權ヲ掌握スルニ至レリ  
 七百年頃ヘりすたるノびびん全國ノ「まじよるどーむ  
 す」トナリ、而シテ自からんく公ト稱セリ、其子ちや  
 ーれすまーてる位ヲ繼キ、七百三十二年亞刺比亞人(即  
 さらせん人)ヲつゝる及ぶあてはーノ間ニ破リ、將ニ  
 同々教ノ配下ニ屬セントスル基督教國ノ危急ヲ救ヘ  
 リ、其子小びびんニ至リ終ニ羅馬法王及からんく人民  
 ノ贊助ヲ得テ、虚器ヲ擁セルしるでりく三世ヲ廢  
 シテ自王位ニ登レリ、是ニ於テめろグなんぢあん家亡  
 フ、小びびんハかゝるグなんぢあん家ノ始王ニシテ羅  
 馬法王すてあん三世ヲ援ケるむばーと人ヲ伐チらぐ

んな附近ノ地ヲ取リテ之ヲ法王ニ與ヘタリ、是他日法  
 王統御即教會國ノ基礎トナレリ、びびん死シテ子シ  
 ーれめーん位ヲ繼グ、  
 英吉利王國 五世紀ノ初ニ當リ羅馬ノ鎮兵ぶりて  
 んヲ去リシカバ、土民(せるど人種)ハ北方ノかれど  
 ーにあニ於ケルびくと及すこゝト稱スル慄悍人民ノ  
 侵寇ヲ蒙リ、援ヲ低地にるべノ日耳曼人ニ乞ヘリ、是  
 ニ於テさくそん人、あんぐる人、じ、ーつ人等之ニ應  
 シテ海ヲ渡リぶりてんニ入りかれどーにあ人ヲ征服  
 シ、終ニ亦ぶりてん人ヲ滅シ其地ヲいんぐらんと稱  
 セリ、此等ノ人種ハ蒙昧ニシテ當時發達セル羅馬風ノ  
 開化法律及言語ヲ破壊シ、戰爭佃獵牧畜等ヲ職業トナ  
 セリ、而シテ土民ハ多ク殺サレ或ハ奴隸トナリ、其餘  
 ハこゝるニ奔レリ、只うゝるす及こーんうゝるノせ  
 るど人ハ十三世紀ニ至ルマデ其獨立ヲ維持セリ、是其  
 今日尙言語及國情ヲ異ニセル所以ナリ、而シテ其他ノ

いんぐらんどハ久シキ戦争ノ後あんぐろさくそん人ノ占有スル所トナリ七箇ノ小王国起レリ、へぶたーキ一ト稱スルモノ即是ナリ、而シテ其最早ク起リシモノはけんど王国トナス、此等ノ王国ハ第九世紀ニ至ルマデ互ニ相攻伐セシガ、うせつくすノむぐばーと王ニ至リ、他ノ六ヶ國ヲ并吞シ、而シテいんぐらんと王トナレリ、あんぐろさくそん人ハ己ニ七世紀頃ヨリ羅馬法王ぐれでりー一世ノ送リシおーがすたいんノ風化ヲ蒙リ基督教ノ信者トナレリ、

### 第二 東羅馬帝國

概説 西羅馬帝國ハ既ニ衆多ノ野蠻人種ノ割據スル所タリ、東羅馬帝國ハ黨派ノ争鬭、風俗ノ敗壞ニヨリテ國力疲弊セリト雖、而モ能ク外敵ノ侵寇ニ耐ヘ東羅馬帝國ノ名稱ヲ以テ尙一千年ノ間其國命ヲ保續セシガ、歐羅巴ノ文明漸ク其度ヲ高ムルニ從ヒ、勢力日ニ益衰ヘ、終ニ土耳其人ノ爲ニ滅サル、ニ至レリ、

其他ノ學士ニ命シ法典ヲ編成セシム、全部四編ヨリ成リ、過去及現行ノ法律ヨリ法律ノ原理學者ノ説明ニ至ルマデ學ケテ遺ス所ナシ、現今歐洲諸國(英吉利ヲ除キ)ノ法律ハ皆則チ此ニ取リタルナリ、  
トヤすていにあん後の形勢 東羅馬帝國ノ光輝モヒヤすていにあんノ死ト共ニ消滅シ、朝廷ニハ七君相繼キ、おーかす及ヒ、すていにあん二世ノ如キハ其暴虐にーろーとみしあん帝ニ過キ、こんすたんす帝ノ如キハ實什重器ヲ破壊セルコトあらり、ちあんせりつくニ勝レリ、其間外ハ蠻民ノ入寇ヲ蒙リ、内ハ賦歛ノ騷擾已ムトキナシへらくりあすノ治世ニ當リ彼斯王トす二世ニ勝チ、一時國力ヲ恢復セリ、然レトモ其後混亂相繼キ、八世紀ノ頃ヨリ基督省像破壞黨起リ黨派分裂シ論争延キテ百餘年ニ及ベリ、而シテばるげーりあ人すらごーにあん人ハ北西ヨリ、彼斯人ハ東方ヨリ、亞刺比亞人ハ南方ヨリ入寇シ、古代文明ノ

トヤすていにあん一世 東羅馬帝國ハ東西分裂の後、數十年間懦弱ナル君主ノ治下ニ在リシガ、すていにあん一世ノ時ニ至リ、東羅馬帝國ハ一時光輝ヲ發揚セリ、帝ハ英將ベリさりあすヲ用キ、北方蠻族ノ侵入ヲ防禦シ、又彼斯王トすノ侵寇ヲ退ケ、次テカ一すーカヲ侵略シ、亞非利加ニ於ケルがんだる人ノ權力ヲ漸滅セリ、ベリさりあす又おすとろごす王國ノ内亂ニ乘ジ、伊太利ヲ征シテ其大半ヲ經略セシガ、帝ノ召還スル所トナリ、なーせす之ニ代リ終ニ東ゴす王國ヲ滅セリ、是ニ於テ東西羅馬帝國復合一セリ、帝ハ又土木ヲ以テ著レ、こんすたんとていノ一ぶるノそふあい大會堂ヲ建築セリ、然レトモ帝ノ事業ハ尙此ヨリ大ナルモノアリ、即羅馬法律ヲ編纂シ秩然タル法典トナセシニアリ、從來羅馬法律ノ書ハ數千卷ニ上リ、政府ノ布告ト法庭ノ判決ト往々齟齬シテ人民其適歸スル所ヲ知ラザリシヲ以テ、帝ハ法律學ノ大家トリぼにあん及

靈域方ニ野蠻ノ重圍ニ陥リ、國力日ニ削滅セラル、

### 第三 さらせん帝國

亞刺比亞ノ概説 基督教ノ西方日耳曼諸國ニ於テ其領域ヲ擴張セル時ニ當リ、東洋ノ一隅ニ新敎國起リ、中世上ニ一大活劇ヲ演セントス、まほめと敎ノ亞刺比亞國ニ起レルコト是ナリ亞刺比亞ノ地タル北方ニハ廣漠ナル沙漠連亘セリト雖、西南ハ土地肥沃ニシテ產物ニ富メルヲ以テ、古代ヨリ盛ニ陸上及海上ノ貿易ヲ營メリ、亞刺比亞人ハせみてらく種族ニシテ頗想像力ニ富メリ、國內ハ數多ノ小國ニ分レ争亂常ニ止ム時ナシ、其宗教ハ多神敎ニシテ古代ハ星辰ヲ禮拜セリ、而シテ亞刺比亞人ノ一般ニ尊敬セル所ハめつか府ニ於ケルカーバノ靈場(黒石ヲ祀ル)ナリ、然レトモ「じゅであ」敎基督教ノ漸々亞刺比亞ニ傳ハルニ及ヒテ其敎儀ヲ混用シ、終ニ宗教改革ヲ圖ルモノ出ルニ至レリ、まほめとハ實ニ其首領タリ、



ら、おろんで一あニ戦ヒ大ニ之ヲ破リ、殆、西班牙ノ全  
部ヲ略定セリ、其後せらせん人ハ又進ンデビレに一す  
山ヲ踰エ南部でいるニ侵入セリ、七百三十二年おらん  
くノち一れす、まいてるトつーる及ぼあてねーノ間ニ  
會戰シテ大ニ敗レ、復手ヲ歐羅巴ニ伸ブルコト能ハザ  
ルニ至レリ、然レドモ尙西班牙ヲ占領シテ中世紀ノ末  
ニ及ベリ、

帝國ノ分裂及東方かりふ廳 さらせん人ノこ  
いるニ敗レテヨリ、未幾何ナラズシテ、其帝國ハ東西ニ  
分裂シ、各、かりふアリテ之ヲ管治セリ、七百五十年  
だますかすニ於ケルおひみやと家ハあっぱしと家ノ  
あふる、あっぱすノ爲ニ顛覆セラレ、あぶだいらーま  
んハ西班牙ニ逃レ、こーとぶ。ニ於テ獨立ノ「かりふ」  
廳ヲ建テタリ、あっぱしと家ハ其後都ヲたいぐりす河  
畔ノばぐだつと遷セリ、あっぱしと家「かりふ」ノ中  
有名ノモノヲはるーん、ある、らしと(七百八十六年ヨ

リ八百九十年マデ)トナス、はるーん、ある、らしと  
ハし。一れめん帝ト同時代ニシテ、其事跡ハ稱史「あ  
らびあんないと」ニ於テ久シク人口ニ騰レリ、はるー  
ん、ある、らしとハ其子あるまみーんと俱ニ大ニ學術  
技藝ヲ獎勵シ、又商業工業ヲ保護シ、ばぐだつとハ般  
富繁華ノ都府トナレリ、然レドモ其權力ハ漸々之ヨリ  
衰へ、後世ノ「かりふ」ハ其旗下土耳其軍卒ノ翻弄ス  
ル所トナリ、領土分裂シテ獨立スルモノ多シ、十一世紀  
ノ頃其政權ハ逐ニせるじきあんと土耳其軍將とぐらる  
べーノ手ニ歸シ、「かりふ」ハ只宗教上ノ主宰タルニ至  
レリ、ばぐだつとヨリ分離セルモノ、中最有名ナルチ  
亞非利加ニ於ケルおもてまいと「かりふ」廳トナス、か  
いろあんなチ以テ首府トナシ、こーしか、さーでいにあ及  
ししりーチ占領シ十世紀ノ初埃及ト合シかいろーニ首  
府ヲ定メ、其領土ヲ擴張シテしりあニ至レリ、「かりふ」  
ノ最名アルモノヲはけむトナス、亞非利加「かりふ」廳

ハ十二世紀ノ末さらでんノ爲ニ滅サル、

西班牙ノかりふ廳 あぶだいらーまんハ七百五  
十五年こーとぶ。ニ「かりふ」廳ヲ建テシヨリあぶだ  
いらーまん三世(九百一十二年ヨリ九百六十二年マデ)ニ至  
リ國勢最盛トナリ、學術技藝ヨリ農工商業ニ至ルマデ  
大ニ發達セリ、然レドモ其後軍卒跋扈シ内亂繼キ起リ、  
一千〇三十一年おひみやと家終ニ亡ビ、西班牙ハむ  
ーあ(亞刺比亞人ト亞非利加人トノ混合種族ナリ)人ノ  
管治スル所トナリ、數多ノ小國ニ分裂シ、互ニ相攻伐シ  
テ國勢日ニ衰頽ニ趣キ、遂ニ千二百四十八年以後基督  
國民ノ征服スル所トナル、

### 第二章 シャーレめーん帝國

#### 第一 シャーレめーん帝

(七百六十八年ヨリ八百十四年マデ)

シャーレめーん シャーレめーんハ小びびんノ子ナ  
リ、小びびんノ羅馬法王及國民ノ贊助ヲ得テ、めろづい  
世界誌 史紀 中世 シャーレめーん帝國

んちあん家最後ノ王ヲ廢シかいろがんちあん家ノ王  
業ヲ創メシコトハ既ニ記セシ所ナリ、びびん死シテ二  
子ち。一れす及かいろまん俱ニ政ヲ執ル、幾何ナラスシ  
テかいろまん死シち。一れす即し。一れめーん獨おらん  
く國王(當時ノからんく王國ハ現時ノ佛蘭西及日耳曼  
ヲ包括セルモノナリ)トナレリ、當時東羅馬帝國ハ姿  
靡シテ振ハス、伊太利ハ大抵ろむばーと人ノ有ニ歸シ、  
西班牙ハさらせん人ノ治下ニ在リ、いんぐらんとハ數  
多ノ小國ニ分裂シ、其他ノ人民ハ皆未、曖昧野蠻ノ域  
ヲ脱セス、シャーレめーん不世出ノ天資ヲ抱キテ此際  
ニ崛起シ、已ニ敗壞セル西羅馬帝國ヲ再興シ、其偉勳  
ハ赫々トシテ暗夜ヲ照スノ光明トナレリ、史上大帝ノ  
稱ヲ得ル亦以アルナリ、而シテシャーレめーんハ其目  
的ヲ達センカ爲ニ當時文明ノ諸元素殊ニて。一とん人  
ノ政治思想ト基督教會ノ團結力トヲ最能ク利用セリ、  
此故ニシャーレめーんハ勉メテ國民ノ尊崇セル日耳曼  
シャーレめーん帝

舊制度ヲ維持シ、且熱心ニ羅馬法王及教會ヲ保護セリ、

**征戰** シャーレめーんハ在位四十六年ノ間東征南伐熄ム時ナシ、其第一ニ起レルモノヲさくそん人ノ征戰トナス、帝ハ其境土ヲ防禦シ、且同時ニ基督教ヲ廣布セントノ目的ヲ以テ、七百七十二年ヨリ三十一年ノハシキさくそん人ノ同盟ト戰ヘリ、此同盟ハラハ一せる及あるベ兩河邊ノ多神教徒ヨリ成ル、シャーレめーん屢さくそん人ヲ攻メテ之ヲ服從セリ、然レトモ反服常ナカリシカ七百八十三年ニ至リ、さくそん公ウラいてきんニト決戰シ大ニ之ヲ破リ、基督教及ふらんくノ制度ヲ採用セシメ、八百四年ニ至リ全クさくそん人ノ戰爭ヲ終結セリ、さくそん人トノ戰爭始ルヤ、伊太利ニ於ケルルらびばーと人ハ事ニ因リテ羅馬法王ヲ窘迫セリ、法王ヘーどりあん一世援テシャーレめーんニ乞ヒシテ以テシャーレめーんハ軍ヲ率キテあるぶす山ヲ越エるも

ばーと人ヲ破リばぐーあヲ略奪シ、でしでりあす王ヲ寺院ニ幽囚シ、而シテ自らむばーと王ノ鐵冠ヲ戴キ、上伊太利ヲふらんくノ王國ニ并合シ、其父びびんノ管テ法王ニ與ヘタリシ領地ヲ確認セリ、さくそん人トノ戰爭中西班牙ノさらせん人侵入セシヲ以テシャーレめーんハ西班牙ヲ征服シばべろな及さららむさヲ略奪シハ一ふる河ヲ以テ領域トナセリ、其退軍ニ當リ一將ろーらんとノ軍ろんせすがるぬすノ低地ニ於テ大ニさらせん人ノ破ル所トナリ、ふらんくノ勇士死スルモノ甚多シ、然レトモ少モシャーレめーんノ大功ヲ害セサリキ、さくそん人トノ戰爭未終ラザル時ニ當リテばぐーりあ公たっしろハ東方ノあぐー(はん民族)人ノ援ヲ得テ、ふらんくノ國ノ羈輓ヲ脱センコトヲ計リ、シャーレめーんノ爲ニ討平セラレ、たっしろハ寺院ニ幽閉せらればぐーりあ公ノ位ヲ視レタリ(七百八十八年)シャーレめーんハ更ニ進ンデあぐー人ヲ征服シ、たいす河ニ

至リ以テ東方邊陲(今日ノ澳太利)ヲ設立セリ、又北ノ方デーん人ヲ破リ北海ニ至リ、東ノ方すれーグノ一部分ヲ取り以テ、ふらんくノ王國ノ東境ヲ開拓セリ、是ニ於テシャーレめーんノ版圖、南ハえーぶろ河及たいばー河ニ及ヒ、東ハゆるベ河及たいす河ニ達シ、北ハ北海ニ濱セリ、シャーレめーんノ威風遠ク、ばぐーとニ達シ、有名ナル「かりふ」はるーん、ある、らうしどハ修好ノ爲ニ象狻及珍奇ノ時計ヲ遺レリト云フ、

**シャーレめーんノ即位** 羅馬法王レを三世敵黨ノ爲ニ逐レシヲ以テ、シャーレめーんハ之ヲ援ケントシ八百十年盛儀ヲ具ヘテ伊太利ニ入り、基督教徒ノ祭日從者ト共ニ聖バートル會堂ニ入り禮拜セントス、時ニ法王レハ三世突然皇帝ノ冠ヲ其頭上ニ加ヘ、祝シテ西羅馬皇帝トナシ、且ちシャーレす第一世「シーサー」ががすたす」ノ尊號ヲ附セリ、是ニ於テ三百有餘年間廢絶セル西羅馬ノ帝位復其人ヲ得テ東帝國ト對峙スルニ

至レリ、是ヨリシテ歐羅巴基督教國ハ教會及政治ノ結合體トナリ、法王權權ノ端ヲ開ケリ、

**制度** シャーレめーん帝ノ國內ノ政務ヲ整理セシ文功ハ決シテ征戰ノ勳烈ニ讓ラズ、帝ハ其大版圖ヲ劃一政令ノ下ニ立タシメント欲シ、弱政治ノ大權ヲ總攬シ、舊來ノ公位ヲ廢シ、國內ヲ數多ノ行政大區ニ分チ、伯ニ命ジテ之ヲ分治セシメ司法及軍務ヲ司ラシム、邊陲ニハ邊陲方伯ヲ置キテ之ヲ治メシム、又巡察使ヲ置キ方伯ノ治否ヲ監視セシム、而シテ法律ハ高官、僧正、方伯、公民ヨリ組織セル毎年二回ノ國會ニ提出シテ之ヲ議定セシム、

**教育及學事** シャーレめーん帝ハ大ニ人民ノ教育ニ注意シ、數多ノ寺院學校ヲ建設シ、基督教ノ僧侶ヲシテ之ヲ管理セシメ、古代羅馬ノ文學書ヲ謄寫シ、且古代日耳曼ノ軍歌ヲ編纂セシメ、以テ大ニ寺院ノ音樂ヲ改善セリ、シャーレめーんハ又厚ク學術及學者ヲ保護



シ四方ヨリ學識アル僧侶ヲ宮中ニ集メ、躬俱ニ文學ヲ  
談論シ、好ンデ文法、修辭、音樂、論理、天文、博物  
等ノ學ヲ研究シ、又刻苦シテ書法ヲ習ヘリ、又帝ハ宗  
室及宮内官吏ノ爲ニ宮中學校ヲ建立シテ教育ヲ勸課セ  
リ、其他帝ハ農業工業商業等ヲ獎勵シ、建築術ノ如キモ  
當時頗發達セシガ如シ、

第二 シャーレめーん帝國ノ分裂

概説 シャーレめーん帝國ノ版圖ハ言語風俗ヲ異ニセル  
人民ノ集合體ナルヲ以テ、シャーレめーん帝ノ如キ英傑  
ニシテ始メテ能ク之ヲ制馭シ得ベキナリ、一旦其人死  
シテ之ニ繼グノ英傑ナクンバ、土崩瓦解猶彼あれきさ  
んだーノ死後ニ於ケルガ如クナルベシ、況ンヤ后嗣  
庭弱ニシテ其器ニアラズ、又内相鬩グニ於テヤ、其  
分裂期シテ待ツヘキナリ、

帝國ノ分裂 八百十二年シャーレめーん帝年七十二  
ニシテ歿ス、幼子るい位ヲ繼ケリ、其二兄ちやーれす

リ、其言語ハ獨乙語即日耳曼語トシテ西部及南部ニ於  
ケル「ろーまん」語人民トノ區別ヲ生シ、各其發達ノ  
進路ヲ異ニスルニ至レリ、故ニグヌゑるだんノ條約ハ日  
耳曼及佛蘭西人民ノ由リテ分ル、所ニシテふらんく帝  
國ノ統一復望ムベカラズ、ろーざー殞シテ長子るい二  
世帝位ヲ繼キ伊太利ヲ領シ、第二子ちやーれすハばー  
がんでいあチ有シ、第三子ろーざー二世ハろーざー一  
んちもチ有セリ、ろーざー二世ノ死後るい二世ノ伊太  
利ヲ除クノ外ハ東ふらんく(日耳曼)王るい及西ふら  
んく(佛蘭西)王ちやーれすノ分割スル所トナレリ、此  
時ニ當リテすれーふ人ハ東ヨリさらせん人ハ南ヨリノ  
一すめん人ハ北及西ヨリ來寇シ四境常ニ多事ナリ、又  
内ハ諸侯跋扈スルアリ、而シテふらんく國ノ諸王率庸  
主ニシテ之ヲ制スル能ハズ、東ふらんく王るい死シ其  
國ヲ三子ニ分與セシガ二兄早世シ、終ニ第三子ちやーれ  
す、せ、ふとと獨東ふらんく國ヲ領セリ、是ヨリ先、西ふ

及びびんノ早世セシヲ以テナリ、るい人トナリ庭弱ニ  
ニシテ勇敢ナル國民、廣大ナル版圖ヲ統轄スルノ才ニ  
アラズ、其早ク帝國ヲ三子ろーざー、びびん及るいニ  
分與セシガ如キハ、既ニ亂階ヲ兆セリ、後后じゅでいす  
ノ幼子ちやーれすヲ生ムニ及ヒテ、帝又之ニ一地ヲ與  
ヘントセシカバ、三子ハ父ニ叛キ迫リテ之ヲ寺院ニ幽  
シ而シテ其位ヲ奪ヘリ、然レドモるい帝ハ後るいノ爲  
ニ其因ヲ解カル、當時第二子びびん既ニ死セシヲ以テ  
帝ハ新ニ國ヲ他ノ三子ニ分與セリ、帝ノ死スルヤ、兄  
弟直ニ戈ヲ取りテ争鬪ヲ開キ、るい及ちやーれすハろ  
ーざートふととねーニ戰ヒ大ニ之ヲ破リ、終ニ八百  
十三年グヌゑるだんノ條約ニ於テ帝國ヲ三分シテ其一チ  
有セリ、ろーざーハ伊太利及中部ふらんくヲ得兼テ帝  
位ニ登レリ、るいハ東部ふらんく(らいん河東)ヲ得、  
ちやーれすハ西部ふらんく(即佛蘭西ノ地)ヲ得タリ、  
此時ヨリシテ東部ノ人民ハ漸々結合シテ一國民トナ

らんく國王ちやーれすハるい二世ノ殞セシ後ふらん  
く帝位ニ登リ二年ニシテ歿セリ、其子るい繼キ立ツ、  
るいノ後二子早世シ第三子ちやーれす、せ、しむぶる尙  
幼ナルヲ以テ、貴族ハ東ふらんく國王ちやーれす、せ、  
ふととヲ推シテ王位ニ即カシム、又當時ろーざーノ後  
嗣全ク絶エ伊太利主ナキヲ以テちやーれす、せ、ふとと  
ハふらんく帝位ニ登リ、一時シャーレめーんノ帝國ヲ統  
御セリ、然レトモちやーれすハ懦弱ニシテ到底此大版  
圖ヲ統御シ得ルノニアラズ、の一すめん人ト戰ヒテ  
大ニ敗レ甚恥ツベキ和議ヲ講セリ、是ニ於テ日耳曼ノ  
貴族ハちやーれすヲ廢シ而シテ其姪あーなるふチ立ツ、  
西ふらんく國モ亦あーチ立テ、王ト爲セリ、  
日耳曼王國(東ふらんく王國) あーなるふハ日  
耳曼及伊太利ノ王トナリ後帝位ニ登レリ、あーなるふ  
勇敢ニシテの一すめん人ヲ破リ、又伊太利ノ諸公ヲ征  
服セリ、あーなるふ殞シ其子るい、せ、ちやーいると位ヲ

繼ク、當時匈牙利人即ちあゝ人ハだに、一河ノ沃地ニ住シ、屢日耳曼ニ侵入セリ、さくそん公からんこにあ公ろいれいん公すうゝいびあ公ばぶらあ公ハ匈牙利人及其他ノ外敵ヲ防キ功アリシヲ以テ權力甚盛ナリ、るい殂シテ嗣ナク、日耳曼ニ於ケルカースヅ、んぢあん統全ク絶ユルニ及ヒテ、ふらんこにあ公こんらつと撰ハレテ王トナル、是ニ於テ日耳曼ハ撰擧王國トナレリ、こんらつとハ諸公ノ權力ヲ殺滅センコトヲ計リシガ、其反抗スル所トナリテ成ラス、又外ハ匈牙利人屢入寇シテ國事日ニ紊亂セリ、こんらつと大ニ之ヲ慨シ、其敵タリシさくそん公へんりー一世ノ克ク外敵ヲ防クニ足ルヲ知り、之ヲ擧ケテ王位ニ即カシメタリ、

**佛蘭西王國(西ふらんく國)**

ちやーれす、せ、ふとノ帝位ヲ廢セラル、ヤ、佛蘭西ノ諸侯ハばり伯(ふらんしあ公)おとー、のーすめん人ヲ防キ功アリシヲ以テ撰ンテ王トナセリ、おとーノ死後かゝるうゝんぢあ

ん王家ノちやーれす、せ、しむぶる位ニ登ル、此時諸侯ノ權勢甚強ク恣ニ土地ヲ私有シ、國王ノ廢置一ニ其手ニアリ、ふらんしあ公ひやー(おとーノ姪)最權勢アリ、ちやーれすヲ廢シテ之ヲ幽囚セリ、ちやーれすノ時の一すめん人の酋長ろるろニ一地ヲ與ヘ佛蘭西王ニ隸屬セシム、のーまんてート稱スル地是ナリ、ちやーれすノ後かゝるうゝんぢあん王家ハ二世ヲ傳へるゝ五世ニ至リ嗣ナシ、諸侯相謀リテひやーノ子ひやー、かべーヲ立テ、王トナセリ、るいノ伯父ちやーれす日耳曼ノ兵ヲ借り王位ヲ争ヒシガ、遂ニひやーの爲に破られ、終身幽囚セラル、此ニ於テかゝるうゝんぢあん王家絶エ佛蘭西王國起ル、

**伊太利**

ちやーれす、せ、ふとノ帝國破壊シテヨリ伊太利ニハ一定ノ帝王ナク、國情實ニ錯亂ヲ極メタリ、伊太利人ハ日耳曼人ニ抗スルノ感情頗強ク、國人ヲ以テ王トナサントセシガ協和セサル所アリテ一ハべれん

がーヲ擁シ、一ハーとぎーヲ推シテ激烈ナル争鬭ヲ開ケリ、日耳曼王あゝなるふ再來リテ争亂ヲ鎮撫シ、立チテ帝トナレリ、幾何ナラスシテ國內復亂レ、二十年間ニシテ代リテ帝トナルモノ五人アリ、既ニシテべれんがー一世法王じよん十世ニ倚リテ帝位ニ即ク、ばーがんでー王るーとるふ之ト位ヲ争ヒべれんがー敗死ス、其孫いぢりー伯べれんがー二世位ニ即カント欲シ、ふろがんす伯ひやーノ争フ所トナリ日耳曼ニ遁ル、ひやー位ニ即ク、其ノ後ノ重要ナル記事ハ之レヲ第四章ニ記セン、

**第三章 のーすめん人**

**概説** すかんでい、ねーづ、あ半島ノ住民ハ一ニのーすめん(北人)ト稱シ、日耳曼人種ニ屬シ同一ノ性情、言語、宗教ヲ有シ、漸々丁抹、那威、瑞典ノ三國ヲ成セリ、而シテ數多ノ種族ニ分レ好テ諸方ニ航シ、土地貨財ヲ略奪す、しやーれめいん帝國ノ滅亡ヲシテ速ナ

ラシメシモノハ實ニ此人民ナリ、のーすめん人ハ輕舟ニ乘ジ北海ノ濱ヲ横行シ、數多ノ物貨ヲ掠奪スルヲ以テ「ゲョー、いきんぐ」(海岸ノ偷兒)ノ稱アリ、でーん(東人ノ義)人ハ屢英國ニ寇シ、のーラゝー人ハあゝすらんぞヲ發見シ、此ニ植民シテ本國ノ宗教言語及制度ヲ移シ、繁盛ナル部落ヲ起セリ、あゝすらんぞニ次キテ又ぐりーんらんぞヲ發見シ且植民セリ、げゝーれんぢあん人ハ酋長るーりくニ從ヒふらんぞ灣ヲ越エ露西亞ニ入リノゲごろつとニ居リ而シテ其一族ハ十六世紀ノ末ニ至ルマデ露西亞ノ地方ヲ領セリ、然レドモ其風俗言語ハ皆テ變易セシコトナシ、其他尙のーすめん人ハ夙ニすこつとらんぞ、あゝすらんぞニ移住シ又亞米利加大陸ヲモ發見セリト云フ、此等ノ人民ハ皆個體戰爭等ヲ好ミ又深ク詩歌ヲ愛シ軍歌神詩等ノ編集アリ、九世紀ノ頃はむぶるぐノ僧正あんすがーハすかんでい、ねーづ、あゝニ入り、熱心ニ基督教ヲ傳播セシヲ以テ漸々化シテ

基督教徒トナレリ、

佛蘭西ニ於ケルノイスマン人 ノイスマン人ハ屢佛國ノ海岸ニ寇シ、るゝおん、なんつ、ぼいどーヲ侵シ、次デフーあ、おれあんヲ陥レ、ばりノ寺院ヲ燒ケリ、其入寇常ニ已マスシテち、れす、せ、しむふるノ世ニ至ル、ち、れす逐ニ一地ヲ割キテ之ト和ヲ講ズ、ノイスマン人ノ酋長ろるろ之ヲ諾シテ來リ居ル、他日ノイスマンで、ト稱スル地是ナリ、ろるろハ基督教徒トナリ公爵ヲ受ケち、れす帝ニ隸屬シ、幾ナラズシテ佛蘭西ノ言語風俗ニ習熟シ、開化富有ノ人民トナレリ、彼ふらんしす公國ノ獨立シ、ひ、かペーノ王位ニ登リシガ如キハ、ノイスマン人ノ力與リテ大ナリトス、英國ニ於ケルで、いんぐらんをハねば、いど王ノ後屢で、いんぐらんノ爲ニ苦シメラレ、海岸及河口ノ都府寺院ヲ破壊セラレタリ、あるふれ、と大王(八百七十一年今ヨリ千〇二十六年前ヨリ九百〇一年今ヨ

リ九百九十六年前マデ)ノ如キハ一時王位ヲ退クニ至リシガ、終ニ其勇敢謀略ニヨリテ位ニ復シ、で、いんぐらんノ侵入ヲ防退セリ、然レトモで、いんぐらんノ基督教徒ニ歸シタルモノハ、いさむばらんをニ植民スルコトヲ許シ、爾後専力ヲ内部ノ開發ニ用ヒタリ、而シテ其國ヲ數多ノ行政大區ニ分チ、伯及貴族ヲ以テ司法ノ事務ヲ管理セシメ、ういてなんげも、ト稱スル國會ヲ創メ貴族ヲ以テ之ヲ組織シ、以テ國家重要ノ事件ヲ議定セシム、又教會及學校(おつくすふ)ト大學此時ニ起ルヲ建テ、且あんぐろさくそんノ軍歌ヲ編纂セリ、其後嗣位が、ノ時國勢昌盛ヲ極メシガ、ねするれ、とニ至リノ、いさむばらんをニ於ケルで、いんぐらんをさくそん人ノ爲ニ虐殺セラレシヲ以テ、丁抹及那威王すう、いげん大舉入寇シ英國ヲ征服ス、ねするれ、とハノ、いスマンで、いニ奔レリ、すう、いげんノ子かに、いど大王位ニ登ルニ及ヒテ、ねするれ、とノ子ねとまんを

之ト争ヒシガ幾何ナラズシテ死シ、かに、いど英國ヲ統治シ兼テ丁抹及那威ニ君臨セリ、かに、いと善ク其國ヲ治メ大陸ノ諸國ト修好シ、日耳曼王てんら、とニ世ト通商條約ヲ締結シ羅馬法ヲ尊敬セリ、かに、いと及其子ノ死後國人ハねするれ、とノ子ノ、いスマンで、いニ在リシモノヲ立テ、王トナス、之ヲねとま、いとトナス、(千〇四十二年今ヨリ八百五十六年前)

ノイスマン人ノ英國征服

ねとま、いとハノ、いスマンで、いノ風ヲ愛シ、又其國人ニ官位ヲ濫授セルヲ以テ英人其政ニ服セズ、ねとま、いとを祖シ嗣ナシ、の、いスマンで、い公う、いあむハ其後嗣タルベキノ約アルヲ主張シ、英國ノ王位ニ即カンコトヲ要求セシガ、國人西

さくそん侯を、とま、いんノ子ばらるを立テ、王トナセリ、是ニ於テの、いスマンで、い人大ニ怒リ、兵ヲ擧ケテ英國ニ侵入シ、させ、くすニ上陸シ、へ、いすて、いんぐすヲ占領セリ、一千〇六十六年十月十四日ノ決戦ニ於テ英

ノ貴族死スルモノ甚多シ、はらるをモ亦矢ヲ被リテ死セリ、是ヨリう、いあむハ「こんく、ろる」(戦捷者)ノ名ヲ得、英國ノ王位ニ登リ數年ニシテ全國ヲ平定セリ、之ヲう、いあむ一世トナス、う、いあむハ佛蘭西及ノ、いスマンで、いノ封建制度ヲ施行シ以テ其國ヲ鞏固ニシ、從來ノ土地ヲ沒收シテ之ヲの、いスマンで、いノ騎士ニ與ヘタリ、是ニ於テの、いスマンで、いノ法律ハ舊來ノ法律ニ代リ、佛蘭西ノ言語ハ法廷及宮中ノ言語トナリ、う、いあむノ侵入ヲ助ケシ佛蘭西ノ僧侶ハ富有ナル教會ノ職ニ就ケリ、此改革ヲ喜ハサル英國ノ勇士ハ往々國ヲ去リてんすたんで、の、いふるニ趨キ親衛軍ニ入レリ、此ノ如クニシテ英國ノ状態ハ一新シ、種々ノ言語、風習、法律ヲ有セル人民モ次第ニ混和シテ有爲活潑ナル一國民トナルニ至レリ、

伊太利及しほりの、いスマン王國

の、いスマンで、いノ騎士ハ十一世紀ノ初ニ於テ下伊太利ニ漂泊シ、

數多ノ小國ヲ援ケテ希臘人及さらせん人ト戰ヘリ、一千〇二十七年ニ於テねーぶるす侯ヨリ豐沃ナル土地ヲ得テ都府あぐ。一はナ建ツ、本國ノのーまん人之ヲ聞キ年々勇壯ナル騎士ノ伊太利ニ入ルモノ甚多ク、希臘ノ太守ヲ援ケししりー島ノさらせん人ヲ伐テリ、然レドモ其功ヲ賞セラレザリシヲ以テ、反テ太守ヲ攻メめるふ。府ヲ取リテ根據トナシ、漸々あふりあヲ征服セリ、ろばーと、さすかーとニ至リ遂ニ全ク下伊太利ヲ占領シ、あふりあ及からふりあ公ト稱シ、羅馬法王ノ許可ヲ得テ諸侯ニ列セリ、ろばーとハ其後弟ろーぢ。一トカヲ戮セテさらせん人ヲ伐チ、ししりー島ヲ取リ、又あどらんとー及ばりヲ取リ、遂ニ進ンテ東羅馬帝國ヲ征服セントシ其子べーまんをナシテさるり及ねばいらすヲ攻メシム、然レトモろばーとノ死スルニ及ヒ、其企圖忽熄メリ、ろーぢ。一ノ子ろーぢあー二世下伊太利トししりートヲ合併シ、羅馬法王ヨリ王位ヲ

受ケテねーぶるす及ししりー王國ヲ創建セリ、ろーぢ。一二世ハ佛蘭西ノ封建制度及司法制度ヲ採用シ、其他善良ナル憲法ヲ制定シ、法學、醫學、博物學等ノ學校ヲ興シ、且農商工業ヲ獎勵セシヲ以テねーぶるす王國ハ非常ノ繁榮ヲ致セリ、然レトモのーまん人ハ南方温暖ノ風氣ニ慣レ、さらせん人ノ感化ヲ蒙リ、其固有ノ道德勇氣ヲ失ヒ、五十六年ニシテ遂ニ日耳曼ノほーへんすたうふた家ノ爲ニ滅サル、

#### 第四章 神聖羅馬帝國

##### 第一 さくそん王家

(九百十九年自今九百七十八年前ヨリ一) 千〇二十四年自今八百七十三年前マテ  
 へんりー一世 さくそん公へんりーノ推サレテ日耳曼王位ニ即キシコトハ既ニ記セシ所ナリ、へんりーハ中古史上ノ一英傑ニシテ内ハ日耳曼國民ヲ統一シ、外ハすらぐ。一にあん人、匈牙利人及でーん人ヲ防キテ

其疆域ヲ固定セリ、即位ノ初ろーれーんヲ併セ、次テねざーらんを征服セリ、既ニシテ匈牙利人來襲ス、勢甚猖獗ナリ、へんりーハ歳貢ヲ納レ九。年間ノ休戦ヲ約シ、其間軍制ヲ改革シ、城壁ヲ築キ、騎士ヲ訓練シ、兵盛ニ氣勇ム、是ニ於テ敢テ復貢ヲ納レズ、匈牙利人怒リテ復來寇ス、へんりー之トめるせぶるぐニ戰ヒテ勝利ヲ得タリ、(今ヨリ九百六十四年前)爾後漸クニシテ外患ナク、國富ミ兵強ク、四隣敵スルモノナシ、へんりーハ唯一軍人タルノミナラズ、亦銳意商工業ヲ獎勵セリ、

をっどー一世 へんりー殂シテ其子あっどー位ニ即位ク、あっどーハ父王ノ志ヲ紹キ、致々トシテ王國ノ統一ヲ維持セントシ、ばぐ。りあ、からんこにあ及ろーれーん等ノ諸侯ノ叛ヲ平ケ、其宗族ヲ立テ、諸侯トナセリ、是ヨリシテあっどーハでーん人ヲ破リ、其王ヲシテ日耳曼王ニ隸屬セシメ又すらぐ。一にあん人ヲ伐チ

あーでる河ニ到リ基督教ヲ傳播シ、又ばへみや波蘭ヲシテ朝貢セシメタリ、九百五十五年匈牙利人トあうぐすぶるぐニ戰ヒ大ニ之ヲ破リ、爾後復入寇スル能ハサラシム、然レトモあっどーノ伊太利ニ於ケル戰爭ハ更ニ重要ナリトス、伊太利ハ帝あーなるを殂シテヨリ爭亂相繼ギ、凡六十餘年ニシテひ。一王位ニ即ケリ、其子ろーざーニ繼キ立ツ、其死スルヤいぐりー伯べれんがー日耳曼ヨリ還リ王位ニ登リ、前王ろーざーノ如あであるはいと婉麗ナルヲ見テ強ヒテ己ノ子ニ娶サントス、其可カサリシヲ以テ怒テ之ヲ捕フ、妃竊ニ遁レテ援テ日耳曼大王あっどーニ乞フ、あっどー兵ヲ率キテ伊太利ニ入り、あであるはいとヲ立テ、后トナシ、べれんがーヲ伐チ之ニ勝チろむばーと王ノ鐵冠ヲ戴キ伊太利國王トナレリ、次テ羅馬ニ入り法王ヒ。九十二世ヨリ帝冠ヲ受ク(九百六十二年自今九百三十五年前)是ヨリ羅馬帝位ハ常ニ日耳曼王ノ有スル所トナリ、日耳曼國

民ノ神聖羅馬帝國ト稱ス、是中世紀ニ於ケル政治上ノ一大制度ニシテ、日耳曼王ハ政教ノ兩權ヲ掌握シ、日耳曼及伊太利ヲ合一セシナリ、既ニシテ法王ハ意ヲ變ジべれんがト通ジ、希臘人匈牙利人ヲ煽動シテおつと一ニ抗セシム、おつと一來リテ羅馬ヲ陥レ、法王は之ヲ廢シレを八世ヲ立ツ、おつと一去リテれお放逐セラレ、じよん又位ニ返リ幾何ナラズシテ死シ、べねでくと立テリ、おつと一復伊太利ニ入りべねでくとヲ廢シレをヲ復セリ、おつと一ハ下伊太利ニ權勢ヲ有セント欲シ、希臘帝ノ女ヲ娶ルヲ妻リ其子おつと一の妃トナセリ、

をつと一二世及をつと一三世 おつと一二世ハ父王在世ノ時年尙幼ナリシカ既ニ日耳曼王ニ撰ハレ、後羅馬ニ於テ帝位ニ即ケリ、在位十年ノ間戰爭常ニ絶エズ、ばづりあ公へんりーノ叛ヲ平ダ、又西ふらんく王ろーざーろーれーんヲ略奪セントセシナリテ、之

ヲ追フテばりニ及ベリ、おつと一ハ下伊太利ヲ以テ其妃ノ贈遺トナシテ之ヲ占領セント欲シ、希臘人及さらせん人ヲ征シ、九百八十二年からふりあノ海岸ニ敗績シ、僅ニ身ヲ以テ免レ、再日耳曼ニ還ラスシテ羅馬ニ死セリ、年廿八、其子おつと一三世年甫メテ三歳、母すおつと一の政ヲ攝シ、高名ノ佛人げるばーと之ヲ保育ス、おつと一少ニシテ英發、神童ノ稱アリ、年十六ニシテ帝位ニ即ク、帝屢伊太利ニ入り、羅馬ヲ以テ首府トナシ、以テ世界ヲ統御セントセシガ其企圖ハ帝ノ夭折ト共ニ去レリ、當時「一千年ノ終ニ至レバ世界ハ破滅ス」トノ説流行シ、其時限ハ眼前ニ迫リタレバ人心、恟々トシテ土地財寶ヲ寺院ニ寄捨スルモノ多シ、然レドモ一千年ハ既ニ過キ世界ハ尙存在セシカバ、猖獗ナル人心モ和氣霽然トシテ國王諸侯ハ競フテ壯麗ナル城壁ヲ築造セリ、

へんりー二世 おつと一三世殂シテ嗣ナクおつと

一ノ正統此ニ絶ユ、へんりー一世ノ曾孫ばづりあノへんりー位ニ即ケリ、へんりー二世ハ唯ニ日耳曼國ヲ保持セシノミナラズ、又大ニ領土ヲ擴張セリ、而シテ基督教ニ力ヲ致セシナリテ聖王ノ稱ヲ得タリ、へんりー二世ハ諸侯ノ不穩ヲ鎮定シ、又波蘭王ぼーれすらふト戰フコト十四年、遂ニぼへみあ、まいっせんヲ取レリ、千七年ニばひべるぐノ「びしよぶりく」(基督僧正ノ管轄地)ヲ置キ教會ヲ保護セリ、へんりー又伊太利ニ入ルコト三回、いざりー伯ヲ降シ伊太利ノ王トナリ、既ニシテ帝位ニ即キのーまん人ノ援ヲ得テ下伊太利ノ希臘人ト戰ヒ、かむばにあノ一地ヲのーまん人ニ貸與セリ、へんりー二世殂シテさくそん王統絶ユ、

第二 ふらんこにあ王家

(一千〇二十四年今ヨリ八百七十七年前ヨリ  
一千百二十五年今ヨリ七百七十二年前マデ)

こんらつと二世 らいん河畔ノおつとべんはひむニ於

世界誌 史記 神聖羅馬帝國 ふらんこにあ王家

ケル諸侯ノ大會議ニ於テふらんこにあノ貴族推サレテ王トナル、之ヲこんらつと二世トナス、こんらつと既ニ羅馬帝位ニ登リ、丁抹王かにーとノ女ヲ娶リ、其子へんりーノ配トナシ、北方ノ疆土ヲ擴メ、又ばーがんでー王ろーとるふ三世ノ死後其遺言ニヨリばーがんでー王國ヲ并合セリ(一千〇三十二年)、晩年波蘭人入寇セシガ軍敗レ、其將みーすこー營テ日耳曼ヨリ得タシリ帝權ヲせーしあノ地ヲ返シテ退ケリ、こんらつとハ銳意帝權ヲ振興スルコトヲ努メ、而シテ其目的ヲ達スル爲ニ三方法ヲ取レリ、大諸侯ノ權力ヲ漸次削減スルコト、教會ノ職務ヲ宗族中ニ籠有スルコト、及小諸侯世襲ノ法ヲ定ムルコト是ナリ、又同時ニ諸侯ノ帝ニ對スル賦役ヲ定メタリ、

へんりー三世 帝ハ資性豪邁ニシテ能ク父王ノ遺業ヲ紹キ、當時帝權ハ強盛ヲ極メ、版圖ハ非常ニ擴張セリ、國內ノ大諸侯或ハ抑制セラレ或ハ併吞セラレ、

其盛時ニ當リテハ伊太利バ一がんで、あ匈牙利ノ三王國、國內ノ七公國及すらうに二公國（波蘭、ほへみあ）ヲ包有セリ、又教會ノ上ニモ至大ノ權勢ヲ有シ、法王ノ廢置一ニ其掌中ニ在リ、一千〇四十六年伊太利ニ入り三人ノ法王ヲ廢シ、ばむべるく僧正ヲ立テ、法王トナス、くれめんど二世是ナリ、其後法王ノ位ハ殆日耳曼僧正ノ占有スル所トナレリ、へんりーハ又神意ニ從ヒテ休戦日ヲ定メ、木曜日ノ夕ヨリ月曜日ノ旦ニ至ルマデ戰爭ヲ戢メ、且私闘ヲ禁セリ、是ヲ以テ國家靜謐、小弱者ノ庇蔭ヲ蒙ルコト甚大ナルモノアリ、

**へんりー四世、法王トノ争** へんりー四世ハ父帝へんりー三世ノ死セシ時、年甫メテ六歳ニシテ位ニ即ク、太后政ヲ聽キころんノ大僧正はんのー之ニ傳タリ、後又ふれめんノ僧正あだるばーとノ陶冶ヲ受ク、はんのーハ性峻酷、あだるばーとハ寛大ナリ、然レドモ其行爲ハ皆帝ノ幼弱ヲ利トシ專横ヲ極ム、へんりー

人トナリ、剛愎驕慢ナリ、あだるばーと其意ヲ迎ヘ帝ヲシテ忿懣ヲ恣ニセシメ、遂ニ諸侯ト乖離スルヲ致セリ、貴族等ハてりん伯ノ女バースト婚セシム、帝喜バズ、之ヲ遇スルコト甚冷ナリ、且帝ハさくそん人ヲ仇視シ之ヲ抑壓セシヲ以テ、さくそん人ハおとー伯ヲ推シテ叛旗ヲ舉ゲ勢甚猖獗ナリ、帝一時出奔スルニ至リシガ、らいん及上日耳曼地方ノ諸侯ノ爲ニ援ケラレ一千〇七十五年さくそん人ヲ破リ更ニ之ヲ抑壓セリ、是ニ於テさくそん人援テ法王ニ乞フニ至ル、法王ぐれごりー七世（ひるでぶらん）ハ當時教會ノ弊風ヲ一洗シ、法王權ヲ擴張シ僧職任命ノ議ヲ帝王ヨリ回取スルコトニ汲々タリ、是ニ於テさくそん人ノ援ヲ求ムルヲ機トシ、へんりー四世ヲ羅馬ニ召シテ其罪ヲ糾サントス、へんりーハ日耳曼ノ僧正ヲうむすニ會シ法王ヲ廢スルコトヲ議決シ、之ヲ法王ニ通告セリ、書辭傲慢ナリ、法王怒リテ之ヲ破門シ、基督教人民ヲシ

テへんりー四世ニ服從スルノ義務ヲ免レシム、是ニ於テへんりー四世ノ行爲ニ對シテ不滿ヲ抱ケル日耳曼諸侯ハ千〇七十六年とらぶるニ會シ「へんりー四世ハ一年ヲ經過シテ破門ノ罪解ケサルトキハ國王ノ資格ナシ」ト議決セリ、へんりー如何トモスル能ハス、遂ニ節ヲ屈シ、王妃及一人ノ從者ヲ伴ヒ、嚴寒あるぶす山ヲ超エ伊太利ニ入り、法王ニかのつさ城ニ謁シテ哀ヲ乞フ、徒跣單衣法王ノ庭ニ立ツコト三日、終ニ殿重ナル約束ヲ結ヒ、僅ニ破門ノ罪ヲ赦サル、時ニ千〇七十七年一月二十八日ナリ、へんりー國ニ歸リ憤懣措ク能ハス、遂ニ又法王ト隙ヲ構フ、是時日耳曼ノ諸侯ハ概法王ヲ援ケ、すうゑーびあ公るーとるふヲ王トナシ、以テへんりーニ對セリ、然レトモへんりーハ其才幹ト忠實ナル市民ノ援トニヨリ、千〇八十年るーとるふヲ破ル、るーとるふ創ヲ病ミテ死セリ、此間法王ハ再へんりーヲ破門セリ、へんりーハ會議ヲ開キらげん

ノ大僧正ぎーばーとヲ立テ法王トナス、くれめんど三世是ナリ、是ニ於テへんりー軍ヲ率キテ伊太利ニ入り羅馬ヲ攻ムルコト三年遂ニ之ヲ陷レくれめんど三世ヨリ帝位ヲ受ク、ぐれごりー羅馬ヲ出奔シ、のーまん公るばーと、さすかーとニ援ケラレ終ニさーのニ於テ死セリ、へんりーノ晩年ニ至リテ長子こんらと兵ヲ擧ケテ反ス、こんらと死シテ少子へんりー又叛キ、へんりー四世崩トナル、後りてらとニ通レ幾何ナラズシテ歿セリ、

**へんりー五世** へんりー五世ノ王位ニ即クヤ、僧職任命ノ權ヲ得ント欲シ、又法王ばすかる二世ト爭端ヲ開キ、兵ヲ率キテ伊太利ニ入り、法王ニ迫リテ帝冠ヲ得、且僧職任命ノ權ヲ奪ヘリ、へんりー日耳曼ニ還ルノ後法王約ニ背キテ帝ヲ破門セリ、是ニ於テ爭亂又起リシカ、終ニ一千百二十二年ぐーむすノ會議ニ於テ和約成リ、僧職任命ノ時ハ皇帝ハ笏ヲ授ケ、法王ハ

鈴及杖ヲ與フルコト、ナセリ、へんりー諸侯ヲ遇スル  
コト苛酷ナリシヲ以テ其死スルニ及ヒ、諸侯ハふらん  
こにあ家ノ近親ナルほーへんすたふん家ノふれでり  
くヲ立ツルヲ肯セス、めんつノ會議ニ於テさくそに  
ノろーさーヲ撰ジテ王トナセリ、ろーさーハ盡ク法王  
ノ請ヲ容レテ帝位ヲ得タリ、ほーへんすたうふん家  
ハろーさーニ服セサリシヲ以テろーさーハ其女婿むすめば  
グゝりあ公へんりーノ援助ヲ得伐テ之ヲ平定セリ、

### 第五章 法王權ノ振起

概説 羅馬人ハ世界ヲ統御スルコト前後二回ナリ、  
始ハ古代羅馬人ノ武力ニ因リ、終ハ羅馬法王ノ權勢ニ  
藉レリ、其間相距ル數百年ナリトイヘトモ、第一ノ統  
御ハ實ニ第二ノ啓行トナリ新羅馬ハ舊羅馬ノ死灰中ヨ  
リ勃興シテ、其勢力以前ニ倍ばいシテ、是他ナシ、其勢  
力ヲ人民ノ精神上ニ及ボシタレバナリ、法王ノ權力ハ  
基督教最始時代ニ在リテハ未存在セザリシガ、西羅馬

シ、而シテ自由撰擧ニヨリテ長老、執行ヲ任シ、教會  
ノ重要ナル事務ヲ處理セシム、  
第二世紀頃ニ至リテハ各州首府ノ僧正其州内ノ宗務ヲ  
監督セリ、之ヲ首府制時代ト云フ、  
其後大都府即羅馬あれきさんどりあ、あんでいあ、  
こんすたんでいのーふる等ノ僧正漸ク權勢ヲ得、一地  
方ノ宗務ヲ監督シ、教會ノ根基數所ニ分ル、ニ至レリ、  
之ヲ「ばどりあーかる」制時代ト云フ、而シテ第三世紀  
ノ中葉以後ハ羅馬ノ僧正獨最高ノ地位ヲ占メタリ、蓋  
シ羅馬ノバートー及ぼーるト歴史上ノ關係ヲ有シタル  
ガ爲ナリ、其後次第ニ勢力ヲ加へ、彼羅馬帝國ヲ顛覆  
セシテ、いどんノ蠻族ノ甘シテ羅馬僧正管理ノ下ニ立  
チシガ如キハ大ニ其威嚴ヲ増セリ、又羅馬教會ノ熱  
心ニ傳道師ヲ派遣セシガ如キモ、其勢力ヲ進ムルノ一  
要因トナリ、遂ニ「羅馬ノ僧正ハ神ノ外」ノ判官ヲ有  
セズ」ト誇稱シ「ばーぶ」即法王ノ尊稱ヲ受ケ歐洲基

帝國滅亡後ニ至リ漸ク盛トナリ、基督教徒全體ノ上ニ  
位シ且有力ナル王侯ト結托シ以テ羅馬帝ノ命令ニ抗ス  
ルニ至レリ、其勢ノ盛ナルニ當リテハ、政治上ニモ權  
力ヲ有シ、帝王ノ廢立ヲ擅しんニシ、從ヒテ僧正ノ如キ  
モ往々國家ノ高官ヲ帶ビ廣大ナル領地ヲ有シ、諸侯ト  
肩ヲ比スルニ至ル、僧正及其他ノ僧職ハ、始ハ其地方  
ノ君主ノ任命スル所ナリシガ、後法王ノ全權ニ歸シ、  
且任命裁判等ノ爲ニ夥多ノ財寶羅馬ニ流入セルヲ以テ  
法王ハ嚴然トシテ世界無限君主ノ觀アリ、以上法王  
權ノ大體ヲ觀察シタレバ是ヨリ其振起ノ狀況ヲ説カ  
ン、

### 教會ノ組織

法王權振起ノ狀況ヲ説カントスルニ  
ハ過去ニ遡リテ羅馬教會ノ勢力ヲ得シ所以ヲ討究スル  
ヲ要ス、基督教會ノ組織ハ凡四回ノ變遷ヲ經タルガ如  
シ、最始ノ時代ニ於テハ基督教會ハ自由ノ一小結合體  
ニ過キサリキ、之ヲ使徒ノ時代ト稱シ、使徒之ヲ監督

### 基督教會ノ全權ヲ掌握スルニ至レリ、

### 法王權ノ興起

八世紀ニ至リテ東羅馬帝れかハ基  
督教徒ノ肖像ヲ禮拜スルコトヲ禁セシヨリ、肖像禮拜  
黨ト肖像破壞黨トノ爭論起リ、羅馬法王ハ遂ニ東羅馬  
帝國ヨリ分離スルニ至レリ、此際羅馬法王ハ初るむば  
いど人ヲ引キテ援トナセシガ却テ其劫おびやかス所トナリ、  
後かるぐゝんぢあん家ノふらんく王ト結托シ、法王ハ  
ふらんく王ヨリ領地ヲ得、ふらんく王ノ子孫ハ法王ヨ  
リ帝位ヲ受ケ、而シテ其間法王ノ權勢ハ次第ニ擴張ス  
ルニ至レリ、しやーれめーん帝ノ死スルヤ、後嗣わうじやく庭弱ニ  
シテ爭亂已マズ、帝權ハ萎靡シ社會ハ紊亂セリ、此機  
ニ乘ジ法王ハ益其權力ヲ擴張シテ政治上ニ及ボシ、皇  
帝ト法王トノ衝突常ニ絶エサリシガ、あどー大王ノ神  
聖羅馬帝國ヲ創建セシヨリ、僧職任命ノ權ハ全ク帝王  
ノ手ニ歸シ、法王權將ニ萎縮セントスルノ際、彼有名  
ナル法王ぐれでりー七世出デテ其權力ヲ恢復セリ、

ぐれごりー七世 ぐれごりー七世（一千〇七十三

年今ヨリ八百二十四年前ヨリ一千〇八十五年マデ十二年間）ハ教會ノ制度ヲ改革シ法王權ヲ振起セシ一英傑ニシテ、千〇十八年たすかに一ノ一小市そののノ匠家ニ生ル、ひるでぶらんぞト稱ス、其末、法王ノ位ニ登ラザル時ヨリ數多ノ法王ヲ輔ケ、教會内部ノ弊害ヲ匡正セリ、又常ニ主張シテ曰ク、法王ノ撰舉ハ羅馬人民及皇帝ノ干渉ヲ脱シ、專僧正ノ手ニ歸セザルベカラズト、其位ニ即クヤ教會ヲシテ政治ノ權力ヲ離レ、法王ノ權力ヲシテ帝王ノ上ニ立タシメンコトニ勉勵セリ是ニ於テカ皇帝ト法王トノ衝突起リ、延キテ一百年ニ及ベリ、ぐれごりーハ此目的ヲ達スルガ爲ニ三箇ノ條規ヲ實行セントス、曰ク僧職ノ買賣ヲ禁ズルコト、曰ク國君ノ僧職任命ノ權ヲ廢スルコト、曰ク僧侶ハ操行嚴正ニシテ妻帯スベカラザルコト是ナリ、日耳曼帝ヘんりー四世ハ唯其命ニ從ハザリシノミナラズ、反テ法

四百四十八

王ヲ廢セントス、法王大ニ怒リヘんりーを破門セシテ以テヘんりー遂ニ伊太利ニ來リ哀ヲ法王ニ乞フニ至ル、是既ニ前章ニ於テ記述セシ所ナリ、此ニ於テ中世紀人民ノ歷史上ニ一新時期ヲ開キ、法王ノ位ハ宗教上及政治上ニ於ケル萬般ノ權力ニ源泉トナレリ、  
諸法王ノ政策 ぐれごりー七世ニ繼ギテ法王トナリシモノハ皆ぐれごりーノ政策ヲ固守セリ、故テ以テ其權勢日ニ加ハリ、英吉利、葡萄牙等ノ國王ハ皆其臣下ト稱スルニ至ル、日耳曼帝ヘんりー五世ノ如キモ膝ヲ屈シテラ、一むすノ和約ヲ結ヒ、僧職任命權ヲ法王ニ分與スルニ至レリ、千百九十八年いんのーせんと三世立チテ法王トナルニ及ヒ、法王權ハ益々擴張シ、諸國ノ王ハ皆其下風ニ立チ歲貢ヲ納ル、モノアルニ至ル（ぐれごりーノ歿後百餘年）、爾後法王ハ皇帝黜陟ノ權ヲ握リ、皇帝トナルモノハ必法王ノ批准ヲ要セリ、いんのーせんとヨリぼーにーあす八世ニ至ルノ間、即

## 第六章 十字軍

### 第一 東洋ノ形勢及十字軍ノ起因

十三世紀ノ終ニ至ルマデハ法王權隆盛ノ時期ナリ、然レドモ其衰頽モ亦此時ニ兆セリ、  
寺院制 寺院制ハ初東洋ヨリ起ル、三世紀ノ終、埃及人あんどにー其富財ヲ捨テ徒弟ヲ集メ幽居道ヲ修メタリシガ、其制次第ニ歐洲ニ傳ハリ、第六世紀ニ至リテ伊太利人ベネデクト始メテ下伊太利ノカッシノ山ニ寺院ヲ建テ、衣服、飲食及修行ヲ衆徒ト偕ニシ、其徒タルモノハ獨身、清貧及從順ノ三戒ヲ恪守セリ、既ニシテ「ベネデクト」制ハ四方ニ傳ハリ、寺院ノ創建盛ニ起ル、此制ハ全ク弊害ナキニアラザレドモ、暗黒ノ時代ニ處シテ人類ノ福祉ヲ補ヒシコト亦鮮少ナラズ蓋此等ノ道士ハ或ハ深林蕞澤ヲ開キテ美田トナシ、或ハ窘迫依ル所ナキモノヲ保庇シ、或ハ學校ヲ設ケ幼年ノ心思ヲ開拓セリ、故ニ古代文學、技藝ノ續々トシテ僅ニ存セシハ一ニ其功ニ因レリ、

世界誌 史紀 十字軍 東洋ノ形勢及十字軍ノ起因

四百四十九

東羅馬帝國及土耳其人 今ヤ十字軍ノ興起ヲ叙セントスルニ臨ミ、先當時ニ於ケル東洋ノ形勢ヲ略述スベシ、基督教、同々教ノ興隆スルニ當リ東西其壤ヲ接スルノ處、爭亂常ニ絶エス、當時希臘帝國ハ兩教徒ノ間ニ介在シ、内ハ宗教爭論ノ爲ニ分裂シ、外ハ亞刺比亞人、魯西亞人、ばるげりあ人等ノ侵寇ヲ蒙リ國勢振ハス、ベーシる（九百七十六年）二世一特能ク之ヲ掃蕩シタリト雖、せるじく土耳其人ノ興ルニ及ヒテ又常ニ其困ムル所トナレリ、千〇五十八年土耳其人ハばるだをノあばしと統「かりか」應テ滅シ一大國ヲ建テ「さるたん」（土耳其酋長ノ稱）あるふ、あーすらんノ時希臘帝ローマナす四世ヲ擒ニシあーめにあチ略奪セリ、其子まれく、しやーニ至リしりあ、ばれ



すたいん、ヒユルされむナ略シ進デ埃及ニ及ベリ、ま  
れく、しやノ死後國內分裂シ其一部屬ナルをりまん  
ハ希臘帝國ト戦ヒ小亞細亞ヲ攻略シ、あいにあむ王  
國ヲ建テ以テ十字軍ノ時ニ至ル、

### 十字軍ノ起因

紀元第一世紀ノ頃ヨリ既ニヒユル

されむニ於ケル基督ノ墳墓ニ詣ルノ風、行ハレこんす  
たんだいん大帝ノ太后へれな會堂ヲヒユルされむニ設  
クルニ及ヒ巡拜者益々多ク、亞刺比亞人ノばれすたいん  
ヲ占領スルニ及ヒテモ、尙其利ヲ圖リテ巡拜者ヲ優遇  
セシガ、一千〇七十六年せるじま、土耳其人ノ有ニ歸  
スルニ至リ、其地ニ基督教徒及巡拜者ヲ見ル「蛇蝎ノ  
如ク、殺戮劫掠ヲ恣ニセリ、西方基督教徒之ヲ聞キ大  
ニ激昂シ、聖堂ヲ回復セントスルノ情轉々熾ナリ、會  
比亞ター、せ、はーみとど(「はーみとど」トハ隠士ノ義ナ  
リ)ノヒユルされむヨリ還ルニ及ヒテ、法王うるばん  
二世ノ贊助ヲ得、而シテ諸國ヲ遍歴シ熱心ニ其虐待ノ

細亞ニ入ルニ及ヒテ土耳其人ノ爲ニ邀撃セラレ、にし  
あノ平原ハ屍ヲ以テ蔽フニ至ル、之ヲ不規律軍隊ト云  
フ、第一十字軍ノ先驅ヲ爲セシモノナリ、

### 第二 第一、二、三、十字軍

第一十字軍(一千〇九十六年今ヨリ九百〇二年前ヨ  
リ一千〇九十九年マデ四年間) 第一十字軍ノ本部ハ  
軍備能ク整頓シ、佛蘭西及伊太利ノ諸侯騎士多ク其中  
ニアリ、下ろーれーん公を、おれー其弟はるどらん、  
グー、まんとあ伯ひ、のーまんで、い公るばいと、つ  
ーるーす伯れーもんど、るばいとぎすかーをノ子ばへ  
もんど其甥たんくれ、を等之ニ將トシ、道ヲ分チテ進  
ム(一ハ匈牙利ヨリシ、一ハ伊太利及だるまで、いヨリ  
ス)兵凡五十萬ト稱ス、十字軍ノ希臘ニ達スルヤ、皇  
帝あれきしあす狐疑シ之ヲ待スルコト薄シ、因テ陷ハ  
シムルニ利ヲ以テシ、進ンテ小亞細亞ニ入り、にしあ  
ヲ取リテ之ニ酬フ、爾後東南ニ進ミ、大ニ土耳其人ヲ

狀ヲ遊説シ、聖堂ノ回復ヲ勸誘セリ、比亞ター若面烟  
眼ニシテ弊衣ヲ着ケ雄辯懸河ノ如ク、大ニ人民ノ感情  
ヲ動カセリ、是ニ於テ法王ハ一千〇九十五年大ニ僧侶  
諸侯平民ヲ南佛蘭西ノくらーもんどニ會シ、慷慨悲憤  
聖堂ヲ恢復スルハ神ノ意ナルコトヲ演説セシカバ、衆  
皆拜跪シ、奮ツテ神軍ニ加ハランコトヲ乞ヘリ、而シ  
テ赤色布片ノ十字架ヲ右肩ニ附シ、以テ從軍ノ標トナ  
ス、十字軍ノ名此ニ起ル、

### 十字軍ノ先驅

法王ノ演説深ク人心ヲ動シ、男女

老少其業次ヲ捨テ、狂奔鳥集シ、軍備未整ハズ食糧未  
具ハラザルヲモ顧ミズ、比亞ター及佛國ノ騎士うる  
たー、せ、べんにれっす(「べんにれっす」トハ貧窮ノ義ナ  
リ)ヲ將トシ、日耳曼匈牙利ヲ經テこんすたんでの  
ーぶるニ進發ス、衆二十萬ト號ス、然レドモ中途ニシ  
テ土饑餓飢渴ノ困難ニ遇ヒ、能クこんすたんでの  
のーぶるニ達セシモノ僅ニ七千人ノミ、其進ンテ小亞

てーりりーあむニ破ル(一千〇九十七年)、然レトモ土  
耳其人ハ田野ヲ濳メテ軍ヲ退ケシヲ以テ、十字軍糧食  
給セス、之ニ加フルニ諸將ノ不和ト炎熱ノ苦トヲ以テ  
シ、兵士ノ本國ニ歸リ或ハ道路ニ横死スルモノ甚多シ、  
十字軍ハ少シモ屈セズ勇氣ヲ鼓舞シテ進ミ、おんてい  
わくヲ圍ミ九閱月ニシテ漸ク之ヲ陥ル、忽ニシテ復  
土耳其ノ大軍ニ圍マレ、城中食盡キ徒ニ死ヲ待ツニ至  
ル、偶、軍中神槍ヲ發見セリト稱シ軍氣大ニ振ヒ、一撃  
シテ土耳其人ヲ破リヒユルされむニ進ム、既ニシテ  
一高丘ニ達シ、遙ニヒユルされむヲ望ム、衆皆拜跪感  
泣セリ、當時ヒユルされむハ復埃及ノ「かりふ」ノ領  
スル所トナリ、十字軍ノ來襲スト聞キ、壁ヲ堅クシ野  
ヲ濳メ、且毒物ヲ河流ニ投セリ、十字軍大ニ困難セシ  
ガ、苦戰三十餘日ニシテ遂ニヒユルされむヲ陥ル、實ニ  
千〇九十九年七月十五日ナリ、歡喜ノ情ト共ニ復讐ノ  
念強ク、さらせん人ノ老少男女殺戮セラル、モノ一萬

人、是ニ於テ將士皆武器ヲ投シ、脱帽徒跣、聖堂ニ謁シ成功ヲ感謝シ、而シテ後でいふおれ一ヲ推シテじまるさんむノ王タラシメントス、とておれ一之ヲ辭シ、單ニ聖堂ノ保護者ヲ以テ任シ、歐洲ノ封建制度ヲ施行セリ、後又埃及及土耳其ノ軍ヲ破リ千百年ニ至リテ死ス、弟ばるどらん代リテじまるさんむ王ト稱セリ、

**第二十軍** 千四百四十六年土耳其人基督教徒ノ都府を破壊シ且じまるさんむ王國ニ侵寇セシカハじまるさんむニ在ルモノ援テ歐洲諸國ニ求ム、是ニ於テカ第二十軍起ル、第二十軍ノ首唱者ハせんじとば一ナトニシテ其清淨ナル行操、熱心ナル雄辯ハ、忽人心ヲ奮起セシメ、佛蘭西王ルイ七世日耳曼王こんらと三世之ヲ贊シ兵凡三十萬人ニ將トシ、千四百四十七年匈牙利ヲ經テこんすたんとにのゝるニ進ム、日耳曼王獨先シテぼすぼらす海峡ヲ渡リ小亞細亞ニ入ル、時ニ東羅馬帝まにある日耳曼王ト隙アリ、竊ニ

土耳其人ヲ導キこんらとノ軍ヲみんだ一河畔ニ襲撃セシム、軍死スルモノ大半、こんらと殘兵ヲ收メ、退キテ佛王ルイト軍ヲ合セ、又進撃シテ數多ノ兵士ヲ失ヒ遂ニじまるさんむニ達ス(一千四百四十八年)、次テだますかすチ國ミリアス、將卒勢ヲ失ヒ本國ニ還ルモノ多シ、第二十軍ノ効果實ニ漠然タリ、此時ニ當リテ土耳其ノ英傑「さるたん」さるでいんハ埃及ノふあていまいと、「かりふ」應ヲ滅シ、暫時ニシテかいりヨリあれ「ぼー」ニ至ルマテ盡ク之ヲ征服シ、じまるさんむ王國ニ侵入セリ、千八百八十七年たいべりあすノ戰ニ於テ基督教徒大ニ敗レ、王及數多ノ貴族虜トナリ、じまるさんむモ亦略奪セラル、然レトモさるでいんハ性廣濶ニシテ基督教徒ヲ遇スルコト甚寛ナリキ、

**第三十字軍**(一千八百八十九年より一千九百九十二年まで) じまるさんむ略奪ノ報一タヒ歐洲ニ達スルヤ、人心大ニ震動シ、第三十字軍ヲ起セリ、伊太利ノ南端ヨリヲ途ニ要シ、之ヲ擒ニシテ日耳曼ニ送ル、りちやいと捕ハル、コト十三ヶ月、償金ヲ出シ且臣屬タルコトヲ誓ヒ、漸ク赦サレテ國ニ歸ルコトヲ得タリ、蓋あくるノ役日耳曼ノ國旗ヲ汚シタルニヨルナリ、

**第三、第四以下ノ十字軍及十字軍ノ結果**

**第四以下ノ十字軍** 第三十字軍ノ後、十字軍ノ起ルコト四回、及幼年十字軍匈牙利王ノ十字軍等アリシト雖、皆其目的ヲ達スル能ハズ、第四十字軍(一千二百〇二年ヨリ一千二百〇四年マデ)ハ法王いんのいせんと三世ノ首唱セシ所ニシテ、大抵佛蘭西ノ諸侯騎士ヨリ成ル、海路こんすたんとにのゝるニ達スルヤ、希臘人ト爭端ヲ開キ、希臘ノ地ヲ略シラていん帝國ヲ建テふらんだ一伯ばるどらんヲ以テ帝トナス、後爭亂已マズ、千二百六十一年にしあ帝みかゐる、ばりおろがすノ爲ニ滅サル、要スルニ此軍ハ宗教ノ熱心ヨリ

すかんでいねーが、あノ山地ニ至ルマテ兵ヲ援テ起タサルモノナシ、其本國ニ止マルモノハ十字軍税(「さうでいん」税)ヲ課セラル、日耳曼帝おれでりく一世、佛蘭西ふりつと二世、英吉利王りちやいと一世之ニ將タリ、日耳曼王先發シテ小亞細亞ニ入り、あいにこにあむノ戰ニ於テ大ニ勝利ヲ得シカ、しりしあノかりかどなす河ヲ渡ラントシ溺レテ歿シ、其兵本國ニ還ルモノ多シ、殘兵ハおれでりくノ第二子おれでりくニ從ヒ、しりあノ基督教徒ト共ニあくるチ國メリ、佛、英二王ハ海路ヨリ小亞細亞ニ入り、日耳曼ノ殘兵ト合シ、遂ニあくるチ陷ル(一千九百九十年)、時ニ英王功ヲ負ンデ專横ナリ、佛王及埃太利公れおぼるどと和セズ、俱ニ軍ヲ引キテ國ニ還ル、英王獨リ止リ奮戰シ、じまるさんむれヒヲ圍ミ拔ク能ハズ、遂ニさるでいんと和シ、聖堂巡拜者ヲ保護セシムルコトヲ約シテ還ル、埃太利公れおぼるど日耳曼帝へんり一六世ノ命ヲ承ケりちやいと

ハ寧ろ功名心ノ爲ニ起リタリシモノナルバ、其結果此ニ至ル亦怪シムニ足ラズ、幼童十字軍(千二百十二年)ハ日耳曼佛蘭西ノ幼童數千人ヨリ成リ、一ハまるせいゆヨリ、一ハ伊太利ノ諸港ヨリシ海路じゑるされむニ向フ、途ニシテ或ハ斃レ或ハ奴隸ニ賣ラレ生還スルモノナシ、第五十字軍(千二百二十八年ヨリ千二百二十九年マデ)ハ日耳曼帝おれでり。く二世ノ率ユル所ナリ、帝勇敢善ク戦ヒ、遂ニじゑるされむニ入ル、然レトモ其軍ヲ班セシ後、十數年ニシテ復同々教徒ノ手ニ歸セリ、第六十字軍(千二百四十八年)ハ佛蘭西王るい九世ノ起セシ所ニシテ、王ハ先埃及ニ航シだみ。つたヲ略セシガ、翌年軍敗レテ虜トナリ、巨萬ノ償金ヲ出シ己及兵士ヲ償ヒ本國ニ還レリ、第七十字軍(千二百七十年)モ亦るい九世ノ起セシ所ナリ、王ハさらせん人ヲ伐タント欲シて。にすニ至ル、會疫癘軍中ニ流行シ、士卒死スルモノ大半、王亦之ニ殞ル、英國ノ太

子おとう。と亦軍中ニ在リ、ばれすたいんニ進軍シ、暫時基督教王國ヲ維持セシガ、其歸國ノ後めんて。お。く及あくるモ同々教徒ノ爲ニ掠奪セラレ(一千二百九十一年)、亞細亞ニ於ケル基督教徒ノ根據全ク亡ビ、十字軍此ニ終リテ告グ、  
**結果** 歐洲中世紀人民ノ宗教及功名ノ熱情ハ發シテ十字軍トナリ、遠征殆二百年ニ垂ントシ其間生靈ヲ失フコト萬ヲ以テ數フ、而シテ遂ニ成功ヲ見スシテ畢レリ、然レトモ其間接ニ歐洲ノ開明ニ與ヘタル影響ハ實ニ莫大ナリトス、  
 第一、十字軍ハ同々教徒戰勝ノ勢ヲ挫キシテ以テ歐洲人ヲシテさらせん人ノ侵略ヲ免レシメタリ、  
 第二、封建制度ハ之ガ爲ニ其勢力ヲ殺滅セラレタリ、  
 即從軍諸侯ハ多ク其領地ヲ賣却シテ軍資ニ充テ、或ハ軍ニ死シテ嗣ナキモノハ國王ノ沒收スル所トナリシヲ以テ統一政治ノ傾向ヲ生ゼシメ、且市府及市民權ノ發

### 第一 日耳曼

達ヲ促スニ至レリ、  
 第三、騎士ノ氣風ヲ高尚ニシ、且其勢力ヲ擴張セシメタリ、蓋懸軍異域ニ在リ、艱苦ヲ同ケセルヲ以テ同情相憐ミ緩急相救フノ義氣ヲ作興シ、種々ノ結社起ルニ至レリ、  
 第四、大ニ智識ヲ増進セリ、蓋十字軍ノ起ルヤ歐洲人ハ東洋ノ文明ト接シ、其學術技藝ヲ知得シ從來ノ狹隘固陋ノ見ヲ脱シ、廣ク世界ノ事物ヲ見聞セシヲ以テ其思想宏遠トナレリ、  
 第五、産業ノ進歩ヲ促セリ、十字軍以來歐洲ノ製造技術ハ大ニ進歩シ殊ニ近代商業ノ發達ハ實ニ此時ニ起レリ、蓋十字軍ノ間ハ地中海ノ航通頻繁ニシテ從ヒテ商業モ亦大ニ進ミ、東洋ノ奢侈品ハ陸續歐洲ニ輸入セラレ、海岸ノ諸府ハ日ニ繁榮ニ趣ケリ、

### 第七章 中世紀ニ於ケル歐羅巴及東洋諸國

世界誌 史紀 中世紀ニ於ケル歐羅巴及東洋諸國 日耳曼

ほーへんすたうふん家 皇帝へんりー五世殞シテからんてにあ家ノ系統絶エ、さくそん公ろーさー帝位ニ登リ十二年ニシテ殞ス、諸侯ハほーへんすたうふん家ノすら。いびあ公こんらつと三世ヲ撰ンデ王トナセリ、是ヲほーへんすたうふん家ノ祖トナス、う。るふ家ノば。りあ及さくそん公へんりー、せ、ぶらうとハ己帝統ノ繼續者ナルヲ主張シ、こんらつとニ服從セズ、こんらつと乃其二公國ヲ沒收セリ、是ニ於テ戰亂復起リ、數年ノ後こんらつと終ニ勝利ヲ得タリ、是ヨリシテ「う。るふ」黨「う。いふりんぐ」黨(即ほーへんすたうふん黨)兩立シ、伊太利ニ於テハ「う。るふ」黨(法王黨)「ぎべるりん」黨(皇帝黨)ノ稱ヲ得タリこんらつとハ勇敢ニシテ第二十字軍ヲ起セリ、  
 ふれでりつく一世 ふれでりつくハ「ばーばろ」(赤髯ノ義)ト稱セラレこんらつと三世ノ姪ナリ年三十

一ニシテ帝位ニ登ル、帝能クカチ政治ニ用キ、兼テ文學  
技術ヲ好メリ、さくそん及ふらんにあ王朝時代ノ權  
力ヲ挽回セント欲シ、專王權ノ伸張ヲ計レリ、此時ニ當  
リテ北部伊太利ノろむば一ト諸府獨立ヲ唱へ、市府諸  
侯同盟シテ帝ニ抗ス、帝之ヲ征セントシテ伊太利ニ入  
ルコト前後六回、みらん及其他ノ小市府ヲ征服セシガ  
反服常ナク、遂ニ法王あれきさんだ一三世トこんすた  
んすノ平和條約ヲ結ヒテ、市府ノ自治ヲ許セリ(千百  
八十二年)、此間日耳曼ニ於テハラハスル家ノへんりー、  
せ、らいおん(獅王)自家ノ權力ヲ恢復セント欲シ、其領  
土ヲ擴張セシガ、ふれでりく伊太利ヨリ還リ之ト戰  
ヒ、遂ニ三年間英國ニ放逐セリ、然レトモ其故領ヲ  
んすうく及り、ねぶるぐヲ有スルコトヲ許セリ、  
是ニ於テ國勢次第ニ平和ニ趣キ、遂ニ第三十字軍ヲ率  
キテしりしあニ死セリ、

四百五十六  
でりく一世殂シ、嗣子へんりー六世立ツ、帝勇敢殘  
暴諸侯ノ心ヲ失ヘリ、管テししりー及ねーぶるす王國  
ヲ征服シ、又へんりー、せ、らいおんと戰端ヲ開キシ  
ガ、婚事ヲ以テ和ヲ講セリ、又たすかに一ニ關シテ老  
法王しーれすていん二世ト事ヲ争フノ間、帝俄然トシ  
テ逝ケリ、嗣子ふれでりく二世猶幼ナリ、おとど一四  
世(へんりー、せ、らいおんノ第二子)「らるる」黨ヨリ  
推サレ「ふりつぷ(へんりー六世ノ弟)「ハ」らういぶり  
んぐ」黨ヨリ推サレテ共ニ位ニ即ケリ、ふりつぷ暗殺  
ニ遭フノ後、法王いんのーせんと第三世おとど一ヲ援  
ケ己ノ權威ニ服從セシム、後おとど一ハいんのーせん  
どノ意ニ忤ヒ其逐フ所トナレリ、  
ふれでりく二世 いんのーせんとハししりー王  
ふれでりくヲ擁シ、立テ、帝トナセリ、帝英才アリ  
數國ノ語ニ通ジ、又ししりーニアリテさらせん人ト交  
通シ、大ニ學術ノ智識ヲ得タリ、帝位ニ登リテヨリ國

政日ニ進歩セシガ、在位ノ間概ろむば一ト市府并ニ法  
王ぐれでりー九世ト争ヘリ、帝ノ時蒙古人ハ成吉思汗  
ヲ將トシ亞細亞ヨリ露西亞匈牙利ヲ征服シ、しれしあ  
ニ襲來シりぐにっヲ略シ(一千二百四十一年後)  
匈牙利ニ退ケリ、

長シ其故領ヲ回復セントシ、伊太利ニ戰ヒ虜トナリテ  
死セリ、ほーへんすたうふえん家此ニ至リテ絶ユ(千二  
百六十八年)  
是ヨリ國內ノ諸侯或ハちちー(英王へんりー三世ノ  
弟)ヲ立テ、或ハあるふんりー(ふれでりくノ曾孫)  
ヲ擁セリ、然レト皆徒ニ虛名ヲ有スルノミ、諸侯ハ各  
其欲ヲ逞フシテ相侵略シ、甚シキハ武士ヲ驅リテ商賈  
ヲ鹵掠セシム、是ニ於テカ彼らいん同盟即はんさ同盟  
(七十有餘ノ市府ヨリ成ル)ノ如キモノ起リ、各地ノ市  
府獨立スルニ至レリ、

關位時代 ふれでりく二世ノ後日耳曼ハ一定ノ主  
ナク、國狀紛々トシテ麻ノ如シ、是所謂關位時代ニシ  
テ凡二十有餘年ニ渉ル、こんらうと四世繼ギ立ツニ及  
ヒ、法王黨ハてーりんちあノへんりー、らすペヲ立  
テ、王トナス、へんりー、こんらうとト戰ヒ敗ル、次キ  
テ荷蘭ノうーりあむ又法王黨ノ爲ニ撰レテ王トナル、  
然レトモ威望ナシ、こんらうとハねーぶるす王國ヲ鎮  
定セントシ伊太利ニ入り幾何ナラズシテ殂セリ、こ  
んらうとノ子こんらうとん猶幼ナリ、あんじょ一ノち  
ーれす(佛王の九世ノ弟)法王うるばん四世ノ招ニ應  
ジテねーぶるす及しりーヲ領セリ、こんらうとん年

はぶすぶるぐ家及其他の王家 千二百七十三  
年はぶすぶるぐ伯るーとるお撰ハレテ王トナリ、擾亂  
其局ヲ畢ル、るーとるおハ伊太利ノ國事ニ干與セス、  
教會ニ從順シ以テ日耳曼ノ擾亂ヲ救濟センコトヲ勉  
メ、賊徒ノ要塞ヲ毀テ、暴横ノ騎士ヲ刑セリ、時ニぼ  
へみあ王おとど一ハ伊太利すていりあ、かーにから、

かりんしあチ合セ、勢甚強盛ニシテるゝとるふニ從フ  
 ナ肯セズ、るゝとるふ之ヲ擊ツコト再々、終ニおつと  
 一か一チ殺シ、其領土ヲ取り而シテ之ヲ子あるば一と  
 及るゝとるふニ與ヘタリ、是他日はおすぶるゝ家ノ強  
 盛トナリテ日耳曼史上ニ一要地ヲ有スルニ至リシ原因  
 ナリ、るゝとるふノ後なつそらノあどるふゝす撰ハレ  
 テ王トナリシカ、英王エドワード一世ノ援ヲ得テる  
 一とるふノ子埃太利公あるば一とヨリて、一りんぢあ  
 ナ買ヒ、自家ノ權力ヲ張ラントセシナ以テ、撰擧侯ノ爲  
 ニ廢セラレ、あるば一と一世王位ニ登ル、是時瑞西同盟  
 起リ獨立ヲ謀ル、あるば一と之ヲ鎮定セントシ、途ニ  
 シテ其姪じょんノ殺ス所トナリり、きせむぶるゝ伯へ  
 んり一七世王位ニ登ル、へんり一ハばへみやチ合セ、り  
 きせむぶるゝ家ノ基礎ヲ立テ、然後伊太利ニ入り羅  
 馬皇帝トナレリ、既ニシテ位ヲ争フモノ大ニ起リ、遂  
 ニ法王くれめんと五世ノ爲ニ破門セラレ、後暴ニ列

ス、是ニ於テ埃太利ノふれでりく(あるば一と一世ノ  
 子及ばざりあノるい)共ニ撰ハレテ王トナリ、相争フ  
 コト數年、ふれでりく敗レテ崩トナレリ、然レトモ埃  
 太利黨ノ諸侯ハ猶兵ヲ戢メス、るい平和ヲ希ヒテふれ  
 でりくヲ放チ共ニ並ンテ王トナレリ、るい又法王じょ  
 ん二十二世ト惡シ、自伊太利ニ入り其黨ノ僧ヲ撰ンテ  
 法王トナシ以テ帝位ニ即ケリ、其後法王じょん二十二  
 世ノ繼續者トるいトノ調和成ラザルニ及ンテ、日耳曼  
 ノ撰擧侯(帝王撰擧ノ權ヲ有スル諸侯)ハれんすニ會  
 シ、日耳曼撰擧侯ノ多數ニ由リ撰擧セラレタル王(帝)  
 ハ法王ノ干與ヲ要セサルコトヲ議決セリ(千三百三十  
 八年)るい亦自家ノ權勢ヲ張ラントセシナ以テ數多ノ  
 撰擧侯ハばへみや王じょんノ子ちりれす四世ヲ立テ帝  
 トナセリ、  
 りめきせむぶるゝ家 ちりれす四世ハ日耳曼帝  
 中最學識アリテ五國ノ語ニ通セリ、帝亦大ニ其領土ヲ

據メ自家ノ權勢ヲ進メ伊太利ニ入りろむば一と王  
 及羅馬帝位ニ登レリ、帝ハぶら一と大學(日耳曼大學ノ  
 始)ヲ起シ、又「こゝるでんぶる」ト稱スル憲章ヲ發  
 布セリ(千三百五十六年)、此憲章ニ據レバ日耳曼帝王  
 撰擧ノ權ハ七撰擧侯ノ手ニ歸シ、中三人ハ大僧正ニシ  
 テ、其他ハ王及諸侯ナリ、撰擧權ハ之ヲ世襲シ他ニ讓  
 與スルヲ得ス、撰擧ハふらんくふ。一とニ於テシ、即  
 位式ハあーへんニ於テス、而シテ選舉侯ハ至大ノ特權  
 ナ有シ獨立ノ治ヲ爲セリ、ちりれすノ子わんづゑる  
 立テ殘虐ナリ、諸侯之ヲ廢シるゝば一とヲ立ツ、るゝ  
 ば一と十年ニシテ殞シ、其弟しぎすまんを立ツ、帝ノ  
 時教會分裂シ、一時三法王ヲ見ルニ至ル、是ニ於テこ  
 んすたんす大會(中世紀ニ於ケル教會ノ大會議ナリ)ヲ  
 開キ新ニ一法王ヲ撰擧シテ局ヲ結ベリ、是ヨリ先づら  
 一と大學ノ教授じょんはすすトイヘルモノおつすある  
 と大學ノ教授うらぐりつあ(英王エドワード三世ノ時

教會ノ改革ヲ首唱シ且「ばいぶる」ヲ英語ニ翻譯セリ)  
 ノ説ニ同ジ、教會ノ弊風ヲ改革センコトヲ唱ヘ焚刑ニ  
 處セラレタリ、是ニ至リテ其餘黨亂ヲ爲シ勢甚猖獗ナ  
 リシガ、後黨派分裂シテ勢力微弱トナリ遂ニ討平セラ  
 ル、しぎすまんをノ後義子あるば一と二世位ヲ繼グ、  
 埃太利家ノ帝統茲ニ始ル、埃太利家ハ千八百〇六年な  
 ぼれかん日耳曼帝國ヲ解散セシメシトキニ至ルマデ羅  
 馬帝位ヲ持續セリ、あるば一とノ後ふれでりく三世  
 位ニ即ク、ふれでりくハ日耳曼帝中最長ク位ニ在リ、  
 然レドモ其治世ハ帝權振ハズ、ばへみや及匈牙利ノ如  
 キハ獨立シテ王ヲ撰立セリ、次キテ立ツモノヲまきし  
 みりあん一世トナス、まきしみりあんハば一とがんでい  
 一王ちりれすノ女めりト婚シちりれすノ死スルニ  
 及ヒテねざいらんと及其他ノ領地ヲ得タリ、(此時佛國  
 ハば一とがんでい公國ヲ占領セリ)千四百九十五年う  
 一とすニ國會ヲ開キ、「いむべりあるちむば一」ト稱ス

ル法院ヲ置キ、以テ諸國ノ平和ヲ制セントシ、又帝國ヲ十大區ニ別チ、郵便法ヲ設ケテ通信ヲ便ニセリ、帝ハ又伊太利ノ主權ヲ争ヒテ展、佛蘭西及西班牙ト戰爭セシガ、後其子ふりっふノ爲ニ西班牙ヲ奪ヒ、でいなんどノ女ヲ娶リ、又ぼへみあ及匈牙利王ヲ弑シテ嗣ナキヲ以テ之ヲ并合シ、帝國ノ權力復旺盛トナレリ、

瑞西國

瑞西ノ起原 瑞西ハ、いせるん湖近傍ノウリ、じう、いつ及うんてらうるでん三州ノ同盟ヨリ起ル、此等ノ諸州ハ本日耳曼帝國ノ版圖ニ屬シ、防衛ノ爲同盟ヲナシ、るいどるふ一世ノ時はふすぶるぐ家ニ服從セリ、然レドモ其子埃太利公あるばいと皇帝トナリシ時瑞西人ヲ虐待セシヲ以テ瑞西人遂ニ奮然立チテ獨立ヲ企ツルニ至レリ、

もーがーてん及せむばくノ戦争 日耳曼帝あるばいと瑞西ノ叛ヲ鎮メントシ軍ヲ率キテ進ミ、途

第二 佛蘭西

かへー家 かいろぐいんぢあん王家ノ斷絶スルヤはり伯ひい、かへー王位ニ登ルかへー王家此ニ起りばりヲ以テ首府トナス、然レトモ王權ハ微ヤトシテ振ハス、唯せーん及るーあ河畔ノ小地ヲ統御スルノミニシテ諸侯ノ跋扈ヲ制スル能ハズ、是ヲ以テかへー家數代ノ始王ハ銳意王權ノ伸張ヲ謀レリ、

英佛ノ軋轢 かへー家ノ第三王へんりー一世ノ時のいまんてい公うりあむ英國ニ侵入シテ遂ニ其王位ニ登レリ、爾來英國ニ於ケルのいまん統ノ王ハ、佛國ニ在リテハのいまんてい公タルヲ以テ、漸々兩國ノ間ニ軋轢を生ゼリ、英王へんりー二世ノ后ハ佛王のい七七世の寡婦ナリシヲ以テ、英王ハ其領土あくいてーん州ヲ并有セリ、是ニ於テ英王ノ佛國ニ有セル領地ハ佛王ヨリモ却テ大ナルニ至レリ、是ヨリ兩國ノ軋轢愈甚シク、佛國ノ中世史ハ殆其爭亂ヲ以テ貫穿セリ、

世界誌

史紀 中世紀ニ於ケル歐羅巴及東洋諸國 佛蘭西

ニシテ暗殺ニ遇フ、其嗣れおぼるど(埃太利公)兵凡一萬五千ヲ率キ瑞西ニ入ル、瑞西人兵一千三百人ヲ以テもーがーてんニ遊撃シ大ニ之ヲ破ル、れおぼるど僅ニ身ヲ以テ免ル(千三百十五年)其後七十年ヲ經テれおぼるど(前れおぼるどノ姪)又瑞西ニ入りせむばくノ湖ノ近傍ニ於テ激戦ス、瑞西ノ兵將ニ破レントス、時ニあーのるど、ふん、うんけるりーを挺進して斃る、餘兵奮戰復大ニ克ツ(千三百八十六年)、其後二年ヲ經テ又ねーふえるすノ勝利アリ、是ヨリシテ瑞西同盟ニ加ハルモノ益多シ、

同盟ノ發達 瑞西同盟ノ勢力ハ駁ヤトシテ進ミ、ちーれす、せ、ぼーるど、(ばーがんでい公)ト戦ヒ之ニ勝チシヨリ、同盟人ノ勇名諸國ニ轟キ、後ニハ傭兵トナリテ他國ニ戰フモノアルニ至レリ、十五世紀ノ末日耳曼皇帝まきしむりあん一世瑞西ニ權ヲ振ハントシテ威ヲズ、遂ニ平和條約ヲ結ビ其獨立ヲ承認セリ、

ふいりっふ(をーがすたす)二世 ふりっふ二世ハしーれめーん帝以後佛蘭西王中最英名ノ名アリ、偶英王じょんと等ヲ生ジ、のいまんてい、あんじょめーん其他ノ諸州ヲ略奪シ、市府ニハ若干ノ特權ヲ與ヘタリ、市民ハ之ガ爲ニ自市長ヲ撰フコトヲ得、且王家ヲ助クルニ至レリ、千二百十四年ふーがーいねーニ於テ日耳曼英吉利ノ軍ヲ破リシヨリ王權大ニ揚ル、るい九世ふりっふ四世ノ相繼キテ位ニ登ルニ及ヒテ、國勢益強固トナレリ、

るい九世 るい九世ハ善良ナル心ヲ以テ萬民ニ臨メリ、王ハ大ニ法制ヲ改善シ、王國法庭ヲ以テ最高權ノ存スル所トナシ、且諸侯貴族ノ私闘ヲ判決セリ、此間佛國ハ長足ノ進歩ヲナシ、當時ノ歐洲人民中最上位ヲ占ムルニ至レリ、ばりノ大學ノ如キモ此時盛大ニ趣キタリト云フ、

ふいりっふ四世 ふりっふ四世ハ容顏ノ美ナルヲ以

テ名アリ、然レトモ其性ハ殘暴ナリキ、王ハ市民ニ自由ヲ與ヘ以テ王家ノ援トナシ貴族ノ侵略ヲ防ケリ、又僧侶課税ノ事ニ關シ永ク法王ぼーにふさす八世ト爭ヒ、千三百〇二年貴族僧侶及平民ノ代議士ヲ召集シ以テ自家ノ權勢ヲトセリ、是佛國人ノ議政權ヲ得タル嚙矢ナリ(此議會ハ毎年兩度ばりニ召集セラル)、其後法王ヲ廢シ佛國ノ僧くれめんと五世ヲ法王トナシ、南部佛蘭西ノあづーいんよーんニ居ラシム、是ヨリ法王ノ權衰ヘテ復振ハズ、王又法律ニ於テ大ニ勉ムル所アリ、法科大學ヲおーれあんニ設立セリ、ふりぶノ三子相繼キ王トナルノ後、佛國ノ王位ハゞるあ家ニ移レリ、

ああるあ家 かべー家最後ノ主ち、これす四世千三百二十二年殞シテ嗣ナシ、是ニ於テカ王位相繼ノ論紛々トシテ起リ、ゞるあ伯ち、これす遂ニ王權ヲ握ル「ふりぶ六世是ナリ、此繼承ノ件英王えとら、

と三世ノ爭フ所トナリ百年戰爭起レリ、

**百年戰爭** 英王えとら、と三世ハふりぶ四世ノ孫トシテ佛國ノ王位ニ即カンコトヲ要ム、佛人さうく法律ニヨリテ之ヲ拒ム、是ニ於テ英王自王位ニ登ラントシ海陸ノ兵ヲ起シテ佛國ニ侵入セリ、時二千三百三十七年ナリ、始するいすノ海上ニ於テ英兵勝利ヲ得、次デくれしーノ戰ニ於テ英兵又大ニ勝チ、佛國ノ騎士死スルモノ多ク、ふりぶ僅ニ身ヲ以テ逃ル(千三百四十六年)くれしーノ役後十年ヲ經、佛王じょん六萬ノ騎士ヲ以テラ、一るす親王ノ寡兵トふあてにニ戰フ、佛人輕進シテ利ヲ失ヒ、じょん崩トナリ英國ニ送ラル、其後佛國ニ於テ貴族平民ノ爭起リ、亂平キテ英國トふれてにノ和約ヲ締ビじょん王國ニ還ルヲ得、英王ハ佛國ノ王位繼承ノ要求ヲ絶テリ、然レトモ英王ハ三百萬「くらおん」ノ償金ヲ得、猶依然あく、ていん、かーれーノ地ヲ領セリ、ち、これす五世ニ至リ

此條約ニ背キ大ニ英國ノ侵地ヲ回復セリ、其子ち、これす六世ノ時内亂復起ル、是ニ於テカ英王へんりー五世兵ヲ起シテ佛國ニ迫リ、えちんてートノ戰ニ於テ英兵大ニ勝利ヲ得、進デばりニ迫ル、此時内亂益甚シク、遂ニ復英王トどるあーノ條約ヲ結ビ、ち、これす六世ノ死後英王へんりー五世及其子孫佛國ノ王位ニ登ルベキコトヲ約ス、既ニシテち、これす及へんりー共ニ逝ケリ、然レトモ佛人英王ノ入ルヲ拒ンデち、これす七世ヲ立ツ、是ニ於テ英人又兵ヲ起シテべとふ、と公ヲ將トシテ佛國ニ侵入シ、連戰利ヲ得、到ル所ノ都府皆陥ル、遂ニ軍ヲ驅ツテ南佛蘭西ニ入りおーれあん府ヲ圍ム、佛國ノ危機實ニ旦夕ニ迫レリ、時ニ一少女じあん、だーくといヘルモノアリ、自神勅ヲ受テ佛國ノ危急ヲ救フ、稱シ、王ニ謁シテ其兵ヲ指揮セリ、是ニ於テ軍氣大ニ奮ヒおーれあんノ圍ヲ解キ、次デ英軍ヲ佛國ヨリ驅逐スルニ至ル(千四百五十三年是ヨリ先じあ

んだーくハ既ニばーがんであ人ノ爲ニ虜ニセラレ、英軍中ニテ殺サル)百年戰爭此ニ全ク終テ告ク、此時英領ニシテ佛國ニ存スルモノハ唯かーれーノ一地アルノミ、

**るい十一世** るい十一世立ツニ及ヒテ、封建的風習ヲ破壊シ中央集權ノ實ヲ擧ケ、貴族平民皆一般ニ王朝ノ臣タルニ至レリ、又王ハ大ニ疆土ヲ拓キ、道路溝渠ノ開鑿ニ力ヲ用ヒ、殖産教育ヲ獎勵シ、佛國ノ權勢、歐羅巴王國中ニ冠タルニ至レリ、

**第三 英吉利**

**のーまん家** ういりあひ一世ノ英國ヲ征服シテ王位ニ登リシコトハ既ニ之ヲ説ケリ、是テのーまん家王朝ノ祖トナス、次デ王位ニ登レル者三人アリ、ういりあひ二世、へんりー一世及すてふん是ナリ、すてふん殞シテへんりー二世王位ニ即ク、是ヲふらんたぢねと家ノ祖トス、

**ぶらんたぢねつと家** へんりー二世ハへんりー一世ノ女おんじょー伯ぢあおつふれー、ぶらんたぢねつとニ再嫁(初日耳曼帝へんりー二世ニ嫁セリ)シテ生メル所ナリ、王ハ夙ニ司法ノ制度ヲ改革シ、又軍事ヲ整備シ、專横ナル貴族ノ城砦ヲ破壊シ以テ大ニ諸侯ノ勢力ヲ削レリ、王ノ時愛爾蘭及佛國ノ西部地方ハ全ク英國ノ領ニ歸セリ、へんりー二世ノ後りち、一と及じょん兄弟繼ギ立ツヒ、ん暗愚ニシテ佛國ニ於ケル領地ヲ失ヘリ、又法王いんのーせんと三世ヨリ破門セラレ、英吉利及愛爾蘭ヲ法王ニ與へ、而シテ自借地トシテ之ヲ領スルニ至レリ、

**大憲章** じょん王ハ既ニ此ノ如キ不名譽ノ措置ヲナシ、且重稅苛斂ヲ以テ人民ヲ苦メシカバ、貴族人民等群起シ王ニ迫リテ大憲章ヲ承認セシメ(千二百十五年)、一時王ノ爲ニ推破セラレタル舊法善習ヲ確定セリ、是實ニ英國自由制度ノ基礎トナレリ、

えとらう。一と之ヲ伐タントシ途ニシテ殞ス、嗣王えとらう。一と二世薄弱ニシテ蘇格蘭遂ニ獨立スルニ至レリ、**百年戰ノ結果** 百年戰ノ概略ハ既ニ佛國ノ條下ニ記セルガ如シ、抑此戰爭ハえとらう。一と三世ノ時其端ヲ發シ、らんかすたー家ノ王へんりー六世ノ時ニ至リ内亂ノ爲ニ和議ヲ講ゼズシテ終リシト雖、其結果ハ大ニ英國人民ノ國民的思想ヲ強固ナラシメタリ、是ヨリ先、のーまん人トさくそん人トハハシク相協合セザリシガ、是ニ至リテ其感情全ク消失シテ唯一英國國民タルノ精神ヲ有スルニ至レリ、

**らんかすたー家** 千三百九十九年りち、一と二世國會ノ廢スル所トナル、是ニ於テぶらんたぢねつと家ノ王統絶エ、らんかすたー家ノ二代りへんりー四世王位ニ即ク、次テ立ツモノヲへんりー五世及へんりー六世トナス、元來らんかすたー家ハえとらう。一と三世ノ第四子ノ後ニシテ、其第三子ノ後ハよーく家ナリ、へん

世界誌 史紀 中世紀ニ於ケル歐羅巴及東洋諸國、伊太利

**議會** じょんノ子へんりー三世位ニ即ク又無道ナリ、貴族復一時ニ起ル、さいもん、と、もんどふ。一とハ民權ノ伸張ヲ熱望セル貴族ニシテ之ガ首領トナリ、王トれう。すニ戰ヒ之ヲ擒ニセリ、是ニ於テさいもん國會ヲ召集シ、舊來ノ貴族僧侶ニ加フルニ騎士市民(一侯國ヨリ騎士二人一市府ヨリ市民二人)ヲ以テシ上下兩院ヲ組織セリ、是實ニ英國議會ノ濫觴ニシテ自由擴張ノ一大進歩ナリ(千二百六十四年今ヨリ六百三十三年前)

**うえーるす及蘇格蘭征戰** へんりー三世ノ子えとらう。一と一世ハ古來獨立セルうえーるすヲ征服シ英國ノ制度ヲ施行セリ(千二百八十三年)又蘇格蘭王位繼承ノ争ニ乘シテ之ヲ征ス、ういりあひ、う。れーす兵ヲ擧ケ之ニ抗セシガ、軍敗レ虜トナリテ死シ、蘇格蘭始征服セラル、(千二百九十六年)、然レドモ蘇格蘭人猶服セズ、ろばーとぶるーす立ツテ王トナリ又英兵ニ抗セリ、

りー六世ノ時よーく家起テ位ヲ争フ、是ニ於テカ有名ナル薔薇戰爭起ル、

**薔薇戰爭及よーく家** 薔薇戰爭ハ實ニ千四百五十五年ヨリ千四百八十五年ニ至ルマテ三十年間ニ亘レリ、而シテらんかすたー家ノ黨ハ紅、よーく家ノ黨ハ白薔薇ヲ以テ其記號トナセシヨリ此名アリ、交戰六年ニシテよーく家勝利ヲ得テはとらう。一と四世位ニ即ク、よーく家ヨリ出テ王位ニ登リシモノヲはとらう。一と四世えとらう。一と五世及りち、一と三世トス、三代二十有四年ノ間爭亂常ニ絶エズ、遂ニ千四百八十五年らんかすたー家ノへんりー、て。一とぶる佛國ヨリ還リ、ぼすらう。るすノ戰ニ於テりち、一と三世ヲ殺シテ王位ニ登リへんりー七世ト稱ス、是ヲて。一とぶる家ノ祖トナス、へんりー、はとらう。一と四世ノ王女ト婚シ薔薇戰爭其局ヲ畢ル、此戰爭ヨリシテ王權ハ益強大トナレリ、

**第四 伊太利**



概説

おっとー大王神聖羅馬帝國ヲ創建スルニ當リテ  
伊太利亦其範圍ニ入レリ、其後皇帝ト法王トノ争ハ益  
甚シク、國內亦「ぎべるりん黨(皇帝黨)」「ぐまるふ黨  
(法王黨)」分立シ、騷擾己ム時ナシ、要スルニ兩黨ノ争  
ハ貴族政治及自由政治ノ争タルナリ、ほーへんすたう  
ふん家滅亡ノ後、伊太利ハ數多ノ小國(市府)ニ分裂セ  
リ、

ふれでりく一世ト伊太利市府

十字軍ノ起

リシヨリ伊太利ノ市府大ニ繁榮シ、獨立ノ状態ヲ現セ  
リ、おれでりく一世ノ伊太利ニ帝權ヲ振ハント欲ス  
ルヤ、上部伊太利ノ市府ハみらんヲ首トシテるびばー  
ト同盟ヲ組織シテ帝ニ抗セリ、おれでりく屢之ヲ伐チ  
テ大勝ヲ得、市府一時歸服ノ色アリ、既ニシテ法王あ  
れきさんだー三世ノ援ヲ得、數多ノ市府一大同盟ヲ起  
シテ復反ス、千百七十六年同盟軍れぐなのノ戰ニ於テ  
大ニ帝ノ軍ヲ破リ、遂ニこんすたんすノ平和條約ヲ定

メテ市府ノ自治ヲ承認セラレタリ(千百八十三年今ヨ  
リ七百十四年前)、

伊太利ノ諸國

伊太利ノ各市府ハ既ニ自治ノ權ヲ

得タリトイヘドモ、外ハ互ニ相争鬪シ強大ノモノハ小  
弱ノモノヲ壓シ、内ハ貴族權力ヲ專ニシ、黨派分争シ  
テ干戈常ニ絶エズ、ほーへんすたうふん家滅亡後ノ主  
要ナル諸國(市府)ヲグマにす、みらん、ぢまのあ、羅馬、ふ  
ろーれんす及ねーぶるすトス、

侵入セシトキ害ヲ此地ニ避ケタル人民ノ創立セシ所ナ  
リ、其後次第ニ隆盛ニ趣キ、十字軍ノ時ニ至ツテ富強  
トナレリ、蓋シ其地航海商業ニ便ナルヲ以テナリ、又  
漸々其近海ノ島嶼ヲ侵略シ、十四世紀後ニ至リテハる  
びばーでいの諸市府だるましあ、及さいぶらす島ヲ征  
服シ益強大ヲ致セリ、グマにすノ會堂、宮殿、水道ハ壯  
麗ニシテ當時世界ノ驚嘆スル所タリ、其國憲ニ自由

選舉公國ニシテ「ゴーサ」(公爵官)ヲ擧シ、元老院議

員ト共ニ政務ヲ執行セシム、千三百十一年ニ至リテ政權

遂ニ十人議會ノ手ニ歸シ、自由ノ制度變シテ貴族世襲

政治トナレリ、然レドモ十四世紀ノ頃ハグマにすノ最

隆盛ヲ極メシ時ナリシガ、おらんすすこ、おすかり、と

「ぢ」トナリ、伊太利ノ事件ニ關係スルニ及ヒテ他ノ歐

洲諸國民ノ嫉ム所トナリ、一千五百〇八年日耳曼帝ま

きしみりあん一世佛蘭西王の十二世あらさん王あ

「でい」なんど及法王じりあす二世かむぶれー同盟ヲ結

ビグマにすニ抗シ、グマにすノ勢力日ニ盛レリ、

みらん みらんハ豪族グマにすにて家日耳曼帝へん

りー七世ヨリみらんノ太守ニ任セラレ權力益張ル、其

子孫ニ至リ公爵ヲ受ケ專制政治ヲ起シ、而シテ盛ニ備

兵ヲ増置シるむばーでいノ大半ヲ征服セリ、十五世紀

ノ中葉ニ至リ備兵ノ將おらんすすこ、おらんす遂ニ國

柄ヲ僧取セリ、

ちまのあ ぢまのあハグマにすト同シク商業ノ地ナル

ヲ以テ富財大ニ集リ銀行ヲ設立セリ、東洋ノ貿易ニ關

シテ常ニグマにすト競争シ、屢激烈ナル海戰ヲナシ始ハ

多ク勝利ヲ得シガ、遂ニきおさあ、おの戰ニ大敗シテ國

力疲弊シ、十四世紀ノ中頃ヨリ他國ノ管治ヲ受ケルニ

至レリ、

羅馬 法王ノあぐーんよんニ在ルヤ、羅馬ハ黨争紛

亂ノ場トナリ、りえんぢトイフモノアリ、古代羅馬ノ

制度ヲ復興センコトヲ企テ、人民ノ贊助ヲ得テ新羅馬

共和國ヲ立テ、而シテ「どりびゅーん」トナレリ、然レド

モ人民ヲ抑壓セシヲ以テ幾何ナラズシテ放逐セラレ、

再羅馬ニ歸ルニ及ビテ殺サル、其後羅馬ハ復法王ノ領

トナリ、法王じりあす二世ノ時大ニ其領土ヲ擴張セ

リ、

ふろーれんす ふろーれんすハ本日耳曼兵士ノ殖

民地ナリシガ、遂ニ伊太利ノ一重要市トナリ、亦商業製

造ヲ以テ著レ銀行貨幣ノ業起レリ、然レトモ其始ハ永ク封建制度ノ爲ニ害セラレタリシガ、共和政勝利ノ後愈繁榮スルニ至レリ、是時ふるれんす市ノ富豪めでもし一六三衆望アリ、遂ニ政權ヲ握リてするをめでし

一(千四百二十八年)ニ至リ善ク其國ヲ治メシテ以テ、國父ノ稱ヲ得タリ、ろーれんづ(千四百七十二年)出テ、政務ヲ執ルニ及ヒ、大ニ文學、哲學、技藝ヲ獎勵シ、大學ヲ設ケ又圖書館ヲ建テ、公衆ノ便ニ供セシナ以テ、學者、文人、技藝家彬々トシテ輩出セリ、ねーぶるす ほーへんすたうふん家滅亡ノ後ねーぶるすハあんじょー伯ちーれすノ領スル所トナルちーれすノ後ちーれす二世ろばーと相繼キテ位ニ登ル、皆「るふ黨ノ領袖ニシテ、商業ヲ盛ニシ大ニ其國ヲ富マセリ、ろばーとノ孫女王じよあん一世暴虐ナリ、ちーれすづらーづー之ヲ殺シ王位ニ登ル、其後女王じよあん二世位ニ在リ嗣ナシ、初めらこんノあるふ

んりー五世ヲ養ヒ、後又あんじょーノるい三世ヲ養ヘリ、此ニ於テあらこん及佛蘭西黨派ノ競争起リ、多年戦争ノ後あるふんをて遂ニねーぶるす王トナレリ、

第五 西班牙及葡萄牙

西班牙 八世紀ノ始さらせん人西班牙ニ侵入シ、基督教國ハ概其侵奪スル所トナレリ、然レドモ漸々其勢ヲ恢復シ、おひみあんと王國(さらせん人)ノ分裂(第十世紀)セル時ニ當リテ、れおーん、かすていーる、あらこん、なぐ。ー等ノ基督教王國アリ、爾來一盛一衰、十三世紀ニ至リテハあらこん、かすていーる、葡萄牙及なぐ。ーノ四國トナレリ、あらこんハ地ヲ東方ニ拓キ海岸ノかたろーにあ、づれんしあ、むるしあヲ取り、又近海ノ島嶼ヲ合セ、ピーター三世ノ時しりー及さーでいにあヲ服シ、下伊太利ニ威ヲ振ヒ、あるふんりー五世ニ至リ遂ニねーぶる王國ヲ并吞セリ、かすていーるハ之ニ反シテ南方ニ進入シ、あらこんをて三三三三

葡萄牙 第一十字軍ノ始ばーがんでいー伯へんりー

あ人ヲ伐チていーせがる及かーでいーすヲ取レリ、其子あるふんをて十世大ニ學術ヲ獎勵シ、さらまらんカ大學ヲ擴張シ、國語ノ發達ヲ督催シ、法典歴史ヲ編纂セリ、然レトモ羅馬帝位ヲ得ントシ重税厚賦ヲ課セシテ以テ國力疲弊セリ、あるふんをて十一世立ツニ及ヒテ貴族ヲ制御シ、又じーあ人ト戦ヒあるふんをてしらヲ取レリ、其後内亂繼キ起リ、女王いさべらノ代ニ至リあらこん王をていーなんをて婚スルニ及ヒテ、兩國遂ニ合シ西班牙國ノ基ヲナセリ、いさべらハ千四百九十二年ぐらなだ王國ヲ滅シ西班牙ニ於ケル亞刺比亞人ノ根據ヲ掃蕩セリ、是ヨリ先あらこん及かすていーるニ於テハ自由ノ精神漸々人民ノ中ニ興リ、遂ニ「こーつ」ト稱スル議會ヲ開クニ至レリ、あらこんノ議會ハ唯ニ立法及課税ノ議定權ヲ有スルノミナラズ、國王ノ顧問官モ又議會ノ賛同ヲ得サレバ任命スルコトヲ得ス、且王ト議員トノ争ハ至高裁判官ノ判決ヲ要ストナセリ、

第六 すかんでいねーがーいあ

概説 歐洲ニ在リテしーれめーん帝國及東羅馬帝國

ノ範圍ニ入ラサリシモノ三地方アリ、一チ西班牙トシ、  
ニチ英吉利トシ、三チすかんでいねーグのあ半島トス、  
即チ抹、瑞典、那威是ナリ、すかんでいねーグのあ人ハ  
大ニ遠征ニ従事シ數多ノ殖民地ヲ設ケタリトイヘトモ  
其本國ニアリテハ自特殊ノ發達ヲナシ、十世紀ノ頃  
ヨリ漸次三王國ノ興起ヲ見ルニ至レリ、

丁抹 うるでまー一世(紀元千五百五十七年)及其子カ  
に、一と六世ニ至リ丁抹ノ領地ハ日ニ擴張シ、うるで  
まー二世位ニ即ケニ及ヒテ其版圖益大トナレリ、王ハ  
丁抹王中有名ノ征略者ニシテばるてうく海ノ南岸及東  
岸ノすちらじ、一にあん人ヲ征シほるすたいんヨリえす  
ろーにあニ至ルマデ盡ク之ヲ服シ、丁抹及すれーグ王  
ト稱セリ、王ノえすろーにあヨリ歸ルヤ、しゅうえりん伯  
へんうーノ爲ニ捕ヘラレ、太子ト共ニ幽セラル、コト  
三年ニシテ釋サル、うるでまー三世立ツニ及ヒテ王  
權ヲ恢復セリ、うるでまー第二女まーがれと那威

王はーこん八世ニ嫁ス、はーこん殖シ其子かーらふ尙  
幼ナルヲ以テまーがれと政ヲ攝ス、かーらふ長シテ丁  
抹王ニ撰ハレ而シテ天ス、此ニ於テまーがれと兩國ノ  
政ヲ攝シ、又兼テ瑞典ノ王位ニ登レリ、

瑞典 瑞典ニ於テハ王權微弱ニシテ内ハ貴族權勢ヲ  
恣ニシ外ハ必ず人ノ侵入ヲ被リシカ、十三世紀ノ中葉  
うるでまー一世王位ニ登リ國內一時平和ヲ得タリ、ま  
くなす一世出テ、大ニ司法制度ヲ改善セリ、此王家ノ  
最後ノ王ヲまくなす二世ト云フ、時ニ那威ノ王位嗣ケ  
シヲ以テまくなす其王位ニ登リ其子はーこんヲシテ位  
ヲ繼カシム、瑞典ノ貴族ハまくなすヲ廢シめくれんぶ  
るが公あるばーとヲ立テ、王トナセリ、其後貴族又あ  
るばーとヲ廢シ丁抹及那威王まーがれとヲ迎ヘ位ニ  
即カシム、

那威 十世紀ノ頃はるるど、かーあへーあ那威チ一  
統セリ、然レドモ王權ハ丁抹及瑞典ヨリ微弱ナリ、ま

ニ及ヒテしれすうひ及ほるすたいん復歸服セリ、

第七 波蘭及露西亞

ぐなす三世立チテあいらんを伐チ軍中ニ殂ス、子  
しがーを位ヲ嗣ケリ、しがーをハ十字軍ニ從ヒばれす  
たいんニ戰ヒ勇名アリ、王殂シテヨリ王位繼承ノ亂起  
リ黨派ノ亂騷甚シ、まくなす六世ニ至リテ國內平穩ニ  
歸シ殖産貿易ノ業ヲ盛ニシ海陸ノ軍備ヲ擴張セリ、其  
子えりく立チ僧侶貴族ヲ抑壓シ王權ヲ擴張シ、又はん  
さ同盟ノ市府ト戰ヘリ、えりくノ弟はーこん七世殖シ  
テ嗣ナシ、瑞典ノまくなす二世位ニ即ケ、其子はーこ  
ん八世ノ殂セシ後かまーノ同盟成リ三國合シテ一ト  
ナレリ(千三百九十七年今ヨリ五百年前)

かるまー同盟後ノ國情 まーがれと殖シばめ  
らにあえりく十三世立チテ三國ノ王トナル、しれ  
すうひ及ほるすたいん反シ、ばぐありあノくりすど  
ふあー入リテ王位ニ即ケ、其殂スルヤ瑞典ハ同盟ヲ離レ  
テ自ち、れす八世ヲ立ツ、然レドモ丁抹那威ハ猶依然  
タリ、おるでんぶるくノくりすていあん一世位ニ即ケ

波蘭 匈牙利人歐洲ニ植民セシヨリすれーグ人分レ  
テ南北ノ二部トナリ、南部ハだに、一が河邊ニ居リ、而  
シテ北西ニ住スルモノハ境ヲ西羅馬帝國ニ接シばへみ  
あ波蘭此中ニ起ル、又其東ニ住スルモノハ露西亞トナ  
レリ、傳ヘ云フにあすと始メテ波蘭ニ公タリト、而シ  
テ其朝相承ケ千三百七十年ニ至ル、後みーしすらす一  
世ほへみあノ王女ヲ娶リ俱ニ基督教徒トナリ、おとー  
一世ニ臣屬シ後、帝ふれでりく二世ノ時全ク獨立セ  
リ、ばれすらふ一世立ツニ及ヒテ王冠ヲ得タリ、かし  
まー三世(千三百二十三年ヨリ千三百七十年マデ)位ニ  
即キ露西亞ヲ征シ國境遠クに、一が河畔ニ達ス、王大  
學ヲくらてーニ起シ、法典ヲ發布シ商工業ヲ獎勵セリ、  
王殂シテ貴族ハ其姪匈牙利王をいナ迎ヘテ位ニ即カシ  
ム、是ニ於テ波蘭ハ選舉王國トナレリ、るい殖シテ嗣

ナシ、貴族がすーにあ公じけるるんヲ立ツ、うらで、  
 すらふ二世ト稱ス、而シテ其朝相繼キ千五百七十二年  
 ニ至レリ、かしこ一四世ノ時「ていどに」くないど」日  
 耳曼騎士ノ組合」ヲ破リ東部露西亞ヲ取り平和ヲ約  
 セリ、當時貴族ノ權甚強ク、王位ハ世襲ノ名アリト雖、  
 其廢立一ニ貴族ノ手ニ在リ即位ノ時ハ先貴族ニ特權ヲ  
 與ヘ且租稅ヲ免シ以テ其歡心ヲ買ハザルベカラズ、國  
 會ハ全ク貴族ノ組織スル所ニシテ、立法、行政ヨリ徵  
 稅軍事ニ至ルマデ、貴族ノ贊同ヲ得ルニアラザレハ國  
 王ハ一モ之ヲ執行スルコトヲ得ズ、而シテ農民ハ常ニ  
 重稅ノ下ニ呻吟セリ、  
 露西亞 の一すまん人ノ一種グムれんぢあん人ノ  
 酋長るーりく露西亞ニ入りノグころを府ヲ開キシ  
 ハ既ニ記セシ所ナリ、爾後の一すまん人ハ益進デ南  
 方ヲ略シ、にーばー河畔キーグチ以テ首府トナシ、露西  
 亞人ト合シテうらでまー一世ノ時希臘教徒トナレリ、

あいあるすらふ一世ニ至ツテ國力強盛トナリ地ヲ分チ  
 テ諸子ニ與ヘ逐ニ内亂ヲ致セリ、此機ニ乘ジテ蒙古人  
 大舉來寇ス、露西亞人其征服スル所トナリ、而シテ二  
 百年間こゝるでんほーど(蒙古人ノグるがー河邊ニ創  
 立シタル國ナリ)ノ管下ニ立テリ、蒙古人侵入ノ初ニ當  
 リテハのグころを府露國ノ中心ナリシガ、十三世紀ノ  
 終ニ至リテハもすこー府之ニ代レリ、十四世紀ノ頃  
 すーにあ人、波蘭人侵寇セシテ以テあいグあん一世都  
 ヲもすこーニ移セリ(千三百二十八年今ヨリ五百五十  
 九年前)、是實ニ方今露西亞國ノ起原ニシテ、諸侯皆之  
 ニ臣事セリ、でめどりあす一世ニ至リテ大ニ蒙古人ヲ  
 破ル(一千三百七十八年及千三百八十年ノ兩度)、然レ  
 ドモ千三百八十二年復來寇シテもすこーヲ燒キ、二萬  
 四千ノ住民ヲ屠殺セリ、後あいグあん二世(もすこー大  
 公千四百六十二年ヨリ千五百五年マデ)ノ代ニ至リて  
 ーるでんほーど國內亂ノ爲ニ疲弊セシテ以テ、逐ニ蒙

古人ノ編緯ヲ脱スルヲ得タリ、

第八 匈牙利

あーばつど朝 八百八十九年即チ今ヨリ千〇九十  
 八年前頃はん人ノ一族もぢー人酋長あーばつどヲ戴  
 キ、かーばすいあん山ヲ越エテ匈牙利及どらんしるグ  
 にあヲ零シ益其兵ヲ進ム、歐洲爲ニ震動セリ、然レド  
 モ帝へんりー一世及おとー大帝ノ爲ニ破ラレ退テ居  
 ナ匈牙利ニ占ム、すてふあん始メテ法王シるグますたー  
 二世ヨリ王冠ヲ得タリ、而シテ王國ヲ數州ニ分チ、教  
 會ヲ設ケ學校ヲ立テ、且貴族、僧侶、武士ヲ招集シテ  
 國會ヲ開ケリ、らですらうす一世ニ至リ、諸方ヲ攻零  
 シテ國境大ニ廣ル、あんどりー二世ノ時貴族ノ要求ヲ  
 容レテ、憲章ヲ發布セリ、是「まくなかるた」ノ英國ニ  
 於ケルガ如ク、匈牙利自由制度ノ基礎トナレリ、後四  
 王ヲ經テ「あーばつど」朝亡ブ、其間蒙古人ノ侵入ヲ蒙リ  
 國大ニ蹂躪セラル、

世界誌 史記 中世紀ニ於ケル歐羅巴及東洋諸國 匈牙利

撰擧王朝 あーばつど朝最後ノ王あんどりー三世千

三百〇一年ニ歿シ、王位相續ニ關シテ黨派分裂セリ、法  
 王ぼーにーふます八世ねーぶるすニ於ケルあんじョー  
 家ノちやれすろばーとヲ援ケテ王位ニ即カシム、是  
 ニ於テ匈牙利ハ撰擧王國トナレリ、ちやれすろばー  
 大王ニ至リテ波蘭王ヲ兼ネ、其疆土ヲ拓キテ、下だに  
 ーぶニ及ビ、國勢強大トナレリ、るい歿シテ王女まり  
 あ、ばへみあ王しぎすまん(後日耳曼帝位ニ登ル)ニ  
 配シテ共ニ匈牙利ヲ治ム、此時ニ當リテ土耳其人始メ  
 テ入寇セリ、しぎすまん(子あるばーと二世)歿シテ  
 波蘭王うらですらうす王位ニ即キ、千四百四十四年土  
 耳其人ヲ防ギグーなノ大戦ニ敗死ス、其後じよん、はん  
 やでー、あるばーとノ子らですらうすヲ輔ケテ政ヲ  
 攝シ、土耳其人ト戦ヒ之ヲ破レリ、既ニシテらですら  
 うす歿ス、是ニ於テ匈牙利人ハはんやでーノ子らです  
 らうすこーグーなすヲ立テ、王トナセリ、まてあす外ハ

土耳其ノ勢力ヲ挫キ、地ヲ奧地利及日耳曼ニ拓キ、内ハ大學ヲ設ケ圖書館ヲ置キ、又學者技藝家ヲ四方ヨリ招キ、大ニ其人民ノ文化ヲ誘導セリ、然レトモ十六世紀ニ至リ匈牙利ハ又土耳其人ノ侵略スル所トナル、

第九 蒙古及土耳其

成吉思汗 蒙古人ハ支那、西比利亞間ノ高原ニ住セル遊牧人種ニシテ、十三世紀ノ頃ニ至リ、成吉思汗(名ハ鐵木真ト云フ支那南宋ノ寧宗開禧二年帝位ニ即ケ元ノ太祖是ナリ)トイヘルモノ起リテ近隣ノ諸族ヲ從ヘ、其勢益盛トナリ、金(當時金ハ支那ノ北部ヲ攻奪シテ之ニ據レリ)ヲ伐チ、又其鋒ヲ轉シテ中央亞細亞ヲ征シ、ぼから、さまるかんぞ等ノ繁榮ノ市府ヲ燬キ印度ニ及ヘリ、

東方侵略

成吉思汗ノ後第三子窩闊台、台位ヲ繼ケ、是ヲ太宗トナス、太宗父ノ志ヲ紹キ宋ト約シ金ヲ攻メテ之ヲ滅シ、定宗憲宗ヲ歴テ世祖忽必烈ニ至リ終ニ宋

四部ニ分レタリ、支那、かぶて(露西亞ノ地方)がたい(南東亞細亞)いらん(波斯地方)是ナリ、此四國ハ世祖ノ死後ニ至リ血族漸ク疎トナリ互ニ相攻伐シ其版圖幾何ナラズシテ瓦解セリ、然レトモゾウガノ東ニ於ケルでゐるでんぼーと國ハ尙二百年間露西亞ヲ管領シ、千四百年代ニ至リ帖木兒起リテ蒙古帝國ヲ再興セリ、

おすまん土耳其人、むらっど一世

十三世紀ノ

終ニ當リテおすまん土耳其人ハ蒙古人ノ攻撃ヲ避ケ、裏海ノ東方ヨリ動キ小亞細亞(當時せるじま)土耳其人ノ餘種之ニ據レリ)ヲ侵略シ益其兵ヲ進ム、希臘帝、力微ニシテ之ヲ拒ク能ハズ、にこめでいあ、にしあ等ノ地ヲ奪ハル、むらっど一世「じやにづりーす」ト稱スル軍隊ヲ組織シ、向フ所皆靡ク、既ニシテむらっど、あどりあのいぶるヲ取リテ首府トナス、すれーす并ニ希臘羅馬ノ市府皆之ガ爲ニ破壊セラル、さーじあん人ばる

ヲ滅シ國ヲ元ト號ス、而シテ阿答海范文虎等ニ命ジ大軍ヲ率ヒテ日本ニ寇セシガ、颶風大ニ起リ船艦盡ク覆ル、我兵之ニ乗ジテ奮戦シ元兵生還スルモノ纔ニ三人ノミ、爾後世祖復手ヲ日本ニ出タサマリキ、

西方侵略

是ヨリ先、成吉思汗ノ將、中央亞細亞ヨリかうかさすノ地峽ヲ過キ露西亞ニ侵入シ、もすこー、きーグ、くらこーヲ陷レ、遂ニ軍ヲ驅リテ波蘭匈牙利ニ入寇ス、下しれしあ公へんりー之トリーグにつニ戦ヒ敗績ス(千二百四十一年)、蒙古人性殘忍、敵ニ勝テ之ヲ滅ルノ風習アリ、りーグにつノ戰、耳ヲ袋ニ盛ルコト九箇ニ及ヘリト云フ、既ニシテ歐洲ヲ退キ東南ニ向ヒばぐだつとヲ取リ、更ニしりあニ入りあれぼー及だますかすヲ陷レ、基督教國及同々教國ノ開化ヲ破壊セリ、是ニ於テ蒙古帝國ノ版圖ハ、東、支那海ヨリ西、地中海ニ達シ、北、もすこーヨリ南、埃及ノ國境ニ至ル、其廣大ナルコト前古未有ヲザル所ナリ、而シテ其版圖ハ

げーりあん人カヲ協セテ防戦シ、こそがノ戰ニ於テむらっどヲ獲タリト雖、其軍亦大ニ破レタリ、

ばじあつと、むらっど死シテ子ばじあつと(千三百八十九年)之ニ代ル、ばじあつと戰畧父ニ勝リ、ませとにあ、すさりー、希臘(ペろぼん)にさすノ南端)ヲ侵略ス、日耳曼帝しぎすまん、ばーがんでいーノじんと共二十萬ノ兵ヲ以テ之ヲ禦キ、下だにいぶ

ノにこぼりすニ戦ヒ大ニ敗レ、佛蘭西及日耳曼ノ貴族虜トナルモノ甚多クしぎすまん僅ニ免ル(千三百九十六年)、是ニ於テぼすにあ亦手中ニ落チ、こんすたんといのいぶるハ將ニ土耳其人ノ呑嚙ニ遇ハントスルノ際、突然強敵起リテばじあつとヲ破レリ、成吉思汗ノ後裔帖木兒是ナリ、

帖木兒

帖木兒ハ一旦崩解シタル蒙古帝國ヲ再興セントシ、其首府さまるかんぞヲ發シ、印度波斯ヲ征服シ、ばぐだつと、だますかすヲ破壊シ、而シテしりあチ

侵略シ、其領地東ハ長城ヨリ西ハ地中海ニ達シ、こゝ  
 るでんほ一國モ亦其滅ス所トナル、帖木兒ノ過クル  
 所兩掠殺戮至ラザルナク、いすばはんニ於テハ七萬ノ  
 人民ヲ屠殺シ、ばぐだをニ於テハ九萬ノ首級ヲ以テ一  
 高塔ヲ築キタリト云フ、帖木兒ノ英鋒今ヤ將ニ土耳其  
 ニ向ハントス、希臘皇帝及せるじやくノ諸王皆其風ヲ  
 望ンデ降ル、ばじぶを兵四十萬ヲ以テ蒙古ノ兵八  
 十萬トあんしらニ會戦ス、時ニ千四百〇二年ナリ、ば  
 じぶを遂ニ破レテ捕ヘラレ、幾何ナラズシテ死ス、  
 帖木兒又支那ヲ伐ントシ、果サズシテ死セリ(千四百  
 〇五年今ヨリ四百九十二年)、  
 こんすたんとてのーぶるノ滅亡 帖木兒ノ死  
 スルヤばじぶをノ孫むらと二世(千四百廿一年)其  
 舊地ヲ恢復シテ勢又盛ナリ、こんすたんとてのーぶるハ  
 掌大ノ地ヲ有シテ土耳其ノ圍中ニ立テリ、希臘皇帝ヒ  
 ん七世希臘羅馬兩教ノ一致ヲ圖リ、以テ西歐洲諸國ノ

カヲ借ラントセシガ事終ニ成ラズ、羅馬法玉獨基督教  
 國王ヲ勵シテ土耳其人ニ當ラシム、むらと二世死シテ  
 後標悍ナルまほめと二世立チ、こんすたんとてのーぶ  
 るヲ取り首府トナサントシ之ヲ攻ムルコト甚急ナリ、  
 此時ニ當リこんすたんとてのーぶるノ城中兵僅ニ七千  
 人勇敢善ク拒キシガ、五十有三日ニシテ城遂ニ陥リ、  
 皇帝自奮戦シテ死セリ、時ニ千四百五十二年今ヨリ四  
 百四十四年前五月二十九日ナリ、是ニ於テ千有餘年ノ  
 舊都ハ「さるたん」ノ居城ト變ジ、聖ろふあノ會堂ハ  
 回々教院ト化シ、新月旗ノ翻々トシテ塔上ニ舞フヲ見  
 ルニ至レリ、土耳其人既ニこんすたんとてのーぶるヲ陷  
 レ進ンデ希臘及もりあ即べろばんにーさすヲ平定シだ  
 にーぶ地方ヲ征服セリ、

第八章 中世紀ノ開化

總說 羅馬ノ晚年文教漸ク微ニ、社會將ニ壞敗セン  
 トスルノ際、北方蠻族ノ侵入ニ遭ヒ、至大ノ版圖 倏

土崩シ赫灼タル文明遂ニ光ヲ失ヒ、世ハ中世紀トナレ  
 リ、爾來六百年間(十一世紀ノ末マテ)歐洲ノ世界ハ  
 所謂暗黒ノ時代トナリ、封建君主專横ヲ逞フシ、人  
 民ハ壓制ノ下ニ呻吟シ、文物ハ地ニ委シ、産業ハ全ク  
 衰頽セリ、之ニ反シテ東羅馬帝國及亞刺比亞ハ古代希  
 臘ノ餘光ヲ承ケ、文物猶盛ナリ、殊ニ亞刺比亞ノ如キ  
 ハ開化ノ高度ニ達シ、歐洲文化ノ復興ヲ促スノ要因ト  
 ナレリ、十一世紀ノ終ヨリ歐洲ノ天モ陰雲漸ク解ケテ  
 天日微光ヲ漏シ、市府ノ發達ト共ニ人文稍興リ、遂ニ  
 近世紀ノ初ニ至リテ、世ハ又文明ノ旭輝ヲ見ルニ至レ  
 リ、

第一 封建制度

封建制度ノ起原及概況 中古時代ノ特象ト稱ス

ベキモノハ實ニ封建制度ナリ、封建制度ハ中世紀ノ政  
 治及社會上ノ混雜セル状態ヲ包括セルモノナリ、此狀  
 態ハ實ニ日耳曼及羅馬制度ノ混合ヨリ起ル、初ららん

世界誌 史紀 中世紀ノ開化 封建制度

く人ノこゝるヲ侵略セシトキ、酋長即君主ハ自其地ノ  
 大部分ヲ占領シ、其餘ヲ割キテ有功ノ士ニ與ヘタリ、  
 之ヲ「あるーでいあむ」(即私領或ハ世襲財産)ト稱ス、是  
 ヨリ以後君主ハ皆其臣下ヲ養フニ領地ヲ以テシ、其家  
 事或ハ軍務ニ忠實ナルコトヲ誓ハシムルノ風習行ハレ  
 タリ、之ヲ「ふーふ」(即食邑)ト云フ、其性質全ク  
 「あるーでいあむ」ト異リテ、其人ニシテ若誓約ニ違フ  
 コトアレバ、君主ハ忽之ヲ沒收ス、此等ノ方法ハ「  
 ーれめーん帝國滅亡後西歐羅巴ニ流布シ、遂ニ儼然タ  
 ル封建ノ體面ヲナスニ至レリ、是ニ於テ「ーれめー  
 ン帝國ハ大小諸侯ノ基峙スル所トナリ、王ノ下ニ諸侯  
 アリ、諸侯ノ下ニモ亦臣下アリ、各領地ヲ有シ、層々  
 相聯關シ以テ一國ノ全體ヲ組成セリ、此時ニ當リテハ  
 のーまん人さらせん人匈牙利人等屢々侵略セシヲ以テ、  
 土地人民保護ノ必要ヨリ封建世襲ノ主義ハ益堅牢トナ  
 レリ、然レトモ其危難ノ際ニハ、弱小者ハ強大者ノ保

護ヲ受クルヨリ、私領モ變ジテ食邑トナルコトアリ、其後亂離相繼クニ及ヒテ、諸侯豪族ハ城砦ヲ構ヘテ之ニ住シ、一般ノ人民ハ郊外ニ村落ヲナシ、借地ヲ耕シ或ハ賃勞ヲナセリ、要スルニ封建制度ハ武人政治ノ社會組織ニ外ナラザルナリ、

**君主ト臣屬** 君主ト臣屬トハ相互ノ義務ヲ以テ結合セリ、蓋臣屬ハ君主ノ軍役ニ服スベク、或ハ祝典ニ參賀スベク、或ハ君主ノ捕虜トナルトキハ償金ヲ贖シテ之ヲ救フノ義務アリ、君主モ亦之ニ對シテ臣屬ヲ保護シ、且救恤スルノ義務アリ、而シテ臣屬ノ下ニ又臣屬アリ、君主ノ上ニ又君主アリ、猶英王ウーリック、このんくろる、のーまんてい公ノ資格ヲ以テ佛王ノ臣下タルガ如シ、然レドモ概スルニ帝王ハ最上位ニ在リテ、諸侯之ニ次キ、騎士又其下ニ在リ、

**私闘** 臣屬亦其同列ノ臣屬ニ向ヒ戰端ヲ開クコトヲ得或ハ直ニ君主ニ訴ヘテ其裁決ヲ乞フコトヲ得、然レ

移ルテ例トス然レドモ奴隸ト異リテ賣買セラル、コトナシ、

**封建制度ノ利弊** 封建制度ハ人民ノ自由ヲ抑壓シテ大ニ其發達ノ途ヲ妨害セリ、此時代ノ人民ノ休戚ハ繫ケテ君主ノ一心ニ在リ、君主ニシテ善良ナレバ下民其福ヲ受クベシトイヘドモ、而モ其要義タル唯君命ニ是從フニ在レバ、君主如何ニ兇惡ナルモ之ヲ訴フルニ路ナシ、是ヲ以テ此時代ニ在リテハ萬般ノ事物皆萎靡シテ振興ノ望ナキナリ、然レドモ中古時代亂雜ノ世ニ在リテ、外ハ蠻敵ノ侵入ヲ防ギ、内ハ上下ノ聯關ヲ基ケ、而シテ忠節義俠ノ氣象ヲ社會ニ播種セシ功ハ、亦埋没スベカラザルモノアリ、

**封建制度ノ衰微** 封建制度ノ衰頽ヲ促シタル要因ハ、王權市府及僧侶ノ三者ナリ、王權ノ強盛トナリシヨリ中央權威大トナリ諸侯ハ漸々其勢力ヲ減損セリ、且國王ノ心中漸ク國家ヲ思想ヲ惹起シ、大ニ下

世界誌 史紀 中世紀ノ開化 騎士ノ制

ドモ君主ハ各其臣屬ニ荷擔シテ不正ノ判決ヲ與フルコト多キヲ以テ、中世紀ニ於テハ私闘ノ流行ヲ見ルニ至レリ、

**僧侶ノ封建制** 僧正ハ往々侯伯ノ位置ヲ有シテ帝王ノ臣下トナリ、而シテ教會管轄區内諸貴族ノ君主トシテ立ツコトアリ市府モ亦間ニ僧正ヲ君主トシテ戴グコトアリ、加之僧正ハ莫大ナル領地ヲ有シ、之ヲ騎士ニ割與シテ臣下トナシ以テ自衛リ、且國王ノ徵發ニ應ジテ軍兵ヲ出セリ、中世紀ニ於ケル僧侶ノ領地ハ、英佛ニ於テハ其國五分ノ一、日耳曼ニ於テハ其三分ノ一ノ廣土ヲ占有セリ、

**地役民** 十一世紀ニ於ケル歐羅巴ハ實ニ小君主ノ集合體ニシテ、其下ニ屬スルモノハ衆民ナリ、而シテ其大半ハ地役民ナリ、此等ハ大抵土地所有ノ自由民ニアラズ、君主ノ田野ヲ耕シ或ハ其役ニ從ヒ、其土地ト俱ニ終始ス、故ニ君主即地主ノ變スルトキハ亦隨フテ之ニ

民ノ權利ヲ保護シ、諸侯ニ不利ナル法律ヲ發布シテ願ミザルニ至レリ市府ノ興起シテヨリ、王侯亦之ニ與シテ其勢力ヲ増サントシ、多少ノ特權ヲ之ニ與ヘタリ、市民ノ市長撰擧ノ權ヲ得タルニ至リテ其勢力漸ク封建制度ヲ壓シ、竟ニ自由ノ政區ヲ開拓スルニ至レリ、僧侶ハ其教權ヲ擴張セントシ往々國王ト結托シ諸侯ニ抗スルコトアリ、加之其領地ノ廣大ナルト其主義ノ博愛ナルコトハ皆以テ諸侯ノ專橫ヲ制スルニ足リキ、其他十字軍、火藥ノ發明、智識ノ増進等ハ封建制度ノ廢絶ニ與リテ亦大ニ力アリシナリ、

第二 騎士ノ制

**騎士ノ興起** 騎士ハ封建制度ト共ニ起リ、十四世紀ニ至リテ其盛況ヲ極メタリ、蓋騎士ノ制ハ昔時日耳曼人武事尊崇ノ念ト、婦女敬愛ノ情トヨリ萌芽ヲ發シ而シテ宗教ノ熱情之ヲ助ケ、十字軍ニ至リテ始メテ全成セリ、封建制度ノ漸々整備シテヨリ諸侯皆食邑ヲ與

ヘテ武勇ノ士ヲ養ヒ、且教習所ヲ設ケテ臣下ノ子弟ニ  
武事禮式ヲ學ハシメ、以テ篤實勇敢ノ武士ヲ作ルコト  
ヲ勉メタルヲ以テ、騎士一時大ニ美風ヲ發揚スルニ至  
レリ、

### 騎士ノ教育

七歳ヨリ十四歳ニ至ルマデノ兒童ハ  
之ヲ侍童ト云ヒ、皆城中ニ在リテ貴嬪ニ陪侍シ、且音  
樂、宗教、武事ヲ學ヒ、淑女勇士ノ薫陶ヲ受ケ、温良  
ニシテ勇猛ノ美德ヲ養成セリ、十四歳ヨリシテ侍士ト  
ナリ、城中ノ職ニ任セラレ又高貴ノ士婦ニ奉仕ス、此時  
ヨリシテ體育、德育及武藝ノ練習益精嚴トナリ、操槍  
越壁、跳壕等ノ技ヲ學ベリ、而シテ或ハ君主ノ馬ヲ率  
キテ戰場若シクハ競武會ニ臨ミ、或ハ君主ニ戰陣ニ從  
ヒ、其危急ニ際シテハ身命ヲ棄テ、之ヲ救フノ義務ア  
リ此ノ如クシテ二十一歳ニ至リ、始メテ一個ノ騎士ト  
ナルナリ、

### 騎士トナルノ儀式

騎士トナルノ式ニ出ツルニ  
テ貴嬪ヨリ種々ノ賞與ヲ受ク、是騎士ノ最光榮トナス  
所ナリ、然レトモ競武會ヲ行フ毎ニ必多少ノ死傷アル  
ヲ免レザリキ、

### 騎士ノ美德

騎士ノ本色ハ篤實寛厚ニシテ勇猛果  
敢ナルニアレバ、其社會ニ及ホセル美果モ亦必少小ニ  
アラス蓋(一)王室ニ對シ忠ニシテ、國難ニ臨ンデ命ヲ  
致スコト、(二)寛恕ニシテ敵人ヲモ憐恤スルト、(三)優  
雅ニシテ能ク婦女子ヲ擁護スルコト、(四)勇敢ニシテ  
能ク功績ヲ著ハスコト、(五)百事專名譽ヲ重ンズルコ  
ト等ハ、騎士ノ體認實踐スベキ所ナレバ、其世道人心  
ヲ高尚ニシタルヤ疑ナキナリ、

### 騎士ノ衰微

騎士ノ末路ニ至リテハ往時ノ善習美  
德敗壞シ、且火藥ノ發明アリテ兵制ヲ一變セシテ以  
テ、騎士其武ヲ用フルニ處ナク、漸々衰微セリ、佛國  
ニ於テハ英佛百年戰爭ノ時ニ當リ、精銳ノ騎士ヲ以テ  
編成セル軍隊、英國土民軍ニ破ラル、ニ及ヒ、騎士ノ

當リテハ、其前タヨリ齋戒沐浴シ、事皆先覺ノ指揮ニ隨  
ヒ、隱者ノ如キ白色ノ粗服ヲ着ケ、謹慎靜座一夜ヲ會堂  
ニ徹ス、既ニシテ夜明クレバ先僧侶ノ前ニ於テ己ノ罪  
障ヲ懺悔シ、而シテ後君主ハ之ニ善良、方正、篤實、勇  
敢ノ騎士トナリ、寺院ヲ保護シ且孤寡ヲ憐恤スベ  
キ誓約ヲ爲サシメ、劍ヲ拿リテ其肩ヲ打チ以テ儀ヲ了  
ヘリ、

### 競武會

中世紀ニアリテ最著明ナル遊戯ハ競武會ナ  
リ、帝王ノ即位、凱旋ノ祝典、王家ノ婚禮等ニ於テ之  
ヲ舉行ス、競武ハ大抵木片ヲ付シタル槍ヲ以テ敵ヲ突  
キテ馬ヨリ墜スヲ目的トナス、競武場ノ兩端ニハ高臺  
或ハ棧敷ヲ設ケテ帝王、貴族、貴嬪ノ座ヲ備ヘ、傳令  
守護ノ官ハ場ノ内外ニアリ、樂隊ハ又場ノ四隅ニ列  
シ、整々肅々タルノ間、傳令官一號令ヲ下セバ盛裝セ  
ル騎士ハ東西ヨリ馬ヲ躍ラセ場ノ中央ニ出テ、相突擊  
ス、而シテ勝者ハ鬮駉タル音樂ト共ニ衆人ノ喝采ヲ得

名譽地ニ墜テ終ニ千五百二十四年有名ナル騎士ベリヤ  
ーとノ死ヲ以テ騎士跡ヲ絶テリ、英國ニ於テハえり  
ツベナ時代ニ至ルマデ之ヲ繼續シ、西班牙ノ騎士モ  
亦英國ト同時ニ衰ヘタリ、彼ら一ゲんですノ「どんき  
ほーてー」ト稱スル有名ノ一小説ヲ著ハシテ、騎士ノ  
敗徳ヲ嘲リシハ此時代ニアリ、騎士既ニ全ク消滅シタ  
リトイヘトモ、而モ其流風餘德ノ存シテ社會ヲ益セシ  
モノ亦鮮カラザルナリ、

### 第三 市府ノ發達

市府ノ興起 文明進歩ノ第一現象ハ市府ノ發達ニ  
於テ之ヲ見ル、蓋市府ハ常ニ文明ノ中心トナレバナリ、  
抑封建制度ノ下ニアルニ大階級即貴族僧侶ト地役民ト  
ハ九世紀ニ於テ現ハレタル社會ノ狀態ナリシガ、十世  
紀ニ至リテハ又一種ノ現象ノ萌芽ヲ生セリ、即市府ノ  
新ニ興隆セシコト是ナリ、羅馬時代ノ市府亂離ノ間ニ  
アリテ其形狀ヲ維持シ來リシモノ少カラザレトモ、而



モ十時軍時代ニ至リテ新ニ興起セシ市府亦甚多シ、此等ノ市府ハ數世紀ヲ經テ益繁榮ニ趣キ、市民ノ權力ハ日ニ伸暢セリ、

**自由市府** 市民ノ自由漸ク伸暢シテ、遂ニ自治制ノ市府成立セリ、是羅馬遺風ノ復興ナリト云フトイヘドモ、亦日耳曼人種特有ノ一產物トシテ見ルベキナリ  
十世紀以來市府ノ商工業ハ進歩ノ途ニ上リシト雖、而モ市民ハ常ニ封建制度ノ下ニ在リテ重稅苛斂ニ苦メテ、遂ニ相團結シ兵器ヲ以テ自衛スルニ至リ、時ニハ帝王ト結ンテ諸侯ニ抗シ、時ニハ諸侯ニ合シテ帝王ニ當リ以テ熱心ニ自由ヲ得ルニ努力セリ、而シテ王侯ハ己ノ利害ヲ顧ミ、遂ニ種々ノ特權ヲ與フルニ至レリ、是ニ於テ市府益繁榮シ、伊太利日耳曼最盛ナリ、是ヨリシテ自治ノ政體成リテ市長ヲ公撰シ、政法ノ庶務ヲ綜ヘシムルニ至レリ、

**はんと同盟及ろむばーど同盟 十三世紀ノ中**

葉、北方日耳曼ノ諸市府ハ、海陸ノ賊徒ヲ防キ、且其自由及權利ヲ擴張セントノ目的ヲ以テ、はんと同盟(當時はんと府最勢力アリ故ニ名ク)ヲ組織セリ(千二百四十一年頃今ヨリ六百五十六年前)、十四世紀ニ至リテハ八十ノ市府之ニ加入シ、ローベックヲ以テ中心トナセリ、はむぶるぐ、ぶれめん、こーろーん、ぶらんすらうく等ノ諸市又盛ナリ、伊太利ノ市府ハ日耳曼ニ先チ既ニ繁榮ヲ極メタリ、殊ニ北部伊太利即ろむばーど、其最タリ、千百六十七年ろむばーど同盟ヲ組織シ日耳曼帝ニ抗シ千百八十三年こんすたんすノ和約ヲ以テ市府ノ獨立ヲ承認セラレシ以來グズにす、ぢ、の、あ、び、さ等ノ諸府益富強ニ趣ケリ、其他佛蘭西、英吉利、西班牙、葡萄牙ノ諸府モ亦大ニ發達セリ、

**第四 東羅馬帝國及さらせん帝國ノ開化**

**東羅馬帝國** 歐洲ノ世界ハ漸クタリトイヘトモ、

東羅馬帝國ハ猶文明ノ餘光ヲ保チ、古文學盛ニ起ル、然レトモ東羅馬帝國ノ文學ハ多ク希臘古文學ノ編輯或ハ註疏ニ止リ、新ニ一機軸ヲ出シタルモノナシ、ヒョんぐらんまでいかす(七世紀ノ初)ハ博學ニシテありすとどるノ説ヲ解説シ、文法及哲學上ノ著書甚多シ、だますかすノヒョん(八世紀)ハ系統神學ノ創設者ニシテ、ふーていあす(九世紀)ハ宗教文學及古文學ノ泰斗タリ、詩歌モ亦古代希臘ノ神史ヲ編纂或ハ改竄セシモノ多シ、歴史ニ於ケルモ亦然リ、大抵年代記傳記或ハ記録等ヲ蒐集羅列セシニ過キズ、づしませす(紀元四百五十年頃)ハ東帝國有名ナル史家ノ一人ニシテ、該博ナル見識ヲ以テ羅馬帝國衰微ノ状態ヲ説述シ、原因結果ノ理法ヲ討究セリ、ぶろこびあす(紀元五百四十年頃)ハばれすたいんノ人ニシテ古典及法學ニ精通シ、嘗テ軍ニ從ヒ彼斯、がらんたるす及ですらうく戰爭紀八卷ヲ著シ、へろとたすニ模倣セリ、數學及天文學、建

築術、器械學ハ亞刺比亞及西歐諸國ノ師トナリ、殊ニ美術品ノ製作ハ其最長シタル所ニシテ多ク國外ニ輸出セリ、

**さらせん帝國** 此時ニ當リテ獨文化ノ美ヲ以テ世界ニ雄視シタルモノハさらせん人ナリ、さらせん人ノ開化ハ特ニ當代ニ秀テタルノミナラズ、其餘光遠ク歐洲近世ノ文化ヲ裨益セリ、蓋さらせん人ノ開化ハ古代希臘ノ開化ヨリ胚胎セリトイヘドモ、而モ其有爲ノ腦カト勉勵トハ遂ニ出藍ノ効果ヲ收ムルニ至レリ、而シテ其端ハかひみあつとノ朝希臘ト交渉セシヨリ起ル、此時ヨリシテ希臘ノ學者、技藝家ハ多クさらせん國ニ入り、古代希臘ノ著書ハ多ク亞刺比亞語、しりあ語及彼斯語ニ翻譯セラレタリ、ばぐだつと、だますかす、くーふらばから、さまるかんと、かいろー、こーとが、ぐらなど等ノ市府ハ中世紀文化ノ淵藪トナリ、數多ノ高等學校、天文臺、圖書館等ノ設立アリテ文學、神學、法

學、地學、文法學、數學、天文學、化學、博物學、醫學、建築學、音樂大ニ發達セリ、あづせんな(九百七十八年)ハぼからニ生レありすと一とる以後ノ哲學大家ニシテ又醫學ニ通セリ、其著「かのん」ハ羅旬語ニ譯シ、十五六世紀ニ至ルマテ醫學ノ原則トシテ用ヒラレ、論理學及性理學ハ亞細亞文學ノ精粹トシテ重ンゼラレタリ、こーどグノあづるゝろはすハ十三世紀ニ於ケル學者ノ泰斗ニシテ、亦哲學、醫學ニ達シありすと一とるヲ信奉セリ、然レドモ其論據ハあづせんなト異レリ、詩人ニハあんたら(七世紀)はりーりー(十二世紀間ノ人)アリ、皆亞刺比亞人ナリ、彼斯人ニシテ有名ナルハふあーとーしー(十一二世紀間ノ人)さーでいー(十三世紀)ナリ、其詩歐洲各國ノ語ニ翻譯セラレタリ、其他醫學ノ生理解剖(禁制アルニモ關セス)ニ於ケル、數學ノ代數幾何ニ於ケル、化學ノ胞合分離ニ於ケル、建築術ノ亞刺比亞風ニ於ケル、天文學ノ天體運動ノ觀察

ニ於ケルガ如キハ、皆中世紀ノ儀表トナレリ、又絹布、武器、馬具ノ製造ニ精シク、大ニ基督教國ノ嘆賞スル所トナレリ、

第五 哲學、科學、文學、技藝及產業

暗黒時代 てゅーとん人移住後、羅旬語ハ轉訛シテ「ろーまんす」語トナリ、伊太利語、佛蘭西語及西班牙語トナリ、當時純然タル羅旬語ヲ解スルモノハ、少數ノ僧侶學士ニ過キス、是ヲ以テ智識ノ源泉ハ全ク壅塞セラレ、一般ノ人民ハ蒙昧ノ中ニ徬徨シ、偶其固有ノ國語ヲ以テ記述セルモノアルモ觀ルニ足ルベキモノ鮮シ、是故ニ俗人ハ勿論、僧侶僧正トイヘトモ、時トシテハ己ノ姓名ヲモ書スルコト能ハザルモノアリ、學術、宗教ニ於テハ奇怪ノ妄想行ハレ、技藝ハ全ク沈淪シ、伊太利ノ如キモ初羅馬ノ遺風ヲ繼キシカ、幾何ナラズシテ衰微シ、第十世紀ニ至ルマデ一ノ著名ナル建築物ヲ有セス、夫あーへん(即えーくす、ら、し、る、べる)ノ宮

殿ヲ建築セシトキノ如キモ、圓柱、彫刻物ヲらげんな(西羅馬ノ帝居)ノ宮殿ヨリ移シタリト云フ、農業ハ衰頽シ、工業ハ起ラズ、商業ハ交通ノ不便ト剽掠(騎士等ノ)ノ危害トニヨリテ發達スル能ハズ、社會ノ無學無識ト共ニ道德ハ非常ニ敗壞シ、人類ハ一般ニ下位ニ淪落セリ、然レトモ其間亦二三ノ人物ナキニアラス、英國ノびーと、あるきいんノ如キハ共ニ博學ノ士ニシテ、あるきいんハしーれめん大帝ノ師友タリ、愛爾蘭ノヒュンすこーたす(九世紀ノ人)法王シるジュヌタ(十世紀ノ人)ノ如キハ共ニ原造ノ才ニ富メル考察家ナリ、日耳曼ノ僧ゴーとしるく(九世紀)モ亦一家言ヲ立テタリ、

復興時代、哲學及科學

歐洲中世紀前半ノ文化ハ全ク地ニ墜チ、智識ハ纔ニ僧徒ノ手ニ依リテ維持セラレシガ、十一世紀ノ頃ヨリシテ漸ク文學ノ萌芽ヲ生ゼリ、是畢竟(じしき)せん開化ノ影響ニ外ナラズ、此頃ヨリ

大學ハ諸國ニ興起シ、ばり(最古ノ大學)おつすふーと、ぼろーんや(伊太利)等最盛ニシテ、哲學神學等ノ講究勃然トシテ起レリ、此時ニ當リテ先起リタルモノヲ煩瑣哲學トナス、此學ハ宗教ノ學說ヲ論據トナシ、ありすと一とるノ論法ヲ以テ多方之ヲ辯證セントスルニアリ、而シテ其論スル所空漠些細取ルニ足ラサルモノ多シ(例へハ神使ハ如何ナル語ヲ話セシヤ、一針頭ニ幾何ノ神使立ツヲ得ベキヤ、天堂ニモ亦汚物アルヤノ如シ)然レドモ此ニ由リテ智力ヲ鋭敏ニシ且思想ヲ練磨シ近世實學ノ地ヲ爲セシノ功亦多シ、第十三世紀ニ至リあるばーたす、まぐなす(日耳曼)と一ます、あく、なす(伊太利人)だんす、すこーたす(愛爾蘭人)出ツルニ及ヒテ此學大ニ完備シ「と一ます」派「すこーたす」派分立シ相辯難スルニ至レリ、煩瑣哲學ノ枯燥無味ナルヲ厭ヒ、新ニ神秘學派起リ、想像的、感情的ニヨリテ宗教ヲ解說セントス、此學派ノ重ナルモノハべるな

一〇(十二世紀)ぼなぐんで、一〇(十三世紀)ナリ、此際ニ當リ又さらせん人及希臘人ノ感化ヲ受ケ、理學及數學ノ學者出テタリ、一チあるば「たす、まぐなす(前出)ト云ヒ、一チ英國ノ僧ろ「いち、べーこん(十三世紀)ト云フあるば「たすハありすと「とるノ理學ヲ修メ大ニ得ル所アリ、廣ク博物界ノ研究ヲナセリ、べーこんハ才力あるば「たすノ上ニ出テ、萬般ノ智識ヲ研究シ、實驗學上ノ一新路ヲ開キ、光學及器械學ニ於テ最其技倆ヲ著セリ、二人共ニ當時ノ怪ム所トナリ、魔術家ヲ以テ目セラレ刑ニ處セラル、ニ至レリ、其他此時代ニ於テ化學(亞刺比亞人ノ傳フル所ノ鍊金術)ハ一般學者ノ勉ムル所タリシナリ、

文學 僧侶學者ノ高尚ナル學理ヲ講究スルノ際、歐洲各國ノ風氣モ漸次進化シ、自國ノ語ヲ以テ記述シタル文學ノ起ルヲ見ルニ至レリ、而シテ大抵十字軍及其以後ニ在リ、此時代ノ詩歌ハ重ニ騎士ノ勳功ヲ詠ジ其戰

蘭西ニハラハリありアリ、日耳曼ニハおと「ナリ、英國ニハまじし、一、ぱりすアリ、而シテ此間國語ヲ以テ記セル歴史家諸國ニ出テタリ、殊ニ佛人あるあさ「及こ「み「んノ如キハ最有名ナリ、こ「み「んハ近世史體創立者ノ一人ナリ、

技藝 中世紀ニ於ケル技藝ハ全ク宗教ト關聯シ、專宗教ノ思想ヲ發揮スルコトヲ勉メタリ、而シテ其最著ハル、モノヲ建築術トナス、他ノ美術ハ皆之ニ附屬セリ、建築術ニハ新舊ノ兩式アリ、舊式ハ「びづ「んて「い「あん風即羅馬圓穹形ニシテ、新式ハ「こ「す「く「風即尖穹形ナリ、「こ「す「く「風ハ初北部佛蘭西ニ起リ、既ニシテ全歐洲ニ流行シ、第十二四世紀ニ至リテ完美ノ域ニ達セリ、「こ「す「く「風會堂ノ基礎ハ十字形ヲナシ、内面ハ高大ニシテ神威ノ尊嚴ヲ示シ、塔頭ハ高ク鑿ヘテ十字ノ花形ヲ指シ、以テ信仰ト希望ノ念ヲ表シ、窓間ハ尖穹ニシテ彩色玻璃ヲ張リ、其他ノ各部ハ彫刻繪畫ヲ

關、冒險、愛情等ヲ以テ骨子トナセリ、叙情詩ノ佛蘭西ニ起レルモノヲ「とる「ば「とる「(「ふる「ぐ「ん「す「方言ヲ以テ記述セリ)ト云ヒ、日耳曼ニ起レルモノヲ「み「ん「ね「し「ん「が「ト云フ、皆一時大ニ流行セリ、又日耳曼ノ叙事詩「にべる「ん「げ「ん「り「と「(「如キ西班牙ノ「し「つ「と「篇ノ如キハ當時ノ名作ナリ、然レドモ此等ノ詩篇ハ他日眞正ナル詩體ノ前驅ヲナセシニ過キス、十三四世紀ニ至リテ二大詩家出テタリ、一チ伊太利人だんて(一千二百六十五年生レ千三百二十一年歿ス)トナス、ふる「れ「ん「す「市ニ生ル、其叙事詩「で「い「が「い「な、こ「め「で、あ「ハ全世界有數ノ傑作ニシテ、伊太利詩語ノ典範トナレリ、一チ英吉利人ち「よ「さ「(千三百二十八年生レ千四百年歿ス)トナス、英國五大詩家ノ一ニ居リ、其名世ニ喧シ、だんて「ノ後、詩人ニハべ「と「ら「か「アリ、散文家ニハば「か「つ「ち「ア「リ、皆有名ナリ、此時代ニ當リテ羅旬語ヲ以テ記述セル史家ノ重ナルモノハ佛

以テ裝飾シ、美麗堅牢ヲ極ム、高大ナル建築ニハ往々數百年ヲ費セシモノアリト云フ、又繪畫彫刻ノ術モ漸々進歩シ特ニ繪畫ハ「ち「き「と「(千二百七十六年生ル)出ツルニ及ヒテ實物ノ描寫ヲ勉メ、此術ノ一新面目ヲ開ケ

産業 十字軍ノ起リシヨリ歐洲ノ商業工業大ニ進歩シ、市府ノ繁盛ヲ致セシコトハ既ニ之ヲ説ケリ、爾來東洋ノ探見ヲ企ツルモノ出テ「に「す「ま「こ「ば「(一千三百二十四年歿ス)ノ如キハ、其父及叔父ト共ニ支那(元ノ時代)ニ入り、二十六年ノ後歸リテ旅行記ヲ著セリ、又英人じよん、まんで「るハ東洋ヲ遍歴シ亦旅行記ヲ著セリ(「と「う「。一〇三三ノ時)然レドモ中世紀ノ商業ハ北海及ばるて「く「海岸ノ地方ト地中海濱ノ諸國トニ止ル、十世紀及十一世紀ニ於テハ亞非利加海岸ノ諸市大ニ榮エ、西班牙ニ於ケル亞刺比亞人モ亦殖産ヲ務メテ富裕ナリ、十一世紀以後即十字軍以後般

盛トナリシ市府ハ、南方ニ於テハあゝる、まるせいゆ、  
 部のあ、ふるいれんす、あまるふい、グマにす等ニシテ中  
 部以北ニ於テハすくらすぶるぐ、あうぐすぶるぐ、うる  
 ひ、らてすぼん、げんな、にゅれんぶるぐ等殊ニ繁盛  
 シ、南北ノ物貨ヲ交通セリ、此間又歐洲ニ輸入シタル  
 新工業甚多ク、伊太利ニ於テハ絹絲ノ製造大ニ開ケ、  
 幾何ナラズシテ南部佛蘭西及西班牙地方ニ廣布セリ、  
 英吉利ニ於テハ十一世紀ノ中葉ヨリ十三世紀ノ中葉ニ  
 至ルマデ、羊毛ノ輸出大ニ行ハレ、ねとらうゝと三世  
 (商業ノ父)ノ時華麗ナル毛布ノ製造起リ、國益富盛ニ  
 赴ケリ、此ノ如ク商工業ノ盛大ニ赴クニ從ヒ金融ノ事  
 業起リ、遂ニ中世紀ノ終ニ至リテ伊太利ノ市府ニ銀行  
 ノ設立ヲ見ルニ至レリ、

### 第三編 近世

#### 總論

中世ト近世トノ限界 既ニ中世ヲ經過シ、將ニ近

世ノ域ニ入ラントス、中世ト近世トノ間ニハ、彼上世  
 ト中世トノ間ニ横レルカ如キ大段落アルナク、其限界  
 甚漠然タリ、然レトモ連續タル時流ノ中、必事物ノ興  
 廢大勢ノ變遷アリテ、之ガ畛域ヲナスナクンバアラ  
 ズ、故ニ讀者ハ近世紀ヲ讀ミテ當ニ中世紀ト大ニ其觀  
 ナ異ニセルヲ見ルベシ、而シテ其差違ノ由テ起リタル  
 ハ實ニ十五世紀ノ後半ニアリ、蓋此時代ハ諸種ノ發明  
 發見及學術ノ復興等アリテ近世紀人文發達ノ大原動力  
 トナリ、以テ近世史ノ前驅ヲ爲シタレハナリ、而シテ其  
 原動力ノ起點ハ十五世紀ノ中葉ニアレバ、吾人ハ假リ  
 ニこんすたんでいのーぶるノ滅落(千四百五十二年)ヲ  
 以テ兩世史間ノ限界トナセリ、然レトモ是唯便宜上時  
 勢變遷ノ目標トナセシニ過ギズ、敢テ兩世史ノ限界ヲ  
 以テこんすたんでいのーぶる滅落ニ存ストナスニアラ  
 ザルナリ、

近世ノ大勢 中世ノ末ヨリ封建ノ制漸々破壊シ、

集權ノ大王國續々其間ニ起リ、小國ハ次第ニ大國ニ結  
 合スルノ傾向アリ、而シテ近世紀ニ至リ、政治上ノ大  
 動力トナリテ史上ヲ聯貫スル所ノモノハ、實ニ國力ノ  
 均衡ナリ、是蓋各國相對峙シテ其勢力ヲ擴張スルノ時  
 ニ當リテハ必然起ルベキノ數ナレバナリ、而シテ各國  
 相互ノ關係ハ夫支那戰國ノ時代ニ於ケルガ如ク、或ハ  
 連衡シ或ハ合縱シ、以テ強ヲ抑ヘ弱ヲ扶ケ、己ヲ持シ他  
 ナ妨グルコトニ汲々タリ、近世各國ノ爭亂皆職トシテ  
 之ニ基固セズンバアラズ、然リ而シテ近世紀ニ至リテ  
 ハ國家的思想漸ク發達シテ人民結合ノ力強盛トナリ、  
 政教ノ分離ト共ニ政治ノ基礎亦堅固ニ趨キ、實業ノ精  
 神大ニ振起シ、學術技藝ハ駁々トシテ日ニ進歩シ、以  
 テ今日ノ昌盛殷富ヲ致セリ、翻リテ一方ヲ見レバ、通  
 商貿易ノ進歩スルニ從ヒ、從來歐洲人ニ知ラレザリシ  
 東洋開化國トノ交通モ開ケ、東西洋人民ノ相合シテ一  
 團トナリ、茲ニ始メテ眞誠世界史ノ興起ヲ促スニ至レ

世界誌 史紀 近世紀ノ前驅 發明及發見

第一期 (こんすたんでいのーぶるノ滅  
 亡ヨリヲ起ス) 約ニ至ル)

### 第一章 近世紀ノ前驅

#### 第一 發明及發見

火藥 十四世紀并十五世紀ニ至リテハ、諸種ノ發明  
 アリテ中世紀ノ狀態ヲ一變シ、近世紀開明ノ啓行ヲナ  
 シタルモノ甚多シ、就中重要ナルモノヲ火藥、羅針盤及  
 印刷術ノ發明トナス、火藥ハあれきさんだー大王ノ時  
 既ニ支那印度及亞刺比亞人中ニ使用セルモノアルヲ見  
 レバ、からいぶるぐノ僧しわわつノ發明ニアラザル  
 ヤ知ルベシ、然レトモ其實地砲火ニ應用スルニ至リシ  
 ハ、十四世紀ノ中葉ニアリシコト疑ナシ、此發明ハ軍  
 制ニ大變動ヲ起セリ、即兵士ノ力均一トナリ、匹夫ノ  
 強勇施スニ所ナク、敗徳ノ騎士ハ其顔色ヲ失ヒ、熟練

ノ常備兵之ニ代リ、從フテ封建制度ノ顛覆ヲ見ルニ至  
レリ、

**羅針盤** 羅針盤ハ十四世紀ノ初ニ當リテ、伊太利  
あまるふ地方ノふれぐいおちやノ發明セシ所ナリト  
イフトイヘトモ、其時ヨリ二百年以前既ニ歐洲ニアリ  
テ粗糲ナル羅針ヲ用ヒタリ、又支那ニ於テモ既ニ上古  
其製作アリシカ如シ、然レトモ之ヲ航海ノ實用ニ供セ  
シハちやナリ、是ヨリシテ航海ノ術大ニ進歩シ、  
從來ノ如キ地中海ノ小區域ヲ越エ、遙ニ大洋ニ出テ數  
多ノ遠征發見ヲナスニ至レリ、

**印刷術** 印刷ハ初木版ヲ用ヒシカ其術次第ニ進歩  
シ、遂ニ鑄物ヲ以テ鑄造セル活字ヲ發明スルニ至レ  
リ、其發明者ハめんつニ生レ、而シテ永クすどらすぶ  
るぐニ住セシグーてんべるぐナリ、グーてんべるぐハ  
あうすとノ助カヲ得又敏捷ナル技手しつふるト結  
ヒ、遂ニ千四百五十六年ニ至リ完全ナル羅甸聖書ヲ出

ノ素志ハ亞非利加ヲ廻航シ、直ニ東印度ト貿易ヲ開  
カントセシニ在リ、此時葡萄牙人ハ始メテのんの岬ヲ  
過キぼじとト港ヲ廻リ遂ニ熱帶地方ニ入り、亞非利加  
西海岸諸島ヲ發見セリ、千四百六十三年へんりー死ス  
ルニ及ヒ、此業一時稍廢弛ニ歸セシガ後じよん二世(千  
四百八十一年)位ニ即キ、又大ニ之ヲ獎勵セシナ以テ葡  
萄牙人再起テ航海ニ從事シ、益南進シテぐいにあニ至  
リ、海岸ニ植民地ヲ設ケテ貿易ヲ開ケリ、是ニ於テ又  
印度ニ到ルノ難カラサルヲ知リ、又復南ニ進ンデ千四  
百八十六年葡萄牙人ハ一すいゝみ。一だいなす遂ニ亞非  
利加ノ南端カぼー、とーめんとぞ岬ニ達セリ、王じよん  
此岬ヲ名ツケテ喜望岬トイフ、其後ゆまにゆるる大王  
ノ時ばすこ、だかまトイヘルモノ遂ニ亞非利加ノ東岸  
ヨリ印度洋ヲ横絶シ、まらばーノかりかど港ニ入り  
(千四百九十八年)印度ノ產物ヲ載セテ歸レリ、是ニ於  
テ葡萄牙人まらばーニ植民シ直ニ船路ヲ歐洲ニ取リ

世界誌 史紀 近世紀ノ前驅 發明及發見

版セリ、コレヨリ書籍ハ復富裕者ノ專有タラスシテ、  
廉價ヲ以テ多數ノ讀者ニ配布スルコトヲ得、人智日ニ  
開進セリ、

**發見** 十五世紀前半紀ノ世界トシテ知ラレタルハ歐  
羅巴ト西南亞細亞并ニ北方亞非利加ノ一少部分ノミニ  
シテ、東洋ノ豐富ナル產物ハ僅ニあれきさんどりあ及  
グマにすヲ歷テ西洋ニ入ルノミナリキ、彼亞非利加西  
海岸ノけーのん(不能岬)ノ如キハ當時是ヨリ以テ  
進行スベカラサルヲ信ジテ此稱ヲ與ヘシナリ、然レト  
モ羅針盤ノ發明ト共ニ航海ノ術進歩セシヨリ、大ニ新  
世界ヲ發見シ商業上地理上及一般人智ノ上ニ大影響ヲ  
及ホスニ至レリ、而シテ其遠航ニ從事セシモノハ葡萄  
牙人西班牙人ヲ最トナス、

**葡萄牙人の航海** 葡萄牙ノ王子へんりー航海ノ業  
ヲ獎勵シせーぐれす港ニ觀象臺ヲ起シ、四方ヨリ天文  
航海ノ學士ヲ招致シ、大ニ其道ヲ講究セリ、蓋へんり

テ、東洋ノ產物ヲ貿易セリ、是ヨリグマにす衰へりす  
ぼん繁榮ニ趣ケリ、  
こるむぶす、亞米利加發見 葡萄牙人ノ銳意シ  
テ航海發見ニ從事セルノ間、ぢえのあ人くりすどあ、  
こるむぶすモ亦大西洋ヲ横絶シテ印度ニ至ルノ新航路  
ヲ發見セントノ大願ヲ起セリ、こるむぶす、千四百五十  
六年伊太利ばぐいあ大學ニ入り、數學天文學ヲ研究シ後  
りすぼんニ住居シ、航海者トナリテ諸方ニ航セリ、葡  
萄牙人ノ亞非利加ヲ廻航シテ印度ニ至ルノ航路ヲ求ム  
ルニ當リテ、こるむぶすハ地球圓體ノ理ヲ應用シ、直  
ニ西方ニ航シテ以テ印度ニ達セントシ、既ニ第二編第  
八章第五ニ於テ記載シタルガ如ク、伊太利人まーこー、  
ぼろー支那ヨリ還リ旅行記ヲ著シ、支那ノ東方ニ日本  
國アリテ、金銀財寶ニ富メルコトヲ記述セシナ以テ、  
大ニ航海者ノ慾情ヲ動シ、こるむぶすノ如キモ日本ニ  
至ランコトヲ希望シタリト云フ(補助ヲ葡萄牙王じよ

二世及英吉利王ヘンリー七世ニ求ム、皆成ラズ、遂ニ  
かすて、その女王イザベラ(即西班牙王后)ノ援ケル  
所トナリ、大西洋水師提督、新発見國副王ノ位ヲ得テ、  
千四百九十二年今ヨリ四百〇五年前八月三日船三艘ヲ  
率キテばるす港ヲ發シ、印度ニ達セスシテ亞米利加ヲ  
發見スルニ至レリ、然レトモこんむぶすハ新世界ヲ以  
テ亞細亞ノ一部分ナリト固信セリト云フ、其後第四回  
航海ノ後千五百〇六年ニ死セリ、

**其他ノ諸發見** ころむぶす一タビ亞米利加ヲ發見  
シテヨリ新地發見ノ企業心、西班牙葡萄牙ノ人民中ニ  
勃興シ、ジエにす人ヒョん、カボットハ英國ノ國旗ヲ船頭  
ニ掲ケ亞米利加ノ東岸ヲ探見シ、らぶらどるノ海岸ニ  
達シ凡九百哩南下セシコトアリ(千四百九十七年)、其  
後幾年ナラズシテふるれんす人あめりて、ジエすぶ  
ち南亞米利加ノ海岸ヲ探見シ紀行ヲ著セリ、是ヨリ新  
大陸ハ始メテ亞米利加ノ稱ヲ得タリ、葡萄牙人かぶら

其内亂ニ乘シテ之ヲ征服セリ、是ヨリ西班牙ハ墨西哥  
及ペルノ二國ヲ領シ、國富歐洲ニ冠タルニ至レリ、

### 第二 學藝ノ復興

**學術** 發明及海上發見ノ時代ハ、又學術復興ノ時代ナ  
リ而シテ學術復興ノ中心ハ伊太利ニアリテ、次第二西  
部歐羅巴ニ波及セリ、初ハ羅甸ノ言語及文學ヲ採用セ  
シノミナリシガ、こんすたんとてのいぶるノ滅落スル  
ヤ學識アル希臘人希臘古典ノ書ヲ抱キ、遁レテ伊太利  
ニ入ルモノ多ク、爾來學者ハ希臘ノ貴重ナル記録ヲ講  
究スルコトヲ得ルニ至レリ、而シテ伊太利諸侯ハ皆競  
フテ學術ヲ獎勵シ、ふるれんす市ノめでしノ如キ  
ハ圖書館并ニふらどーにク學舎ヲ設立シ、まーしり  
あす、ふしなすハふらどーノ全書ヲ翻譯シ、又數多ノ  
辭書、文典、編纂セテ、古典ノ學益ト平易ニ趣ケリ、  
而シテ此等ハ印刷術ノ媒介ニヨリ、忽諸國ニ普及スル  
ニ至レリ、是ニ於テカ新學風ノ教養諸國ニ勃興シ、殊

世界誌 史紀 學藝ノ復興 宗教改革時代

るハ印度航行ノ途中ぶらぶらノ海岸ニ漂着シ、之  
ヲ取リテ葡萄牙ノ領地トナセリ(千五百年)、千五百十  
三年西班牙人ばるあ始メテばなまノ地頭ニ達シ、高  
所ヨリ太平洋ヲ望ミシト云フ、千五百二十年葡萄牙人  
まぢららん亞米利加ノ南端(即まぢららんノ海峡)ヨリ太  
平洋(まぢららんノ名ル所ナリ)ヲ横絶シ、印度ヲ經テ  
ふりびん群島ニ達シ、土人ノ爲ニ殺サレシカ、其船  
遠ニ地球ヲ一周シテ還レリ、其後西班牙人ハ墨西哥ヲ取  
リ、次テペルノ地ヲ取リテ其屬國トナセリ、

**墨西哥及ペルノ征服** 千五百十九年西班牙人  
はーなんぞー、こーテす墨西哥ヲ發見セリ、當時墨西  
哥ハ既ニ開化シテ一國民ヲ爲シ、王アリテ之ヲ治ム、  
王もんでづま西班牙人ヲ拒ム、こーテす勇卒七百人ヲ  
以テ之ト戰ヒ、遂ニ其王國ヲ滅シ西班牙ノ屬地ト爲シ、  
又かりふるにあ半島ヲ發見セリ、其後びづーろー及  
あるまぐろーノ二人又黄金ニ富メルペルノ地ヲ發見シ、

ニ日耳曼ノ如キハ新學派大ニ起リテ、舊來ノ教養育礎  
ヲ神學ニ置キタル道義派ト相争ヘリ、新學派「ひー  
まにすど」トイヒ、舊學派「おぶすき」ト云フ「らんですど」  
ト稱ス、「ひーまにすど」ノ著名ナルモノヲヒョん、ろい  
くりん(千四百五十五年生レ千五百二十二年歿ス)うる  
りっひ、おん、あつてん(千五百二十三年歿ス)でしでり  
あす、あらすます(千四百五十七年生レ千五百三十六年  
歿ス)トナス、是ヨリ學術ハ宗教ノ束縛ヲ脱シ自由ノ發  
達ヲナスニ至レリ、

**技藝ノ復興** 此時代ハ又技藝ノ始メテ旭光ヲ放テ  
ル新時期ナリ、建築繪畫ハ宗教的束縛ヲ脱シ、殊ニ繪  
畫ハ其發達顯著ナリキ、有名ナルミカハ、あんぢ  
ふる及らふるえるノ如キモ亦此時ニ出デ、大ニ技藝上ノ  
面目ヲ一新セリ、

### 第二章 宗教改革時代

#### 第一 宗教改革及チャーレス五世

**概説** 近世紀ノ前驅ヲナシタル發明、發見及學術ノ復興ハ一般人民ノ思想上ニ大變動ヲ起シタリ、而シテ吾人ハ先、宗教改革ニ於テ之ヲ見ル、抑十六世紀ノ初ニ當リテハ西歐羅巴諸國皆同一教會ノ下ニアリテ、法王之カ首長タリ、而ルニ教法漸ク悖亂ニ趨キ、僧正ノ如キハ外儀表ヲ飾テ内義務ヲ盡サズ、蠢々タル多數ノ僧侶ハ皆無學ニシテ怠惰ナリ、然レトモ其弊源ハ由テ來ル所遠シ、夫「あるびぢあんせす」派(十二世紀ニ佛國ノ南部ニ起リシ一宗派ニシテ法王ノ權力及教會ノ儀式ヲ不法ト認メタルモノナリ)起リ又ウヱリッホ(十四世紀英吉利人)出テはつす(十五世紀日耳曼人)出テ、大ニ改革論ヲ唱導セシテ見テモ、亦以テ中世紀後半期以後宗教上ノ不平時々勃發セシテ證スルニ足ルベシ而シテ十六世紀ニ入ルヤ宗教論又大ニ激發シ、一方ニ於テハ羅馬法王ノ政治上ニ干渉スルノ非ナルヲ論シ、他方ニ於テハ教會ノ教理、式禮皆聖書ノ旨趣ニ悖畔セルコト

ヲ議シ、遂ニ宗教ノ改革ヲ促スニ至レリ、**發端** 此時ニ當リテレハ十世法王ノ位ニ登リ、教會府庫ノ空乏ヲ補ハント欲シ、百方不正ノ手段ヲ以テ財貨ヲ日耳曼ニ徵シテ、之ヲ羅馬ニ納レ、猶足ラスシテ遂ニ贖罪狀ト稱スルモノヲ發シテ賣買ニ附シ、「どみにかん派」ノ僧侶ト稱スルモノヲ發シテ賣買ニ附シ、「どみにかん派」ノ僧侶ト稱スルモノヲ發シテ賣買ニ附シ、議甚非理ナリ、是ニ於テカ改革論始メテ日耳曼ニ起ル、ウヱリッホハ大ニ學ノ教授者ニシテ、實ニ之カ首唱者ナリ、  
 まるていん、るゝてゐるゝてゐるハ破夫ノ子ニシテ千四百八十三年あいすれーべんニ生ル、長ジテ「れがすていかにん派」ノ僧トナリ、さくそにノ撰擧侯かれでり(賢王)ノ爲ニ聘セラレ、ウヱリッホハ大ニ學神學ノ教授トナリ、且說教師トナレリ、時ニてつゝ贖罪狀ヲ賣ルヲ見、厭起之ニ抗シ、遂ニ千五百十七年贖罪狀ヲ賣ルノ大ニ非理ナルヲ論シテ、意見九十五

條ヲ擧ゲ、ウヱリッホハナル教會ノ門戸ニ帖シ、廣ク之ヲ公衆及學士ニ訴ヘタリ、此書忽四方ニ傳播シテ學者間ノ一大問題トナレリ、而シテ日耳曼ノ諸侯中ニハるゝてゐるノ説ニ賛スルモノ少カラズ、是蓋自國ノ財寶ヲ羅馬ニ吸收セラル、ヲ恐レテナリ、其初ニ當リテハ法王ゝてゐる等ノ抗論ヲ以テ毫モ意トナサズ、以爲ク是唯「わがすていかにん派」ト「どみにかん」派トノ爭論ノミト、而ルニるゝてゐるハラいふしつクノ公會議論ニ於テ明ニ法王背反ノ理ヲ決論セリ、是ニ於テ法王ハるゝてゐるノ主旨ヲ以テ異端邪說トナシ之ヲ破門セリ、るゝてゐる破門ノ證ヲ援リテ公然之ヲ燒棄シ、益、法王ニ抗セリ(千五百二十年)、時ニるゝてゐるニ與スルモノ益、多ク、就中ウヱリッホハ大學希臘語ノ教授タルウヱリッホ、めらんくどんノ如キハ大ニるゝてゐるヲ援ケタリ、今ヤ兩派ノ爭其極ニ達シ、諸侯ト僧正トノ爭トナレリ、帝まきしみりあん管テさくそに候ふれでり、ウヱリッホ

テ曰ク善クウヱリッホハるゝてゐるノ僧(るゝてゐる)ヲ護セヨ、他日必須ツコトアラント、既ニシテ帝ハ又次第ニ法王ニ傾クニ至レリ、  
**ちやーれす五世ノ即位** まきしみりあん歿シテ(千五百十九年)二人ノ帝位競争者出テタリ、佛王あらんしす一世及西班牙王ちやーれす(まきしみりあんノ孫)是ナリ、ちやーれす遂ニ撰ハレ西班牙王とん、かゝるす一世ノ稱ヲ改メ、帝ちやーれす五世ト稱ス(千五百二十年)、是ニ於テちやーれすノ領地非常ニ廣大トナリ、澳太利、ねざーらんど、かすてい、あらごん、なぐー、る、ねーぶるす、し、りー及亞米利加ノ西班牙領皆其手中ニ歸シ、神聖羅馬帝國ノ總督トナレリ、帝ちやーれす智略アリ、然レドモ西班牙ノ教育ヲ受ケテ成長セシナリ、以テ深ク羅馬教ニ執着シ、其帝タルノ職トシテ教會ヲ保護センコトヲ誓ヘリ、又帝ハ政治ヲ以テ最上ノ事業トナシ、中心ヲ伊太利ニ置キテ、以テ佛王からんしす

一世ト争ヘリ、

うおーむすノ大會 新教ノ勢日ニ熾ナルヲ以テ、

法王基之ヲ憂ヘ、ちやーれす五世ノ位ニ即グニ及ビテ、  
帝ニ乞フテ之ヲ處理セントス、是ニ於テちやーれす始メ  
テ日耳曼ニ至リ、うおーむすニ大會ヲ開キ(千五百二  
十一年)るゝて召シ僧正朝官ノ前ニ於テ、命ズル  
ニ其持説ヲ翻スヲ以テス、るゝて固ク持シテ命ヲ奉  
ゼズ、然レドモ帝ハ猶力ヲ盡シテ異端者ヲ撲滅セン  
ヲ誓ヒシガあらんしす一世ト事ヲ生ズルニ及ビ、數年  
ノ間之ニ關與スルコトヲ得ザリキ、

ちやーれすトふらんしす一世 帝既ニ廣大ノ  
版圖ヲ管轄シテ勢甚大ナリシガ、佛王ふらんしす一世  
アリテ之ト抗争セリ、ふらんしす始帝位ヲ望ンデ成ラ  
ザリシヲ以テ、常ニちやーれすヲ妨グントス、是ニ於テ  
カ兩國ノ勢氷炭相容レズ、以テ歐洲ノ平原ニ血ヲ雨ラ  
スニ至ル、抑佛王がちやーれすト相争フニ當リテ、其常

ニ疾呼セシ所ノ旨趣ハ、國力ノ權衡ヲ保ダントスルニ  
アリタリキ、

まどりつど條約 千五百十五年佛人みらんヲ占領  
セシガ、既ニシテ日耳曼兵ノ破ル所トナリ、あるふす  
山ヲ越エテ軍ヲ退ク、是ニ於テ北部伊太利ちやーれす  
ノ手中ニ落ツ(千五百二十二年)、日耳曼ノ兵進ンテ南  
部佛蘭西ニ侵入セシガ、勇敢ナル市民ノ防禦ニ遭ヒテ  
退ケリ、千五百二十四年冬ふらんしす一世自精兵ヲ率  
キ伊太利ニ入り再みらんヲ取ル、然レドモばづーあ  
ノ戰ニ於テ佛軍遂ニ大敗シテふらんしす虜トナリ(千  
五百二十五年)まどりつどニ在ルコト一年、終ニまどりつ  
どノ條約ヲ結ビ佛王ハみらんノ要求ヲ廢シ、ばーが  
んてーを放棄シ、且ニ子ヲ質トスルコトヲ約シテ事平  
グヲ得タリ、

改革ノ進歩 るゝてるさるくそに候おれり  
ノ保護ヲ受ケ、暫時爭亂ヲわるとふるやノ城砦ニ避ケ

テ聖書ノ翻譯ニ從事シタリシガ、改革ノ事業大ニ進歩  
シ、國內有力ノ諸侯るゝてノ説ヲ奉スルモノ頗多  
シ、るゝて又僧侶ノ結婚ヲ許シ、自尼僧キヤリ  
ふらん、ぼらト婚セリ、是時らいん、すう、びあ地方ノ  
農民、ぞーます、みんつるノ挑撥スル所トナリ、宗  
教上ノ自由ヲ誤解シ且地主ノ抑壓ヲ脱セント欲シテ大  
ニ蜂起シ、數多ノ寺院城砦ヲ破壊焚燒シ、勢一時猖獗  
ナリシガ、遂ニ鎮壓セラレタリ(千五百二十五年)、然  
レドモ新教ハ忽ニシテ其版圖ヲ擴張シ、北方日耳曼、  
佛蘭西、瑞西、英蘭、蘇格蘭、丁抹、那威、瑞典等ニ  
蔓延セリ、要スルニてゝとに人種ハ概新教義ヲ奉  
シ、羅甸人種ハ熱心ニ舊來ノ信仰ヲ持續セリ、

ぶろてすたんと及れーぐすふるの國會  
新教ノ勢力ハ日ニ隆々トシテ盛ナルヲ以テ、千五百二  
十九年反對派ノ諸侯僧正ハすばいあすニ會議ヲ開キ、  
宗教ノ改革及新教ノ傳播ヲ禁セリ、而ルニ新教ヲ奉ス

ル日耳曼の諸侯及市府ハ皆大ニ之ニ抗論セリ、是ヨリ  
シテ改革派ハ「ぶろてすたんと」ノ稱ヲ得タリ、蓋抗論  
者ノ意ナリ、其翌年春ちやーれす帝おーぐすふるニ  
盛大ナル國會ヲ開ク、時ニ「ぶろてすたんと」派ハめら  
んくどんノ編纂セル信仰書(日耳曼及羅甸ノ兩語ヲ以  
テ記述セリ)ヲ呈出セリ、然レドモ國會ハ新教禁制ノ  
決議ヲナセシヲ以テ、新教派ノ諸侯、市府ハすまるか  
るでらニ同盟を組織シ以テ相救援セリ、佛蘭西、丁抹  
ハ共ニ新教徒ヲ援ク、時ニ土耳其人侵入シテ將ニぐん  
ナニ迫ラントス、是ニ於テカちやーれす遂ニ「れむ  
べる」ノ平和ヲ結ビ(千五百三十二年)宗教ノ事ニ各  
人ノ自由ニ任セ、兩派相合シテ基督教國ノ敵ニ當レ  
リ、

かむぶれーノ條約 ふらんしす、まどりつどノ條  
約ヲ爲セシモ、固ヨリ之ニ從ハントノ意ニアラザリシ  
ヲ以テ、其國ニ還ルヤ又法王、英王へんりー八世及二



三ノ伊太利諸侯と聯合シテ、以テ伊太利ノ自主ヲ謀ル、是ニ於テ戰端復開ク(千五百二十七年より千五百二十九年まで)日耳曼ノ兵ふるぼんノ兵ト合シ、伊太利ニ入り羅馬ヲ陥レ爾後恣ニセリ、此間佛軍ハ上伊太利ヲ略シ進ンデねいふるすニ入り之ヲ略奪セントス、然レドモ疾疫ノ爲ニ軍勢大ニ衰ヘ、遂ニかむふれノ和ヲ講ジ、佛國ハ伊太利ノ要求ヲ廢シ、且二百萬「くらおん」ヲ出シ其二子ヲ購ヒ、而シテばいがんでいナ領スルコトヲ得タリ、其翌年(千五百三十年)ちやいれすハ法王ヨリ帝冠ヲ受ク、是ヲ法王授冠ノ最終トナス、**土耳其人トノ戰爭** 是時土耳其ノ「さるたん」そりまん二世ろいです島を占領シ、埃及を征服シ、匈牙利ヲ過ギ、びんなニ迫レリ(千五百二十九年)ちやいれすは新教徒ト和シ之ヲ防キテ國外ニ驅逐セリ、而シテ帝ハ土耳其人ノ勢力ヲ殺カント欲シ、地中海ヲ渡リ亞非利加ノ北岸テ、にすニ上陸シ、「さるたん」ノ將ばいば

ろいヲ破リ、ばいばろいノ爲ニ虜ニセラレタル基督教徒一萬人を放釋セリ(千五百三十五年)、其後ちやいれすハ再艦隊ヲ遣リ、亞非利加ニ航シ、あるぎーるすノ海賊ヲ勦滅センセシガ、暴風雨ノ爲メニ船艦ヲ破壊セラレテ其効ナカリキ(千五百四十一年)、**くれすびーノ條約** かむふれーノ條約後未幾年ナラズ、おらんしすハ復みらんヲ得ンコトヲ要求シ、土耳其人ト同盟セリ、是ニ於テちやいれす亞非利加ヲ征セリ、佛國トノ戰爭ハ三年(千五百三十五年)ヨリ千五百三十八年マデ)ニ涉リ法王ノ中裁ニヨリテ十年間ノ平和ヲ約セリ、然レトモ帝ノ亞非利加第二征戰ノ効ナキニ及ヒ、おらんしす復みらんヲ要求シ、土耳其人ト連合セリ(千五百四十二年)、土耳其人匈牙利ニ侵入シ西班牙伊太利ノ沿岸ヲ抄掠ス、おらんしすハ帝トせりそいれすニ戰ヒ之ニ勝チシトイヘドモ、帝ハ英王へんりーと結ヒテ佛國ニ侵入セシヲ以テ、おらんしす遂ニ

和ヲ乞ヒ、以來おらんしすハ伊太利ヲ、ちやいれすハばいがんでいナ拋棄スルコトヲ約セリ、之ヲくれすびーノ條約ト云フ、實ニ千五百四十四年ナリ、此ニ於テ凡二十五年間ニ涉レル兩雄ノ爭亂全ク其局ヲ結ビ、後三年ヲ經テ佛王英王相繼キテ歿セリ、**すまるかるどノ戰爭** 帝ちやいれすおらんしすトくれすびーノ平和條約ヲ結ヒシヨリ、復新教徒ヲ壓服セントシ、千五百四十五年とれんどニ宗教會議ヲ開キシガ、新教徒ハ一人ノ之ニ參スルモノナカリキ、是ニ於テ帝ハすまるかるどノ同盟ノ首領タルとくそにノ撰舉侯じよん、ふれでりく及へせ伯ふりっふニ放逐ノ命ヲ下セリ、是ニ於テ内亂復破裂セリ(千五百四十六年)るいてるハ戰端ノ未發セザルニ先チ、千五百四十六年二月十八日ヲ以テ沒セリ、然ルニ此時さきそにい公もいりす新教派ノ同盟ヲ脱シテ帝ト相結托セシヲ以テ、新教同盟終ニ瓦解セリ、帝ちやいれす勢ニ乘ジ

南方日耳曼ニ於ケル新教徒ノ市府ヲ從ヘ、もいりすト共ニふれでりくヲ攻メ、千五百四十七年みーるべるぐノ戰ニ勝テ之ヲ虜ニセリ、次テふりっふモ亦降レリ、是ニ於テ帝全ク勝利ヲ得、おらんしすノ劍るいてるノ筆、唯地下ニ鳴ルアルノミ、帝心驕リ殘忍至ラサルナシ、舊教徒モ亦帝ヲ惡ムニ至ル、**新教徒ノ勝利** もいりすハ帝ヲ援ケテ大功アリシヲ以テ、撰舉侯ノ位トふれでりくノ故領トヲ得タリ、然レドモ心中新教ニ歸向セルヲ以テ漸ク帝ノ心事ニ服セズ、遂ニ佛王へんりー二世(おらんしすノ子)ト結ンテ帝ニ反ス、帝出奔シ遂ニばいそーノ條約ヲ結ンデ新教徒ノ自由ヲ許シ、聖四セル諸侯ヲ解放セリ(千五百五十二年)、後又三年ヲ經テ千五百五十五年ニ至リ、おんすぶるぐノ會議ニ於テ新教徒ハ信仰ノ自由ヲ得、且舊教徒ト共ニ政治上同等ノ權利ヲ得ルニ至レリ、**ちやいれすノ晩年** 帝ノ好敵手おらんしすハ既ニ

殂セリト雖、其子へんりー二世猶父ノ志ヲ繼キテ、  
れすニ抗セリ、法王モ亦帝ノおゝすぶるぐノ會議ニ  
於テ信仰ノ自由ヲ許セシテ、憤リテ、奧太利家ヲ敵視  
シ、佛王ト密ニ結托スルニ至ル、是ニ於テ帝ハ決然帝  
冠ヲ去リ、位ヲ弟おゝいでいなんどニ與ヘ(千五百五十  
六年)西班牙及し、りー王國及ねざーらんを其子おゝ  
りぶ二世ニ與ヘ、而シテ自、西班牙ノさん、ゆーすて  
ーノ寺院ニ退居シテ餘生ヲ送り、千五百五十八年ニ至  
リテ殂セリ、

### 第二 瑞西、丁抹及瑞典ニ於ケル宗 教改革

瑞西 瑞西ニ於ケル新教ノ首唱者ハうるりひ、つら  
んぐりーナリ、千四百八十四年ニ生レ、がんな及ば  
せるニ於テ「ひーまにす」とノ學ヲ修メ、希臘語ノ聖書  
ヲ讀メリ、ちーりひニ於テ始メテ牧師トナリ千五百  
十八年大ニ贖罪狀賣買ノ非理ナルコトヲ論ゼリ、つら

んぐりーハ資性惡篤ニシテ學識高ク、雄辯能ク人ヲシ  
テ奮起セシム、つらんぐりー瑞西人ノ傭兵トシテ諸  
外國ニ出ヅルモノ多キヲ憂ヒ、宗教ト共ニ政治上ノ改  
革ヲ爲サント欲シ千五百二十四年斷然新教徒トナレ  
リ、ちーりひ、べるねぶさるノ諸州皆之ニ化セリ、  
つらんぐりーノ目的ハ數小州ヲ聯合シテ、共和政ヲ施  
行セントスルニアリ、然レドモ五箇ノ山州ハ権力ノ己  
ニ歸セサルヲ惡ミテ舊教ニ荷擔シ、遂ニ市府ト山州ト  
ノ間ニ爭亂ヲ醸シ、山州ハ奧太利ノおゝいでいなんどと  
同盟シ、市府ハ日耳曼諸侯ノ援ヲ得ントス、千五百二  
十九年一時和成リシガ、幾何ナラズシテ破裂シ、千五  
百三十一年かゝるノ役、新教徒ノ軍破レテつらんぐ  
りー之ニ死ス、同年同月和議復成リ、以後兩々相對峙  
セリ、

丁抹 丁抹ハおゝでんぶるぐノくりすていあん一世  
(千四百十八年ヨリ千四百八十一年マデ)位ニ登リ、ほ

るすたいん及し、れすらひノ二公國ヲ合セタリ、其孫  
くりすていあん二世(千五百十五年ヨリ千五百二十三年  
マデ)立ツニ及ビテ、おれでりく一世兩公國ヲ管轄  
セリ(おれでりく一世ハ後くりすていあん二世ニ次テ  
王位ニ登ル)くりすていあん二世貴族ノ權力ヲ殺カン  
ト欲シ、先政略上新教ヲ容レ、而シテ瑞典ヲ臣屬セシ  
メ、次デ丁抹ノ貴族ヲ壓セントス、瑞典ニアリテハ貴  
族、政治ノ實權ヲ握リ政機ハ「すていあす」ノ手中ニ  
アリ、「すていあす」ハ他ノ貴族僧侶ト好ラズシテ人民  
ト好シ、くりすていあん之ヲ機トシ、日耳曼、佛蘭西  
ノ援ヲ得テすていあすヲ取ラント欲シ、殘暴(所謂  
すていあすノ殺戮)ヲ爲シタルヲ以テ、大ニ瑞典  
人ノ反動ヲ來セリ、丁抹ノ貴族モ其殘酷ナル手中ニ落  
チンコトヲ恐レ、革命ノ爭亂ヲ起セリ、くりすていあん  
王位ヲ退キ、千五百二十三年し、れすらひ公おれでり  
く位ヲ繼ク、おれでりくハ敢テ新教ニ荷擔セズ、又舊

教ヲ排斥セズ、然レドモ熱心ナル「るーて」派ナリ  
シヲ以テ、新教忽國內ニ蔓延セリ、千五百二十七年お  
いでんすニ國會ヲ開キ、自由ヲ新教徒ニ許シタリ、千  
五百三十三年おれでりく殂シ、くりすていあん三世代  
リ立チ、千五百三十六年こーべんへーげんノ國會ニ於  
テ、新教ノ教理ニ從ヒ教會僧官ノ組織ヲ整備セリ、

瑞典 すていあすノ殺戮後、瑞典人ハ丁抹人ヲ憎  
ムコト益甚シ、是ヨリシテ國內ニ政治宗教ノ革命起リ、  
其動變ノ骨子タルモノハ貴族がすたがす、がらニシ  
テ瑞典ノ真正ナル王政ノ創立者タリ(千五百二十三  
年)、王ハ沈勇ニ智辨アリ、心ヲ「るーて」派ニ傾ケ  
シトイヘドモ、而モ宗教上ノ混亂ニ干與スルコトヲ欲  
セザリキ、然レドモ其政事ニ於テハ專、貴族僧侶ヲ壓シ  
テ強盛ナル王政ヲ建設センコトヲ勉メ、遂ニ全ク之ヲ  
服從セシメ、又商業ヲ盛ニセリ、當時るーてノ教義ハ  
殆下全國ニ蔓延スルニ至レリ、以上説述セシ所ハテ、

トに於て諸國ニ於ケル新教擴布ノ概略ナリ、若夫英國ニ於ケル狀態ハ、英吉利ノ條下ニ記セン、

### 第三 ねざーらんどノ獨立戰爭

ふりつふ二世 日耳曼帝チャールズ五世位ヲ退キ、西班牙及ねーぶるす王國を以て其子ふりつふ二世(千五百五十六年ヨリ千五百九十八年マデ)ニ與フ、ねざーらんど亦其中ニアリ(ねざーらんどハ低國ノ謂ニシ現今ノ荷蘭及べるぢあむ地方ノ總稱ナリ)、ふりつふハ父ニ比シテ一層純然タル西班牙人ニシテ、亦舊教ヲ信仰シ殆ト狂スルニ至ル、然レトモ性深沈ニシテ思慮アリ、且能ク事ニ耐ユ、新教ノ漸クねざーらんどニ蔓延スルニ及ヒ、遂ニ西班牙ト分離スルニ至ランコトヲ恐レ、頻ニ之ヲ撲滅センコトヲ謀レリ、

ねざーらんどノ狀態 ねざーらんど人民ハ勤勉能ク業ヲ勵ミ、有爲ノ精神ニ富ミ、又大ニ自由ヲ愛ス、十七州皆憲法ヲ設ケ、北部諸州ニ於テハ殊ニ共和政

ニ傾ケリ、人口三百萬ヲ有シ、あんどらるぶノ如キハ人口十萬ノ一小市ニ過ギズトイヘトモ、其商業ノ盛ナルコト歐洲中他ニ比テ見ザル所ナリ、故テ以テふりつふノ時代ニ至リテハ、ねざーらんどハ實ニ西班牙領中最豐富ノ地タリ、是ヨリ先、宗教改革ノ起ルヤねざーらんど人皆奮ヒテ新教ヲ奉ズ、是ヲ以テチャールズ五世ハ多數ノねざーらんど人ヲ殘殺シタリシガ、遂ニかトすぶるぐノ大會以後之カ信仰ノ自由ヲ許シタリキ、

爭亂ノ破裂 ぶりつふハ敢テねざーらんど貴族會議ノ意見ニ從ハズ、專斷ノ政ヲ行ハント決心シ、千五百五十九年其義妹ばーまノまーがれとヲ以テねざーらんどノ大守トナシ、大僧正ぐらんぐるヲシテ之ヲ佐ケシメ、西班牙ノ鎮兵ヲ置キテ之ヲ守ル、而シテ宗教檢按法ヲ設ケやらんぐるヲ以テ檢按長トナシ、以テ新教ヲ撲滅セントス、是ニ於テねざーらんど人大ニ

激昂シ、おれんぢー侯ナクシテ、あんどらるぶノ伯及ぼーるん等ノ貴族主トシテ宗教檢按法ニ反對シ、且古來ノ制度ヲ恢復センコトヲ主張セリ、而シテ亂民ハ偶像撲滅ト稱シ、四日間ニシテ四百有餘ノ會堂ヲ破壊シ、狼藉ヲ極メタリキ、ふりつふ大ニ怒リ千五百六十七年猛將あるぐ公ヲ遣シ、まーがれとニ代リ兵力ヲ以テ之ヲ鎮壓セシム、

あるぐノ暴政 あるぐ勇敢ニシテ殘忍、暴政殺戮ヲ恣ニシ、一議會ヲ設ケテ流血議會ト稱シ、六年間ニシテねざーらんど人ヲ殺スコト八萬人、全國民ニ死刑ノ宣告ヲ與ヘタリ、えぐもんどぼーるん亦之ニ死ス、うりあむハ日耳曼ニ通レテ兵力ヲ集ム、是ニ於テカ四十年ノ爭亂起ル、

戰亂ノ期 あるぐノ政殘虐ヲ極メシヲ以テ和蘭及ぢーらんど先鋒起シ、うりあむヲ推シテ盟主トナシ、ぶりえる府ヲ略奪シ其勢甚猖獗ナリ、あるぐ遂ニ

之ヲ鎮壓スルコト能ハズ、本國ニ召還セラル(千五百七十三年)、れくせんす、あるぐノ後ヲ受ケ、來リテらいでん府ヲ圍ム(千五百七十四年)、うりあむ最後ノ一策ヲ案ジ、堤防ヲ決シテ海水ヲ導キ、以テ西班牙人ヲ破レリ(後之ガ紀念トシテらいでんニ大學ヲ設ケ)、西班牙人ハ一時其勇氣ヲ失ヒシトイヘドモ、ねざーらんど人ノ力未以テ之ト對峙スルヲ得ズ、是ヲ以テ國ヲ捧ゲテ英吉利女王えりづべすノ援ヲ請フ、然レドモ成ラズ、偶くせんす叛者ノ爲ニ殺サル(千五百七十六年)、是ニ於テカねざーらんど諸州ノ人民げんと同盟ヲ組織シ、うりあむヲ以テ盟主トナセリ、千五百七十八年ばーまノあれきさんだー(まーがれとノ子)ねざーらんどノ大守トナリ、南方ねざーらんどヲ征服シ、(かどり)ノ教ヲ信奉セシム、然レドモ千五百七十九年北部七州ハラとれひと同盟ヲ組織シ、うりあむヲ推シテ盟主トナス、是和蘭共和國ノ起原ナリ、是ニ於

テふりつ大ニうりあひテ惡ミ、賞金ヲ懸ケテ其首ヲ  
購フ、うりあひ遂ニ害セラル(千五百八十四年)、荷蘭  
人其報ニ接シ、(童幼ニ至ルマデ皆爲ニ涙ヲ揮フ、うり  
あひ死シテ第二子も一りす其後ヲ承ク、年僅ニ十七、異  
才アリ、曾テ西班牙人ト南部諸州ニ戰ヒ大ニ勇名ヲ著  
ハセリ、時ニ西班牙ノ將ば一ま公あんとうるぶ府ヲ  
陥ル、然レドモ英王えりづべすノ援兵ヲ得テ國力又  
盛トナレリ、

荷蘭ノ獨立 其後十數年ノ間爭亂猶已マザリシガ、  
荷蘭人少モ屈スルノ色ナシ、是ニ於テ西班牙ハ荷蘭ノ  
獨立ヲ許サ、ルヲ得サルニ至リ、英佛兩國又其間ニ  
斡旋スル所アリ、遂ニ千六百〇九年ニ至リ十年ノ休戰  
ヲ約シ、後千六百四十八年うすどふりあノ條約ニ於  
テ公然荷蘭共和國ノ獨立ヲ許可セリ(南部諸州即べる  
かあひ地方ハ猶西班牙ノ領土タリ)、是ヨリ荷蘭ハ國勢  
駿々トシテ進ミ、航海並ニ商業ヲ以テ世界ニ雄飛スル

其手中ニ落タリ、是ニ於テ西班牙王ふりでいなんどト  
共ニねーぶるすヲ分奪センコトヲ約セシガ、事破レテ  
西班牙ノ將でんさるがわーニ破ラレテ歸ル、  
三大同盟 るい後かむふれー同盟(ふりでいなん  
ど、まきしみりあん、及法王ぢりあす二世)ニ加入シ  
テがにす市ニ敵ス、がにす將ニ落滅セントスルノ時  
ニ當リ、同盟間ニ猜忌ノ心ヲ生ジ、法王ぢりあす不  
意ニ神聖同盟(まきしみりあん帝、ふりでいなんど王、  
がにす市、瑞西)ヲ組織シテ佛人ヲ伊太利ヨリ逐ハン  
トス、然レドモるい、がにすト同盟シテ再みらんニ當  
ル、是ニ於テ、又まきしみりあん同盟(ふりでいなんど、まき  
しみりあん英王、へんりー八世及法王れお十世)成リ、  
へんりー八世佛國ニ侵入ス、るい四方ヨリ攻撃セラレ  
テ平和ヲ冀フニ至レリ、

ふらんじす一世 ふうらんじす(千五百十五年ヨリ  
千五百四十七年マデ)又伊太利征服ノ念ヲ起シ、軍ヲ

第四 佛國政教上ノ争亂

ちやーれす八世及ルイ十二世 佛國政教上ノ  
争亂ヲ叙スルニ先チ、中世紀後ノ關係ヲ明ニセンカ爲  
ニちやーれす八世以下ノ諸王ヲ記セン、るい十一世ノ  
後ヲ承ケテちやーれす八世(千四百八十二年ヨリ千四百  
九十八年マデ)位ニ即ク、ちやーれすハあれきさんだー、  
しゃーれめーんヲ夢ミテねーぶるす王國ニ對シテ己ノ  
要求ヲ果サント欲ス、みらん、ふりれんす羅馬の諸  
市皆風ヲ望ンデ降り、王遂ニねーぶるすニ入ル、是  
ニ於テ近世史上最初ノ同盟成ル、みらん市、がにす市  
並ニ法王、日耳曼帝まきしみりあん、西班牙王ふりでい  
なんど相合シテちやーれすヲ逐ハントス、ちやーれす大  
ニ畏レ兵ヲ退ケ本國ニ歸ル、後るい十二世(千四百九  
十八年ヨリ千五百十五年マデ)立ち又ちやーれすノ志  
ヲ繼ギ、再あるぶす山を越エ伊太利ニ入ルみらん市忽

率キテあるぶすノ嶮ヲ越エ俄ニ瑞西ヲ襲ヒまきりぐなノ  
戰ニ於テ大勝ヲ得、みらん及ニ劔ヲズシテ降ル、瑞西ハ  
遂ニ佛國ト永久平和ノ條約ヲ結ベリ、千五百十九年日  
耳曼帝まきしみりあんノ殂スルヤ、ふうらんじす其後ヲ  
繼カント欲シテ、西班牙王ちやーれすト競ヘリ、西班牙  
王遂ニ勝利ヲ得テ帝ちやーれす五世トナリ、日耳曼西  
班牙ノ諸邦即神聖羅馬帝國ノ版圖ヲ有シテ勢甚強大ナ  
リ、ふうらんじす國力ノ權衡ヲ維持センコトヲ唱ヘ、眞  
ちやーれす五世ト戰ヘリ、然レドモ遂ニ志ヲ得ズシテ殂  
シ、子へんりー二世立ツ、

かろーいん教 新教唱導者ノ中ニ在リテるーてる  
ニ次キテ有名ナルハじん、かるがじんナリ、かるがじん  
ハ千五百〇九年佛國ニ生ル、かるがじん人ト爲リ嚴正  
ニシテ儒才アリ、初ばりニ在リテ僧侶ノ教育ヲ受ケシ  
ガ、父之ヲ法官トナサントスルニ當リテ、又法學ヲ研  
究セリ、年猶弱冠ニシテ「基督ノ教理」ト題スル一書

ナ著シ、精密ニ新教ヲ解釋セリ、然レドモ其新教ヲ篤信セルガ爲メニ、ぱりニ容レラズシテ伊太利ニ遁レ、ぢねづ。ニ棲息セリ、かるヅ。んノ教理ハ舊教ト相違セルコト「る」てゝる教ヨリ一層大ナルモノアリ、ふらんしす一世ノ時始メテ世ニ知ラレ、貴族ニシテかるヅ。んノ教理ヲ信ズルモノ甚多シ、之ヲ「ひッーグマの」教徒ト稱ス、佛國ニ於テハふらんしす一世ヨリ以下へんりー二世及ふらんしす二世相繼キテ之ヲ虐待セリ是ヨリ佛國ハ新舊兩教黨ヲ分ケテ相争ヒ、凡三十餘年間ノ内亂トナレリ、

**舊教黨及新教黨** 千五百五十九年へんりー二世殞ス、皇后かす。り。ん。と。め。で。し。ー機智ニ富ミ非望ヲ抱キ、己自政機ヲ專セントス、其子ふらんしす二世(千五百五十九年ヨリ千五百六十年マデ)ノ立ツヤ、年僅ニ十六歳、ぐ。あ。い。す。家。ノ。る。れ。ん。侯。及。牧。師。ち。ー。れ。す。王ノ侍從タリ、其妹蘇蘭王ヒ。ー。ひ。す。五。世。ニ。嫁。シ、め。り

以テ目セラレテ獄ニ囚ハル(千五百六十年)、  
**せんとぢ。ー。め。ん。ノ。上。諭** ふうらんしす二世殞シ、ち。ー。れ。す。九。世。千。五。百。六。十。年。ヨ。リ。千。五。百。七。十。四。年。マ。デ。立。ツ、年。甫。メ。テ。十。歳、政。權。全。ク。か。す。り。ん。ニ。歸。シ、新舊教兩黨對立セリ、千五百六十一年ばあ。し。ーノ宗。教。大。會。ニ。於。テ、せ。あ。と。る。べ。づ。ト。稱。ス。ル。モ。ノ。博。識。雄。辯。ヲ。以。テ。新。教。ノ。教。理。ヲ。辯。析。セ。リ、是。ニ。於。テ。翌。年。せ。ん。と。ぢ。ー。め。ん。ノ。上。諭。ヲ。發。シ。四。十。餘。年。來。ノ。政。客。ヲ。棄。テ、新。教。ニ。自。由。ヲ。與。ヘ。タ。リ、新。教。徒。ハ。是。ヨ。リ。シ。テ。將。ニ。盛。大。ナ。ラ。ン。ト。セ。シ。ガ、か。す。り。ん。ハ。法。王。及。西。班。牙。王。ふ。り。っ。ふ。二。世。ト。和。ヲ。破。ラ。サ。ラ。ン。コ。ト。ヲ。切。望。セ。リ、

**戰亂** 氷炭相容レザル兩黨ノ勢、破裂ナクシテ終ニ曰ムベカラズ千五百六十二年舊教徒ノ首領ぐ。あ。い。す。公(牧師ち。ー。れ。す。ノ。兄)ヅ。し。ー村ノ會堂ヲ襲ヒテ大ニ新教徒ヲ殺戮セリ、是ヨリ内亂紛々トシテ起リ、所々ノ戰爭互ニ勝敗アリ、ぐ。あ。い。す。公。こ。ん。で。公。等。之。ニ。死。ス、

「すて。あ。ー。と。生。ム、之。ヲ。ふ。らん。し。す。ニ。配。ス、ふ。らん。し。す。身。心。共。ニ。弱。ク。事。皆。后。及。ち。ー。れ。す。ノ。手。ニ。決。ス、ち。ー。れ。す。又。か。す。り。ん。ト。結。ビ。政。ヲ。專。ニ。シ。新。教。徒。ヲ。抑。壓。セ。リ、る。い。九。世。ノ。正。統。タル。ふ。ー。る。ぼ。ん。家。ノ。な。づ。ー。る。王。あ。ん。と。に。ー。其。弟。こ。ん。で。公。及。貴。族。中。錚。々。ノ。名。アル。も。ん。と。も。れ。ん。し。す。水。師。提。督。こ。り。に。ー。等。ぐ。あ。い。す。黨。ノ。專。權。ヲ。惡。ミ、貴。族。同。盟。ノ。團。體。ヲ。組。織。シ。テ。か。る。づ。い。ん。教。ヲ。奉。ジ、且。政。事。上。ノ。事。ヲ。畫。策。セ。リ、是。ニ。於。テ。佛。蘭。西。ニ。於。ケ。ル。新。教。徒。ハ。又。政。事。的。一。團。體。ト。ナ。レ。リ、  
**あ。む。ぼ。あ。す。ノ。謀。叛** 是。時。ニ。當。リ。新。教。徒。ニ。シ。テ。貴。族。ナル。ら。れ。な。う。で。ー。ト。イ。ヘ。ル。モ。ノ。ア。リ、其。弟。嘗。テ。罪。科。ニ。處。セ。ラ。レ。シ。ヲ。怨。ミ、ぐ。あ。い。す。黨。ヲ。壓。セ。ン。ト。シ、あ。む。ぼ。あ。す。ニ。叛。ヲ。企。ツ、事。顯。ハ。レ。テ。殘。忍。ナル。屠。殺。ニ。遭。フ、而。シ。テ。事。ニ。干。與。セ。ズ。シ。テ。刑。ニ。處。セ。ラ。レ。シ。モ。ノ。甚。ダ。多。シ、是。ニ。於。テ。政。府。ハ。議。會。ヲ。お。れ。あ。ん。ニ。招。集。シ、以。テ。國。内。ノ。異。端。者。ヲ。滅。絶。セ。ン。ト。ス、こ。ん。で。公。モ。亦。大。逆。ヲ

千五百七十年ニ至リ、せんとぢ。ー。め。ん。ノ。平。和。條。約。ヲ。以。テ。新。教。徒。自。由。ヲ。得、戰。亂。一。時。其。局。ヲ。畢。ル、而。シ。テ。此。和。約。ヲ。確。定。セ。ン。ガ。爲。ニ。ち。ー。れ。す。ノ。妹。ま。ー。が。れ。と。ナ。以。テ。な。づ。ー。る。王。へ。ん。り。ー。ニ。配。ス、へ。ん。り。ー。時。ニ。新。教。徒。ノ。首。領。タ。リ、國。民。之。ヲ。聞。キ。テ。皆。喜。色。ア。リ、新。舊。兩。黨。ノ。重。ナル。人。々。バ。皆。ば。り。ニ。招。レ。テ。祝。賀。ニ。參。集。ス、時。ニ。千。五。百。七。十。二。年。八。月。十。八。日。ナ。リ、

**せんとぢ。ー。め。ん。ノ。殺。戮** ち。ー。れ。す。九。世。長。ズ。ル。ニ。及。ビ。テ。モ。政。權。ハ。依。然。ト。シ。テ。太。后。か。す。り。ん。ノ。手。ニ。ア。リ、せんとぢ。ー。め。ん。ノ。和。約。以。來。王。深。ク。水。師。提。督。こ。り。に。ー。ヲ。親。信。セ。リ、か。す。り。ん。及。ぐ。あ。い。す。家。ハ。自。家。ノ。權。勢。ヲ。奪。ハ。レ。ン。コ。ト。ヲ。恐。レ、拏。ニ。人。ヲ。シ。テ。こ。り。に。ー。ヲ。狙。撃。セ。シ。メ。シ。ガ、其。目。的。ヲ。達。ス。ル。能。ハ。ザ。リ。キ、然。レ。ド。モ。新。教。徒。ハ。此。ニ。ヨ。リ。テ。大。ニ。激。昂。シ。報。復。ヲ。謀。ル、是。ニ。於。テ。か。す。り。ん。黨。與。ヲ。會。シ。以。テ。新。教。徒。ヲ。屠。殺。セ。ン。ト。シ、自。令。書。ヲ。作。リ。テ。王。ノ。印。璽。ヲ。乞。ヒ、告。グ。ル。ニ。新。教。徒。ノ。叛

ナ以テシ、強テ之ニ鈞セシム、是ニ於テカ八月二十四日(せんとば)を以テ祭日ノ味爽、一點ノ警鐘ト共ニかすりん黨ノモノハ各徽章ヲ附シ俄ニ起リテ新教徒ヲ殺戮スルコト三日ニ渉ル、こゝに以下死スルモノ數千人ニ上リ、ばりノ全市流血積屍ヲ以テ充サル、へんりー及こんで(こんで公ノ子)は舊教會ニ順和スルコトヲ約シテ僅ニ免ル、王又更ニ勅令ヲ發シテ諸州ノ新教徒ヲ刑スルコトニ萬五千ニ上レリト云フ、**うろあ家ノ絶滅** せんとばを以テ殺戮以後、新教徒ハ益憤激シ、其勢復前日ノ比ニアラス、既ニシテちりれす殂シ、弟へんりー三世(千五百七十四年より千五百八十九年まで)立テリ、王亦懦弱ナリ、其位ニ即ケヤ、新教徒ニ舊教徒ト同ク信仰ノ自由及政治上ノ權利ヲ與ヘシテ以テ、舊教徒大ニ激昂シ、ぐいのへんりー主トナリ、西班牙ノふりぶ二世と神聖同盟ヲ組織シ、以テ舊教徒時ノ權力ヲ恢復セントス(千

五百七十六年)王亦翻リテ舊教徒ニ與セリ、然レドモへんりーノ王位ヲ覬覦スルニ及ビテばりヲ出奔シ、遂ニ人ヲシテへんりーヲ殺シ、其黨與ノ重ナルモノヲ捕ヘシム、是ニ於テ爭亂益々其度ヲ高メ、法王ハ王ヲ破門セリ、今ヤ王ハなごるへんりー及新教徒ヲ聯合セシガ、遂ニ「とみにかん」派僧侶ノ爲ニ弑セラル、實ニ千五百八十九年八月ナリ、是ニ於テうろあ家ノ正統絶エ、なごるへんりー繼ぎて位に登る、是ヲへんりー四世(千五百八十九年より千六百十年まで)トナス、**へんりー四世** へんりー三世ノ生前既ニなごるへんりーノ王位繼承ノ權アルヲ承認シタリシガ、其殂スルニ及ビテ舊教同盟ハへんりーノ即位ヲ拒ム、是ニ於テカ取亂復起リ、あーく及いぐりーノ兩戰ニ於テへんりー大勝ヲ得タリ、而シテへんりーハ佛國ノ平和ヲ恢復センガ爲ニ、自舊教ニ歸シ、遂ニ千五百九十四

年ヲ以テ王位ニ登ル、是ヲふるぼん家(ふるぼん家は千五百八十九年より千八百三十年マテ永續セリ)ノ祖トス、へんりー位ニ即ケニ及ビ、疫弊ノ極ニ陥リタル國情ヲ恢復セントシ、專内治ニ力ヲ用キタリ、而シテ其外交ノ政略ハ西班牙トはぶすふる家ノ勢ヲ挫クニ在リキ、千五百九十八年なんどノ上諭ヲ發シ、新教徒ニ信仰ノ自由ヲ許シ、參政ノ權利ヲ與ヘ、且數多ノ城砦總テノ軍器之ニ屬ス)ヲ與ヘテ其用ニ供セシメタリ、王ハ又賢相ざりーヲ用ヒ、善政ヲ施行シ農工商業ヲ獎勵セリ、是ニ至リテ數十年ノ紛亂其跡ヲ絶チ、國勢殷富トナリ、人民王ヲ敬慕シテ大王或ハ「國民ノ父」ト稱セリ、惜カナ千六十年王ハ途上刺客らるるやぐノ手ニ罹リテ殂セリ、

### 第五 テュードル家の英吉利

へんりー七世 ていどる家ノ諸王ハ十六世紀ノ英國ヲ管轄シテ歴政ヲ施セシト雖、亦其時代ニ於テハ

商業、文學並ニ新教ノ發達著ルシキヲ以テ知ラル、初へんりー七世ぼすらうすノ戰ニ於テ王位ヲ得シヨリ、**蘇俄戰爭終テ告ゲタリ**、是ヨリシテ貴族衰ヘ王權獨盛トナリ漸ク專横ノ志ヲ生ジ、嘗テ佛國侵略ヲ約シテ實ヲ議會ニ仰ギ、又義捐ノ名ヲ以テ富者ノ財ヲ集メ、其佛國ニ入ルヤ復財ヲ得之ト和約シテ國ニ歸リ、國人並ニ歐國ノ財ヲ以テ自家ヲ富マセリ、然レドモへんりーハ亦下民ヲ安ンジ商業ヲ獎勵セリ、彼かぼとどノ如キハ王ノ保護ヲ得テ亞米利加ノ海岸ヲ探見スルコトヲ得タリ、王又女まーがれとを以テ蘇蘭王トシ、むす四世ニ配シ、後日すてゝいと王家ニ至リ兩國合一ノ基ヲ開ケリ、

**へんりー八世** へんりー七世殂シ、へんりー八世

(千五百九十九年より千五百四十七年マテ)年十八ニシテ位ニ登ル、容貌雅麗、才氣アリテ學術ニ老フ、英國史上長ク衆望ヲ集メタル王ナリ、王初法王並ニ日耳曼帝ト

まらねずノ同盟ニ加入シテ佛國ニ侵入スルヤ、蘇蘭王  
 (ヒューズ四世)佛國ト通ジテ英國ニ寇ス、千五百十三  
 年ふるでんノ野ニ於テヒューズ軍破レテ死セリ、後  
 幾何モナクも一れす五世(日耳曼帝)トふらんしす一  
 世(佛蘭西王)ト相争フヤ、英國ハ其中間ニ立チテ兩國  
 ノ權衡ヲ保持センコトヲ謀リ、王ハ常ニ其弱者ヲ援ケ  
 タリキ、時ニヒューズ、ケルヒート稱スルモノアリ、初  
 卑賤ヨリ起リより大僧正トナリ、又大法官トナリ、  
 遂ニ大宰相ニ昇レリ、王大ニ之ヲ寵シ、外交内治皆其  
 指畫ニ依レリ、

かすりれノ離婚 王即位ノ後幾何モナクあらでん  
 ノかすりん(ち)一れす五世ノ叔母ニシテ其兄あーさ  
 ーの寡婦ナリ)ト婚シテヨリ二十年、其間ニ病身ノ一  
 女子めりーヲ擧ケシノミ、是ヲ以テ熱、其後嗣ノ事ヲ  
 思ヒ、且かすりんノ管テ其家兄ノ室タリシヲ以テ之  
 ト配スルノ不當ナルヲ公言セリ時ニかすりんノ侍女

あーん、ふりんとイヘルモノ頗ル姿色アリ、へんりー之  
 ニ戀シ、遂ニ離婚ノ許可ヲ法王クレめんと七世ニ乞  
 フ、法王へんりーノ意ヲ拒ムヲ好マズ、又之ヲ許シテ、  
 ち一れす五世ノ怨ヲ買フヲ欲セス、心大ニ惑ヒ、躊躇  
 年ヲ歴タリ、へんりー遂ニ私ニあんふりんと婚ス、時  
 ニかんと一ばれーノ大僧正トします、くらんまー王ノ  
 結婚不法ナルコトヲ宣言ス(千五百二十三年)、後三年  
 ニシテかすりん死セリ、初うるヒーハ法王ノ許可ヲ  
 得ズシテ離婚ヲ發表スルニ躊躇セシカバ、王怒リテ之  
 ナ黜ク、うるヒー憂鬱シテ死セリ、

英國羅馬と背離す へんりーハ「ひーまにすど」  
 ノ教育ヲ受ケシヲ以テ、常ニ其神學上ノ智識ニ誇レリ、  
 る一てのノ宗教改革ヲ唱フルニ當リ、王自一書ヲ著ハ  
 シテ之ヲ駁ス、是ニ於テ法王、王ニ教理保護者ノ稱號  
 ナ與ヘタリ、而シテる一てのノ之ニ答ヘシ所ノ一篇ハ、  
 王ヲシテ益新教ヲ惡マシメタリ、其後トします、くらんむ

うるうるヒーニ代リ宰相トナルニ及ビ、大ニ羅馬ヲ  
 惡ミ、王ニ勸メテ法王ノ束縛ヲ脱セシム、王之ニ從フ、  
 是ニ於テ法王へんりーヲ破門ス、英國議會ハ王トあん  
 ぶりんノ婚禮ヲ公認シ、且王ヲ以テ英國教會ノ總管ト  
 認メタリ、之ヲ認メサルモノハ皆重罪ヲ以テ刑セラル、  
 有名ナル舊教家トします、も一あ以下殺戮セラレタル  
 モノ甚多シ、も一あハ當時博學雄辯ヲ以テ其名籍甚ナ  
 リキ、

教會ノ改革 王一たび羅馬教會ト絶チテヨリ英國  
 ノ寺院ハ獨立ノ狀ヲナシ、ていんたる聖書ヲ翻譯シ、こ  
 グ一でーる之ヲ校閲シテ各教會ニ配布シ、且六ヶ條目  
 トイヘルモノヲ教會ニ施行セリ、然レドモ王ノ信仰篤  
 實ナラサルヨリ、二様ノ書ヲ發シテ新舊兩徒ニ與ヘタ  
 リ、又王ハ寺院廢室ヲ破壊スルヲ甚多ク、且數、其說ヲ  
 變シ終ニハ王ノ新舊兩教ノ何レニ傾ケルヤヲ測知シ得  
 サルニ至レリ、故ヲ以テ新教徒モへんりーノ教旨ニ背

世界誌 史紀 宗教改革時代 ていんる家ノ英吉利

キ、舊教徒ハ又其總管タルヲ嫌惡スルニ至レリ、  
 へんりー數、后ヲ代ふ へんりー、あんふりんと  
 婚シテヨリ三年、あんふりん大ニ衆望ヲ失シ、遂ニ死  
 刑ニ處セラル(千五百三十六年)、次デヒューズ、せいも  
 ーあヲ娶ル、翌年死ス、更ニ日耳曼ノ女公くれぶすノ  
 ありんヲ迎フ、容姿意ニ適セス、國會ノ議決ヲ以テ之  
 ナ離婚ス、次デ又かすりん、ほう。ーと婚シ、其品行  
 正シカヲサルヲ見テ、復之ヲ死刑ニ處ス、後遂ニろ一  
 と、らてい。まーノ寡婦かすりん、ばーヲ娶リ、以テ世ヲ  
 終ルニ至ル、王ハ斯ク殘忍ナル行爲ヲナセシコト少カ  
 ラズト雖、亦能ク下民ヲ保護シ、租稅ヲ減ジ、在位ノ  
 間ハ英國常ニ隆盛ナリキ、

えんとら。ーど六世 へんりー八世殂シ、えんとら。ー  
 と六世(千五百四十七年)ヨリ千五百五十二年マデ)十歳  
 ニシテ位ニ即ク、そまーせと公政ヲ攝ス、此時ニ當リ  
 テ新教徒勢漸ク盛ナリ、くらんまー、り。とれ、らてい

まゝ主トシテ英國教會ノ改革ニ從事セリ、其後の一さ  
むばいらんを公とせしむるヲ退ケテ一時英國ノ政ヲ  
攝シ、王ニ説キめりー並ニえりづるベサヲ斥ケ、議會ノ  
決議ニ反シテ己ノ子ノ婦ヒューン、ダレー(へんりー八  
世ノ妹ノ後)ニ位ヲ讓ラシメントス、其後久シカラズ  
シテえりーを六世殂セリ、

女王めりーのいさむばいらんを公ノ奸策行ハレ  
ズ、めりー(千五百五十三年ヨリ千五百五十八年マデ)  
逐ニ位ニ即キ、重罪ヲ以テのいさむばいらんを公ヲ刑  
セリ、めりー元來舊教ニ篤シ、西班牙王カール二世  
ト結ンテ專權教ノ隆盛ヲ計リ、妻帯ノ僧侶(じどう)一  
を六世僧侶ノ妻帯ヲ許ス(ヲ放逐シ、猶自家ノ權勢ヲ  
張ラント欲シ、ふりーを二世ト婚シ新教徒ヲ抑壓セ  
り、くらんまー、りーをせり、ていまいノ如キ卓識名望  
アルモノハ、多ク異教者トシテ刑セラル、是ヲ以テ國  
人皆めりーヲ呼デらるゝとめりー(瀕血めりー)ト稱シ、

新教徒ハ多ク大陸ニ遁逃セリ、而シテめりーハふりー  
ムヲ援ケテ佛國ト戦ヒ、英國ノ多年佛國ニ有セシカレ  
ーノ地ヲ失ヘリ(千五百五十八年)、英國人民ハ女王ノ  
西班牙ト連合セルヲ喜バズ、從ヒテ益々羅馬法王ト背  
馳スルニ至レリ、めりー之ヲ鎮制スル能ハズ、病ンデ  
殂セリ、

女王えりづるベサ めりー既に殂して舊教徒ハあ  
りづるベサ(へんりー八世トあんぶらんとノ子)ノ生誕  
ニ關シテ、王位繼承ノ權ナシトシ其即位ヲ拒ミ、而シ  
テ蘇蘭女王めりーヲ迎ヘ立テントス、然レドモ成ラズ、  
えりづるベサ遂ニ位ニ登ル(千五百五十八年ヨリ千六百  
三年マデ)、英國盛強ノ時代其下ニ來レリ、えりづるベサ  
人ト爲リ果敢剛毅、華俊ヲ好ム、然レドモ聰明ニシテ  
善ク人ヲ用ヒ、人民ノ愛慕スル所トナレリ、賢相うり  
あむ、せしる及ふらんじす、わるじんはむノ如キハ女王  
ヲ輔佐シテ大ニカアリキ、女王夙ニ新教ノ恢復、教會

ノ改革ヲ計リ、第一議會ニ於テ主權並ニ統一ノ二令ヲ  
發布シ、一ハえりづるベサヲ以テ英國教會ノ總管タル  
コトヲ誓ハシメ、一ハ國教(新教)外ノ宗派ニ入ルコト  
ヲ禁セリ、是ニ於テ舊教派ノ之ヲ拒ンデ刑ニ處セラル  
モノ勘カラズ、又新教ノ一派ナル「びゆーりたん」派  
ノ如キモ之ニ服セズ、嚴刑ヲ以テ處セラレ新世界ニ奔  
ルモノ甚多シ、

びゆーりたん派 「びゆーりたん」派ハ當時英國ニ行  
ハル、所ノ新教ヨリ一層自由ノ意見ヲ抱キ、彼主權及  
統一ノ二令發布ニ抗シ、女王ヲ以テ教會ノ總管トナス  
コトヲ肯ゼズ、自進ンデ教會ノ組織ヲ改革セントス、  
蓋「びゆーりたん」派ハ新教徒ト、固ヨリ其教理ヲ同クセ  
リト雖、教會ノ儀式及禮拜ノ方法ヲ異ニシ、純潔儉正  
ヲ以テ其名ヲ得タリ、

蘇蘭女王めりー めりーハ初佛王ふらんじす二世  
ニ嫁セシガ、其祖スルヤ復蘇蘭ニ歸リ王位ニ即ケリ、

世界誌 史紀 宗教改革時代 ていどる家ノ英吉利

めりー容姿麗麗ニシテ舊教ヲ信シ、時ニ蘇蘭ニ於  
テヒューンノくすトイヘルモノアリ、新教ヲ弘メ勢甚盛  
ナリ、めりー大ニ新教徒ヲ抑壓シテ人心ヲ失ヘリ、後  
其從弟だーんりー公ト婚シ、幾何ナラズシテ又伊太利  
ノ音樂師りーちおヲ嬖セリ、だーんりー之ヲ知りりーち  
おヲ殺ス、而シテだーんりー亦刺客ノ手ニ斃ル、めりー  
又ぼすらる(だーんりー暗殺ノ首謀者ナリ)伯ト婚シ、  
大ニ衆民ノ憤怒ヲ招キ、遂ニ其子ヒューンむす六世(後英  
吉利王トナル)ニ位ヲ讓リ、遁レテ英國ニ入り入りづる  
ベサノ保護ニ依レリ、ありづるベサ之ヲ幽囚スルコト十  
八年餘、其間或ハありづるベサヲ退ケテめりーヲ王位  
ニ即ケンコトヲ企ツルモノアリ、ありづるベサ令ヲ發シ  
テ此等ノ徒ヲ嚴壓セントス、既ニシテばびんぞんと稱  
スルモノ黨與ヲ集メテめりーノ爲ニ叛ヲ謀ル、事露ハ  
レ刑セラル、ニ及ビテめりーモ亦死刑ニ處セラレタリ  
(千五百八十七年)、



西班牙トノ戦争

千五百八十五年ありづるべす一將ヲ遣リねず。いらんを援ケシメ、又海上ニハ西班牙ノ商船ヲ捕ヘテ其財寶ヲ奪ヒ、且其植民地ヲ侵略セリ、時ニ英將をレカ、ペル、ちり等ノ西班牙領ヲ掠メ、數多ノ金銀ヲ奪ヒ、西班牙王ふり。英國ニ入寇セントスルヲ聞キ、かです港ニ航シ西班牙ノ船舶武庫ヲ破壊セリ(千五百八十七年)、ふり。英國ヲ征服セントシ、有名ナル不滅艦隊ヲ組織シ、帆船海ヲ蔽フテ英國海峡ニ迫ル、今ヤ英國ハ危急ノ秋ニ際シ、新舊兩教徒皆心ヲ合セカチ一ニシテ防戦ス、ろいど、ほう。一。英艦三十艘ヲ率ひ、西班牙ノ艦隊百五十艘ヲ邀撃シ、會戦スルコト七日(中三日激戦アリ)、西艦遂ニ支フル能ハズ、かれ。港(佛國)ニ入り、蘇蘭ノ北ヲ廻航シテ本國ニ還ラントセシガ、船艦風ノ爲ニ破壊セラレ、其能ク歸國セシモノ三分ノ二ニ過キズ(千五百八十八年七月)、此提利ハ獨ニ英國ノ提利ニ非ズシテ、實ニ歐

洲新教徒ノ勝利タリ、是ヨリシテ英國ハ海上ニ雄威ヲ振ヒ、荷蘭ノ獨立ハ鞏固トナリ、西班牙ノ勢力ハ一折振ハザルニ至レリ、

愛蘭征服

愛蘭ハ數世紀以來既ニ英國ニ屬セシガ、土民ノ大半ハ依然舊來ノ信仰ヲ奉ゼシヲ以テ、ありづるべすハ政治上及宗教上ニ於テ愛蘭ヲ英國ニ結合セシメント欲ス、而ルニ土侯て。ろい伯ハ西班牙及法王ノ援助ヲ得テ兵ヲ擧ゲ之ニ抗ス、是ニ於テありづるべすハ寵臣あ。せ。す伯ヲ將トシテ之ヲ伐タシム、あ。せ。す。て。ろい。ト不利ナル和ヲ約シテ歸ル、ろいど、もんどじよい之ニ次ギテ愛蘭ヲ征シ、ありづるべすノ末年ニ至リテ終ニ全ク之ヲ征服セリ、

えりづるべすノ晩年

ありづるべす眞ニ國王タルノ技術ヲ具ヘタリト雖モ、亦女流ノ失ヲ免レズ、多情ニシテ嬌慢ナリ、盛年ノ頃曾テれ。せ。す。伯ヲ寵ヒテ分と、だ。せ。れ。チ寵シ、晩年又あ。せ。す。伯を寵じて分

ニ過キ、あ。せ。す。遂に叛をらん。んニ企テ、事顯レテ誅セラル、ニ至ル、後二年ヲ經テ女王始メテあ。せ。す。ノ死ヲ聞キ、常ニ鬱々トシテ遂ニ殞セリ(千六百〇三年)、て。ろい。とる家ノ王統此ニ絶ユ、

國勢ノ進歩

えりづるべすノ治世間ハ英國ノ政治及商業大ニ進歩シ、歐洲第一等國ノ地位ヲ占ムルニ至レリ、從來英國輸出入ノ貨物ハはんと同盟市府ノ船舶ニヨリテ運送セラレシガ、今ヤ英國ノ船舶之ニ代リテ諸外國ニ航行スルモノ多シ、加之とれ。くハ世界ヲ一周シほ。きんすハぐいにあノ海岸ヲ探リ、さ。い。ら。る。た。い。られ。ハ。い。に。あ。ノ植民ヲ企テ、商業植民共ニ繁盛ヲ極ム、而シテ當時國民ノ智力モ亦大ニ發揚シ、雄偉富強ノ文學ヲ現出セリ、

第六、三十年戦争

戦争ノ性質 三十年戦争ハ十七世紀ノ前半ニ於テ、

歐洲大陸ニ起リシ政事上ノ一大事件ニシテ千六百十八

世界誌 史紀 宗教改革時代 三十年戦争

年ほへみあノ叛ニ起リ、千六百四十八年う。す。と。あ。り。あ。ノ條約ニ終ル、始ハ日耳曼帝國ニ於ケル新舊兩教徒ノ争鬭ニ過ギザリシガ、遂ニ政治上ノ變亂トナリ、歐洲諸國大抵之ニ關與スルニ至レリ、

戦争ノ起因

千五百五十五年あ。い。す。ぶ。る。ノ宗教條約ヲ以テ一時外部ノ靜穩ヲ得シトイ。ドモ、内部ノ黨争ニ至テハ曾テ己ムトキナシ、帝。ち。い。れ。す。五世殞シテ弟あ。る。で。なん。と。一世(千五百五十六年)ヨリ千五百六十四年マデ位ヲ繼ギ、ぼへみあ及匈牙利最終ノ王妹ト婚シ、此二國ヲ埃太利ニ合併セリ、ま。き。し。み。り。あ。ん。二。世(千五百六十四年)ヨリ千五百七十六年マデ)次キ立チ、寛和ノ手段ヲ以テ新舊兩教徒ノ和合ヲ謀リシガ、其子る。い。と。る。ふ。二。世(千五百七十六年)ヨリ千六百一十二年マデ)位ニ即クニ及ビテ専ラ占星及鍊金ノ術ニ耽リ、い。は。す。う。と。派教徒ヲ任用シ、新教撲滅ヲ事トセシヲ以テ、國內復分裂シ、千六百八年新教諸侯ハば

らてねーとノ撰擧侯ふれりて四世ヲ推シテ新教同盟ヲ組織シ、舊教徒モ亦其翌年ばざりあ公まきしむりあんナ戴キ同盟ヲ結ヒテ相對抗セリ、帝ハ千六百〇九年憲章ヲ發シテばへみあノ新教徒ニ自由ヲ與ヘタリシガ、其弟まてあす(千六百十二年ヨリ千六百十九年マデ)ノ位ニ即クニ及ヒ、ばへみあヲ以テ其從弟ふるでなんどニ與フ、而ルニふるでなんど、ばへみあ新教徒ノ自由ヲ束縛シ、其教會寺院ヲ破毀セリ、是ニ於テ三十年戰爭起ル、

**第一期戰爭** (千六百十八年ヨリ千六百二十四年マデ) 第一期ノ戰爭ハばへみあ及ばらてねーとノ戰爭ニ係ル、ふるでなんどは元來西班牙ノ教育ニ人ト爲リ、固ク舊教ヲ信奉セルヲ以テ、ばへみあノ新教徒ヲ虐待スルコト甚シ、是ニ於テ新教徒ハ千六百十八年ハレーとニ叛シ勢甚盛ナリ、其翌年帝まてあす死シふるでなんど二世(千六百十九年ヨリ千六百卅七年マ

デ) 代リ立ツ、ばへみあ人ハふるでなんどヲ廢シ、新教徒ノ首領ばらてねーとノ撰擧侯ふれりて五世(英王ジェームズ一世ノ義子)ヲ迎ヘテ王位ニ即カシメ、以テ英王ノ爵ヲ得ントス、然レドモ舊教徒ノ首領ばざりあ公まきしむりあんハ西班牙人ト共ニ帝ヲ援ケ、ばへみあニ入りういせんべるぐニ戰ヒ、大ニふれでりてノ軍ヲ破リ、ふれでりてノ放逐シ、新教自由ノ憲章ヲ廢シ舊教ヲ再興セリ(千六百二十年)、是ニ於テ新教同盟解散セリ、ばへみあ征服ノ後帝ノ將てりー進デニ二三ノ新教諸侯ト戰ヒ、遂ニばらてねーとヲ征定セリ、まきしむりあんハ其實トシテ上都ばらてねーとの撰擧侯位及上部ばらてねーとノ地ヲ得タリ、

**第二期戰爭** (千六百二十四年ヨリ千六百二十九年マデ) 第二期は丁抹王くりすてあん四世トノ戰爭なり、當時くりすてあん四世はほるすたいんヲ領シ、日耳曼の一諸侯タリ、新教徒ヲ援ケントシ兵ヲ率キテラ

ーせる河ニ至ル、舊教同盟の將てりー援テ帝ニ乞フ、時ニばへみあノ一貴族わるれんすたいん兵ヲ起シテ帝ニ應ジ、千六百二十六年まんすふーると伯ヲ破リ、之ヲ匈牙利ニ逐ヘリ、同年てりーモ亦くりすてあん四世ヲ破リて之ニ擊破セリ、而シテわるれんすたいんハめつくれんふるぐ公ヲ驅逐シ、其地ヲ帝ヨリ受ケ、次キテほるすたいん、しれすうらひ及じとらんを占領シ、ばめらにあ及ふらんを占ふるヲ從ヘリ、唯すどらるすんをノミ久シク下ヲザリキ、是ニ於テわるれんすたいんハ丁抹王トリーベックノ平和ヲ約シ、くりすてあんハ其故領ヲ回復スルヲ得、而シテ以後日耳曼ノ國事ニ干渉セザルコト、ナレリ、ふるでなんど帝ハ此新勝ノ威ニ乘ジ、千六百二十九年回收令ヲ發シばらてねーとヲ條約以來新教徒ニ與ヘタル寺領ヲ盡ク回收セリ、わるれんすたいん功名日ニ高、漸ク諸侯ノ嫌ム所トナリ、遂ニ帝ノ名ヲ以テ其總督ノ任ヲ解カル、

**第三期戰爭** (千六百三十年ヨリ千六百三十五年マデ) 第三期ノ戰爭ハ瑞典王がすたがす、あどるふすトノ戰爭也、初瑞典王がすたがす、ざり國ヲ四子ニ分與シテ、國勢漸ク離ル、ねりて十四世立チテ猜疑ノ念深ク、悖亂ノ行多シ、千五百六十九年廢セラレ弟じよん及ちやーれす共ニ政ヲ執ル、じよんハ羅馬教ヲ奉ジ、ちやーれすハ固ク「るー」たる「教ヲ信ジ、常ニ相闘ケリ、じよん王位ニ登リ之を其子しぎすまんをニ傳フ、しぎすまんをハ當時波蘭ノ王タリ、ちやーれす其黨與ト戰ヒ之ニ勝チテ瑞典ノ王位ニ登ル(千六百四年)ちやーれす即位七年ニシテ死シ、其子がすたがす、あどるふす(千六百十一年ヨリ千六百三十二年マデ)位ヲ繼グ、がすたがす時二年十七、性寛仁ニシテ文武ノ材幹アリ、心ヲ新教ニ歸セリ、即位ノ後ばらてねーとノ主權ヲ握ラント欲シ、凡十八年間丁抹波蘭魯西亞ノ間ニ戰ヘリ、日耳曼新教徒ノ難ヲ聞キ、慨然トシテ之ヲ救ハント

シ、千六百三十年英佛ト結ヒ兵一萬三千人ヲ率キばめ  
らにめニ上陸シ、ぶらんでんぶるぐニ進ム、ぶらんで  
んぶるぐ及ぶるぐにノ撰擧侯ハ初選疑シテ之ニ應ゼ  
ザリシガ、千六百三十一年日耳曼ノ將テよりノま  
ぐでぶるぐヲ破壊スルニ及ヒ、終ニがすたがすト同  
盟セリ、がすたがすハさくそにノ撰擧侯ト兵ヲ合  
セ、てよりトらいぶしうぐノぶらいてんぶるぐニ戰  
ヒ大ニ之ヲ破ル(千六百三十一年)、がすたがす頻リニ  
兵ヲ進メ、だに。一ぶ河ヲ渡リ、ばぶらりあニ入ル、翌  
年れつひノ戰ニ於テてより重創ヲ被リテ死セリ、此  
間さくそにノ撰擧侯ハばへみあチ占領セリ、是ニ於  
テ日耳曼帝ハ復わるれんすたいんチ起シ總督トナシ、  
大權ヲ以テ之ニ委任セリ、わるれんすたいんハばへみ  
あヨリさくそん人ヲ驅逐シ、然ル後ばぶらりあ公まき  
しみりあんと兵ヲ合セ、がすたがすトに。るんべるぐ  
ニ對峙スルノ數日、がすたがす兵ヲ引キテだに。一

帝トムレ一ノ平和條約ヲ締結シ、新教徒ハ復舊ヲ奪  
ハレタル寺領ヲ有スルヲ得タリ、

### 第四期戰爭 (千六百三十五年ヨリ千六百四十八年

マデ) 第四期ノ戰爭ハ佛蘭西及瑞典トノ戰爭ナリ、此  
戰爭ハ從前ノ戰爭ト全ク其性質ヲ異ニシ、新舊兩教徒  
ノ爭ニアラズシテ佛蘭西及瑞典トノ政治上ノ戰  
爭ナリ、當時佛蘭西ハるい十三世位ニ在リテ一般ノ政務  
ハ凡テ宰相「カ」でなる「リ」しり「ノ」手ニ歸セリ、リ  
しり「ノ」外交政略ハはぶすぶるぐ家ノ埃太利及西班  
牙ノ勢力ヲ殺カントスルニ在リ、故ニ初ハ密ニ瑞典王  
ヲ援ケタリシガ、後遂ニ公然埃太利家ニ對シテ戰端ヲ  
開クニ至ル、此時瑞典ノ將ばねるハ北日耳曼ニべるな  
一とハラいん地方ニ戰ヒ、屬利ヲ得タリ、既ニシテ日  
耳曼帝ふるでいなんと二世位シ、ふるでいなんと三世  
(千六百三十七年ヨリ千六百五十七年マデ)位ニ即ク、  
べるな一と、ばねるノ兩將亦相繼キテ死シ、とるすてん

ふニ進ミ、以テ敵ヲ誘致セントス、而ルニわるれんす  
たいんハ反テさくそにニ進ム、さくそにノ撰擧侯  
援ヲがすたがすニ求ム、がすたがす之ニ赴キ、遂ニ  
千六百三十二年一月十六日わるれんすたいんと、り  
つんニ激戰シ大ニ其軍ヲ破ル、日耳曼騎兵ノ將ばっ  
んはいじ重創ヲ被リテ死シ、わるれんすたいん敗軍ヲ  
收メテばへみあニ退ク、然レドモ此役がすたがすモ  
亦戰死セリ、瑞典ノ宰相あくせる、おくせんすてい  
ん幼王女くりすていなヲ輔ケテ王位ヲ繼カシメ、わい  
る侯べるな一とヲシテ日耳曼ノ戰爭ヲ繼續セシム、而  
ルニわるれんすたいんハ驕傲ノ心ヲ生シ、敢テ活潑ノ  
運動ヲ爲サズ、密ニ瑞典、佛蘭西及新教徒ト結ビテば  
へみあノ王ヲラントス、帝遂ニ其總督ノ任ヲ奪ヒ、後  
人ヲシテ之ヲ刺殺セシム(千六百三十四年) 帝ノ長子  
ふるでいなんと代リテ軍ヲ督シ、のるどらんげんニ於  
テべるな一とノ軍ヲ破ル、さくそにノ撰擧侯ハ遂ニ

とん之ニ代リ帝ノ軍ヲらいぶしうぐニ破リ(千六百四  
十二年) 埃太利ノ中心ニ進ミ、又北方ニ轉ジテじと  
らんとヲ攻メシガ、偶々疾ヲ得らんげん之ニ代リ、佛  
將てよりんと共ニばぶらりあニ侵入シ、又ぶれ一ノ  
一部分ヲ略奪セリ、時ニうすどふらりあノ約條成リ三  
十年戰爭其局ヲ結ベリ、

うすどふらりあノ條約 是ヨリ先リしり「ノ」  
及るい十三世共ニ死シ、るい十四世立ツニ及ヒ、宰相  
まぶららん猶りしり「ノ」政策ヲ繼續セシガ、遂ニ五  
年間ノ商議ヲ經テ千六百四十八年十月みんすてん及  
おすなぶり「ノ」ニ於テ和約ヲ締結セリ、所謂うすど  
ふらりあノ條約ニシテ歐洲史上ニ於テ最重要ナル條約  
ノ一タリ、此條約ニヨリテ「甲」佛蘭西ハ上下ある「すめ  
つ、つ」る及ぶるだんヲ取リ、「乙」瑞典ハ前ばめらに  
あ、り「げん」島後ばめらにあ「一部」すていん、うす  
ま一府及ぶれめん、ぶるだんノ僧正領ト價金五百萬弗

トナ得、而シテ日耳曼諸侯會議ノ一員トナレリ、「丙」  
 ぶらんでんぶるぐハ後ばめらにあノ東部、まーぐで  
 ぶるぐの大僧正領はるるすたッ、みんでん等の僧  
 正領ヲ得、おれでりく五世ノ子ハ復ばらて、ねーど(ら  
 いん地方ノ)ト擧擧侯位ヲ得、ばぐありあハ上ばらて、  
 ねーどト擧擧侯位ヲ得、さくそにー其他ノ諸侯ハ或ハ  
 其疆域ヲ増シ、或ハ故領ヲ復スルヲ得タリ、「丁」宗教  
 ノ信仰ハ自由トナリ、新教ノ寺院ハ其舊領ヲ復スルコ  
 トヲ得、「かどり」く「教」るゝて「教」及「かるグ」教  
 ノ三派ハ皆同一ノ權利ヲ享有スルニ至レリ、「戊」瑞西  
 及荷蘭共和國ハ其獨立ヲ承認セラレタリ、此條約ノ結  
 果ハ日耳曼帝國ハ有名無實トナリ、聯邦各獨立ノ觀ヲ  
 ナシ、瑞典ハ歐洲ニ雄視スルノ勢ヲ顯シ、佛國ハ其境  
 土ヲ擴張シ、ばぶすぶるぐ家ニ代リテ一時歐洲ノ覇權  
 ナ握リ、西班牙埃太利ハ共ニ微々トシテ振ハザルニ至  
 レリ、

三十年戦争ノ結果 三十年戦争ノ結果ハ日耳曼  
 最慘憺ヲ極ム、日耳曼人民ハ多年戦争ニ苦ミ、土地  
 荒蕪シ、城市村落兵燹ニ罹リテ人口甚減少シ、あうぐ  
 すぶるぐ府ノ如キハ、八萬ノ人口減ジテ一萬八千トナ  
 リ、らるるてんべるぐ府ハ曾テ四十萬ノ人口ヲ有セシ  
 ガ、千六百四十一年ニハ僅ニ四萬八千トナレリ、而シ  
 テ商工業ハ萎靡シ、文學技藝ハ衰頽シ、日耳曼帝國ノ  
 聯絡ハ全ク瓦解シ、幾多ノ小獨立國トナリ、國民ノ精  
 神蕩然トシテ地ヲ掃フニ至ル、此創痕ハ近世ニ至ルマ  
 デ猶癒エザリシト云フ、

第七、宗教改革時代ノ開化

概説 學藝ノ再興ハ大ニ人智ノ發達ヲ促シ、大學ハ所  
 在ニ興起シ、文學技藝等大ニ獎勵セラレ、古學ノ研究  
 ト共ニ新思想勃興シ、數多ノ學者文人輩出スルニ至レ  
 リ、  
 伊太利文學 十五世及十六世紀間ハ、伊太利學藝ノ

黃金時代ニシテ、殊ニ詩歌及歴史ヲ以テ著ハル、散文  
 家まきあグーリ(千五百三十七年歿す)ノふるーれん  
 ず史、君主論ノ如キハ、其名世ニ高シ、其他びらちあ  
 トでい、だぐら及ばおろ、さーびー等ノ如キ歴史  
 ナ以テ名アリ、詩人ニハありあすと(千四百七十四  
 年生れ千五百二十三年歿す)たろー(千五百四十四年  
 生れ千五百九十五年歿す)ノ如キアリ、たろーノ「ヒ  
 るされ」救助詩篇ハ第一十字軍ヲ諷セシモノニシテ、  
 聲律ノ艶麗ヲ以テ稱セラル、十七世紀ニ至リテハ、西  
 班牙ノ壓制ヲ蒙リ、一旦繁茂セル詞藻モ爲ニ萎頽セ  
 レリ、  
 西班牙及葡萄牙 十六世紀ハ西班牙及葡萄牙ノ文  
 學最盛盛ナ極メシ時代ナリ、而シテ小説及戯曲最著名  
 ナリ、さーざんてす(千五百四十七年生れ千六百十六  
 年歿す)ノ諷刺小説、そんぐほーてーノ如キハ千古  
 ノ絶作ナリ、ろーぶ、でい、が(千五百六十二年生れ千

六百三十五年歿す)及其弟子かるぞろん(千六百年生  
 れ千六百八十一年歿す)出ツルニ及ヒテ、西班牙ノ戯  
 曲詩完善ノ域ニ達セリ、葡萄牙ニ於ケル詩人ノ有名ナ  
 ルモノチ、かもねんす(千五百二十四年生れ千五百八  
 十年歿す)トナス、其大作「リョーしあ」ハ印度發見  
 ノ盛時ヲ頌揚セリ、  
 英吉利 英國ニ於テハちよーさー以來詞藻一時沈滯  
 セシガ、女王エリづべすノ時代ニ至リ、復蔚勃トシ  
 テ興起シ、詩人戯曲家濟々トシテ輩出セリ、而シテラ  
 るりあむ、しーくすびーあ(千五百六十四年生れ千六  
 百十六年歿す)ヲ最トナス、しーくすびーあ出テ、  
 英國ノ戯曲、盡善盡美ノ域ニ達シ、他ノ作家ヲシテ復  
 顔色ナカラシメタリ、蓋其想像ノ豊ニシテ、新創ノ才  
 ニ富メルコトハ、曠古絶今ト稱スヘキナリ、妙作數十、  
 多ク人口ニ膾炙セリ、其他ぼーもんど、おれていやー、  
 べん、じんそん、まーしんがー等亦名アリ、戯曲作家ニ

非スシテ、名聲籍甚ナルモノナすべんざー(千五百五  
十三年生れ千五百九十九年歿す)トス、其著「ふーり  
ト、くーん」ハ後世ノ模範タリ、最後ニみるん(千  
六百八年生れ千六百七十四年歿す)出ツみるんハ  
「バールたん」派ノ詩人ニシテ其詩だんてト并馳ス、有  
名ナル詩篇ばらだいすらすと」及「ばらだいすれげー  
んぞ」ハ晩年失明後ノ作ニ係ルト云フ、

佛蘭西 佛國ニ於テハ十六世紀ニ至リ、古典文學盛  
ニ行ハレ、中古ヨリノ小説的詩歌其跡ヲ遠ケタリ、らべ  
れ(千四百八十八年生れ千五百五十二年歿ス)ハ有名  
ナル諷刺家ニシテ、希臘ノありすとふにーサノ喜曲  
ニ倣ヒ、人生生活ノ曲折ヲ叙スルコト微密且明晰ナリ、  
ろんざー(千五百二十四年生れ千五百八十五年歿ス)  
亦當時ノ詩伯ト稱セラレ、其ノ詩古雅高尚ナリ、然レ  
ドモ多ク古代ノ模倣ニ過ギズ、十七世紀前半ノ佛國文  
學ハ、時流ニ拘泥シ、端嚴ノ氣風ニ乏シカリキ、

ガ、後荷蘭ニ遷居シ、哲學ノ研究ニ從事シ、瑞典女王  
リすてーナノ侍講トナレリ、氏ノ哲學ノ第一要義ハ「我  
ハ思考ス故ニ我ハ存在ス」ト云フニ在リテ、世間數多  
ノ學者ノ謬見ヲ排除シ、一意眞理ヲ考究センコトヲ勉  
メタリ、でかーとノ觀念論ヨリシテ一層ノ進歩ヲ爲セ  
ルモノヲ、じであ人(荷蘭ニ生ル)すびのづ(千六百  
三十二年生れ千六百七十七年歿ス)トナス、すびのづ  
ハ近世ノ一大哲學者ニシテ萬有神説ノ祖ナリ、氏ハ宇  
宙ノ萬象ヲ以テ人間ニ非サル一實體(神)ノ發現トナセ  
リ、

科學

科學ハ十六世紀ニ至リテ大ニ進歩シ、殊ニ天文學ニ  
於テ其最著シキヲ見ル、而シテ其指導者タルヘキモ  
ノハ、實ニ日耳曼人ニ在リ、こべるにかすナリ、こべるにかす  
ハ千五百年以來世人ノ忘信セル「どれみー」説(地球  
ヲ以テ天體ノ中心トナセル説)ヲ排撃シ太陽ヲ以テ惑

世界誌 史紀 宗教改革時代 宗教改革時代ノ開化

日耳曼 日耳曼ニ於テハ、文學ノ發達甚遅ク、獨  
一テノ基督教典翻譯ト、宗教上ノ詩歌アリテ、日耳  
曼散文及教會詩ノ儀表トナリシノミナリ、

哲學

十六世紀ニ在リテハ、ありすとーとるノ哲學大ニ勢力  
ヲ有セシガ、英人ふらんしす、べーこん(千五百六  
十一年生れ千六百二十六年歿ス)ノ出ツルニ及ヒ、  
學術研究上ニ一新機軸ヲ出セリ、蓋ありすとーとるハ  
演繹論法ヲ主トセシガ、べーこんニ至リ歸納論法ヲ創  
説シ、以テ事物ノ眞理ヲ考察セリ、其後世ノ學術ヲ  
裨益セシノ功實ニ大ナリトス、ほつふす(千五百八十八  
年生れ千六百七十九年歿ス)亦英人ニシテべーこんヲ  
祖述シ、經驗哲學ヲ創メ政治學ニ長シ帝王權ノ無上ナ  
ルヲ説ケリでかーと(千五百九十六年生れ千六百五  
十年歿ス)ノ佛國ニ起ルニ及ヒテ、自由思辨ノ一新系  
統ヲ創説セリ、でかーとハ幼ニシテ兵事教育ヲ受ケシ

星系ノ中心トナセリ、是レ實ニ天文學上ノ一大改革ナ  
リシナリ、丁抹ノ天文學者でて、ふらーハ、こべるに  
かすト反對ノ意見ヲ有セシガ、其天文學上ノ功益ハ  
甚大ナルモノアリ、十七世紀ノ初、大思想家けふれる  
出ツ、けふれるハ日耳曼人ニシテ詩人預言者ノ性格ヲ  
具ヘ、又數理ニ明ナリ、惑星ノ運動ニ關スル大原則ヲ  
發見セリ、「けふれる」法ト稱スルモノ是ナリ、同時ニ  
伊太利人がりれおアリ、器械學及物理學ニ精シク、始  
メテ望遠鏡ヲ發明シ、之ヲ天體ノ觀察ニ用ヒ、木星ノ  
衛星土星ノ帶環等ヲ發見セリ、然レドモこべるにかす  
ノ説ヲ祖述セシヲ以テ、屢官衙ニ召喚セラレ、遂ニ異  
端ヲ以テ逐ハレタリ、天文學ノ外、法理學及政治學ノ  
講究亦盛ニ起リ、佛蘭西ノ法學者きーせーしあす羅  
馬法教科書ヲ修正シ系統的法理學ノ基礎ヲ置キ、ぼー  
でん亦佛人ニシテ國家論ヲ著シ、無限中央權力ヲ説ケ  
リ、荷蘭人ひーで、と、ぐろてあすハ和戰法律論ヲ著

シ、普通法理ヲ以テ各國間ノ秩序ヲ維持スル根源トナシ、國際法上ニ一新面目ヲ開ケリ、三十年戦争ノ後日耳曼人<sup>ぶつふん</sup>とるふ出テ、自然法及國際法ヲ集メテ大成セリ、氏亦歴史ニ通シ著書多シ、醫學モ亦當時頗進歩シ、日耳曼人ばらせるさすハ實驗上ノ考察ニヨリ、化學其他ノ學科ヲ補助トシテ醫學ヲ講究セリ、ちやうれす五世ノ侍醫<sup>ぐまざり</sup>ありあす始メテ人體ヲ解剖シ、解剖學ノ基礎ヲ開ケリ、千六百二十八年英人は<sup>グマ</sup>始メテ血液循環ノ理ヲ明ニセリ、

技藝

十六世紀ニ於テハ、伊太利ノ美術非常ノ發達ヲナセリ、爾來美術ハ宗教ノ關係ヲ離レテ獨立ノ進歩ヲナシ、殊ニ繪畫ハ、伊太利ニ於テ高尚美麗ノ域ニ達シ、ふるいれんす派<sup>ハミカエ</sup>る、あんぢろ<sup>ニ至リ</sup>、羅馬派<sup>ハミカエ</sup>る、あんぢろ<sup>ニ至リ</sup>、完美ヲ極ム、其他<sup>グマ</sup>ニ派<sup>ニハ</sup>、ていてゐん<sup>ていん</sup>とれ<sup>と</sup>あり、るむば<sup>と</sup>派<sup>ニハ</sup>、れ<sup>お</sup>なり

と、だ、ぐんちてるれ<sup>ち</sup>ねアリ、ぼろんや派<sup>ニハ</sup>ぐんちと、れに<sup>い</sup>ざる<sup>ぐ</sup>と<sup>る</sup>、ろ<sup>い</sup>さアリ、又音樂モ、ばれすどりあす出ツルニ及ヒテ、大ニ進歩セリ、ねず<sup>ら</sup>らんとニ於テハ、<sup>ぐ</sup>ん、あ<sup>い</sup>く兄弟出テ、一派ノ書法ヲ創メ、其一人<sup>じ</sup>よん油繪ノ鼻祖トナレリ、れむ<sup>ら</sup>んと亦才思アリ、一派ヲ創立シ、優ニ大家ノ域ニ入レリ、日耳曼ニ於テハ、一種ノ書法起リ、はんす、ほるばいん及あるべると、で<sup>い</sup>れる之ガ代表者タリ、西班牙ニハ、む<sup>ら</sup>ろ<sup>い</sup>ぐ<sup>ら</sup>すく<sup>づ</sup>アリ、佛國ノ繪畫ハ皆伊太利畫ノ模倣ニシテ、く<sup>ろ</sup>い<sup>と</sup>、ろ<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>ん景色畫ヲ以テ著ハル、英國ハ十八世紀ニ至ルマテ、一著名ノ畫家ヲ出セシコトナシ、

神奈川文庫第一集 下篇終

明治三十年十二月十五日印刷  
明治三十年十二月二十日出版

非契約品本

編纂者  
發行兼發起人

山梨縣東八代郡英村四四番戶(原籍)  
神奈川縣橋本郡程ヶ谷町貳五九六番地(寄留)  
峽河 小幡 宗海

發行兼發起人

山梨縣東山梨郡春日居村三四六番戶  
飯島 邦寧

發行人

栃木縣下都賀郡栃木町字港町壹八番地  
藤沼 玉一郎

發行人

栃木縣下都賀郡富山村大字下皆川五五番地  
富田 要太郎

特別協贊員

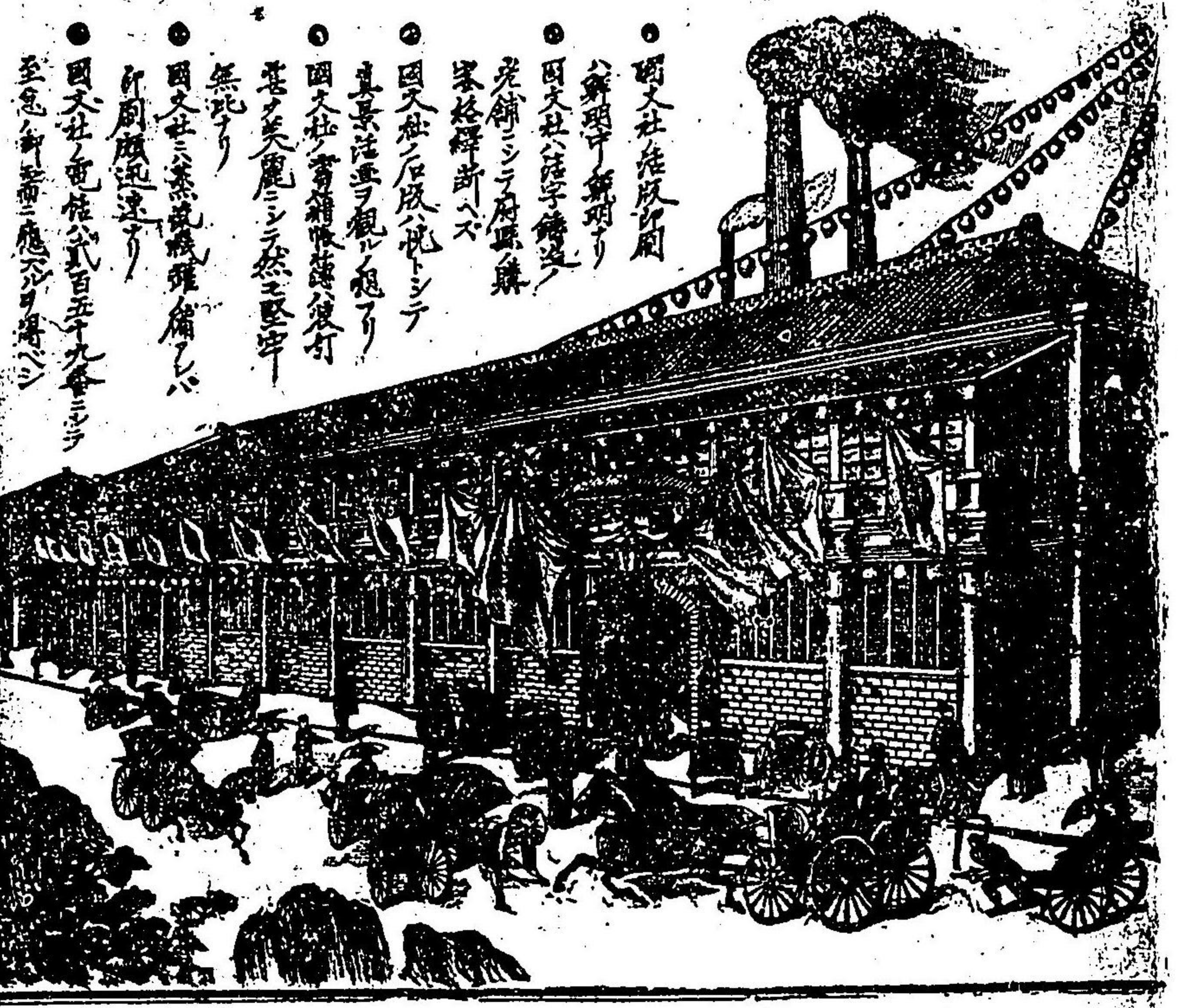
東京府京橋區西紺屋町七番地  
菊地 泰亮

特別同盟員

山梨縣東山梨郡岡部村壹六七番地  
飯田 竹一郎

# 國文社營業科目

和漢洋活版印刷  
石版彫刻印刷  
銅版彫刻印刷  
木版彫刻印刷  
諸帳簿裝釘  
和洋書籍裝釘  
活字鑄造販賣  
電氣版製造  
紙型鉛版製造  
トタン野輪廓類  
畫格野引類  
金銀箔凸版



● 國文社活版印刷  
● 國文社活字鑄造  
● 國文社活字鑄造  
● 國文社活字鑄造  
● 國文社活字鑄造  
● 國文社活字鑄造  
● 國文社活字鑄造  
● 國文社活字鑄造  
● 國文社活字鑄造  
● 國文社活字鑄造

同 盟 員  
全 全 全 全 全  
印 刷 所  
發 行 本 部

神奈川縣鎌倉郡中和田村大字和泉  
田 中 佐 之 助  
熊本縣熊本市北坪井町貳三壹番地  
嶺 野 小 四 郎  
愛知縣知多郡阿久比村大字矢高壹貳五番地  
舟 橋 正 之  
山梨縣東山梨郡岡部村大字國府壹八壹番地  
久 保 田 七 郎 右 衛 門  
神奈川縣足柄下郡小田原十字町四丁目五九貳番地  
內 田 金 藏  
山梨縣東山梨郡春日居村大字下岩下  
金 子 末 四 郎  
東京市京橋區宗十郎町十五番地  
出 口 齋  
東京市京橋區宗十郎町十五番地  
國 文 社  
神奈川縣鎌倉郡中和田村大字和泉  
神奈川縣鎌倉郡中和田村大字和泉  
神奈川縣鎌倉郡中和田村大字和泉  
神奈川縣鎌倉郡中和田村大字和泉

工'G-46



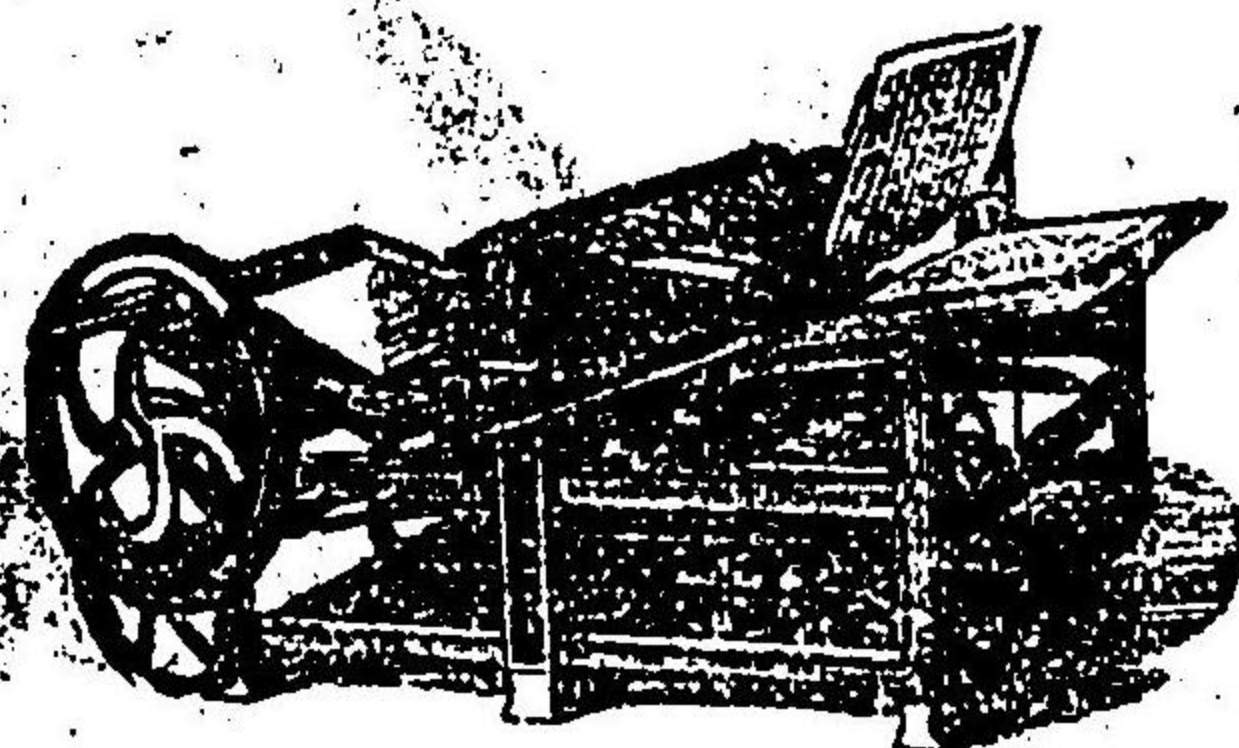
# 國文社廣告

弊社活字は未だ他に類なき鋼鐵彫刻の字を以て打込字母なるか故に  
 鮮麗堅緻なる事世界に冠たりと云ふも誇言にあらざるなり而して印刷  
 は歐米最近發明の最上印刷器に蒸氣機關の運轉なれば如何なる大數大  
 部のものにも期日通り確實に調製可仕候又活字鑄  
 造取費は多少に不拘鑄造取費仕候尤も一時多敷御注  
 文は大對引仕候其他總て低廉に且迅速を旨とし御便  
 利を謀り調製仕候間一層の御愛顧あらんとを希ふ

## 營業科目

和漢洋活版印刷  
 石版印刷  
 銅版印刷  
 木版印刷  
 諸帳簿裝釘  
 和洋書籍裝釘

活字鑄造販賣  
 電氣版製造  
 紙型鉛版製造  
 トタン野輪彫類  
 畫格野引類  
 金銀箔押刷



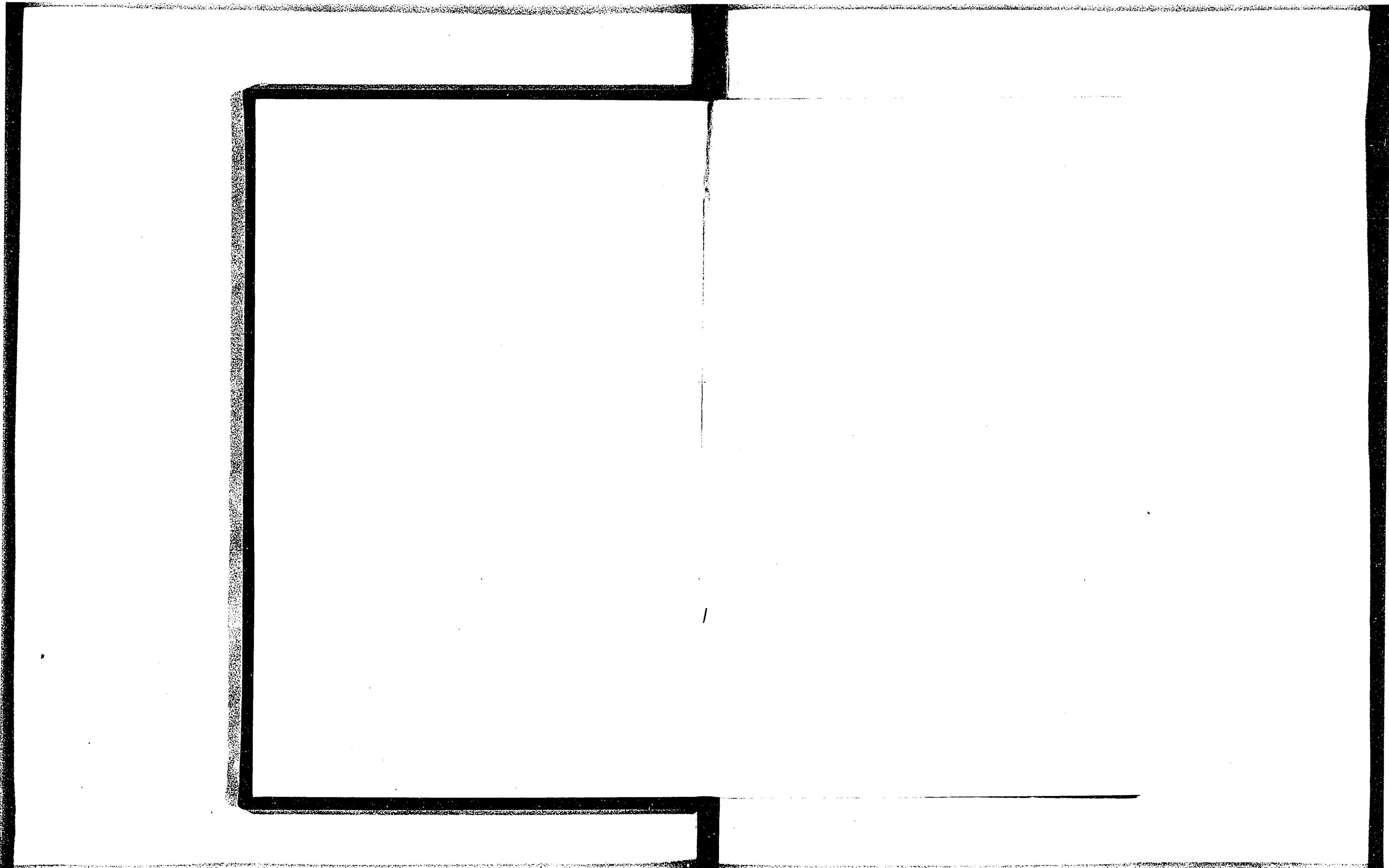
東京市京橋區宗十郎町拾五番地

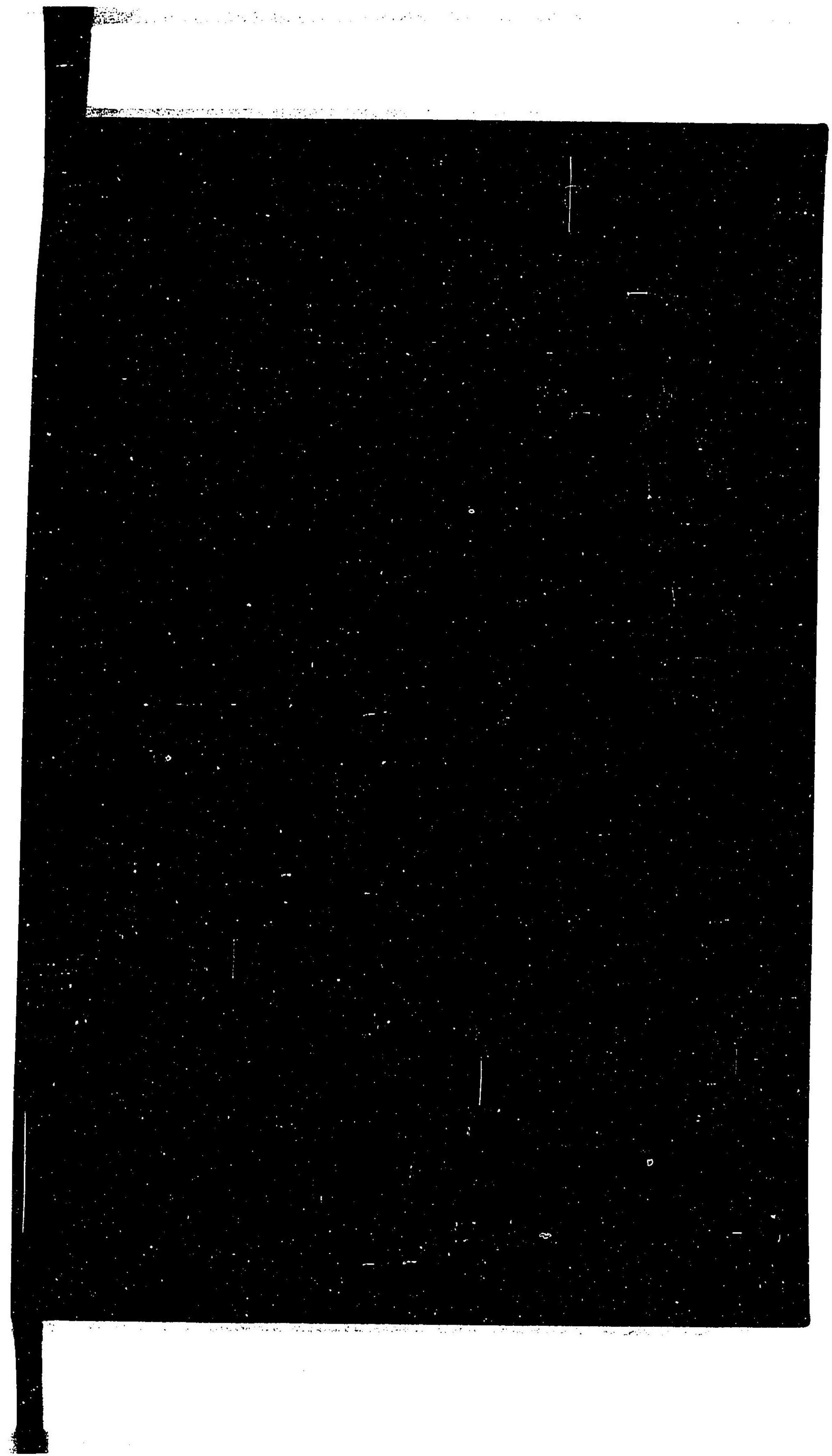
官内省御用達

國文社

電話本局二五九番  
支店 尾原太郎







86  
40

022057-000-6

86-40

世界誌

小幡 宗海/編

M30

ADA-0399



